

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>6. タンクローリの追加配備</p> <p>重大事故等時に重大事故等対処設備の補機駆動用の燃料を補給するタンクローリについては、設置許可基準規則第43条第3項第6号を踏まえて、以下のとおり考える。</p> <p>タンクローリについては、設計基準事故時にも使用するため竜巻防護対象であることから、設計飛来物による衝撃荷重を考慮した専用区画に1台ずつ配置している。しかし、進行方向に1つある出入口扉からの移動に制限されているため、複数の移動経路が確実に確保される屋外の第4保管エリアに、可搬型重大事故等対処設備としてタンクローリを1台（＝必要数）追加配備する。</p> <p>なお、第3、5保管エリアのタンクローリは、複数の移動経路が確保されていないものの、風（台風）及び竜巻による風荷重を考慮しても機能が損なわれないため、出入口扉が健全な場合において重大事故等に対処するために必要な機能を有効に発揮できることから、運用としては第3、5保管エリアから使用することとし、必要により第4保管エリアを使用する。</p> <p>7. まとめ</p> <p>以上により最適化に伴い改善を図った事項について、別表26-7-1に示す。</p> <p>今後は保管庫完成後に実施する訓練等を通じて、可能な範囲で保管庫内の配置を見直していくこととし、更なる最適化を図っていく。</p>	<p>5. まとめ</p> <p>以上により最適化に伴い改善を図った事項について、第4表に示す。</p> <p>今後は訓練等を通じて、可能な範囲で51m倉庫・車庫エリアの配置を見直していくこととし、更なる最適化を図っていく。</p>	<p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は可搬型タンクローリを51m倉庫・車庫内に保管していない。また、泊の可搬型タンクローリは、重大事故等時に使用する。 <p>【玄海】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

別表26-7-1 最適化に伴う主な改善点について

改善項目	最適化前の状況	最適化後の改善内容
全般	1方向からの移動、運搬経路を確保	必要数について、複数方向からの移動、運搬経路を確保 ・自走式の可搬型重大事故等対処設備は出入口扉が2つある区画に配置し2ルート確保 ・自走できない可搬型重大事故等対処設備は出入口扉が2つある区画へ運搬することで2ルート確保
保管庫（火災対応）	前後方向：防火シャッター 左右方向：防火扉	前後方向：防火シャッター 左右方向：防火シャッター ・自走できない可搬型重大事故等対処設備の左右方向への運搬が可能
タンクローリ	電巻防護対象の専用区画に配置	電巻防護対象の専用区画に配置 ・複数方向からの移動経路を確保するため、1台追加配置
自走式の可搬型重大事故等対処設備	1つの出入口扉からの移動のみを考慮	2つの出入口扉からの移動を考慮 ・複数の出入口扉から移動可能とするため、出入口近傍の屋外に設置予定だった重気室及びコンテナの位置を変更するとともに、棟梁による検証を実施済
自走できない可搬型重大事故等対処設備	進行方向のみの運搬を考慮	進行方向に加え、後方と左右への運搬も考慮 ・確実に運搬可能とする道具を用いて棟梁による検証を実施済
運搬用車両等の資機材	可搬型重大事故等対処設備よりも出入口扉に近い位置に保管	可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障をきたすことがない位置に保管 ・保管庫外で必要な措置を講じて保管

※必要数は、原子炉建屋の外から水又は電力を供給する設備は1基あたり2セット以上、それ以外の設備は1基あたり1セット以上

第4表 最適化に伴う主な改善点について

泊発電所3号炉		相違理由
改善項目	最適化前の状況	最適化後の改善内容
車庫エリアの出入口	・通常時はシャッターを閉止し、可搬型重大事故等対処設備使用時にシャッターを開放	・地震の変形によりシャッターの閉閉が不能となった場合を考慮し、シャッターを撤去して出入口を常時開放 ・積雪の影響を軽減するため、防雪シートを設置予定
可搬型重大事故等対処設備の配置	・異なる機能を有する可搬型重大事故等対処設備を縦列に配置	・エンスト等の故障により、自走式の可搬型重大事故等対処設備の移動ができない場合においても、同時に複数の異なる機能が喪失しないように、異なる機能を有する可搬型重大事故等対処設備を縦列としない配置
自主対策設備の配置	・重大事故等対処設備の前方に自主対策設備を配置	・設備の重要度の観点から、自主対策設備の前方に重大事故等対処設備を配置 ・自主対策設備の一部を51m倉庫・車庫エリア外へ移設

【玄海】記載内容の相違
 ・泊は、出入口の常時開放によって、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬を確実なものとしており、複数出入口からの移動、運搬について想定しないことによる記載の相違。
 ・泊は、自走式の可搬型重大事故等対処設備がエンスト等により移動できない場合でも、同時に複数の異なる機能が喪失しないように配置設計を行ったことによる記載の相違。
 ・泊は、補機駆動用の燃料を内包しているものを保管しないため、防火区画の設定は必要としないことによる記載の相違。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">補足(1)</p> <p>第159回審査会合（平成26年11月13日）からの主要な変更点について</p> <p>第159回審査会合（平成26年11月13日）から第319回審査会合（令和元年12月24日）間の主な変更点について、先行他プラントの状況や島根2号炉の審査の進捗により対応が必要となった保管場所及び屋外アクセスルートについて、以下のとおり変更を実施した。</p> <p>1. 保管場所の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予備も原子炉建物から100m以上の離隔距離を確保することとしたため、2号炉原子炉建物から100m以内に予備置場として設定していた第4保管エリアを他の保管場所と統合し、第5保管エリアを第4保管エリアとして再設定した。 ・可搬型設備の数量見直し等に伴い、第1保管エリア及び第4保管エリアの形状を変更した。 ・構内敷地造成、可搬型重大事故等対処設備等の数量見直しに伴い、第3保管エリアをE L 44mからE L 33mに移設した。 ・輪谷貯水槽（西1/西2）を密閉式貯水槽に変更し、貯水槽上面を第2保管エリアとして設定した。 <p>2. 屋外アクセスルートの変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電所構内の道路をアクセスルート（可搬型設備の運搬、要員の移動等が可能なルート）とサブルート（地震及び津波時に期待しないルート）に再設定した。 ・1号炉北側の防波壁内側に新たにサブルートを設定し、防波壁内側に1、2号炉の周回ルートを確認した。 ・管理事務所2号館は損壊することを前提として評価を行った。その結果、必要な幅員が確保できないことから、南側背後斜面の一部を切り取り、管理事務所2号館の損壊による影響範囲外にアクセスルートの必要な幅員を確保した。 ・通行不能となる全ての段差発生箇所に対して、あらかじめ段差緩和対策を行うこととする。これにより、仮復旧なしで可搬型設備の通行が可能である。 	<p style="text-align: right;">補足資料(1)</p> <p>第38回審査会合（平成25年10月29日）以降の主要な変更点について</p> <p>先行他プラントの審査実績又は地震・津波側の審査状況に関する反映事項として、第38回審査会合（平成25年10月29日）以降から以下の変更を実施している。</p> <p>1. 第38回審査会合（平成25年10月29日）からの主要な変更点</p> <p>(1) 保管場所の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、可搬型設備の配置数の変更に伴い保管場所の再設定を行った。 <p>(2) 屋外アクセスルートの変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、発電所構内の道路をアクセスルート（地震及び地震に伴う津波を考慮しても使用可能なルート）、サブルート（地震及び津波時に期待しないルート）及び自主整備ルート（使用可能な場合に活用するルート）に再設定した。 ・地震・津波側の審査状況の反映事項として、防潮堤を再構築することに伴い、アクセスルートを以下のとおり変更した。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ T.P. 31mからT.P. 10mへのアクセスルートは、西側は岩盤内にトンネルを設置し、東側は形状を変更した道路を設置。 ➢ T.P. 10mにおけるアクセスルートについては、防潮堤の内側に道路を設置。 ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、T.P. 10mにおける3号炉原子炉建屋西側を経由したルートの設定を変更することとした。 ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、通行不能となるすべての段差発生箇所に対して、あらかじめ段差緩和対策を行うこととした。これにより、段差解消作業なしで可搬型設備の通行が可能である。 	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違による保管場所及びアクセスルート設定変更の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	<p data-bbox="728 470 1288 837"> </p> <p data-bbox="784 861 1254 917"> 第1図 保管場所設備及び可搬型設備アクセスルート (平成26年11月13日説明時点) </p> <p data-bbox="739 973 1310 1404"> </p> <p data-bbox="806 1420 1232 1444"> 第2図 保管場所設備及び屋外アクセスルート </p>	<p data-bbox="1355 140 1948 399"> (3) 屋内アクセスルートの変更について ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、地震、津波その他の自然現象による影響及び人為事象による影響を考慮し、外部からの衝撃による損傷の防止が図られた建屋に、各設備の操作場所までの屋内アクセスルートとしてアクセスルート及び迂回路を再設定した。 ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、I.P.10mにおける3号炉原子炉建屋西側を経由したルートの設定を変更することとした。 </p> <p data-bbox="1344 494 1960 829"> </p> <p data-bbox="1444 861 1859 917"> 第1図 保管場所及び屋外アクセスルート図 (平成25年10月29日説明時点) </p> <p data-bbox="1355 981 1948 1396"> </p> <p data-bbox="1444 1412 1859 1468"> 第2図 保管場所及び屋外アクセスルート図 (令和4年12月6日説明時点) </p>	<p data-bbox="1982 486 2150 630"> 【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による保管場所及びアクセスルート設定変更の相違 </p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

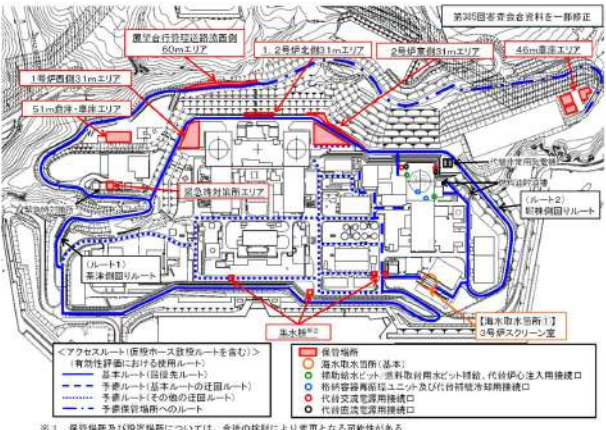
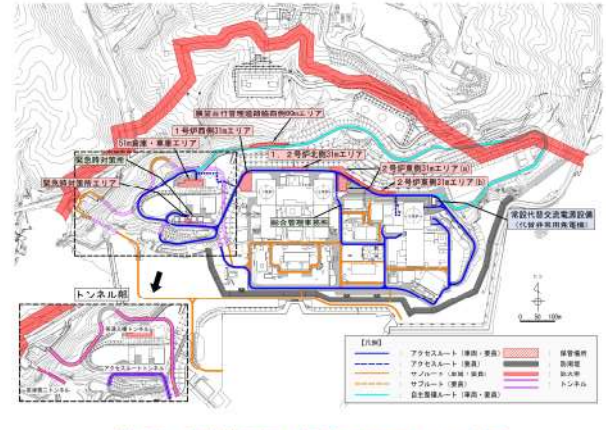
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
		<p>2. 第 385 回審査会合*（平成 28 年 7 月 26 日）からの主要な変更点</p> <p>※：第 385 回審査会合は、泊 3 号炉において今後詳細な説明が必要と考えている事項について概要説明を実施している。</p> <p>(1) 保管場所の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行他プラントの審査実績の反映事項として、森林火災の影響を考慮し、46m 車庫エリアは保管場所として使用しないこととした。 先行他プラントの審査実績の反映事項として、66kV 泊支線送電鉄塔の倒壊時のアクセスルートへの影響を考慮し、展望台行管理道路脇西側 60m エリアは保守点検による待機除外時のバックアップ専用の保管場所とした。これにより、当該エリアは重大事故等発生時にただちにアクセスする必要はない。 上記保管場所の見直しに伴い、可搬型設備の配置変更により 1、2 号炉北側 31m エリアの範囲を変更した。 先行他プラントの審査実績の反映事項として、原子炉補助建屋からの隔離距離との関係を明確にするため、2 号炉東側 31m エリアを (a) と (b) に区分*し再設定した。 <p>※：2 号炉東側 31m エリア (a) は、原子炉補助建屋からの隔離距離を確保しているため、「2n+α」又は「n」の可搬型設備の 1 セットを保管する。2 号炉東側 31m エリア (b) は、原子炉補助建屋からの隔離距離を確保できていないため、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップを保管する。</p> <p>(2) 屋外及び屋内アクセスルートの変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 38 回審査会合（平成 25 年 10 月 29 日）からの主要な変更点と同様。 	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違による保管場所及びアクセスルート設定変更の相違</p>

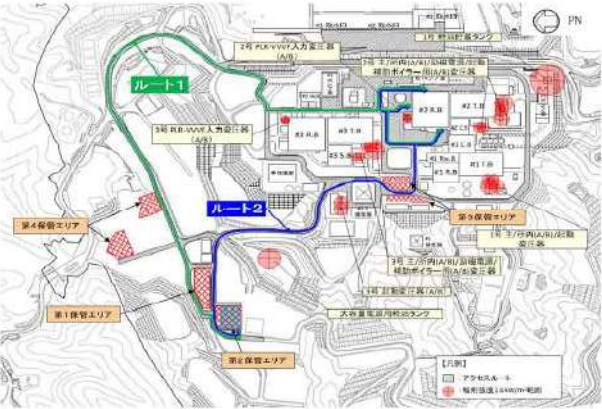
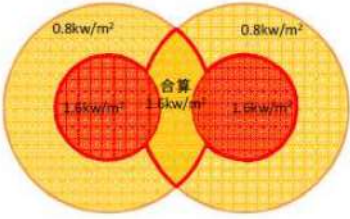
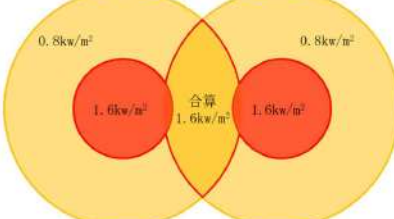
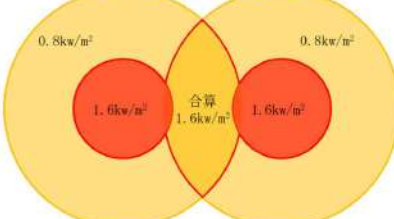
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
		 <p>第3図 保管場所及び屋外アクセスルート図 (平成28年7月26日時点)</p>	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違による保管場所及びアクセスルート設定変更の相違</p>
		 <p>第4図 保管場所及び屋外アクセスルート図 (令和4年12月6日説明時点)</p>	





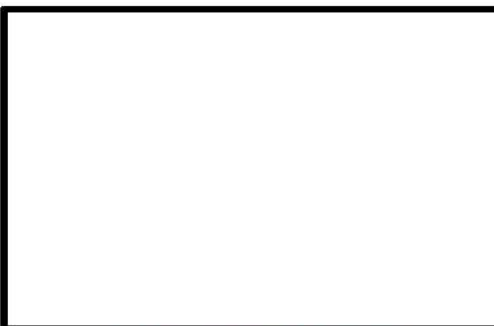

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>補足資料(2) 火災の重畳による熱影響評価について</p> <p>アクセスルート近傍にある可燃物施設の火災が発生した場合においても、第1図のとおりアクセスルートが放射強度 1.6kW/m^2 以下であることを確認しているが、火災が同時に発生し、放射強度を合算しても通行可能であることを確認した。</p> <p>なお、接続口に対しては2号炉 PLR-VVVF 入力変圧器が接続口付近での火災が想定されるが、2号炉 PLR-VVVF 入力変圧器と接続口の間には大物搬入口があり、直接放射の影響を受けない。その他の火災想定箇所と接続口は十分な隔離距離があることから放射強度を合算しても火災による影響を受けない。</p> <p>以下にアクセスルートに対する評価結果を示す。 ※ 石油コンビナートの防災アセスメント指針における長時間さらされても苦痛を感じない放射強度</p>  <p>第1図 火災影響範囲</p> <p>1. 評価方法 放射強度の合算方法について概念図を第2図に示す。</p>  <p>第2図 放射強度合算概念図</p>	<p>補足資料(2) 火災の重畳による熱影響評価について</p> <p>アクセスルート近傍にある可燃物施設の火災が発生した場合においても、第1図のとおりアクセスルートが放射強度 1.6kW/m^2 以下であることを確認しているが、火災が同時に発生し、放射強度を合算しても通行可能であることを確認した。</p> <p>なお、接続口は原子炉建屋内及び原子炉補助建屋内であり、火災想定箇所と十分な隔離距離があることから放射強度を合算しても火災による影響を受けない。</p> <p>以下にアクセスルートに対する評価結果を示す。 ※ 石油コンビナートの防災アセスメント指針における長時間さらされても苦痛を感じない放射強度</p> <div style="border: 2px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p>第1図 火災影響範囲</p> <p>1. 評価方法 放射強度の合算方法について概念図を第2図に示す。</p>  <p>第2図 放射強度合算概念図</p>	<p>補足資料(2) 火災の重畳による熱影響評価について</p> <p>アクセスルート近傍にある可燃物施設の火災が発生した場合においても、第1図のとおりアクセスルートが放射強度 1.6kW/m^2 以下であることを確認しているが、火災が同時に発生し、放射強度を合算しても通行可能であることを確認した。</p> <p>なお、接続口は原子炉建屋内及び原子炉補助建屋内であり、火災想定箇所と十分な隔離距離があることから放射強度を合算しても火災による影響を受けない。</p> <p>以下にアクセスルートに対する評価結果を示す。 ※ 石油コンビナートの防災アセスメント指針における長時間さらされても苦痛を感じない放射強度</p> <div style="border: 2px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p>第1図 火災影響範囲</p> <p>1. 評価方法 放射強度の合算方法について概念図を第2図に示す。</p>  <p>第2図 放射強度合算概念図</p>	<p>【島根】記載箇所の相違 ・島根は「別紙(6)可燃物施設の火災について」において整理している。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊は接続口と十分な隔離距離を確保している。</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による火災影響範囲の相違</p>


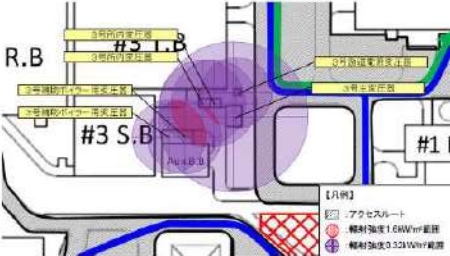
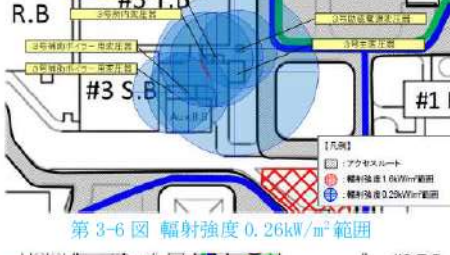


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>2. 評価結果</p> <p>アクセスルート近傍にあり、複数の火災により輻射強度が増す可能性のある、3号炉変圧器エリア、2号炉PLR-VVVF入力変圧器エリアについて確認した結果、第3-1～7図のとおりアクセスルートに影響がないことを確認した。</p>  <p>第3-1図 輻射強度1.6kW/m²範囲</p>  <p>第3-2図 輻射強度0.8kW/m²範囲</p>  <p>第3-3図 輻射強度0.53kW/m²範囲</p>		<p>2. 評価結果</p> <p>アクセスルート近傍にあり、複数の火災により輻射強度が増す可能性のある、2号炉変圧器エリアについて確認した結果、第3-1～4図のとおりアクセスルートに影響がないことを確認した。</p>  <p>第3-1図 輻射強度1.6kW/m²範囲</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>  <p>第3-2図 輻射強度0.8kW/m²範囲</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>  <p>第3-3図 輻射強度0.53kW/m²範囲</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による火災の重畳するエリアの相違</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による火災の重畳のエリアの相違。(以下同様。)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
 <p>第 3-4 図 輻射強度 0.4kW/m² 範囲</p>			<p>【女川】記載内容の相違・重畳する設備の個数違いによる輻射強度範囲の相違</p>
 <p>第 3-5 図 輻射強度 0.32kW/m² 範囲</p>			
 <p>第 3-6 図 輻射強度 0.26kW/m² 範囲</p>			
 <p>第 3-7 図 輻射強度 1.6kW/m² (合算) 範囲</p>		 <p>第 3-4 図 輻射強度 1.6kW/m² (合算) 範囲</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																														
<p style="text-align: right;">補足資料(3)</p> <p style="text-align: center;">溢水評価について</p> <p>1. 滞留水の排水所要時間の評価 (1) 溢水量 アクセスルート近傍にある溢水源となる可能性のあるタンクが、地震起因により複数同時破損を想定した溢水量は第1表のとおり。</p> <p style="text-align: center;">第1表 溢水影響評価の対象となる屋外タンク</p> <table border="1" data-bbox="71 702 698 1308"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>タンク名称</th> <th>基数</th> <th>設置高さ(m)</th> <th>容量(m³)</th> <th>評価に用いる容量(m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>No.1 純水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.4</td><td>1,000</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>2</td><td>No.2 純水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.4</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>3</td><td>1, 2号ろ過水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>4</td><td>再生純水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>1,000</td><td>0[※]</td></tr> <tr><td>5</td><td>No.1 SPT[※]</td><td>1</td><td>O.P. +15.3</td><td>2,000</td><td>0[※]</td></tr> <tr><td>6</td><td>No.2 SPT[※]</td><td>1</td><td>O.P. +15.3</td><td>1,000</td><td>0[※]</td></tr> <tr><td>7</td><td>3号純水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>1,000</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>8</td><td>3号ろ過水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>9,10</td><td>原水タンク</td><td>2</td><td>O.P. +70.04</td><td>4,000</td><td>8,000</td></tr> <tr><td>11-1</td><td>1号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽</td><td>1</td><td>O.P. +16.1</td><td>5.4</td><td>5.4</td></tr> <tr><td>11-2</td><td>1号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽</td><td>1</td><td>O.P. +16.2</td><td>20</td><td>20</td></tr> <tr><td>12</td><td>1号差圧調合槽</td><td>1</td><td>O.P. +15.0</td><td>2.2</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>13-1</td><td>2号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽</td><td>1</td><td>O.P. +16.0</td><td>32</td><td>0[※]</td></tr> <tr><td>13-2</td><td>2号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽</td><td>1</td><td>O.P. +16.6</td><td>7.5</td><td>0[※]</td></tr> <tr><td>13-3</td><td>2号硫酸計量槽</td><td>1</td><td>O.P. +15.8</td><td>0.3</td><td>0[※]</td></tr> <tr><td>14</td><td>2号バック入り差圧調合装置</td><td>1</td><td>O.P. +15.4</td><td>1</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)	1	No.1 純水タンク	1	O.P. +15.4	1,000	1,000	2	No.2 純水タンク	1	O.P. +15.4	2,000	2,000	3	1, 2号ろ過水タンク	1	O.P. +15.1	2,000	2,000	4	再生純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	0 [※]	5	No.1 SPT [※]	1	O.P. +15.3	2,000	0 [※]	6	No.2 SPT [※]	1	O.P. +15.3	1,000	0 [※]	7	3号純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	1,000	8	3号ろ過水タンク	1	O.P. +15.1	2,000	2,000	9,10	原水タンク	2	O.P. +70.04	4,000	8,000	11-1	1号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽	1	O.P. +16.1	5.4	5.4	11-2	1号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽	1	O.P. +16.2	20	20	12	1号差圧調合槽	1	O.P. +15.0	2.2	2.2	13-1	2号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽	1	O.P. +16.0	32	0 [※]	13-2	2号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽	1	O.P. +16.6	7.5	0 [※]	13-3	2号硫酸計量槽	1	O.P. +15.8	0.3	0 [※]	14	2号バック入り差圧調合装置	1	O.P. +15.4	1	1	<p style="text-align: right;">別紙(33)</p> <p style="text-align: center;">屋外タンク溢水時の影響等について</p> <p>【島根2号炉 別紙(33) 1.0.2-補足 3-5より転載】</p> <p>1. 溢水伝播挙動評価 地震によりタンクに大開口が生じ、短時間で大量の水が流出するようなことはないと考えられるが、溢水防護対象設備への影響を評価するため、タンクの損傷形態及び流出水の伝播に係る評価条件を保守的に設定した上で、溢水伝播挙動評価を実施している。 （評価概要は、第九条「溢水による損傷の防止等」において説明）</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(3)</p> <p style="text-align: center;">溢水評価について</p> <p>1. 滞留水の排水所要時間の評価 (1) 溢水量 アクセスルート近傍にある溢水源となる可能性のあるタンクが、地震起因により複数同時破損を想定した溢水量は第1表のとおり。 （評価概要は、第九条「溢水による損傷の防止等」において説明）</p> <p style="text-align: center;">第1表 溢水影響評価の対象となる屋外タンク</p> <table border="1" data-bbox="1332 702 1966 1141"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>タンク名称</th> <th>基数</th> <th>設置高さ(m)</th> <th>容量(m³)</th> <th>評価に用いる容量(m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>A-2次系純水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>2</td><td>B-2次系純水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>3</td><td>3A-ろ過水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>4</td><td>3B-ろ過水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>5</td><td>A-ろ過水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>6</td><td>B-ろ過水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>7</td><td>1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>600</td><td>450[※]</td></tr> <tr><td>8</td><td>3号炉補助ボイラー燃料タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.8m</td><td>735</td><td>410[※]</td></tr> <tr><td>9</td><td>1号炉タービン油計量タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>70</td><td>70</td></tr> <tr><td>10</td><td>3号炉タービン油計量タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>110</td><td>0[※]</td></tr> <tr><td colspan="5" style="text-align: center;">合計</td><td>10,530</td></tr> </tbody> </table> <p>※：評価に用いる容量は、発電所の所則類に反映し、運用容量を超過しないように管理する。</p>	No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)	1	A-2次系純水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	2	B-2次系純水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	3	3A-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	4	3B-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	5	A-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	6	B-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	7	1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク	1	T.P. 10.3m	600	450 [※]	8	3号炉補助ボイラー燃料タンク	1	T.P. 10.8m	735	410 [※]	9	1号炉タービン油計量タンク	1	T.P. 10.3m	70	70	10	3号炉タービン油計量タンク	1	T.P. 10.3m	110	0 [※]	合計					10,530	<p>【島根】記載内容の相違 ・第九条（屋外タンクからの溢水影響評価）の参照プラントは女川としているため、本資料は女川の資料構成をベースとする。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊は屋外タンクの溢水の評価概要について第九条で説明することを明確化した。（島根と同様）</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・プラントの相違による溢水影響評価の対象となる屋外タンクの相違。</p>
No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)																																																																																																																																																																												
1	No.1 純水タンク	1	O.P. +15.4	1,000	1,000																																																																																																																																																																												
2	No.2 純水タンク	1	O.P. +15.4	2,000	2,000																																																																																																																																																																												
3	1, 2号ろ過水タンク	1	O.P. +15.1	2,000	2,000																																																																																																																																																																												
4	再生純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	0 [※]																																																																																																																																																																												
5	No.1 SPT [※]	1	O.P. +15.3	2,000	0 [※]																																																																																																																																																																												
6	No.2 SPT [※]	1	O.P. +15.3	1,000	0 [※]																																																																																																																																																																												
7	3号純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	1,000																																																																																																																																																																												
8	3号ろ過水タンク	1	O.P. +15.1	2,000	2,000																																																																																																																																																																												
9,10	原水タンク	2	O.P. +70.04	4,000	8,000																																																																																																																																																																												
11-1	1号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽	1	O.P. +16.1	5.4	5.4																																																																																																																																																																												
11-2	1号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽	1	O.P. +16.2	20	20																																																																																																																																																																												
12	1号差圧調合槽	1	O.P. +15.0	2.2	2.2																																																																																																																																																																												
13-1	2号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽	1	O.P. +16.0	32	0 [※]																																																																																																																																																																												
13-2	2号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽	1	O.P. +16.6	7.5	0 [※]																																																																																																																																																																												
13-3	2号硫酸計量槽	1	O.P. +15.8	0.3	0 [※]																																																																																																																																																																												
14	2号バック入り差圧調合装置	1	O.P. +15.4	1	1																																																																																																																																																																												
No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)																																																																																																																																																																												
1	A-2次系純水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
2	B-2次系純水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
3	3A-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
4	3B-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
5	A-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
6	B-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
7	1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク	1	T.P. 10.3m	600	450 [※]																																																																																																																																																																												
8	3号炉補助ボイラー燃料タンク	1	T.P. 10.8m	735	410 [※]																																																																																																																																																																												
9	1号炉タービン油計量タンク	1	T.P. 10.3m	70	70																																																																																																																																																																												
10	3号炉タービン油計量タンク	1	T.P. 10.3m	110	0 [※]																																																																																																																																																																												
合計					10,530																																																																																																																																																																												

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉						島根原子力発電所2号炉						泊発電所3号炉						相違理由
No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)													
15	3号各種薬液貯蔵及び移送系硫酸貯槽	1	0.P. +16.0	2.2	0 ^{※1}													
16	3号各種薬液貯蔵及び移送系苛性ソーダ貯槽	1	0.P. +16.0	10.5	0 ^{※1}													
17	3号蒸圧調合槽	1	0.P. +15.3	0.1	0.1													
18-1	PAC貯槽	1	0.P. +15.3	2	2													
18-2	硫酸貯槽	1	0.P. +17.3	3.9	3.9													
18-3	苛性ソーダ貯槽	1	0.P. +15.7	7	7													
18-4	H塔再生用硫酸貯留槽	1	0.P. +16.8	0.3	0.3													
19	1, 2号給排水処理建屋	1	0.P. +14.8	375.21	375.21													
20	3号給排水処理建屋	1	0.P. +14.8	404.88	404.88													
21-1	高置水槽（給湯系統）	1	0.P. +33.3	6	6													
21-2	高置水槽（給水系統）	1	0.P. +33.3	8	8													
22-1	No.1高架水槽	1	0.P. +34.7	8	8													
22-2	No.2高架水槽	1	0.P. +34.7	8	8													
23-1	上水高架水槽	1	-	9.2	9.2													
23-2	雑用水高架水槽	1	-	13.7	13.7													
24-1	高架水槽（飲料用）	1	0.P. +34.8	1.2	1.2													
24-2	高架水槽（雑用）	1	0.P. +34.8	2.0	2.0													
24-3	水蓄熱槽（PAI-1）	1	0.P. +19.68	1.01	1.01													
24-4	水蓄熱槽（PAI-3）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
24-5	水蓄熱槽（PAI-4）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
24-6	高架水槽（飲料水）	1	0.P. +36.55	1.5	1.5													
24-7	高架水槽（雑用水）	1	0.P. +36.55	2.2	2.2													
24-8	水蓄熱槽（PAI-1）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
24-9	水蓄熱槽（PAI-2）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
24-10	水蓄熱槽（PAI-3）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
25	主復水器用電解鉄イオン注入装置電解槽	2	0.P. +15.613	3.4	6.8													
26	水蓄熱槽（PAI-1）	1	0.P. +14.95	1.49	1.49													
27	受水槽	1	0.P. +15.3	6	6													
28-1	上水受水槽	1	0.P. +62.9	37	37													
28-2	雑用水受水槽	1	0.P. +62.9	55	55													
28-3	受水槽	1	0.P. +62.9	0.5	0.5													

No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)
29	燃料小出槽	1	0.P. +58.592	0.95	0.95
30	給水タンク	1	-	2	2
31	配水池	1	0.P. +69.7	300	300
32-1	ろ過タンク（浄水）	1	0.P. +69.7	6	6
32-2	ろ過タンク（浄水）	1	0.P. +69.7	4	4
33	消火水タンク	1	0.P. +14.8	230	230
				合計容量(m ³)	17,540

※1 評価に用いる容量は、発電所の所則類に反映し、運用容量を超過しないように管理する。
 ※2 SPT：サブプレッションプール水貯蔵タンク

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

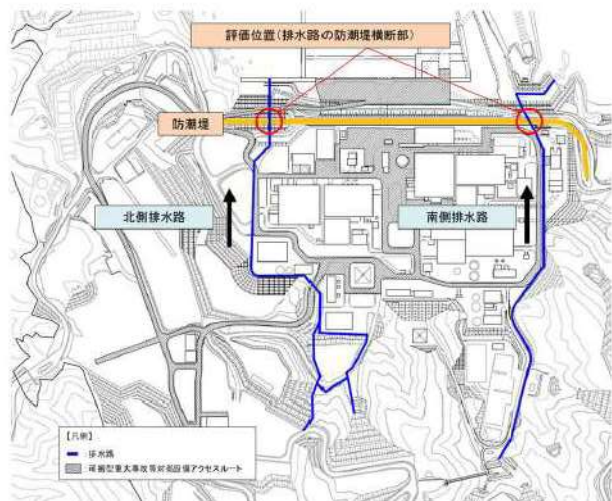
女川原子力発電所2号炉

(2) 排水可能量
 敷地内に広がった溢水は第1図に示す排水路から海洋に流出する。
 各排水路の排水可能流量は、「森林法に基づく林地開発許可申請の手引き」に基づく平成30年2月の宮城県への林地開発許可申請における値とする。排水路の仕様及び排水可能流量は、第2表のとおり。

第2表 排水路の仕様

	仕様	排水可能流量 [※] [m³/s]
北側排水路	ダクタイルパイプ B3500、H2500	51.16
南側排水路	ダクタイルパイプ Φ1000×3	16.23

※林地開発許可申請書記載値（平成30年2月）



第1図 排水路の配置概要図

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

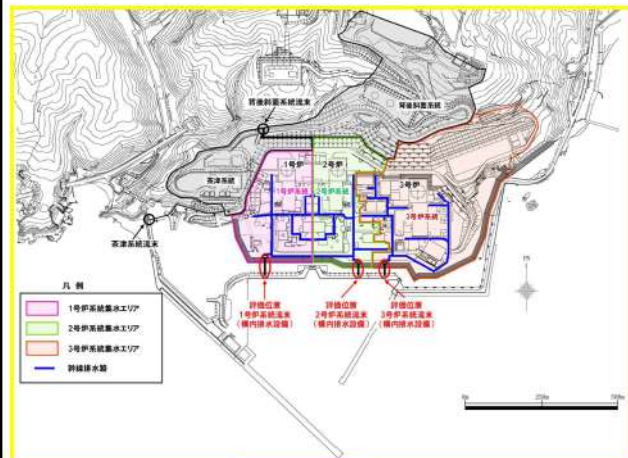
相違理由

(2) 排水可能量
 敷地内に広がった溢水は第1図に示す構内排水設備から海洋に流出する。
 各構内排水設備の排水可能流量は、設計基準降水量(57.5mm/h)により想定される雨水流入量に対して、裕度を持って排水可能な流量とする。構内排水設備の仕様及び排水可能流量は、第2表のとおり。

第2表 構内排水設備の仕様

	仕様	排水可能流量 [m³/s]
1号炉系統流末	鋼管 φ1,800	3.89
2号炉系統流末		3.89
3号炉系統流末		3.89

※：構内排水設備については構造検討中



第1図 構内排水設備の配置概要図

【女川】記載表現の相違

【女川】設備の相違
 ・排水可能流量の設定方法の相違。

【女川】記載内容の相違
 ・プラントの相違による排水路の仕様の相違。

【女川】記載表現の相違
 ・プラントの相違による図の内容の相違。


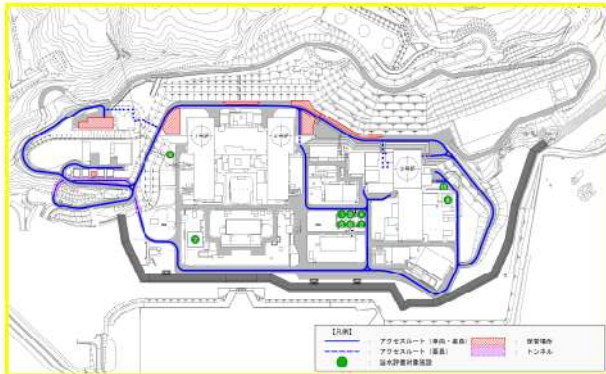
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>(3) 排水所要時間 排水所要時間は溢水量と排水可能流量から求められる。排水所要時間の計算においては、保守的に排水可能流量が小さい南側排水路のみから排水されると仮定した。排水所要時間の計算結果は、第3表のとおり。</p> <p style="text-align: center;">第3表 排水所要時間</p> <table border="1" data-bbox="125 411 622 507"> <thead> <tr> <th>溢水量 [m³]</th> <th>排水可能流量 [m³/s]</th> <th>排水所要時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17,540</td> <td>16.23</td> <td>約19分 (1,081秒)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) アクセスルート仮復旧への影響 屋外タンク破損による溢水の排水所要時間が約19分であるのに対し、重機によるアクセスルートの仮復旧作業開始は事象発生から70分後であることから、溢水滞留による仮復旧作業への影響はない。 また、段差発生箇所でも局所的に溢水が滞留する可能性のある箇所としては、地下構造物が並行する3号炉タービン建屋東側があるが、当該箇所に滞留水があった場合でも、ブルドーザで碎石を投入することにより段差を解消し、通行可能となるよう仮復旧することを想定していることから、対象車両の通行には影響がないと考えられる。</p>	溢水量 [m ³]	排水可能流量 [m ³ /s]	排水所要時間	17,540	16.23	約19分 (1,081秒)		<p>(3) 排水所要時間 排水所要時間は溢水量と排水可能流量から求められる。排水所要時間の計算においては、保守的に1箇所からの排水は期待できないものと仮定した。排水所要時間の計算結果は、第3表のとおり。</p> <p style="text-align: center;">第3表 排水所要時間</p> <table border="1" data-bbox="1346 411 1955 528"> <thead> <tr> <th>溢水量 (m³)</th> <th>排水可能流量 (m³/s)</th> <th>排水所要時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,530</td> <td>7.78</td> <td>約23分 (1,354秒)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 屋外作業実施への影響 屋外タンク破損による溢水の排水所要時間が約23分であるのに対し、可搬型設備を用いたT.P.10mエリアでの屋外作業開始は事象発生から55分後であることから、溢水滞留による屋外作業への影響はない。</p>	溢水量 (m ³)	排水可能流量 (m ³ /s)	排水所要時間	10,530	7.78	約23分 (1,354秒)	<p>【女川】記載内容の相違 ・泊の構内排水設備の排水可能流量は、3箇所とも同じ仕様である。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・プラントの相違による排水所要時間の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊は、事前対策により復旧作業を想定していないことから、屋外作業実施に対する影響評価を行った。</p>
溢水量 [m ³]	排水可能流量 [m ³ /s]	排水所要時間													
17,540	16.23	約19分 (1,081秒)													
溢水量 (m ³)	排水可能流量 (m ³ /s)	排水所要時間													
10,530	7.78	約23分 (1,354秒)													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																									
<p>2. 流動解析</p> <p>耐震性の確保されていないタンクの破損に伴う溢水の影響について、地形等の影響は考慮せず、すべての溢水源（屋外タンク類）容量が、建屋設置レベルである 0.P.+14.8m に流れ込んだものとして評価した結果、敷地内浸水深は 0.16m であり、アクセスルートの復旧に支障がないことを確認しているが、タンク破損に伴う溢水による影響について流動解析（解析コード fluent Ver16.0.0）を実施し、その影響について評価した。</p> <p>(1) 屋外タンク溢水評価モデルの設定</p> <p>a. 水源の配置</p> <p>女川原子力発電所の溢水影響評価対象となる屋外タンク配置図を第2図に示す。評価に影響を及ぼす大型の水源（1,000m³以上の大型タンク）は敷地内3箇所に分散配置されている（第2図中の赤丸）ことから、これらの大型タンクから溢した場合の影響について確認するため、第4表に示すとおり水源を配置した。</p>  <p>第2図 溢水影響評価の対象となる屋外タンク配置図</p> <p>第4表 水源の配置</p> <table border="1" data-bbox="112 1157 649 1388"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>タンク名称</th> <th>基数</th> <th>タンク容量 (m³)</th> <th>評価に用いる容量^{※1} (m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">No.1 エリア</td> <td>原水タンク</td> <td>1</td> <td>4,000</td> <td>4,160</td> </tr> <tr> <td>原水タンク</td> <td>1</td> <td>4,000</td> <td>4,160</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No.2 エリア</td> <td>3号純水タンク</td> <td>1</td> <td>1,000</td> <td>1,280</td> </tr> <tr> <td>3号ろ過水タンク</td> <td>1</td> <td>2,000</td> <td>2,280</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">No.3 エリア</td> <td>No.1 純水タンク</td> <td>1</td> <td>1,000</td> <td>1,330</td> </tr> <tr> <td>No.2 純水タンク</td> <td>1</td> <td>2,000</td> <td>2,230</td> </tr> <tr> <td>1, 2号ろ過水タンク</td> <td>1</td> <td>2,000</td> <td>2,230</td> </tr> <tr> <td colspan="4">総量</td> <td>17,570</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 評価に用いる容量は、評価対象タンク周りの屋外タンク容量も加算した値。</p>	No.	タンク名称	基数	タンク容量 (m ³)	評価に用いる容量 ^{※1} (m ³)	No.1 エリア	原水タンク	1	4,000	4,160	原水タンク	1	4,000	4,160	No.2 エリア	3号純水タンク	1	1,000	1,280	3号ろ過水タンク	1	2,000	2,280	No.3 エリア	No.1 純水タンク	1	1,000	1,330	No.2 純水タンク	1	2,000	2,230	1, 2号ろ過水タンク	1	2,000	2,230	総量				17,570	<p>1. 溢水伝播挙動評価</p> <p>地震によりタンクに大開口が生じ、短時間で大量の水が流出するようなことはないと考えられるが、溢水防護対象設備への影響を評価するため、タンクの損傷形態及び流出水の伝播に係る評価条件を保守的に設定した上で、溢水伝播挙動評価を実施している。</p> <p>（評価概要は、第九条「溢水による損傷の防止等」において説明）</p>	<p>2. 流動解析</p> <p>耐震性の確保されていないタンクの破損に伴う溢水の影響について、地形等の影響は考慮せず、すべての溢水源（屋外タンク類）容量が、敷地レベルである T.P.10.0m に滞留するものとして評価した結果、敷地内浸水深は 0.10m であり、事故対応のためのアクセスルート確保及び作業実施に影響がないことを確認しているが、タンク破損に伴う溢水による影響について流動解析（解析コード fluent Ver.18.2.0）を実施し、その影響について評価した。</p> <p>(1) 屋外タンク溢水評価モデルの設定</p> <p>a. 水源の配置</p> <p>泊発電所の溢水影響評価対象となる屋外タンク配置図を第2図に示す。</p>  <p>第2図 溢水影響評価の対象となる屋外タンク配置図</p>	<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第九条の参照ブランドは女川としているため、本資料についても女川の資料構成をベースとする。 <p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 泊は、事前対策により復旧作業を想定していない。 <p>【女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 【女川】記載内容の相違 ・ 女川は大型の水源が敷地内3箇所に分散配置されているのに対し、泊はT.P.10mの敷地1箇所に配置されていることから、女川のような水源配置の想定は不要である。 <p>【女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラントの相違による溢水影響評価の対象となる屋外タンクの相違。 <p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女川は大型の水源が敷地内3箇所に分散配置されているのに対し、泊はT.P.10mの敷地1箇所に配置されていることから、女川のような水源配置の想定は不要である。
No.	タンク名称	基数	タンク容量 (m ³)	評価に用いる容量 ^{※1} (m ³)																																								
No.1 エリア	原水タンク	1	4,000	4,160																																								
	原水タンク	1	4,000	4,160																																								
No.2 エリア	3号純水タンク	1	1,000	1,280																																								
	3号ろ過水タンク	1	2,000	2,280																																								
No.3 エリア	No.1 純水タンク	1	1,000	1,330																																								
	No.2 純水タンク	1	2,000	2,230																																								
	1, 2号ろ過水タンク	1	2,000	2,230																																								
総量				17,570																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>b. 評価条件 タンクの損傷形態及び流出水の伝播に係る条件について以下のとおり設定した。</p> <p>(a) 評価対象タンクは基礎ボルトのない平面タンクであり、地震時にはすべりが発生するためタンクと接続されているすべての配管について全周破断を想定した。</p> <p>(b) 破断位置については、保守的にタンク付け根部とした。</p> <p>(c) タンクからの流出については、タンク水頭に応じて流出流量が低下するものとして評価を実施した。</p> <p>(d) 排水路からの流出や、地盤への浸透は考慮しない。</p> <p>c. 解析モデル 解析に使用した敷地モデルを第3図に示す。</p>  <p>第3図 敷地モデル</p> <p>(2) 評価結果</p>	<p>1.1 評価の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 溢水源となるタンクを表現し、地震による損傷をタンク側板が瞬時に消失するとして模擬する。 ・ 構内排水路による排水機能及び敷地外への排出は期待しない。 ・ 輪谷貯水槽(東1/東2)は基準地震動 S_s によって生じるスロッシングによる溢水量(時刻歴)を模擬する。 ・ 3号ろ過水タンク、3号純水タンク及び消火用水タンクから第4保管エリアまでの伝播経路上の2m程度の壁は評価モデルに考慮しない <p>1.2 評価結果</p> <p>溢水伝播挙動評価による評価の結果として得られた溢水伝播挙動を第1図に示す。また、浸水深の時系列データの抽出地点を第2図に、抽出地点毎の浸水深の時系列データを第3~12図に示す。</p> <p>(1) 2号炉への影響について</p> <p>評価の結果、2号炉原子炉建物南側の可搬型設備接続口付近(第3図地点①)では、タンクからの溢水後、最大で約18cmの浸水深となること、また、同建物西側の可搬型設備接続口付近(第4図地点②)はほとんど浸水深がないことが確認されている。</p>	<p>b. 評価条件 タンクの損傷形態及び流出水の伝播に係る条件について以下のとおり設定した。</p> <p>(a) 基準地震動に対する耐震性が確保されている2次系純水タンク及びろ過水タンクについては、タンクと接続されているすべての配管について全周破断を想定した。</p> <p>(b) 破断位置については、保守的にタンク付け根部とした。</p> <p>(c) タンクからの流出については、タンク水頭に応じて流出流量が低下するものとして評価を実施した。</p> <p>(d) 容量が1,000m³以下のタンクについては、地震による損傷をタンク側板が瞬時に消失するとして模擬した。</p> <p>(e) 構内排水設備からの流出や、地盤への浸透は考慮しない。</p> <p>c. 解析モデル 解析に使用した敷地モデルを第3図に示す。敷地モデルには保守性を考慮し、防潮堤の厚さを敷地側に2倍拡張させ、実際よりも滞留面積が小さくなるよう設定した。</p>  <p>第3図 敷地モデル</p> <p>(2) 評価結果</p> <p>流動解析による評価の結果として得られた溢水伝播挙動を第4図に示す。また、浸水深の時系列データの水位測定箇所を第5図に、水位測定箇所ごとの浸水深の時系列データを第6図に示す。</p>	<p>【女川】記載内容の相違 ・プラントの相違による評価条件の相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊では保守的な敷地モデルとなるよう、実際の敷地面積より滞留面積が小さくなるよう設定している。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・プラントの相違による敷地モデルの相違。</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による評価結果の相違。</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

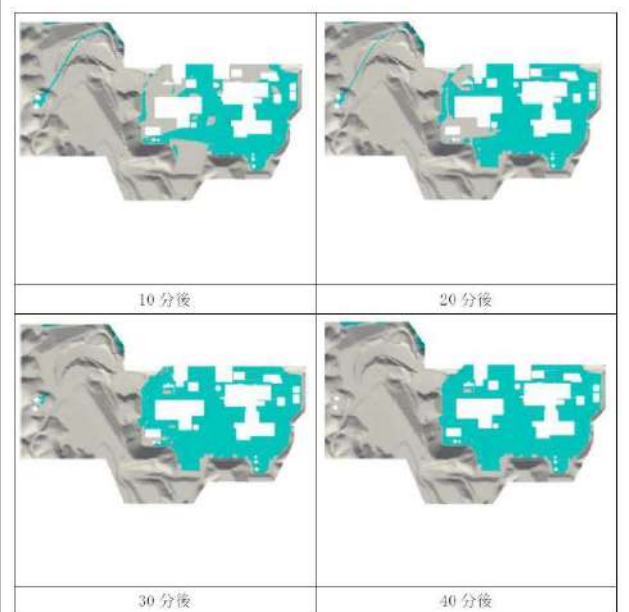
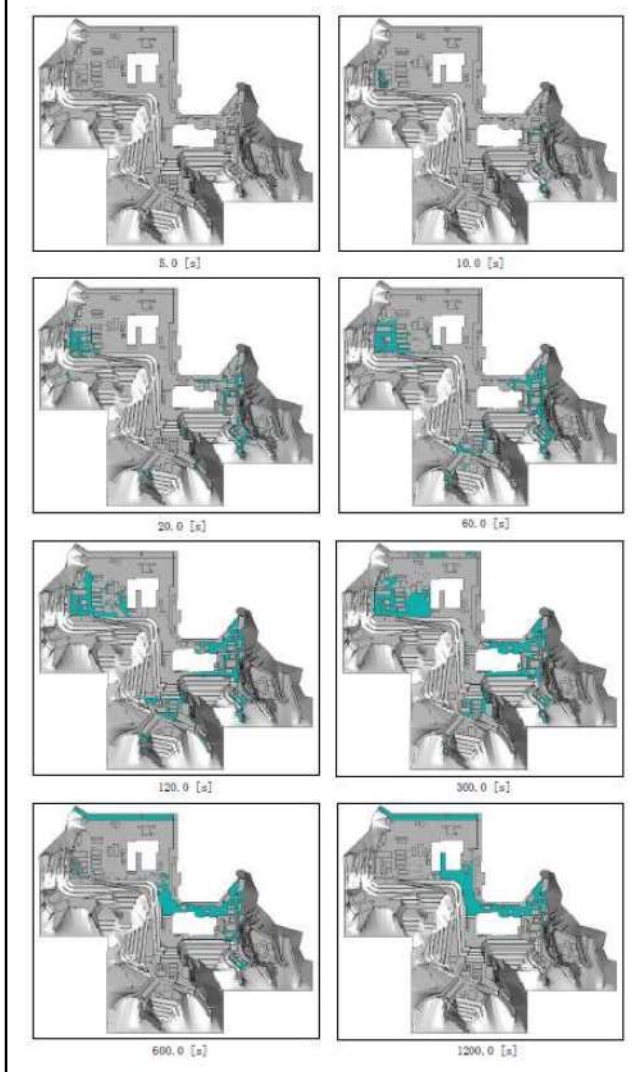

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>No.1 エリアにて発生した溢水の大部分は、海域に流出することが確認された。No.2 エリア及び No.3 エリアにて発生した溢水は原子炉建屋等が設置されている 0.P.+14.8m に広がっていくことが確認された。</p> <p>解析の結果、各ポイントにおける最大水位は 0.15m であることから、人員への影響は小さいと考えられる。また、溢水流路上の設備等が損壊し、がれきの発生が想定されるが、迂回又は重機にて撤去することにより、アクセスルート確保への影響はないと考える。</p>	<p>(2) 保管場所への影響について</p> <p>第1～3 保管エリアについては、最大浸水深が約 0cm であり、可搬設備の機関吸排気口高さより低く、可搬設備に影響はない。</p> <p>第4 保管エリアについては、可搬設備の機関吸排気口高さの最低値 22cm に対し、最大浸水深が約 21cm であり、可搬設備の機関吸排気口高さより低く、可搬設備に影響はない。機関吸排気口高さは、最大浸水深に対し裕度が小さいが、最大浸水深となる溢水は、第4 保管エリア近傍にある大型タンク（3号ろ過水タンク、3号純水タンク及び消火用水タンク）からの溢水の影響が配的であるため、「1.1 評価の条件」に示す条件を踏まえると以下のとおり溢水影響軽減効果を考慮していないことから実現における溢水水位は、溢水伝播挙動評価の最大浸水深よりも低くなると考えられる。第4 保管エリア近傍の溢水の伝播挙動を第13 図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型タンク（3号ろ過水タンク、3号純水タンク及び消火用水タンク）から第4 保管エリアまでの伝播経路上には溢水伝播挙動評価では評価モデルに考慮していない 2m 程度の壁がある。実現象においてこの壁は、溢水の伝播を阻害する。なお、当該壁が損壊することを想定した場合においても、がれきにより溢水の伝播を阻害する。 ・大型タンク（3号ろ過水タンク、3号純水タンク及び消火用水タンク）から第4 保管エリアまでの伝播経路上には溢水伝播挙動評価では評価モデルに考慮していない敷地内に設けられた排水路がある。実現象においてタンクからの溢水は、この排水路を通じて北側の排水設備へ向けて流下する。 <p>屋外タンクからの溢水による保管場所に対する影響評価結果を第1 表に示す。</p> <p>2. 作業の成立性</p> <p>屋外タンクから溢水が発生した場合には、タンク周辺の空地が平坦かつ広大であり周辺道路等を自然流下し拡散するものと考えられるが、最大約 100cm の浸水深となるルート上（第9 図地点⑦）であっても敷地形状により管理事務所東側道路から EL 8.5m エリアへ向けて流下するため、10 分後には可搬型設備がアクセス可能な浸水深となること、可搬型設備接続口付近を含むその他の抽出地点においては常に可搬型設備がアクセス可能な浸水深であることから、事故対応のためのアクセスルート確保及び作業実施に影響はない。</p> <p>また、溢水流路上の設備等が損壊し、がれきの発生が想定されるが、迂回又は重機にて撤去することにより、アクセスルート確保への影響はない。</p> <p>なお、溢水流路に人員がいる場合も想定されるが、安全を最優先し、溢水流路から待避することにより、人身への影響はない。</p>	<p>屋外タンクから発生した溢水は、周辺道路等を自然流下し拡散することが確認された。</p> <p>解析の結果、最大水位が 0.27m となる原子炉建屋（タービン建屋入口）付近（第6 図 ②）や最大水位が 0.22m となる可搬型設備接続口付近（第6 図 ③）その他水位測定箇所においても、13 分後には可搬型設備車両の走行可能水位以下となることから、事故対応のためのアクセスルート確保及び作業実施に影響はない。（別紙(19)参照）</p> <p>また、溢水流路上の設備等が損壊し、がれきの発生が想定されるが、迂回又は重機にて撤去することにより、アクセスルート確保への影響はない。</p> <p>なお、溢水流路に人員がいる場合も想定されるが、安全を最優先し、溢水流路から待避することにより、人身への影響はない。</p>	<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 泊は、高台に保管場所を設定しており、周囲に溢水源となる屋外タンクがない。 <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラントの相違による評価結果の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

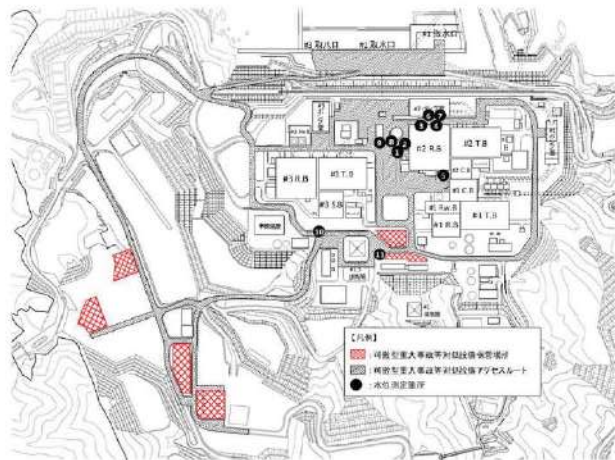
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
 <p>10分後 20分後</p> <p>30分後 40分後</p> <p>(溢水範囲を赤色で示す)</p>	 <p>5.0 [s] 10.0 [s]</p> <p>20.0 [s] 30.0 [s]</p> <p>60.0 [s] 120.0 [s]</p> <p>300.0 [s] 600.0 [s]</p> <p>1200.0 [s]</p>	 <p>10分後 30分後</p> <p>5分後 20分後</p> <p>Velocity magnitude (m/s)</p> <p>0.40 0.30 0.20 0.10 0.00</p> <p>3.0e+00 2.5 2 1.5 1 0.5 0.0e+00</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラントの相違による溢水伝播挙動の相違。
<p>第4図 溢水伝播挙動</p>	<p>第1図 屋外タンクの溢水伝播挙動</p>	<p>第4図 溢水伝播挙動</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

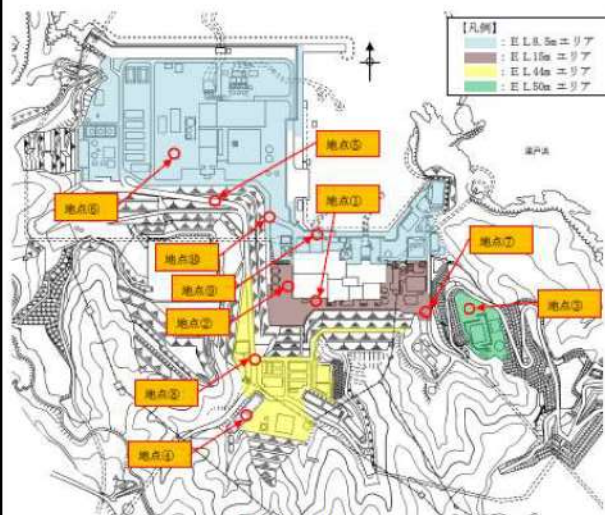


第5図 水位測定箇所

【水位測定箇所】

- ① 原子炉建屋（大物搬出入口前）
- ② 原子炉建屋（DG(A)室前）
- ③ 原子炉建屋（DG(HPCS)室前）
- ④ 原子炉建屋（DG(B)室前）
- ⑤ 制御建屋
- ⑥ 海水ポンプ室1
- ⑦ 海水ポンプ室2
- ⑧ CST エリア
- ⑨ LOT エリア
- ⑩ 敷地1
- ⑪ 敷地2

島根原子力発電所2号炉

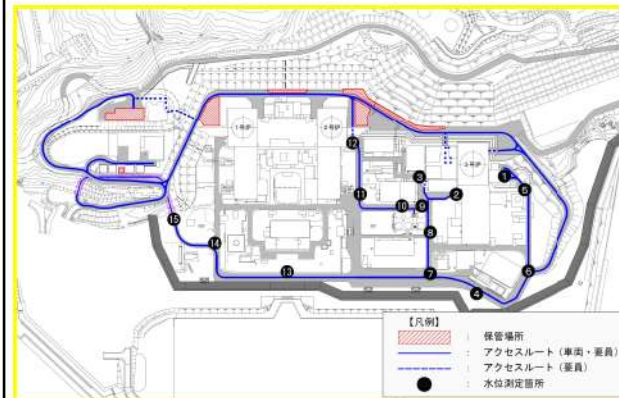


(抽出地点の標高)

地点	標高
地点①	E L 15m
地点②	E L 15m
地点③	E L 50m
地点④	E L 53.3m
地点⑤	E L 31m
地点⑥	E L 8.5m
地点⑦	E L 15m
地点⑧	E L 44m
地点⑨	E L 8.5m
地点⑩	E L 8.5m

第2図 浸水深の時系列データの抽出地点

泊発電所3号炉



第5図 水位測定箇所

【水位測定箇所】

- ① ディーゼル発電機建屋
- ② 原子炉建屋（タービン建屋入口）
- ③ 原子炉補助建屋
- ④ 3号炉取水ビットスクリーン室
- ⑤ 敷地1
- ⑥ 敷地2
- ⑦ 敷地3
- ⑧ 敷地4
- ⑨ 敷地5
- ⑩ 敷地6
- ⑪ 敷地7
- ⑫ 敷地8
- ⑬ 敷地9
- ⑭ 敷地10
- ⑮ 敷地11

相違理由

- 【女川及び島根】
- 記載内容の相違
- ・プラントの相違による
- 水位測定箇所の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

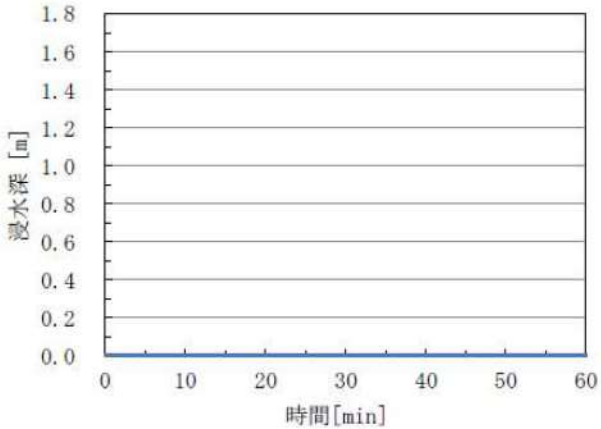
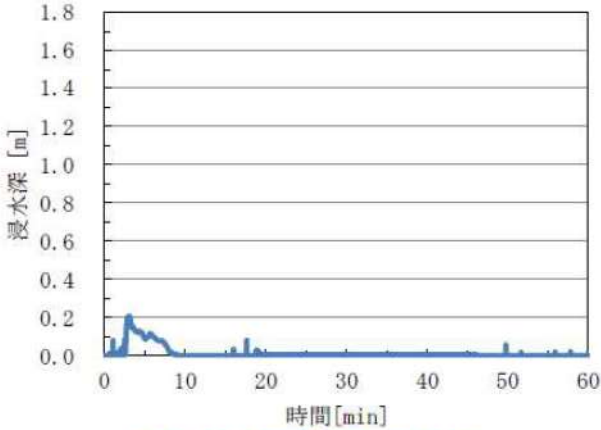
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>第6図 水位測定箇所における浸水深(1/2)</p>	<p>第3図 浸水深の時系列データ(地点①)</p> <p>第4図 浸水深の時系列データ(地点②)</p>	<p>第6図 水位測定箇所における浸水深(1/2)</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による浸水深の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第6図 水位測定箇所における浸水深(2/2)</p>	<p>第5図 浸水深の時系列データ(地点③)</p>	<p>第6図 水位測定箇所における浸水深(2/2)</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による浸水深の相違。</p>
	<p>第6図 浸水深の時系列データ(地点④)</p>		

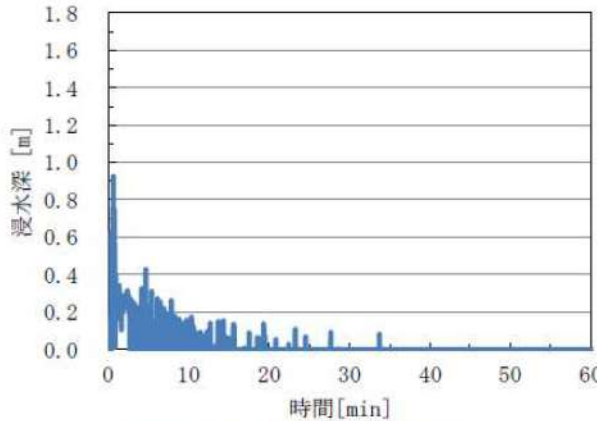
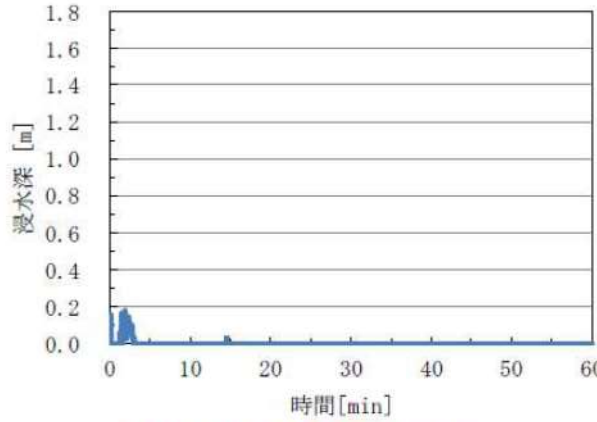
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="840 635 1187 657">第7図 浸水深の時系列データ(地点⑤)</p>  <p data-bbox="840 1161 1187 1184">第8図 浸水深の時系列データ(地点⑥)</p>		<p data-bbox="1982 172 2161 252">【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による 浸水深の相違。</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

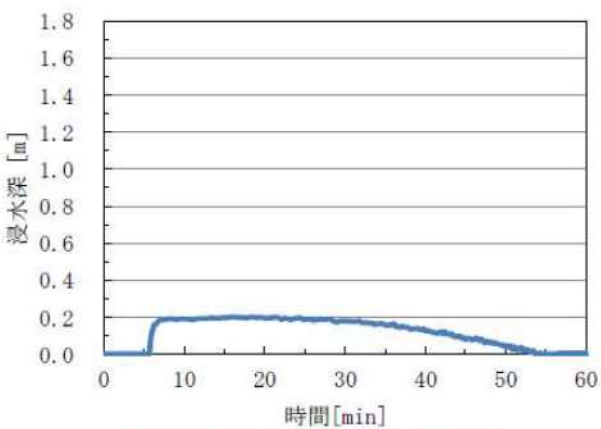
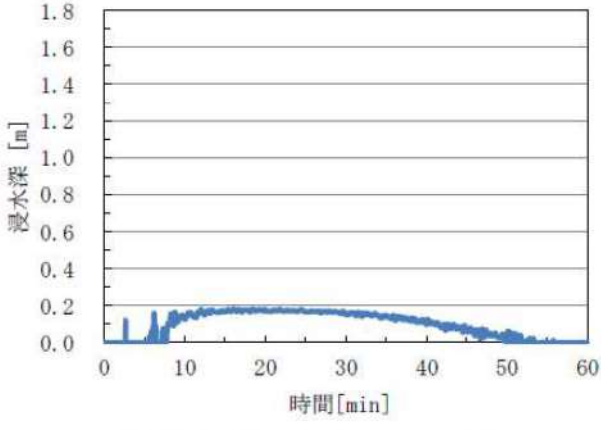
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="840 606 1187 630">第9図 浸水深の時系列データ(地点⑦)</p>  <p data-bbox="840 1157 1187 1181">第10図 浸水深の時系列データ(地点⑧)</p>		<p data-bbox="1982 143 2161 223">【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による 浸水深の相違。</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

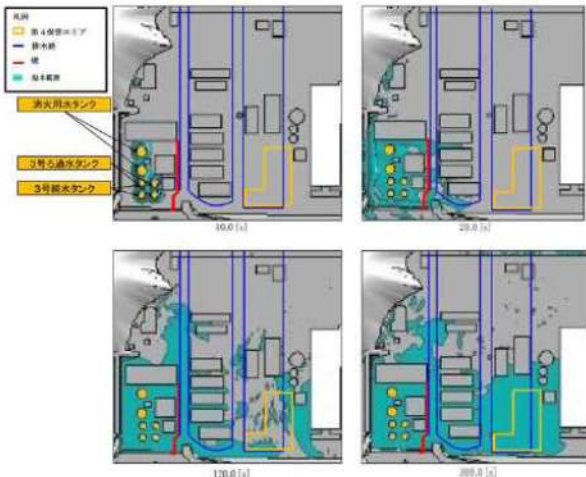
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	 <p>第11図 浸水深の時系列データ（地点⑨）</p>  <p>第12図 浸水深の時系列データ（地点⑩）</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による 浸水深の相違。</p>


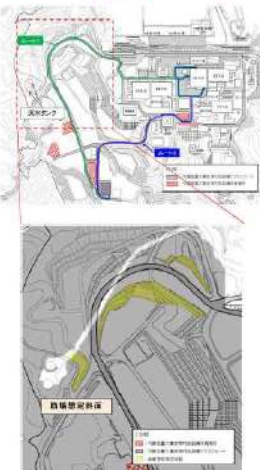
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由										
	 <p>第13図 第4保管エリア近傍の溢水の伝播挙動</p> <p>第1表 保管場所に対する影響評価結果</p> <table border="1" data-bbox="712 758 1317 1114"> <thead> <tr> <th>保管場所</th> <th>影響評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1保管エリア</td> <td>エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第5図地点③)</td> </tr> <tr> <td>第2保管エリア</td> <td>密閉式貯水槽上部であり、周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第6図地点④)</td> </tr> <tr> <td>第3保管エリア</td> <td>周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第7図地点⑤)</td> </tr> <tr> <td>第4保管エリア</td> <td>エリア内の最大浸水深は約21cmとなり、可搬型設備等の機関吸気口及び排気口高さ以下である。 (第8図地点⑥)</td> </tr> </tbody> </table>	保管場所	影響評価結果	第1保管エリア	エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第5図地点③)	第2保管エリア	密閉式貯水槽上部であり、周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第6図地点④)	第3保管エリア	周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第7図地点⑤)	第4保管エリア	エリア内の最大浸水深は約21cmとなり、可搬型設備等の機関吸気口及び排気口高さ以下である。 (第8図地点⑥)		<p>【島根】記載内容の相違 ・泊は、高台に保管場所を設定しており、周囲に溢水源となる屋外タンクがない。</p>
保管場所	影響評価結果												
第1保管エリア	エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第5図地点③)												
第2保管エリア	密閉式貯水槽上部であり、周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第6図地点④)												
第3保管エリア	周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第7図地点⑤)												
第4保管エリア	エリア内の最大浸水深は約21cmとなり、可搬型設備等の機関吸気口及び排気口高さ以下である。 (第8図地点⑥)												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 崩壊土砂とタンク溢水による影響評価</p> <p>(1) 評価対象</p> <p>溢水源と崩壊斜面の配置から斜面崩壊後に No.1 エリアの原水タンクが溢水した場合、アクセスルートの復旧時間評価に影響を及ぼす可能性があることから、影響評価を実施する。</p>  <p>第7図 溢水源と斜面崩壊の位置関係図</p> <p>(2) 影響評価</p> <p>No.1 エリアの原水タンクが溢水した場合の流動解析の結果は第8図のとおり。原水タンクの溢水により崩壊想定斜面の崩壊土砂の一部がルート1に流入することも考えられるが、有効性評価上のアクセスルート復旧時間4時間に対し、ルート1の仮復旧時間評価は2時間28分で仮復旧することが可能で、時間的な余裕があることから、重機による土砂撤去することにより対応可能である。なお、ルート2には影響がないことを確認している。</p>  <p>第8図 原水タンク溢水による流動解析の結果</p> <p>※ 浸水範囲を白色で示す。</p>			<p>【女川】記載内容の相違 ・泊はアクセスルートの周辺斜面崩壊箇所近傍には、溢水源となる可能性のあるタンクが存在しないため、溢水による土砂撤去作業への影響は無い。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

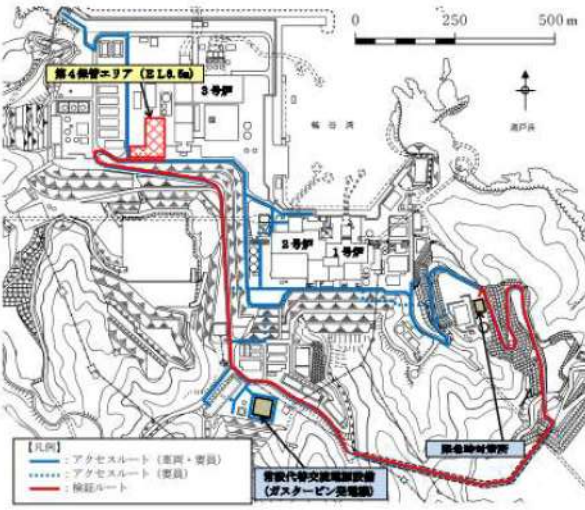
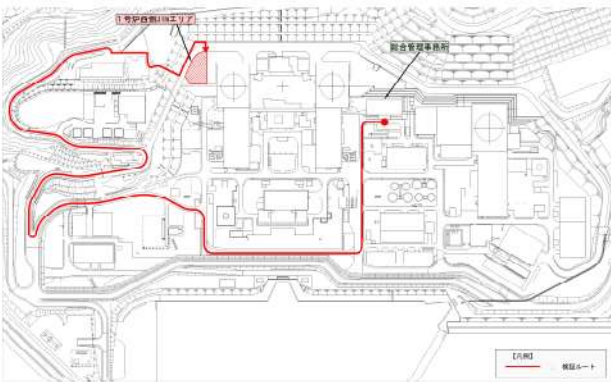
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足(2)</p> <p style="text-align: center;">作業に伴う屋外の移動手段について</p> <p>1. 作業に伴う屋外の移動手段について 重大事故等時の屋外の移動手段については、対応する要員の負担及び対応する作業の迅速化の観点から、車両が使用可能な場合には車両による移動を基本とする。 なお、地震による重大事故等時において、緊急時対策所から可搬型重大事故等対処設備の保管場所までのアクセスルートは必要な幅員を確保可能である。(別紙(19)参照)</p> <p>2. 徒歩移動が必要となる作業に関する作業員の負担 アクセスルートが確保できず車両による移動が困難な場合は、重機を操作する要員が保管場所まで徒歩で移動する必要がある。 この場合、炉心損傷の徴候等に応じて放射線防護具を着用する(炉心損傷の徴候等に応じて指示者が適切な放射線防護具類を判断し、要員に着用を指示する。)が、移動後の作業は重機での操作となること、重機にはエアコンが装備されていることから、酷暑期であっても作業負担は軽減される。 また、アクセスルートが確保されてからは車両で移動できることから、徒歩による移動はないものと考えている。</p> <p>3. 徒歩移動時間の検証 通常状態の道路における徒歩移動時間が時速4kmであることの妥当性について、保守的に放射線防護具を着用した状況(全面マスク等を着用)での移動時間を検証した。</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(4)</p> <p style="text-align: center;">作業に伴う屋外の移動手段について</p> <p>1. 作業に伴う屋外の移動手段について 重大事故等時の屋外の移動手段については、対応する要員の負担及び対応する作業の迅速化の観点から、車両が使用可能な場合には車両による移動を基本とする。 なお、地震による重大事故等時において、屋外のアクセスルートは必要な幅員を確保可能である。(別紙(25)参照)</p> <p>2. 徒歩移動が必要となる作業に関する作業員の負担 アクセスルートが確保できず車両による移動が困難な場合は、重機を操作する要員が保管場所まで徒歩で移動する必要がある。 この場合、炉心損傷の徴候等に応じて放射線防護具を着用する(炉心損傷の徴候等に応じて指示者が適切な放射線防護具類を判断し、要員に着用を指示する。)が、移動後の作業は重機での操作となること、重機にはエアコンが装備されていることから、酷暑期であっても作業負担は軽減される。 また、アクセスルートが確保されてからは車両で移動できることから、徒歩による移動はないものと考えている。</p> <p>3. 徒歩移動時間の検証 通常状態の道路における徒歩移動時間が時速4kmであることの妥当性について、保守的に放射線防護具を着用した状況(全面マスク等を着用)での移動時間を検証した。 なお、検証は2022年7月24日に実施しており、検証ルートはその時点での構内ルートを使用した。</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】検証条件の相違 ・泊は検証時と再稼働時で道路状況(構内ルート)が異なる。</p>

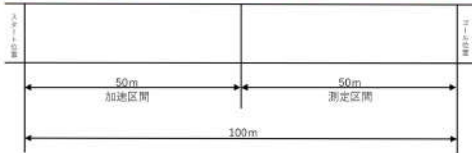

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																						
	 <p data-bbox="891 721 1144 743">第1図 徒歩移動検証ルート</p> <p data-bbox="712 807 1319 829">第1表 緊急時対策所から第4保管エリアまでの徒歩による移動時間</p> <table border="1" data-bbox="739 882 1281 1066"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ケース</th> <th rowspan="2">所要時間</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>天候等</th> <th>被験者年齢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>被験者A 全面マスク +化学防護服</td> <td>29分41秒</td> <td rowspan="4">曇り 気温：11.0℃ 湿度：67%</td> <td>56才</td> </tr> <tr> <td>被験者B +被水防護服 +化学防護手袋</td> <td>30分04秒</td> <td>26才</td> </tr> <tr> <td>被験者C +化学防護 長靴+ヘッド ライト</td> <td>31分42秒</td> <td>41才</td> </tr> <tr> <td>被験者D</td> <td>32分07秒</td> <td>39才</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="705 1099 1326 1238">緊急時対策所から第4保管エリア（約2,710m）まで、徒歩での移動時間は約30分～32分であった。移動時間は積雪や暑さ等の環境による影響も考えられるが、途中休憩を取る、又はスローペースで移動することにより想定する移動速度（時速4kmで想定すると41分）程度での移動は可能であることを確認した。</p>	ケース	所要時間	参考		天候等	被験者年齢	被験者A 全面マスク +化学防護服	29分41秒	曇り 気温：11.0℃ 湿度：67%	56才	被験者B +被水防護服 +化学防護手袋	30分04秒	26才	被験者C +化学防護 長靴+ヘッド ライト	31分42秒	41才	被験者D	32分07秒	39才	 <p data-bbox="1516 721 1778 743">第1図 徒歩移動検証ルート</p> <p data-bbox="1391 807 1908 858">第1表 総合管理事務所から1号炉西側31mエリアまでの徒歩による移動時間</p> <table border="1" data-bbox="1417 882 1870 1070"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ケース</th> <th rowspan="2">所要時間</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>天候等</th> <th>被験者年齢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>被験者A 全面マスク</td> <td>17分48秒</td> <td rowspan="4">曇り 気温：21.5℃ 湿度：81.7%</td> <td>28才</td> </tr> <tr> <td>被験者B +タイベック</td> <td>20分55秒</td> <td>56才</td> </tr> <tr> <td>被験者C +ヘルメット +ヘッドライト</td> <td>23分29秒</td> <td>43才</td> </tr> <tr> <td>被験者D +長靴</td> <td>23分33秒</td> <td>36才</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1339 1099 1960 1238">総合管理事務所から1号炉西側31mエリア（約1,850m）まで、徒歩での移動時間は約18分～24分であった。移動時間は積雪や暑さ等の環境による影響も考えられるが、途中休憩を取る、又はスローペースで移動することにより想定する移動速度（時速4kmで想定すると28分）程度での移動は可能であることを確認した。</p>	ケース	所要時間	参考		天候等	被験者年齢	被験者A 全面マスク	17分48秒	曇り 気温：21.5℃ 湿度：81.7%	28才	被験者B +タイベック	20分55秒	56才	被験者C +ヘルメット +ヘッドライト	23分29秒	43才	被験者D +長靴	23分33秒	36才	<p data-bbox="1977 721 2161 829">【島根】記載内容の相違・試験条件の相違とそれに伴う試験結果の相違。</p>
ケース	所要時間			参考																																					
		天候等	被験者年齢																																						
被験者A 全面マスク +化学防護服	29分41秒	曇り 気温：11.0℃ 湿度：67%	56才																																						
被験者B +被水防護服 +化学防護手袋	30分04秒		26才																																						
被験者C +化学防護 長靴+ヘッド ライト	31分42秒		41才																																						
被験者D	32分07秒		39才																																						
ケース	所要時間	参考																																							
		天候等	被験者年齢																																						
被験者A 全面マスク	17分48秒	曇り 気温：21.5℃ 湿度：81.7%	28才																																						
被験者B +タイベック	20分55秒		56才																																						
被験者C +ヘルメット +ヘッドライト	23分29秒		43才																																						
被験者D +長靴	23分33秒		36才																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(5)</p> <p style="text-align: center;">ホイールローダの走行速度の検証について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容 ホイールローダの走行速度の検証 2. 実施日 令和4年11月7日 3. 場所 港湾施設荷揚げ場 4. 検証概要 泊発電所に配備しているホイールローダにより、測定区間 50m の直線コースを1速、2速及び3速でそれぞれ3回走行し、走行速度を測定した。 なお、各ギアの最大速度を測定する目的から、試験コースを100m（加速区間 50m、測定区間 50m）に設定し、試験を実施した。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>検証実施状況</p> </div> <p style="text-align: center;">第1図 走行速度検証の概要</p> <p>《ホイールローダの仕様》 全長：713cm 全幅：337cm 高さ：337cm 車両総重量：約 10.2t バケット容量：1.6m³</p>	<p>【女川及び島根】 記載方針の相違 ・泊は、ホイールローダの走行速度の検証について補足資料を作成。</p>

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由																																										
		<p>5. 検証結果</p> <p>(1) 1速の速度検証</p> <table border="1" data-bbox="1384 225 1917 347"> <thead> <tr> <th></th> <th>走行距離</th> <th>走行時間</th> <th>走行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td rowspan="3">50m</td> <td>14.92 秒</td> <td>12.0km/h</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>14.93 秒</td> <td>12.0km/h</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>14.88 秒</td> <td>12.0km/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>1速での走行速度は、検証試験結果で最も遅い速度から12.0km/hであることを確認した。</p> <p>(2) 2速の速度検証</p> <table border="1" data-bbox="1384 464 1917 587"> <thead> <tr> <th></th> <th>走行距離</th> <th>走行時間</th> <th>走行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td rowspan="3">50m</td> <td>9.52 秒</td> <td>18.9km/h</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>9.46 秒</td> <td>19.0km/h</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>9.47 秒</td> <td>19.0km/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>2速での走行速度は、検証試験結果で最も遅い速度から18.9km/hであることを確認した。</p> <p>(3) 3速の速度検証</p> <table border="1" data-bbox="1384 703 1917 826"> <thead> <tr> <th></th> <th>走行距離</th> <th>走行時間</th> <th>走行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td rowspan="3">50m</td> <td>5.59 秒</td> <td>32.2km/h</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>5.48 秒</td> <td>32.8km/h</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>5.58 秒</td> <td>32.2km/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>3速での走行速度は、検証試験結果で最も遅い速度から32.2km/hであることを確認した。</p> <p>6. ホイールローダの走行速度の設定</p> <p>屋外のアクセスルートは、通行に支障のある段差（15cm以上）が発生しないよう、あらかじめ段差緩和対策を行う設計としているため、3速又は2速での移動が可能である。しかしながら、地震時の被害の不確実性を考慮して移動時間を保守的に算出するため、最も速度の遅い1速での移動を想定する。</p> <p>1速の走行速度は、上記検証結果の12.0km/hに余裕をみて10km/hとする。</p>		走行距離	走行時間	走行速度	1回目	50m	14.92 秒	12.0km/h	2回目	14.93 秒	12.0km/h	3回目	14.88 秒	12.0km/h		走行距離	走行時間	走行速度	1回目	50m	9.52 秒	18.9km/h	2回目	9.46 秒	19.0km/h	3回目	9.47 秒	19.0km/h		走行距離	走行時間	走行速度	1回目	50m	5.59 秒	32.2km/h	2回目	5.48 秒	32.8km/h	3回目	5.58 秒	32.2km/h	
	走行距離	走行時間	走行速度																																										
1回目	50m	14.92 秒	12.0km/h																																										
2回目		14.93 秒	12.0km/h																																										
3回目		14.88 秒	12.0km/h																																										
	走行距離	走行時間	走行速度																																										
1回目	50m	9.52 秒	18.9km/h																																										
2回目		9.46 秒	19.0km/h																																										
3回目		9.47 秒	19.0km/h																																										
	走行距離	走行時間	走行速度																																										
1回目	50m	5.59 秒	32.2km/h																																										
2回目		5.48 秒	32.8km/h																																										
3回目		5.58 秒	32.2km/h																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>補足資料(7)</p> <p>屋外での通信機器通話状況の確認について</p> <p>発電所構内における屋外での作業や移動中及び発電所構外における要員参集の途中において、通信機器が確実に機能することを以下の方法により確認した。</p> <p>方法：無線連絡設備（携帯型）での通話確認 アクセスルート上の車中又は屋外において、緊急時対策所建設予定地との通話が可能であることを確認する。確認方法は、ルート上で、緊急時対策所と通信を行う可能性のある場所（例：可搬型設備保管場所、可搬型設備接続口、可搬型モニタリングポスト設置場所等）を想定して、緊急時対策所と実際に通話を行い、感度及びSメータの値を確認した。</p> <p>結果：アクセスルートからの通信状況は良好であること（必要箇所での通話が可能であることを）確認した。</p>	<p>島根原子力発電所2号炉</p> <p>補足(5)</p> <p>屋外での通信機器通話状況の確認</p> <p>発電所構内における屋外での作業や移動中、及び発電所構外における要員参集の途中において、通信機器が確実に機能することを以下の方法により確認した。</p> <p>方法：無線通信設備（携帯型）での通話確認 屋外アクセスルート上の車中、又は、歩行において、緊急時対策所及び中央制御室との通話が可能であることを確認する。</p> <p>結果：アクセスルート、サブルートからの通信状況は良好であること（一部連絡が取りづらい場所も少しの移動で解消されること）を確認した。 なお、第二輪谷トンネルについては、通信連絡設備が使用できないことから、入城の際と退出の際に緊急時対策本部へ連絡する運用とする。</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>補足資料(6)</p> <p>屋外での通信機器通話状況の確認について</p> <p>発電所構内における屋外での作業や移動中及び発電所構外における要員参集の途中において、通信機器が確実に機能することを以下の方法により確認した。</p> <p>方法：衛星携帯電話での通話確認 屋外アクセスルート上の歩行において、緊急時対策所及び中央制御室との通話が可能であることを確認する。確認方法は、ルート上で、緊急時対策所及び中央制御室と通信を行う可能性のある場所（例：可搬型設備保管場所、可搬型設備接続口、可搬型モニタリングポスト設置場所）を想定して、緊急時対策所及び中央制御室と実際に通話を行い、通話が可能であることを確認した。</p> <p>結果：屋外アクセスルートからの通信状況は良好であること（必要箇所での通話が可能であることを）確認した。</p> <p>なお、トンネル部については、通信連絡設備が使用できないことが想定されることから、入城の際と退出の際に緊急時対策所又は中央制御室へ連絡する運用とする。</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・通話設備の相違 ・通話確認方法の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊はトンネル部での対応について記載</p>
<p>第1図 無線連絡設備（携帯型）における通信状況の確認結果</p>	<p>第1図 無線通信設備（携帯型）における通信状況の確認範囲</p>	<p>第1図 衛星携帯電話における通信状況の確認結果</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(8)</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について、有効性評価で提示したケースをもとに評価を行った。</p> <p>1. 前提条件 (1) 想定する重大事故等<有効性評価で説明> 必要となる対応操作、必要な要員及び資源を評価する際に想定する各号炉の状態を第1表に示す。 東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故及び共通要因による複数炉の重大事故等の発生の可能性を考慮し、女川原子力発電所1号、2号及び3号炉について、全交流動力電源喪失及び使用済燃料プールでのスロッシングの発生を想定する。 なお、1号及び3号炉の使用済燃料プールにおいて、全保有水喪失を想定した場合は自然対流による空気冷却での使用済燃料の冷却維持が可能と考えられるため[※]、必要な要員及び資源を検討する本事象では、使用済燃料プールへの注水実施が必要となるスロッシングの発生を想定した。</p> <p>また、不測の事態を想定し、1号及び3号炉のうち、いずれか1つの号炉において、事象発生直後に内部火災が発生していることを想定する。なお、水源評価に際しては、1号及び3号炉における消火活動による水の消費を考慮する。</p> <p>2号炉について、有効性評価の各シナリオのうち、必要な要員及び資源（水源、燃料及び電源）ごとに最も厳しいシナリオを想定する。</p> <p>2号炉への対応に必要な緊急時対策所機能及び重大事故等対策に関する作業、アクセスルートの移動による現場の線量率を評価する際において、1号及び3号炉の状態は放射線遮蔽の観点で厳しい使用済燃料プールの全保有水喪失を想定する。</p> <p>※ 技術的能力 添付資料 1.0.16「重大事故等時における停止号炉の影響について」参照</p>	<p style="text-align: right;">補足(6)</p> <p>1～3号炉同時被災時における屋外のアクセスルートへの影響</p> <p>1～3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について、有効性評価で提示したケースをもとに評価を行った。</p> <p>1. 前提条件 (1) 想定する重大事故等<有効性評価で説明> 必要となる対応操作、必要な要員及び資源を評価する際に想定する各号炉の状態を第1表に示す。 東京電力福島第一原子力発電所の事故及び共通要因による複数炉の重大事故等の発生の可能性を考慮し、島根原子力発電所1、2号炉について、全交流動力電源喪失及び燃料プールでのスロッシングの発生を想定する。 なお、1号炉の燃料プールにおいて、全保有水喪失を想定した場合は自然対流による空気冷却での使用済燃料の冷却維持が可能と考えられるため[※]、必要な要員及び資源を検討する本事象では、燃料プールへの注水実施が必要となるスロッシングの発生を想定した。</p> <p>また、不測の事態を想定し、1号炉において事象発生直後に内部火災が発生していることを想定する。なお、水源評価に際しては1号炉における消火活動による水の消費を考慮する。</p> <p>なお、島根原子力発電所3号炉については、初装荷燃料装荷前のため、燃料からの崩壊熱除去が不要であり、アクセスルート等への影響評価のみを実施する。</p> <p>2号炉について、有効性評価の各シナリオのうち、必要な要員及び資源（水源、燃料及び電源）ごとに最も厳しいシナリオを想定する。</p> <p>2号炉への対応に必要な緊急時対策所における活動、及び重大事故等対策に係る作業、アクセスルートの移動による現場の線量率を評価する際において、1号炉の状態は放射線遮蔽の観点で厳しい1号炉の燃料プールの全保有水喪失を想定する。</p> <p>※1：技術的能力 添付資料 1.0.16「重大事故等時における停止号炉の影響について」参照</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(7)</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時における屋外のアクセスルートへの影響について</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について、有効性評価で提示したケースを基に評価を行った。</p> <p>1. 前提条件 (1) 想定する重大事故等<有効性評価で説明> 必要となる対応操作、必要な要員及び資源を評価する際に想定する各号炉の状態を第1表に示す。 東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故及び共通要因による複数炉の重大事故等の発生の可能性を考慮し、泊発電所3号炉について、全交流動力電源喪失並びに使用済燃料ピットでの冷却機能喪失及び注水機能喪失の発生を想定する。 また、泊発電所1号及び2号炉については、全交流動力電源喪失及び使用済燃料ピットでのサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失が発生し、使用済燃料ピットの水位が低下する事故を想定する。 なお、1号及び2号炉の使用済燃料ピットにおいて、全保有水喪失を想定した場合、燃料被覆管のクリープラプチャ発生時間が約30日であり、相当な期間、燃料健全性が確保されることを確認したこと[※]から、使用済燃料ピットへの注水実施が必要となるサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失の発生を想定した^{※1}。 また、不測の事態を想定し、1号及び2号炉のうち、いずれか1つの号炉において、事象発生直後に内部火災が発生していることを想定する。なお、水源評価に際しては、1号及び2号炉における消火活動による水の消費を考慮する。</p> <p>3号炉について、有効性評価の各シナリオのうち、必要な要員及び資源（水源、燃料及び電源）ごとに最も厳しいシナリオを想定する。</p> <p>※1：技術的能力 添付資料 1.0.16「重大事故等時における停止号炉の影響について」参照</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】想定する重大事故等の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川及び島根は複数炉の同時被災時に必要な要員及び資源の十分性を評価する上で保守的となるスロッシングの発生を想定している。また、線量率を評価する上では放射線遮蔽の厳しい燃料プールの全保有水喪失を想定している。 ・泊3号炉は、有効性評価「全交流動力電源喪失」及び「券筒気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」と同様、全交流動力電源喪失による使用済燃料ピットでの冷却機能喪失及び注水機能喪失について想定している。 ・泊1号及び2号炉も、女川と同様に、複数炉の同時被災時に必要な要員及び資源の十分性を評価する上で保守的となり、かつスロッシングよりも事象発生初期に使用済燃料ピット水位が

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>(2) 必要となる対応操作, 必要な要員及び資源の整理 「(1) 想定する重大事故等」にて必要となる対応操作, 必要な要員, 7日間の対応に必要となる資源, 各作業の所要時間について, 第2表及び第1図のとおり整理する。また, 各号炉の必要な水量を第3表, 1号及び3号炉の注水及び給電に用いる設備の台数を第4表に示す。</p> <p>(3) 想定する高線量場発生 2号炉への対応に必要となる緊急時対策所における活動, 重大事故等対策に関する作業及びアクセスルートの移動による現場線量率の概略を第2図, 第3図に示す。</p>	<p>(2) 必要となる対応操作及び必要な要員及び資源の整理 「(1) 想定する重大事故等」にて必要となる対応操作, 必要な要員, 7日間の対応に必要となる資源, 各作業の所要時間について, 第2表及び第1図のとおり整理する。また, 各号炉の必要な水量を第3表, 1号炉の注水及び給電に用いる設備の台数を第4表に示す。</p> <p>(3) 想定する高線量場発生 2号炉への対応に必要となる緊急時対策所における活動, 及び重大事故等対策に係る作業, アクセスルートの移動による現場線量率の概略を第2図～第3図に示す。</p>	<p>(2) 必要となる対応操作, 必要な要員及び資源の整理 「(1) 想定する重大事故等」にて必要となる対応操作, 必要な要員, 7日間の対応に必要となる資源, 各作業の所要時間について, 第2表及び第1図のとおり整理する。また, 1号及び2号炉の注水及び給電に用いる設備の台数を第3表に示す。</p> <p>(3) 想定する高線量場発生 3号炉への対応に必要となる緊急時対策所における活動及び重大事故等対策に関する作業及びアクセスルートの移動による現場線量率の評価点の概略を第2図, 第3図に示す。</p>	<p>低下する事象である使用済燃料ピットでのサイフオン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失が発生し, 使用済燃料ピットの水位が低下する事象を想定している。また, 線量率等がスロッシングより厳しい全保有水喪失を評価対象とした。</p> <p>【女川及び島根】 設備の相違 ・女川及び島根は淡水を水源としているため, 必要な水量を表に整理している。 ・泊は海水を水源としているため, 表に必要な水量は整理していない。</p> <p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・女川及び島根は線量率の概略分布を図で示しているのに対し, 泊はアクセスルートの移動経路に被ばくの評価点を示しているため, 記載内容が異なる。</p>

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 1号, 2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について</p> <p>アクセスルートへの影響については, 1号及び3号炉の使用済燃料プールで全保有水が喪失した場合の現場線量率をもとに評価した。第2図, 第3図に, 線量率の概略を示す。</p> <p>(1) 緊急時対策所への参集及び保管場所への移動による影響</p> <p>緊急時対策所への参集については, 事務建屋又は事務本館からのアクセスルートにおける周辺斜面の崩壊, 敷地下斜面のすべりを考慮した徒歩の総移動時間は約20分であり, 各エリアでの移動時間及び第2図の現場線量率(1号炉からの線量率: 0.33mSv/h, 3号炉からの線量率: 4.5mSv/h)の関係より移動にかかる被ばく線量は約1.7mSvとなる。</p> <p>また, 緊急時対策所から第1～第4保管エリアへの移動等における被ばく線量の一例として, 緊急時対策所から第3保管エリア(保守性を考慮し最も1号及び3号炉寄りの場所)への移動を考える。周辺斜面の崩壊, 敷地下斜面のすべりを考慮した場合, 徒歩での総移動時間は約20分であり, 各エリアでの移動時間及び第2図の現場線量率(1号炉からの線量率: 1.2mSv/h, 3号炉からの線量率: 3.2mSv/h)の関係より移動にかかる被ばく線量は約1.5mSvとなる。</p> <p>なお, 線量率の高いエリアは限られることから, これらを極力避けることにより, 被ばく線量を抑えることができる。また, 徒歩での移動に比べ車両で移動した場合は総移動時間及び被ばく線量は小さくなる。</p>	<p>2. 1～3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について</p> <p>アクセスルートへの影響については, 1号炉の燃料プールで全保有水が喪失した場合の現場線量率をもとに評価した。第2図に, 線量率の概略を示す。</p> <p>(1) 緊急時対策所への参集及び保管場所への移動による影響</p> <p>緊急時対策所への参集については, 管理事務所又は宿泊場所からのアクセスルートにおける徒歩の総移動時間は約10分であり, 各エリアでの移動時間及び第2図の現場線量率の関係より移動にかかる被ばく線量は約1.7mSvとなる。</p> <p>また, 緊急時対策所から各保管エリアへの移動等における被ばく線量の一例として, 緊急時対策所から第4保管エリア(保守性を考慮し最も移動時間がかかるエリア)への移動を考える。徒歩での総移動時間は約40分であり, 各エリアでの移動時間及び第2図の現場線量率の関係より移動にかかる被ばく線量は約0.45mSvとなる。</p> <p>なお, 線量率の高いエリアは限られることから, これらを極力避けることにより, 被ばく線量を抑えることができる。また, 徒歩での移動に比べ車両で移動した場合は総移動時間及び被ばく線量はより小さくなる。</p>	<p>2. 1号, 2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について</p> <p>アクセスルートへの影響については, 1号及び2号炉の使用済燃料ピットで全保有水が喪失した場合の現場線量率を基に評価した。第2図, 第3図に評価点を示す。</p> <p>(1) 緊急時対策所への参集及び緊急時対策所近傍の屋外作業による影響</p> <p>緊急時対策所への参集については, 総合管理事務所からのアクセスルートにおける徒歩の移動時間は, 第2図に示す複数の緊急時対策所への参集ルートのうちAルートの場合約10分であり, 緊急時対策所への参集ルート上で, 1号及び2号炉の使用済燃料ピット内の使用済燃料からの線量影響が最大となる地点(2号炉使用済燃料ピット最近接点)における線量率(1号炉からの線量率: 約0.32mSv/h, 2号炉からの線量率: 約6.0mSv/h)より移動にかかる被ばく線量は約1.1mSvとなる。</p> <p>なお, 線量率の高いエリアは限られることから, これらを極力避けることにより, 被ばく線量を抑えることができる。また, 徒歩での移動に比べ車両で移動した場合は総移動時間及び被ばく線量はより小さくなる。</p> <p>また, 緊急時対策所近傍の屋外作業となる緊急時対策所用発電機への燃料補給作業については, 第2図の燃料補給作業地点における線量率(1号炉からの線量率: 約0.27mSv/h, 2号炉からの線量率: 約0.038mSv/h)より燃料補給作業にかかる被ばく線量は7日間の作業を考慮しても約0.12mSvとなる。</p>	<p>【島根】 記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】 記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川及び島根は線量率の概略を図で示している。泊は評価点を図で示している。 <p>【女川及び島根】 記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構内常駐場所から緊急時対策所への参集時の被ばく線量を算出しており, 移動時間, 線量及び被ばく線量評価の相違。 <p>【女川及び島根】 記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川及び島根は, 被ばく線量の一例として, 緊急時対策所から保管場所への被ばく線量評価を記載している。泊は, 緊急時対策所近傍での屋外作業の被ばく線量評価を記載している。

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>よって、高線量場の発生を含め、1号及び3号炉に重大事故等が発生した場合であっても、2号炉の重大事故等への対応作業のためのアクセスは可能であり、重大事故等時における活動が可能である。</p> <p>また、固体廃棄物貯蔵所に保管されている低レベル放射性廃棄物からの放射線についてはアクセスルートに対して十分な離隔距離が確保されていること、遮蔽能力を有した建物内に保管されていることから影響はない。</p> <p>(2) 2号炉の重大事故等への対応作業への影響</p> <p>2号炉の重大事故等への対応作業のうち、比較的時間を要する操作として原子炉補機代替冷却系の準備操作（資機材配置及びホース敷設、起動及び系統水張り）が想定されるが、当該操作場所及びアクセスルートに対する線量率は、第3図に示すとおり3号炉近傍が最も高い箇所（約4.9mSv/h（1号炉からの線量率：0.33mSv/h、3号炉からの線量率：4.5mSv/h）となる。</p> <p>当該操作の想定時間は9時間であるが、線量率の高いエリアは限られ、この想定時間には当該操作場所への移動時間も含まれている。また、起動後には監視が必要となるが、当該監視における被ばく線量率は約2.3mSv/hであることから、常駐している要員にて被ばく線量を管理し交代しながら対応を継続していくことが可能である。</p> <p>さらに、事象発生12時間以降参集してくる要員による交代も可能であることから、緊急時被ばく線量を超えることはない。</p> <p>また、固体廃棄物貯蔵所に保管されている低レベル放射性廃棄物からの放射線についてはアクセスルートに対して十分な離隔距離が確保されていること、遮蔽能力を有した建物内に保管されていることから影響はない。</p>	<p>よって、高線量場の発生を含め、1号炉に重大事故等が発生した場合であっても、2号炉の重大事故等への対応作業のためのアクセスは可能であり、重大事故等時における活動が可能である。</p> <p>(2) 2号炉の重大事故等への対応作業への影響</p> <p>2号炉の重大事故等への対応作業のうち、比較的時間を要する操作として原子炉補機代替冷却系の準備操作（資機材配置及びホース敷設、起動及び系統水張り）を想定しているが、1号炉の燃料プールに近い2号炉での当該操作場所での線量率は、第2図に示す線量率を内挿すると約5mSv/hとなる。</p> <p>当該操作の想定操作時間は約7時間20分であること、及びこの想定操作時間には当該操作場所への移動時間も含まれていること、あるいは参集要員による操作要員の交代も可能であることから、重大事故等時における活動が可能である。</p>	<p>よって、高線量場の発生を含め、1号及び2号炉に重大事故等が発生した場合であっても、3号炉の重大事故等への対応作業のためのアクセスは可能であり、重大事故等時における活動が可能である。</p> <p>(2) 3号炉の重大事故等への対応作業への影響</p> <p>3号炉の重大事故等への対応作業のうち、作業員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる有効性評価「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」の燃料取替用水ビットへの補給（海水）、使用済燃料ビットへの注水確保（海水）及び原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）への影響について確認した。</p> <p>各評価点は第3図、当該作業の作業時間は、第4表のとおりであり、燃料取替用水ビットへの補給（海水）、使用済燃料ビットへの注水確保（海水）及び原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の作業それぞれについて、作業員の被ばく線量は、それぞれ約39mSv、約18mSv、約23mSvであるが、1号及び2号炉の使用済燃料ビットにおいて高線量場が発生した場合であっても、被ばく線量の増加分はそれぞれ約5mSv、約4mSv、約2mSvであるため作業性に影響はない。</p> <p>また、当該作業は、常駐している要員にて被ばく線量を管理し交代しながら対応を継続していくことが可能である。</p> <p>さらに、事象発生12時間以降参集してくる要員による交代も可能であることから、緊急時被ばく線量を超えることはない。</p> <p>よって、高線量場の発生を含め、1号及び2号炉に重大事故等が発生した場合であっても、3号炉の重大事故等への対応作業のためのアクセスは可能であり、重大事故等時における活動が可能である。</p>	<p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】 記載内容の相違</p> <p>【女川及び島根】 記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被ばく線量を考慮した操作にて評価していることに相違はない。 ・泊は作業時間を示した表を整理している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートの幅転性について</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートの幅転性について、徒歩での移動によるアクセスルートの幅転は考えづらいことから車両移動時の幅転性について考慮する。</p> <p>地震による被害想定一覧を第4図に示す。</p> <p>(1) 可搬型設備の移動の特徴</p> <p>女川原子力発電所の保管場所は、第1～第4保管エリアの2箇所に重大事故等の対応に使用する可搬型設備が設置されている。大型可搬型設備は保管エリアから設置場所に移動する際の往路のみとなるが、タンクローリやホース延長回収車等は、保管エリア等を往復とすることが可搬型設備の移動における特徴である。</p> <p>(2) 検討内容</p> <p>保管場所からの可搬型設備の移動において、第1～第4保管エリアから2号炉の使用場所までのアクセスルートのうち、</p> <p>①建物の損壊等の影響により仮復旧する範囲 ②段差の発生の影響により仮復旧する範囲</p> <p>となる箇所を第5図に示す。</p> <p>第1～第4保管エリアから2号炉に向かうアクセスルートで仮復旧を行う道路部分が片側通行となるが、大型可搬型設備は設置場所に移動する際の往路のみとなるため、車両の通行性に影響はない。</p> <p>なお、タンクローリやホース延長回収車等についても、発電所対策本部が各車両と無線連絡設備（携帯型）等により相互連絡することにより、車両の離合による時間は問題ないとする。</p> <p>なお、1号及び3号炉への対処として、使用済燃料プールへの代替注水車による注水（第1図）及びタンクローリによる給油が考えられるが、これらについても、可搬型設備の移動はタンクローリを除き保管場所から当該号炉への1方向となること、また、注水が必要になるタイミングまで十分な時間的余裕があること（第3表）から、アクセスルートの幅転の要因とはならず、対応作業への影響はないと考える。</p>	<p>3. 1～3号炉同時被災時におけるアクセスルートの幅転性について</p> <p>1～3号炉同時被災時におけるアクセスルートの幅転性について、徒歩での移動によるアクセスルートの幅転は考えづらいことから車両移動時の幅転性について考慮する。</p> <p>地震による被害想定一覧を第3図に示す。</p> <p>(1) 可搬型設備の移動の特徴</p> <p>島根原子力発電所の保管場所は、第1、2、3及び4保管エリアの4箇所に可搬型設備が設置されている。このため、可搬型設備はタンクローリを除き、保管場所から設置場所に移動する際の往路のみとなるため、車両の流れは基本的には1方向になることが可搬型設備の移動における特徴である。（第3図）</p> <p>(2) 検討内容</p> <p>保管場所からの可搬型設備の移動において、第1、2、3及び4保管エリアから2号炉の使用場所までのアクセスルートのうち、仮復旧の必要はないが、車両が交互通行となるアクセスルート（幅員7m未満）となる箇所を第4図に示す。</p> <p>第1、4保管エリアから2号炉に向かうアクセスルート及び第2、3保管エリアから作業場所へ向かうアクセスルートの一部で片側通行となるが、タンクローリを除き、可搬型設備は設置場所に移動する際の往路のみとなるため、車両の通行性に影響はない。</p> <p>なお、1号炉への対処として、燃料プールへの大量送水車による注水（第1図）及びタンクローリによる給油が考えられるが、これらについても、可搬型設備の移動はタンクローリを除き保管場所から当該号炉への1方向となること、また、注水が必要になるタイミングまで十分な時間的余裕があること（第3表）から、アクセスルートの幅転の要因とはならず、対応作業への影響はないと考える。</p> <p>また、アクセスルートのうち道幅が狭い箇所（第4図）を各車両が通行する場合は、無線通信設備（携帯型）を使用し相互連絡することにより、交互通行が可能であることから、車両の通行性に影響はない。</p>	<p>3. 1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートの幅転性について</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートの幅転性について、徒歩での移動によるアクセスルートの幅転は考えづらいことから車両移動時の幅転性について考慮する。</p> <p>地震による被害想定一覧を第4図に示す。</p> <p>(1) 可搬型設備の移動の特徴</p> <p>泊発電所の保管場所は、51m倉庫・車庫エリア、1号炉西側31mエリア、1、2号炉北側31mエリア、2号炉東側31mエリア(a)及び2号炉東側31mエリア(b)の5箇所に重大事故等の対応に使用する可搬型設備が設置されている。大型可搬型設備は保管エリアから設置場所に移動する際の往路のみとなるが、可搬型タンクローリ及びホース延長・回収車（送水車用）は、保管エリア等を往復とすることが可搬型設備の移動における特徴である。</p> <p>(2) 検討内容</p> <p>保管場所からの可搬型設備の移動において、51m倉庫・車庫エリア、1号炉西側31mエリア、1、2号炉北側31mエリア、2号炉東側31mエリア(a)及び2号炉東側31mエリア(b)から3号炉の使用場所までのアクセスルートのうち、仮復旧の必要はないが、車両が交互通行となるアクセスルート（幅員6m未満）となる箇所を第5図に示す。</p> <p>51m倉庫・車庫エリアから3号炉に向かうアクセスルートの一部で片側通行となるが、可搬型タンクローリ及びホース延長・回収車（送水車用）を除き、可搬型設備は設置場所に移動する際の往路のみとなるため、車両の通行性に影響はない。</p> <p>なお、可搬型タンクローリ及びホース延長・回収車（送水車用）についても、発電所対策本部が各車両と衛星携帯電話、電力保安通信用電話設備等により相互連絡することにより、車両の離合による時間は問題ないとする。</p> <p>なお、1号及び2号炉への対処として、使用済燃料ピットへの可搬型大型送水ポンプ車によるスプレイ（第1図）及び可搬型タンクローリによる給油が考えられるが、これらについても、可搬型設備の移動は可搬型タンクローリを除き保管場所から当該号炉への1方向となること、また、1.(1)で示すとおり、使用済燃料ピットの冷却水が全量喪失した場合において、燃料被覆管のクリープラプチャ発生時間が約30日であり、十分な時間的余裕があることから、アクセスルートの幅転の要因とはならず、対応作業への影響はないと考える。</p>	<p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【島根】 記載内容の相違 ・泊は往復する可搬型設備があるため記載。</p> <p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・プラントの相違による片側通行となる範囲又は車両が交互通行となるアクセスルートの幅員の相違。</p> <p>【女川及び島根】 設計方針の相違 ・1.0.2-補足7-1の想定する重大事故等の相違と同じ相違理由。</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	<p>4. 評価結果</p> <p>上記 2～3. の評価及び対策により、1～3号炉が同時に発災しても、2号炉重大事故等の対応については影響を与えないことを確認した。</p>	<p>4. 評価結果</p> <p>上記 2～3. の評価及び対策により、1号、2号及び3号炉が同時に被災しても、3号炉重大事故等の対応については影響を与えないことを確認した。</p>	<p>【女川】</p> <p>記載内容の相違</p> <p>・泊は評価結果を記載。</p>

1.0 重大事故等対策における共通事項

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉

項目	3号炉	1号及び3号炉
要員	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 使用済燃料プールでのスロロッシング発生 「想定事故2」※1 「高圧・低圧注水機能喪失」 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失※2 使用済燃料プールでのスロロッシング発生※3 内部火災※4
水源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 使用済燃料プールでのスロロッシング発生 「想定事故2」※1 「高圧・低圧注水機能喪失」 	
燃料	<ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失※2 使用済燃料プールでのスロロッシング発生 「想定事故2」※1 「高圧溶融物放出/格納容器剪断気直加熱」 	
電源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 使用済燃料プールでのスロロッシング発生 「想定事故2」※1 「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）（代替補償冷却系を使用する場合）」 	

※1 サイフォン現象による溢水量は、スロロッシングによる溢水量に包絡されるため、使用済燃料プールからの漏えいはスロロッシングによる漏えいを想定する。

※2 燃料については、消費量の観点から非常用ディーゼル発電機及び向圧炉心スプレイス系ディーゼル発電機の運転を想定する。

※3 使用済燃料プールへの注水が必要となるスロロッシングの発生を想定する。

※4 2号炉は火災防護措置が強化されることから、1号及び3号炉での内部火災の発生を想定する。また、1号及び3号炉で着数の内部火災を想定することが考えられるが、時間差で発生することを想定し、全交流動力電源喪失及び使用済燃料プールにおけるスロロッシング発生と同時に発生する内部火災として1つの号炉とする。ただし、消火活動に必要な水源は、1号及び3号炉分の消費を想定する。

島根原子力発電所2号炉

第1表 想定する各号炉の状態

項目	2号炉	1号炉
要員	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 燃料プールでのスロロッシング発生 「3.1.3 雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）残留熱代替除蒸系を使用しない場合」 「4.2 想定事故2」※1 	
水源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 燃料プールでのスロロッシング発生 「2.1 高圧・低圧注水機能喪失」, 「2.4.2 崩壊熱除去機能喪失（残留熱除去系が故障した場合）」 「4.2 想定事故2」※1 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失※ 燃料プールでのスロロッシング発生 内部火災※
燃料	<ul style="list-style-type: none"> 燃料プールでのスロロッシング発生 「2.1 高圧・低圧注水機能喪失」, 「2.4.2 崩壊熱除去機能喪失（残留熱除去系が故障した場合）」, 「2.6 LCCA時注水機能喪失」 「4.2 想定事故2」※1 	
電源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 燃料プールでのスロロッシング発生 「2.3.1 全交流動力電源喪失（長用TDB）」 「4.2 想定事故2」※1 	

※1：サイフォン現象による漏えいは、サイフォンプレイグ配管により停止される。
 ※2：燃料については、消費量の観点から非常用ディーゼル発電機及び向圧炉心スプレイス系ディーゼル発電機の運転を想定する。
 ※3：2号炉は火災防護措置が強化されることから、1号及び3号炉での内部火災の発生を想定する。また、1号及び3号炉で着数の内部火災を想定することが考えられるが、時間差で発生することを想定し、全交流動力電源喪失及び使用済燃料プールにおけるスロロッシング発生と同時に発生する内部火災として1つの号炉とする。ただし、消火活動に必要な水源は、1号及び3号炉分の消費を想定する。

泊発電所3号炉

第1表 想定する各号炉の状態

項目	3号炉	1号及び2号炉
要員	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 「想定事故1」 「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」 全交流動力電源喪失 	
水源	<ul style="list-style-type: none"> 「想定事故1」 「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」 「全交流動力電源喪失（外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールLOCAが発生する事故）」 「外部電源喪失※」 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 使用済燃料プールでのサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失が発生し、使用済燃料ピットの水位が低下する事故を想定 内部火災※
燃料	<ul style="list-style-type: none"> 「想定事故1」 「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」 「全交流動力電源喪失（外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールLOCAが発生する事故）」 「外部電源喪失※」 	
電源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 「想定事故1」 「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」 「全交流動力電源喪失（外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールLOCAが発生する事故）」 	

※1：燃料については、消費量の観点からディーゼル発電機の運転を想定する。

※2：3号炉は火災防護措置が強化されることから、1号及び2号炉での内部火災の発生を想定する。また、1号及び2号炉で着数の内部火災を想定することが考えられるが、時間差で発生することを想定し、全交流動力電源喪失及び使用済燃料ピットでのサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失が発生し、使用済燃料ピットの水位が低下する事故と同時に発生する内部火災として1つの号炉とする。ただし、消火活動に必要な水源は1号及び2号炉分の消費を想定する。

相違理由

【女川及び島根】
 記載内容の相違
 ・各プラントによる想定するプラント状態の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉

項目	1号炉		2号炉		3号炉	
	炉	5号炉	炉	5号炉	炉	5号炉
炉心燃料	全燃料取り出し	全燃料取り出し	全燃料取り出し	全燃料取り出し	全燃料取り出し	全燃料取り出し
原子炉閉鎖状態	開放（プールゲート閉）	開放（プールゲート閉）	開放（プールゲート閉）	開放（プールゲート閉）	開放（プールゲート閉）	開放（プールゲート閉）
水位	オーバーフロー水位	オーバーフロー水位	オーバーフロー水位	オーバーフロー水位	オーバーフロー水位	オーバーフロー水位
想定するプラントの状態	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失
緊急閉鎖に喪失を想定する水量 [m ³]	212	212	212	212	212	212
65℃到達までの時間 [h]	316	316	316	316	316	316
100℃到達までの時間 [h]	750 (約31日)	750 (約31日)	750 (約31日)	750 (約31日)	750 (約31日)	750 (約31日)
必要な注水量① [m ³]	不測	不測	不測	不測	不測	不測
必要な注水量② [m ³]	212	212	212	212	212	212
必要な注水量③ [m ³]	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
事故発生から必要な避難水位まで水位が低下する時間 [h]	1964 (約81日)	1964 (約81日)	1964 (約81日)	1964 (約81日)	1964 (約81日)	1964 (約81日)
事故発生からTAF到達までの時間 [h]	4445 (約185日)	4445 (約185日)	4445 (約185日)	4445 (約185日)	4445 (約185日)	4445 (約185日)

※1 1号炉及び3号炉については、平成20年4月1日時点の設備構成より評価。2号炉については、燃料収容庫等の増設に伴って2号炉の設備構成が変更されたことによる影響を考慮し評価。
 ※2 1号炉及び3号炉は原子力発電所内の貯蔵タンクに貯蔵された燃料を必要に応じて取り出す。2号炉は原子力発電所内の貯蔵タンクに貯蔵された燃料を必要に応じて取り出す。2号炉は原子力発電所内の貯蔵タンクに貯蔵された燃料を必要に応じて取り出す。
 ※3 「必要な注水量①」：蒸発による水位低下防止に必要な注水量。「必要な注水量②」：通常水位までの回復及びその後の回復に必要な注水量。「必要な注水量③」：通常水位までの回復及びその後の回復に必要な注水量。
 ※4 2号炉の燃料プールの必要な注水量は、燃料収容庫より約 0.1m 以上の水位となるため、通常水位からの貯蔵水位低下量は約 1.3m とする。必要な燃料の目安とした注水量は 10m³/h は、原子炉建屋最上層での滞留時間から決定している。原子炉建屋最上層での滞留時間及び重大事故等対策の動作時間は 3.5 時間（保管庫等所と原子炉建屋最上層との滞留時間を含む）以内であることを考慮すると、表は、量は概式でも 35m³ となるため、緊急作業中における貯蔵水位は 100m³ に対して余裕がある。なお、1号及び3号炉の使用済燃料プールの必要な注水量については、保守的に2号炉の貯蔵水位を評価している。2号炉の必要な注水量の評価は、使用済燃料プール及び貯蔵タンクに使用済燃料がすべて満たされた状態及び燃料貯蔵タンクに燃料がすべて満たされた状態を想定していることなどから、1号及び3号炉の貯蔵水位低下量は2号炉よりも大きくなると思われる。

島根原子力発電所 2号炉

第3表 1, 2号炉に必要な水量

項目	1号炉		2号炉	
	炉	燃料プール	炉	燃料プール
炉心燃料	全燃料取り出し	全燃料取り出し	全燃料取り出し	全燃料取り出し
原子炉開放状態	開放（プールゲート閉）	開放（プールゲート閉）	開放（プールゲート閉）	開放（プールゲート閉）
水位	NWL	NWL	NWL	NWL
想定するプラントの状態	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失	スロッシングによる漏えい+全交流動力電源喪失
スロッシング溢水量① [m ³]	180	180	180	180
65℃到達までの時間 [hr]	111	111	重要事故シナシケンズ (2.1 高圧・低圧注水機能喪失, 2.4.2 崩壊熱除去機能喪失 (残留熱除去系が故障した場合)) による	17.94
100℃到達までの時間 [hr]	266.4	266.4	重要事故シナシケンズ (2.1 高圧・低圧注水機能喪失, 2.4.2 崩壊熱除去機能喪失 (残留熱除去系が故障した場合)) による	43.07
必要な注水量①②③ [m ³]	—	—	重要事故シナシケンズ (2.1 高圧・低圧注水機能喪失, 2.4.2 崩壊熱除去機能喪失 (残留熱除去系が故障した場合)) による	394
事故発生からTAF到達までの時間 [hr]	1,579	1,579	重要事故シナシケンズ (2.1 高圧・低圧注水機能喪失, 2.4.2 崩壊熱除去機能喪失 (残留熱除去系が故障した場合)) による	306.03
通常水位（オーバーフロー水位）から必要な避難水位④までの水位差 [m]	5.6	5.6	重要事故シナシケンズ (2.1 高圧・低圧注水機能喪失, 2.4.2 崩壊熱除去機能喪失 (残留熱除去系が故障した場合)) による	2.6
必要な注水量②③ [m ³]	180	180	重要事故シナシケンズ (2.1 高圧・低圧注水機能喪失, 2.4.2 崩壊熱除去機能喪失 (残留熱除去系が故障した場合)) による	574

※1：停止措置中の1号炉は平成27年4月時点での設備構成により算出。2号炉はプラント停止50日後の設備構成により算出。
 ※2：1号炉の注水量は、2号炉の評価結果に基づきスロッシングによる注水量を算定。（1号炉の燃料プールは2号炉に比べて保有水量や容積が小さいため注水量は小さくなると思われる）
 ※3：「必要な注水量①」：蒸発による水位低下防止に必要な注水量。「必要な注水量②」：通常水位までの回復及びその後の回復に必要な注水量。「必要な注水量③」：通常水位までの回復及びその後の回復に必要な注水量。
 ※4：2号炉原子炉建物原子炉棟4階（燃料収容庫）での滞留時間は約10m³/h以下となる水位。④：避難水位の計算に用いた1号炉の燃料の滞留時間は保守的に設定（実際の滞留係数は79%に対して1.539倍を算定している前提で評価）

泊発電所 3号炉

相違理由

【女川及び島根】
 設備の相違
 ・女川及び島根は淡水を水源としているため、必要な水量を表に整理している。
 ・泊は海水を水源としているため、表に整理していない。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

第4表 1号及び3号炉の注水及び給電に用いる設備の台数

記載は設置台数であり、()内はその系統のみで注水するのに必要な台数

	1号炉	3号炉	共通	備考
注水設備	燃料プール補給水系	2 (1)	—	全交流動力電源喪失時は電源車による給電を実施することで使用可能
	復水補給水系	2 (1)	—	全交流動力電源喪失時は電源車による給電を実施することで使用可能
	ろ過水系	2 (1) *1	—	全交流動力電源喪失時は電源車による給電を実施することで使用可能
	代替注水系	1 (1)	1	
給電設備	1 (1)	2 (2)	1	

※1 ろ過水ポンプは2号炉と共用で3台設置されているが、1号炉用電源から給電される台数が2台、2号炉用電源から給電される台数が1台である。

※2 1号炉ろ過水系により、3号炉使用済燃料プールへ注水が可能である。

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

第4表 1号炉の注水及び給電に用いる設備の台数

	1号炉	共通	備考
注水設備	復水輸送系	—	全交流動力電源喪失時は高圧発電機車による給電を実施することで使用可能
	補給水系	—	全交流動力電源喪失時は高圧発電機車による給電を実施することで使用可能
	消火系	—	全交流動力電源喪失時は高圧発電機車による給電を実施することで使用可能
	大量送水車	1 (1)	十分な台数に対して十分な台数を保有(1)
給電設備	1 (1)	必要な台数に対して十分な台数を保有(1)	十分時間余裕があるため、1台を用いて、必要な箇所に順次給電を実施していくことが可能

記載は設置台数であり、()内はその系統のみで注水するのに必要な台数

泊発電所3号炉

相違理由

第3表 1号及び2号炉の注水及び給電に用いる設備の台数

	1号炉	2号炉	共通	備考
注水設備	燃料取扱用水ポンプ (水源：燃料取扱用排水タンク)	2 (1)	—	全交流動力電源喪失時は移動発電機車による給電を実施することで使用可能
	1次系補給水ポンプ (水源：1次系純水タンク)	2 (1)	—	全交流動力電源喪失時は移動発電機車による給電を実施することで使用可能
	補給水ポンプ (水源：2次系純水タンク)	—	—	全交流動力電源喪失時は移動発電機車による給電を実施することで使用可能
	可搬型大型送水ポンプ車 (水源：海)	1 (1)	1 (1)	3 (2) *1
給電設備	2 (1)	2 (1)	—	—

記載は設置台数であり、()内はその系統のみで注水するのに必要な台数

※1：補給水ポンプは1号炉と2号炉の共用で3台設置されているが、1号炉用電源から給電される台数が2台、2号炉用電源から給電される台数が1台である。

【女川及び島根】
 記載内容の相違
 ・各プラントによる注水及び給電に用いる設備の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
		<p>第4表 作業員の対応手順と所要時間（屋外作業）</p>	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・泊は3号炉の作業時間を示すため、表に整理している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉

作業	必要人数		備考
	必要人数	必要人数	
燃料搬入	1名	1名	
燃料搬出	1名	1名	
燃料貯蔵	1名	1名	
燃料検査	1名	1名	
燃料搬入	1名	1名	
燃料搬出	1名	1名	
燃料貯蔵	1名	1名	
燃料検査	1名	1名	
燃料搬入	1名	1名	
燃料搬出	1名	1名	
燃料貯蔵	1名	1名	
燃料検査	1名	1名	
燃料搬入	1名	1名	
燃料搬出	1名	1名	
燃料貯蔵	1名	1名	
燃料検査	1名	1名	

第1図 1号及び3号炉における各作業と所要時間

島根原子力発電所 2号炉

作業	必要人数		備考
	必要人数	必要人数	
燃料搬入	1名	1名	
燃料搬出	1名	1名	
燃料貯蔵	1名	1名	
燃料検査	1名	1名	
燃料搬入	1名	1名	
燃料搬出	1名	1名	
燃料貯蔵	1名	1名	
燃料検査	1名	1名	
燃料搬入	1名	1名	
燃料搬出	1名	1名	
燃料貯蔵	1名	1名	
燃料検査	1名	1名	

0 内の数字は他の作業終了後、移動して対応する人員数
 ※：当直長含む人数

なお、2号炉において原子炉運転中を想定した場合、原子炉側と燃料プール側との重大事故等対応の重畳も考えられるが、運転中に燃料プール貯蔵されている燃料の崩壊熱が低いことから（第3表参照）、原子炉側の事故対応が収束に向かっている状態での対応となり、緊急時対策要員や参集要員により対応可能である。またプラント状態の監視においても、原子炉側で期待している運転員が併せて燃料プール側を監視できるため、現在の要員での対応が可能である。

第1図 1号炉における各作業と所要時間

泊発電所 3号炉

炉別	実施箇所・必要人員数		備考
	実施箇所	必要人員数	
1号炉	燃料貯蔵	1名	
2号炉	燃料貯蔵	1名	
3号炉	燃料貯蔵	1名	
1号炉	燃料搬入	1名	
2号炉	燃料搬入	1名	
3号炉	燃料搬入	1名	
1号炉	燃料搬出	1名	
2号炉	燃料搬出	1名	
3号炉	燃料搬出	1名	
1号炉	燃料貯蔵	1名	
2号炉	燃料貯蔵	1名	
3号炉	燃料貯蔵	1名	
1号炉	燃料検査	1名	
2号炉	燃料検査	1名	
3号炉	燃料検査	1名	

第1図 1号及び2号炉における各作業と所要時間

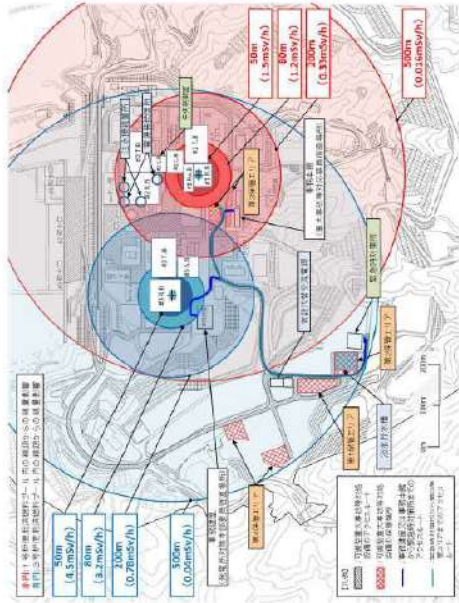
相違理由

【女川及び島根】
 記載内容の相違
 ・各プラントによる作業及び所要時間の相違。

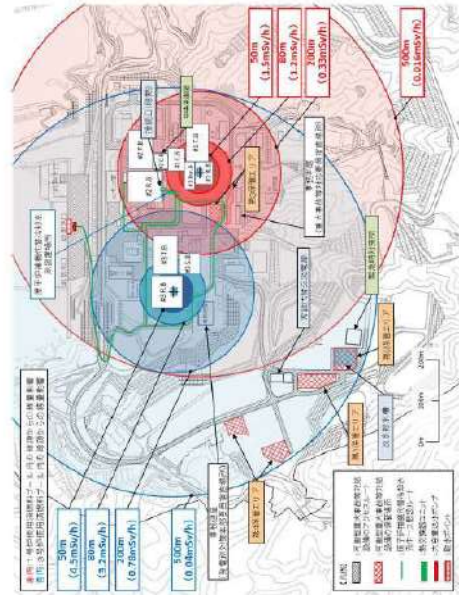
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

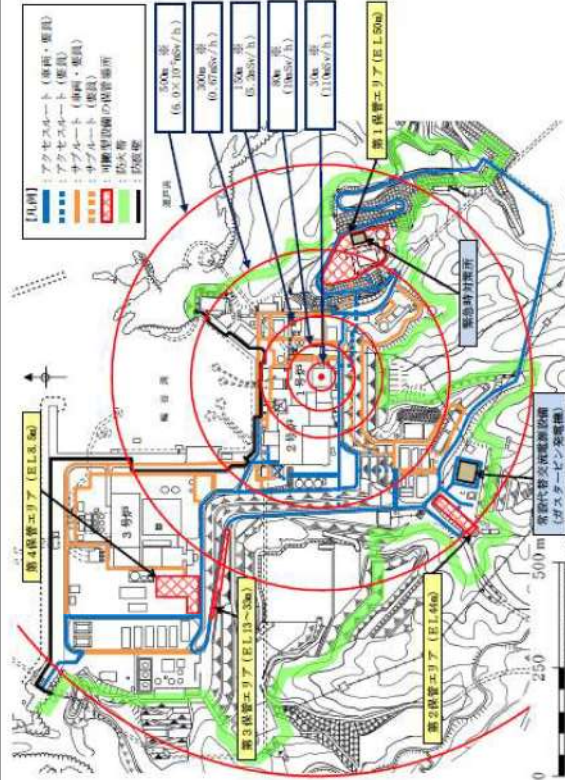


第2図 線量率の概略分布と要員のアクセスルート



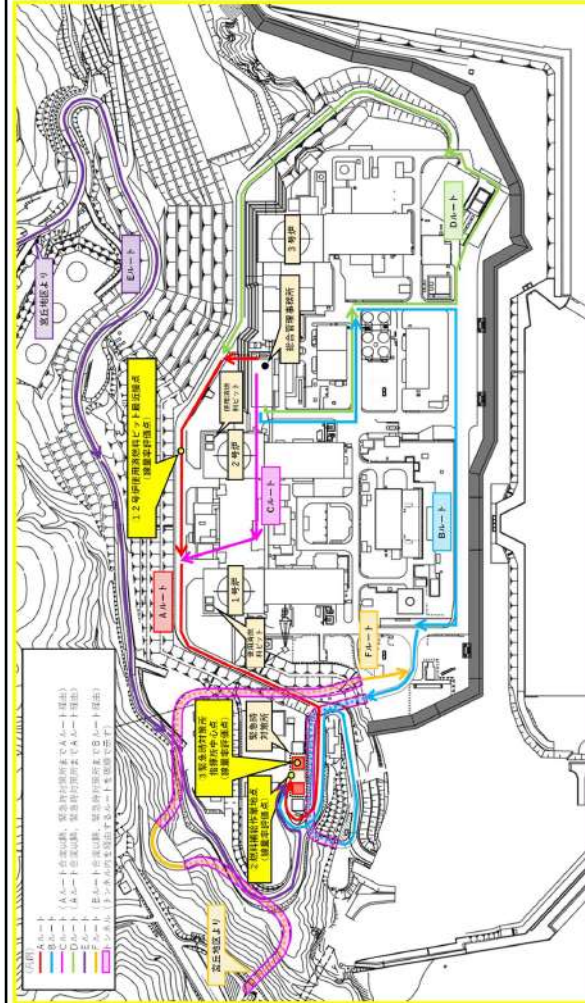
第3図 線量率の概略分布と原子炉補機代替冷却水系ホース敷設ルート

島根原子力発電所2号炉



第2図 線量率の概略分布（1号炉での高線量場発生）

泊発電所3号炉



第2図 緊急時対策所への参集ルート等を踏まえた評価点

相違理由

【女川及び島根】
 記載内容の相違
 ・女川及び島根は線量率の概略分布を示しており、泊は評価点を示している。
 ・上記理由として、泊発電所敷地内は標高差があるため、エリアを円で区分した場合、同一円内でも標高の高い地点と低い地点での評価値の差が大きくなり、標高の低い地点に対し過度に保守的な評価値を示すこととなってしまいうことから、ルート上の評価点で線量を算出している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第3図(1/3) 燃料取替用水ピットへの補給(海水)の作業動線と評価点</p>	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川及び島根は線量率の概略分布を示しており、泊は評価点を示している。 ・上記理由として、泊発電所敷地内は標高差があるため、エリアを円で区分した場合、同一円内でも標高の高い地点と低い地点での評価値の差が大きくなり、標高の低い地点に対し過度に保守的な評価値を示すこととなってしまふことから、ルート上の評価点で線量を算出している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由

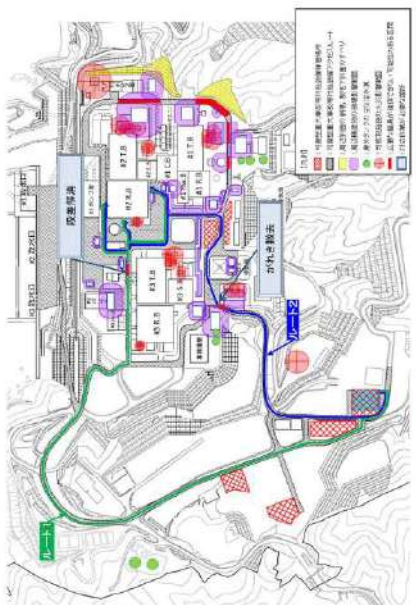
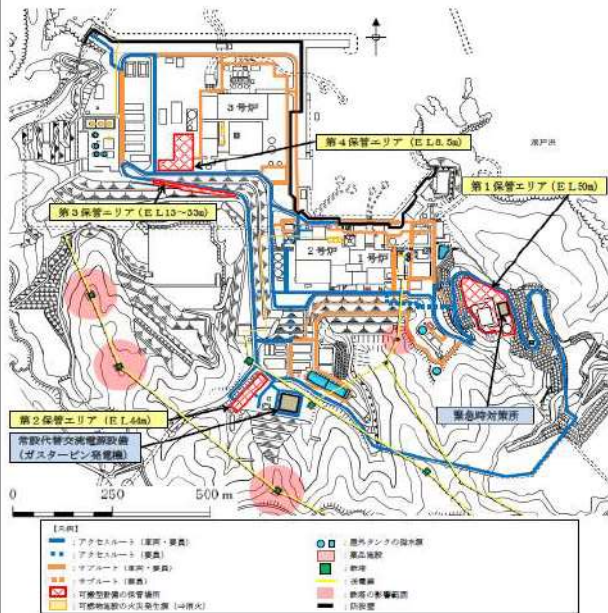
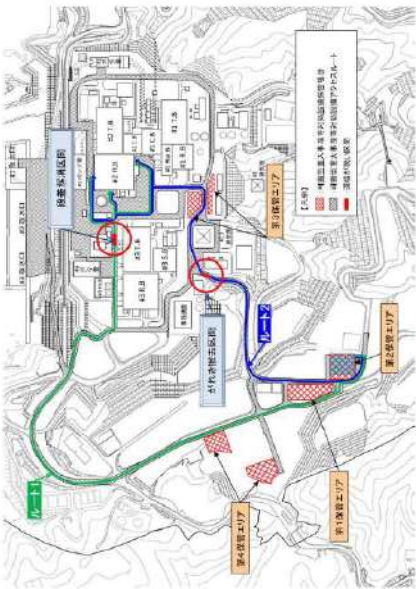
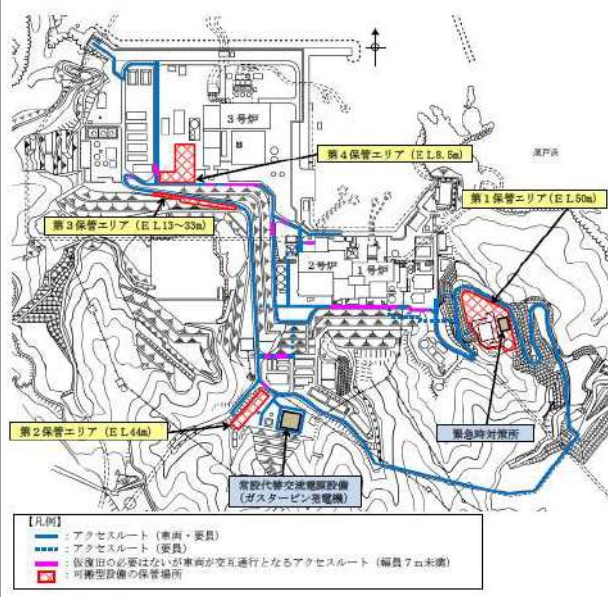
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第3図(3/3) 原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の作業動線と評価点</p>	相違理由

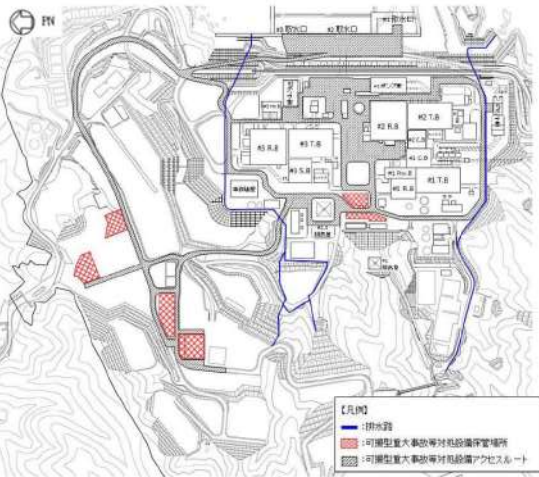
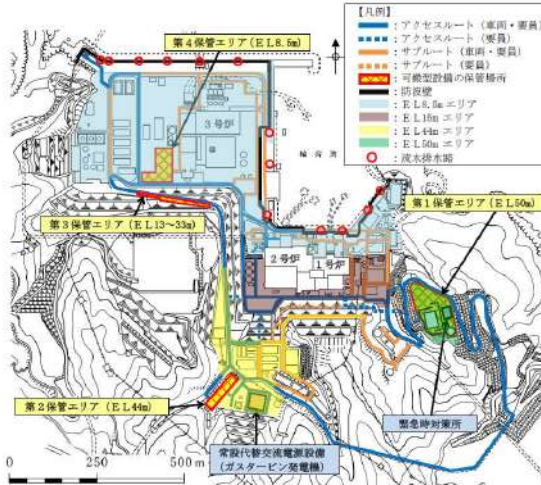

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第4図 屋外アクセスルートにおける地震後の被害想定（一覧）</p>	 <p>第3図 アクセスルートにおける地震後の被害想定（一覧）</p>	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> <p>第4図 アクセスルートにおける地震後の被害想定（一覧）</p>	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・各プラントによる地震時の被害想定 の相違。</p>
 <p>第5図 アクセスルートのうち道幅が狭い箇所</p>	 <p>第4図 アクセスルートのうち道幅が狭い箇所</p>	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> <p>第5図 アクセスルートのうち道幅が狭い箇所</p>	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・各プラントによるアクセスルートにおける道路幅が狭い箇所の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(9)</p> <p>保管場所及び屋外アクセスルートの点検状況について</p> <p>保管場所、屋外アクセスルート及びそれらの周辺斜面並びに構内排水路等について、以下に示すように定期的に土木専門技術者による点検を行い、健全性を確認する。また、台風、地震、大雨、強風、津波等が発生した場合には、土木専門技術者による臨時点検を行い、必要に応じて補修工事を実施する。</p> <p>屋外アクセスルートについては、復旧が可能な重機や砕石等の資機材をあらかじめ備えており（別紙(23)）、屋外アクセスルートの性能が維持できる運用を整えている。</p> <p>また、構内排水路については、設計基準としての降水量（91mm/h）に対し、降水が敷地内に滞留しないような設計としていることから、屋外アクセスルートのアクセス性に支障がないことを確認している（別紙(6)）。</p> <p>第1図に保管場所、屋外アクセスルート及び構内排水路の配置を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保管場所：外観目視点検を1回/年 ○屋外アクセスルート：外観目視点検を1回/年 ○保管場所及び屋外アクセスルート周辺斜面：外観目視点検を1回/年 ○構内排水路：外観目視点検を1回/年  <p>第1図 保管場所、屋外アクセスルート及び構内排水路図</p>	<p style="text-align: right;">別紙(21)</p> <p>保管場所及び屋外のアクセスルート等の点検状況</p> <p>保管場所、アクセスルート及びそれらの周辺斜面並びに排水路等について、以下に示すように定期的に土木専門技術者による点検を行い、健全性を確認する。また、台風、地震、大雨、強風、津波等が発生した場合には土木専門技術者による臨時点検を行い、必要に応じて補修工事を実施する。</p> <p>保管場所、アクセスルート及びそれらの周辺斜面については、応急復旧が可能な重機や砕石等の資機材をあらかじめ備えており（別紙(9)参照）、当該設備の性能が維持できる運用・管理体制を整えている。また、排水路については、十分な排水能力を有しており、敷地内に滞留するおそれはなく、アクセスルートのアクセス性に支障がないことを確認した。（別紙(26)参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保管場所：外観目視点検を1回/年 ○アクセスルート：外観目視点検を1回/年 ○保管場所及びアクセスルート周辺斜面：外観目視点検を1回/年 ○フラップゲート：動作確認、外観目視点検を1回/年 ○排水路：外観目視点検を1回/年 <p>第1図に保管場所及びアクセスルートの配置を示す。</p>  <p>第1図 保管場所及びアクセスルート</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(8)</p> <p>保管場所及び屋外のアクセスルート等の点検状況</p> <p>保管場所、アクセスルート及びそれらの周辺斜面並びに構内排水設備等について、以下に示すように定期的に土木専門技術者による点検を行い、健全性を確認する。また、台風、地震、大雨、強風、津波等が発生した場合には、土木専門技術者による臨時点検を行い、必要に応じて補修工事を実施する。</p> <p>保管場所、アクセスルート及びそれらの周辺斜面については、復旧が可能な重機や砕石等の資機材をあらかじめ備えており（別紙(22)）、当該設備の性能が維持できる運用・管理体制を整えている。</p> <p>また、構内排水設備については、設計基準としての降水量（57.5mm/h）に対し、降水が敷地内に滞留しないような設計としていることから、アクセスルートのアクセス性に支障がないことを確認している（別紙(6)）。</p> <p>第1図に保管場所、アクセスルート及び構内排水設備の配置を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保管場所：外観目視点検を1回/年 ○アクセスルート：外観目視点検を1回/年 ○保管場所及びアクセスルート周辺斜面：外観目視点検を1回/年 ○フラップゲート：動作確認、外観目視点検を1回/年 ○構内排水設備：外観目視点検を1回/年  <p>第1図 保管場所、アクセスルート及び構内排水設備図</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違・泊はフラップゲートの確認を実施</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p>

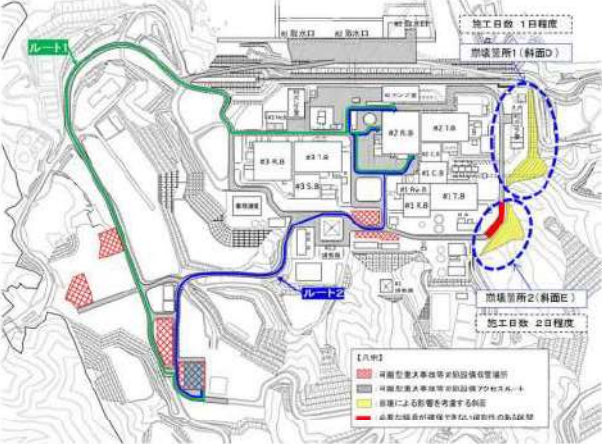
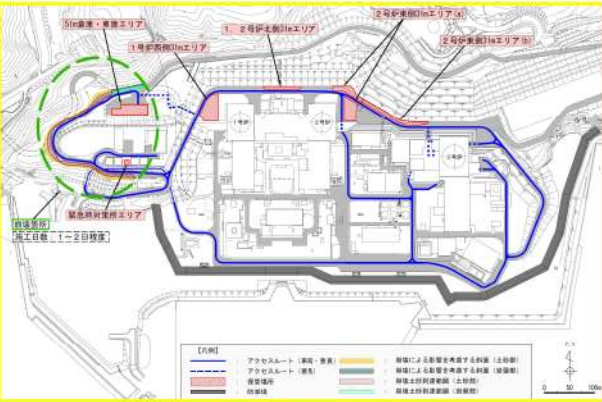
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(10)</p> <p style="text-align: center;">仮復旧後の対応について</p> <p>1. 仮復旧後の対応について 仮復旧後の余震や降雨による二次的被害を防止するため、仮復旧後速やかに、法面整形（緩勾配化、土羽うち）及び通行幅の拡幅作業に移る。さらに、運搬車両等の搬入が可能となったのち、本復旧（土砂掘削運搬、法面補強等）を実施する。</p> <p><仮復旧> 熱交換器ユニットが通行可能となる通行幅3.7mを確保 →道路脇に押土ブルドーザによる作業</p> <p><二次的被害防止> 余震や降雨による二次的被害の防止 →法面の整形（緩勾配化、土羽打ち） →通行幅の拡幅（6.0m程度） バックホウ・ホイールローダによる作業</p> <p><本復旧> 従前道路幅の確保、法面の安定化 →土砂の本格掘削及び運搬 →法面の整形、補強 バックホウ+運搬車両による作業</p> 	<p style="text-align: center;">該当箇所なし</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(9)</p> <p style="text-align: center;">土砂撤去後の対応について</p> <p>1. 土砂撤去後の対応について 土砂撤去後の余震や降雨による二次的被害を防止するため、土砂撤去後速やかに、法面整形（緩勾配化、土羽打ち）及び通行幅の拡幅作業に移る。さらに、運搬車両等の搬入が可能となったのち、本復旧（土砂掘削運搬、法面補強等）を実施する。</p> <p><土砂撤去（※）> 必要な道路幅4.0mを確保 →道路脇に押土ホイールローダによる作業 ※：屋外のアクセスルートでは想定されない作業であるが、万一、必要な道路幅が確保されない場合は、当該作業を実施する。</p> <p><二次的被害防止> 余震や降雨による二次的被害の防止 →法面の整形（緩勾配化、土羽打ち） →通行幅の拡幅（6.0m程度） バックホウ・ホイールローダによる作業</p> <p><本復旧> 従前道路幅の確保、法面の安定化 →土砂の本格掘削及び運搬 →法面の整形、補強 バックホウ+運搬車両による作業</p> 	<p>【女川】記載内容の相違 ・泊は仮復旧作業が想定されないことによる相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・必要な道路幅の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・復旧用重機の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊は仮復旧作業が想定されないことによる相違。</p>

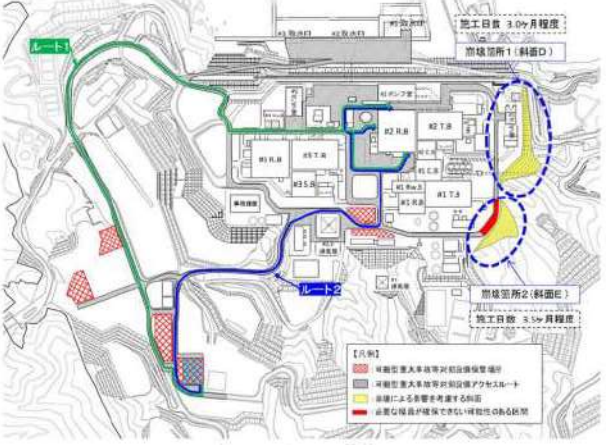
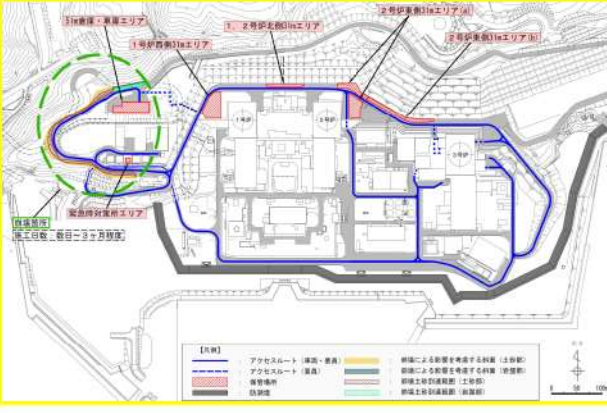
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 二次的被害防止対策について</p> <p>道路に流入した土砂を撤去し、道路幅員を3.7mから6.0m程度に拡幅後、法面勾配（緩勾配化、土羽打ち）を実施する。1箇所当たりの復旧に要する期間は1日～2日程度であり、復旧に当たっては、早期に復旧可能な箇所や主要なルートを優先的に復旧するなど、合理的な事故処理に努める。</p>  <p>第1図 二次的被害防止対策箇所</p>		<p>2. 二次的被害防止対策について</p> <p>道路に流入した土砂を撤去し、道路幅員を4.0mから6.0m程度に拡幅後、法面勾配（緩勾配化、土羽打ち）を実施する。復旧に要する期間は1日～2日程度である。</p>  <p>第1図 二次的被害防止対策箇所</p>	<p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な道路幅の相違。 ・泊は復旧箇所が1箇所のための、優先的に復旧するルートはない。 <p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧箇所の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 本復旧対策について</p> <p>道路に流入した土砂を撤去（掘削及び運搬）するなど、従来の道路幅員まで拡幅後、法面整形及び安定化対策を実施する。1箇所当たりの復旧に要する時間は数日～3.5ヶ月程度であり、復旧に当たっては、早期に復旧可能なルートを優先的に復旧するなど、合理的な事故処理に努める。</p>  <p>第2図 本復旧対策箇所</p>		<p>3. 本復旧対策について</p> <p>道路に流入した土砂を撤去（掘削及び運搬）する等、従来の道路幅員まで拡幅後、法面整形及び安定化対策を実施する。復旧に要する時間は数日～3ヶ月程度である。</p>  <p>第2図 本復旧対策箇所</p>	<p>【女川】記載表現の相違 【女川】記載内容の相違 ・復旧日数の相違。 ・泊は復旧箇所が1箇所のための、優先的に復旧するルートはない。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・復旧箇所の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>補足資料(11)</p> <p>発電所構外からの要員参集について</p> <p>重大事故等発生時には発電所対策本部を設置する。原子力防災組織の要員は第1図に示すとおりであり、要員の招集が可能であることを確認した。</p> <p>第1図 原子力防災組織の要員 (第2緊急体制)</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においても、重大事故等が発生した場合に備えて、必要な初動対応を行うために44名が発電所に常駐している。事故対応に必要な有効性評価上のすべての初動対応は発電所に常駐する44名で対応可能である。</p> <p>長期的な事故対応を行うために、事象発生後12時間を目途に発電所外の参集要員54名を招集・確保し、体制の拡大を図ることとしている。また、構外からの参集ルートは複数の陸路を確保しており、いずれのルートにおいても発電所に到着することができる。要員の呼出しは、自動呼出しシステム、通信連絡設備によって実施する。</p>	<p>島根原子力発電所2号炉</p> <p>別紙(22)</p> <p>発電所構外からの要員の参集について</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>補足資料(10)</p> <p>発電所構外からの要員参集について</p> <p>重大事故等発生時には発電所対策本部を設置する。原子力防災組織の要員は第1図に示すとおりであり、要員の招集が可能であることを確認した。</p> <p>第1図 原子力防災組織の要員 (参集要員招集後)</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においても、重大事故等が発生した場合に備えて、必要な初動対応を行うために47名が発電所に常駐している。事故対応に必要な有効性評価上の初動対応は発電所に常駐する47名で対応可能である。</p> <p>長期的な事故対応を行うために、事象発生後12時間を目途に発電所外の発電所災害対策要員51名を招集・確保し、体制の拡大を図ることとしている。また、構外からの参集ルートは複数の陸路を確保しており、いずれのルートにおいても発電所に到着することができる。要員の呼出しは、緊急時の呼び出しシステム、通信連絡設備によって実施する。</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、要員参集について補足資料に整理した。(女川と同様)</p> <p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、重大事故等時の体制に係る概要を記載した。(女川と同様)</p> <p>【女川】体制の相違 ・要員数、要員の名称に相違はあるが、運転員、可搬型 SA 設備を用いて電源復旧活動や給水活動等を行う要員、緊急時対策所にて対応を行う各機能班の要員、消火活動を行う要員等、重大事故等時の対応に必要な要員を確保する方針であることについては女川と同様。(詳細は技術的能力1.0で整理)</p> <p>【女川】名称の相違 【女川】参集要員の人数の相違 ・泊は、12時間以内に参集要員51名を確保し発電所対策本部を強化する。参集要員の人数に相違はあるものの、女川と同様に対策本部として必要な機能は確保できる。</p>
---	---	--	---

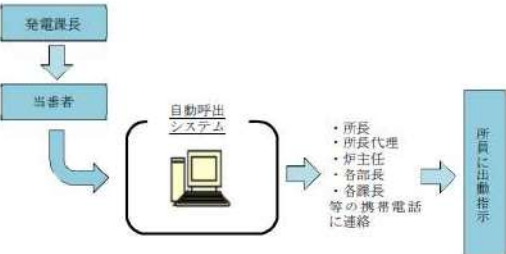

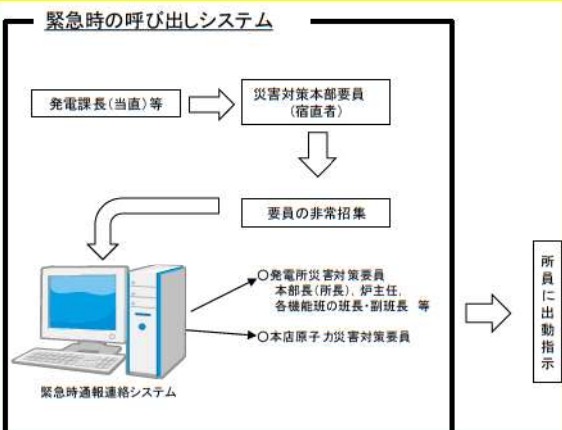
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1. 発電所構内に待機している要員の招集について</p> <p>発電所構内には夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において初動対応に必要な要員を待機させており、重大事故等への対応が可能である。夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、待機している原子力防災組織の要員を第2図に示す。</p> <p>（今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。）</p> <p>第2図 原子力防災組織の要員 （夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外））</p>		<p>1. 発電所構内に待機している要員の招集について</p> <p>発電所構内には夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において初動対応に必要な要員を待機させており、重大事故等への対応が可能である。夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、待機している原子力防災組織の要員を第2図に示す。</p> <p>※1：発電所対策本部の体制が機能するまでは、発電課長（当直）の指揮の下、運転員及び災害対策要員を主体とした初動体制を確保し、迅速な対応を図る。</p> <p>第2図 原子力防災組織の要員 （夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外））</p>	<p>【女川】体制の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要員数、要員の名称に相違はあるが、運転員、可搬型 SA 設備を用いて電源復旧活動や給水活動等を行う要員、緊急時対策所にて対応を行う本部要員、消火活動を行う要員等、重大事故等時の初動対応に必要な要員を確保する方針であることは女川と同様。 ・泊は、常駐の本部要員数が4名。（玄海、伊方と同様）（玄海は全体指揮者（副原子力防災管理者）1名、号炉ごと指揮者2名、通報連絡者1名）（伊方は、連絡責任者1名、連絡当番者2名、放管当番者1名）（詳細は技術的能力1.0で整理）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 発電所構外に滞在している要員の招集について</p> <p>(1) 要員の招集の流れ</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）に重大事故等が発生した場合に、発電所外にいる重大事故等対策要員を速やかに非常招集するため、「自動呼出システム」（第3図参照）、「通信連絡設備」等を活用し、要員の非常招集及び情報提供を行う。</p> <p>なお、故障等の要因で自動呼出システムが使用できない場合には、事務建屋の対策室又は緊急時対策所の通信連絡設備を用いて、あらかじめ定める連絡体制に従い、要員の非常招集を行う。</p>  <p>第3図 自動呼出システム</p>	<p>1. 要員の招集の流れ</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）に重大事故等が発生した場合に、発電所外にいる重大事故等に対処する要員を速やかに非常招集するため、「要員招集システム」、「通信連絡手段」等を活用し、要員の非常招集及び情報提供を行う。（第1図）</p>  <p>■ 要員招集システムによる対応要員の招集</p> <p>連絡責任者が要員招集システムを操作し、招集メールを発信する。</p> <p>※1 発電所沿岸で津波警報、大津波警報が発令された場合は気象庁の情報により要員招集システムからも招集メールが自動配信される。</p> <p>※2 松江市内で震度6弱以上の地震が発生した場合、自主的に歩集を開始するが、地震情報は当該システムからも自動配信される。</p> <p>第1図 要員招集システム</p>	<p>2. 発電所構外に滞在している要員の招集について</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）に重大事故等が発生した場合に、発電所外にいる発電所災害対策要員を速やかに非常招集するため、「緊急時の呼び出しシステム」（第3図参照）、「通信連絡手段」等を活用し、要員の非常招集及び情報提供を行う。</p> <p>なお、故障等の要因で緊急時の呼び出しシステムが使用できない場合には、緊急時対策所の通信連絡設備を用いて、あらかじめ定める連絡体制に従い、要員の非常招集を行う。</p>  <p>第3図 緊急時の呼び出しシステム</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】名称の相違（以降、相違理由を省略）</p> <p>【女川】記載表現の相違（島根と同様）</p> <p>【島根】記載方針の相違・泊は、呼び出しシステムの故障時の対応について記載しており、女川と同様である。</p> <p>【女川】記載表現の相違・通信連絡設備を使用する場所は異なるが、故障等の要因により、緊急時の呼び出しシステムが使用できない場合に、通信連絡設備を用いて要員の非常招集を行うことについては、女川と同様である。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>発電所周辺地域（女川町、石巻市又は東松島市）で震度6弱以上の地震が発生した場合には、非常招集連絡がなくても参集する。</p> <p>地震等により、家族、自宅等が被災した場合や自治体からの避難指示等が出された場合は、家族の身の安全を確保した上で参集する。</p> <p>集合場所は、基本的には各寮・アパートに滞在中の場合は、当該宿舎の駐車場又は集会所、外出先や石巻市内から参集する場合には高台に設置された浦宿寮（第4図）とする。発電所の状況が入手できる場合は、直接発電所へ参集可能とするが、道路状況や発電所における事故の進展状況等が確認できない場合又は徒歩による参集が必要になる場合には、浦宿寮を経由して発電所に向かうものとする。</p>	<p>松江市内で震度6弱以上の地震が発生した場合には、社内規程に基づき、非常招集連絡がなくても自主的に参集する。</p> <p>地震等により家族、自宅等が被災した場合や自治体からの避難指示等が出された場合は、家族の身の安全を確保した上で参集する。</p> <p>集合場所は、基本的には構外参集拠点（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）（第2図）とするが、発電所の状況が入手できる場合は、直接発電所へ参集可能とする。</p>	<p>発電所周辺地域（泊村、共和町、岩内町又は神恵内村）で震度5弱以上の地震が発生した場合や発電所前面海域における大津波警報が発表された場合には、社内規程に基づき、非常招集連絡がなくても自主的に参集する。</p> <p>地震等により家族、自宅等が被災した場合や自治体からの避難指示等が出された場合は、家族の身の安全を確保した上で参集する。</p> <p>集合場所は、基本的には共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮とし、参集ルートや移動手段の選定、放射線防護具の着用等の発電所までの参集に係る準備を行う。参集準備完了後、参集が必要な要員は、発電所構内に向け参集を開始する。なお、残る要員は、集合場所で待機し発電所対策本部の指示に従う。発電所の状況が入手できる場合は、直接発電所へ参集可能とするが、道路状況や発電所における事故の進展状況等が確認できない場合には、共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮を経由して発電所に向かうものとする。（第4図）</p>	<p>【女川及び島根】運用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、震度5弱以上、大津波警報発表で自動参集する。 <p>【女川】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、社内規程に基づき自主的に参集することを記載した。（島根と同様） <p>【女川】記載表現の相違（島根と同様）</p> <p>【女川及び島根】地理的要因の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、発電所から半径2.5km圏内の共和町宮丘地区（社宅・寮）に約7割の発電所員が居住していることから、共和町宮丘地区にあるエナメゾン共和寮を集合場所としている。 <p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、集合場所に集合した要員は発電所までの参集に係る準備を行うこと等について記載した。 <p>【島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、道路状況や発電所における事故の進展状況等が確認できない場合に集合場所を経由して発電所に向かうことを記載（女川と同様） <p>【女川】運用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、徒歩による参集が必要な場合でも、道路状況や発電所における事故の進展状況

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>集合場所に集合した要員は、発電所対策本部と非常招集に係る以下の確認、調整を行い、通信連絡設備、懐中電灯等（第1表）を持参し、発電所と連絡を取りながら集団で発電所に移動する。集合場所には通信連絡設備として衛星電話設備（携帯型）を配備する。</p> <p>①発電所の状況、招集人数、必要な装備（放射線防護服、マスク、線量計等） ②招集した要員の確認（人数、体調等） ③携行資機材（通信連絡設備、懐中電灯等） ④天候、災害情報（道路状況含む。）等 ⑤参集場所（対策室（事務建屋）、緊急時対策所）</p>	<p>構外参集拠点（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）に集合した要員は、緊急時対策本部と非常招集に係る以下の確認、調整を行い、通信連絡設備、懐中電灯等を持参し、発電所と連絡を取りながら集団で移動する。構外参集拠点（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）には通信連絡設備として衛星電話設備（携帯型）を各5台配備する。</p> <p>①発電所の状況（発電所への移動が可能なプラント状況かどうか（格納容器ベントの実施見通し）、発電所に行くための必要な装備（放射線防護具、マスク、線量計を含む。）） ②その他発電所で得られた情報（発電所への移動に関する道路状況等、移動する上で有益な情報） ③発電所へ移動する人の情報（人数、体調、移動手段（徒歩、車両）、連絡先）</p>	<p>集合場所に集合した要員は、発電所対策本部と非常招集に係る以下の確認、調整を行い、通信連絡設備、懐中電灯等（第1表）を持参し、発電所と連絡を取りながら集団で移動する。集合場所には通信連絡設備として衛星電話設備（携帯型）を2台配備する。</p> <p>①発電所の状況、発電所構内の本部要員等の要員数 ②入構時に携行すべきもの（通信連絡設備、懐中電灯、放射線防護具等） ③あらかじめ定められている参集ルートの中から、天候・災害情報及び発電所の状況を踏まえ、開放する門扉及び参集する場所も含めた、適切なルートの選定 ④集合した要員の状況（集合状況、各班の人数、体調等） ⑤入構手段（社有車、自家用車、徒歩等） ⑥入構手段、天候、災害情報等からの大まかな到着時間</p>	<p>が確認できる場合は、直接発電所へ向かうこととしている。（島根と同様）</p> <p>【島根】記載表現の相違 【女川及び島根】名称の相違（以降、相違理由を省略） 【女川】記載方針の相違 ・泊は、集合場所に配備する衛星電話設備（携帯型）の台数を記載した。 【島根】運用の相違 ・泊は、発電所対策本部との連絡を取り合うために必要な台数として2台確保している。</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違 ・集合場所で入手する情報、TSCとの調整事項等については同様。</p> <p>【女川】運用の相違 ・女川は、状況に応じて参集場所を変更する運用。原災法10条以降又は震度6弱以上の場合は緊急時対策所へ参集することとしている。 ・泊は、原子力防災準備体制又は原子力防災体制発令後は緊急時対策所へ参集することとしている。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>先に出発した参集要員は、参集ルートの道路状況を衛星電話設備（携帯型）にて発電所対策本部に報告する。発電所対策本部は、参集要員からの情報を基により良い参集ルートを選定し、衛星電話設備（携帯型）にて、後続の参集要員に連絡する。</p>  <p>第4図 女川原子力発電所とその周辺</p>	<p>発電用原子炉主任技術者は通信連絡手段により、必要の都度、発電所の連絡責任者と連絡をとり、発電用原子炉施設の運転に関し、保安上の指示を行う。</p>  <p>第2図 島根原子力発電所とその周辺</p>	<p>先に出発した参集要員は、参集ルートの道路状況を衛星電話設備（携帯型）にて発電所対策本部に報告する。発電所対策本部は、参集要員からの情報を基により良い参集ルートを選定し、衛星電話設備（固定型）又は衛星電話設備（携帯型）にて、後続の参集要員に連絡する。</p> <p>発電用原子炉主任技術者は通信連絡手段により、必要の都度、発電所の災害対策本部要員と連絡をとり、発電用原子炉施設の運転に関し、保安上の指示を行う。</p>  <p>第4図 泊発電所とその周辺</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、参集要員と発電所対策本部は、衛星電話設備（固定型）又は衛星電話設備（携帯型）を用いて参集ルートにおける道路状況等の情報収集を行うことを記載した。</p> <p>【女川】運用の相違 ・泊は、緊急時対策所に配備する固定型の衛星電話設備（固定型）も使用する。</p> <p>【島根】名称の相違</p>


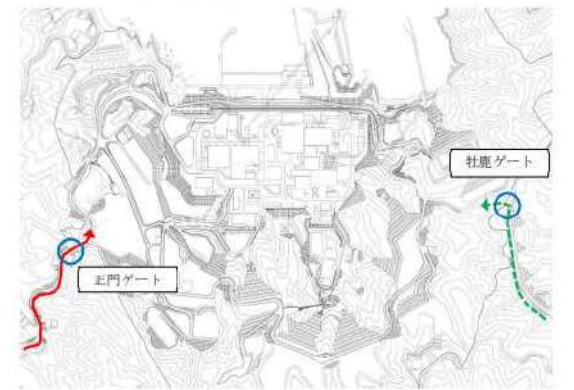
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																													
<p>第1表 集合場所に配備する装備品及び携行資機材等（相当品）一覧</p> <table border="1" data-bbox="71 167 698 303"> <thead> <tr> <th>装備品</th> <th colspan="2">携行資機材等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線防護服、マスク</td> <td>線量計</td> <td>熊鈴</td> </tr> <tr> <td>登山靴</td> <td>通信連絡設備</td> <td>リュックサック</td> </tr> <tr> <td>合羽</td> <td>懐中電灯、ヘッドライト</td> <td>救急キット</td> </tr> <tr> <td>手袋</td> <td>ステッキ</td> <td>ノーバンク自転車</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 重大事故等対策要員の所在について 女川原子力発電所の所員の大多数は女川町内の社有宿舍等や周辺市町に居住している（第2表）。</p> <p>第2表 居住地別の発電所員数（平成30年1月時点）</p> <table border="1" data-bbox="71 861 698 941"> <thead> <tr> <th>居住地</th> <th>女川町</th> <th>石巻市</th> <th>その他地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居住者数</td> <td>345人 (約77%)</td> <td>92人 (約20%)</td> <td>13人 (約3%)</td> </tr> </tbody> </table>	装備品	携行資機材等		放射線防護服、マスク	線量計	熊鈴	登山靴	通信連絡設備	リュックサック	合羽	懐中電灯、ヘッドライト	救急キット	手袋	ステッキ	ノーバンク自転車	居住地	女川町	石巻市	その他地域	居住者数	345人 (約77%)	92人 (約20%)	13人 (約3%)	<p>第1表 集合場所に配備する装備品及び携行資機材等（相当品）一覧</p> <p>2. 重大事故等に対処する要員の所在について 発電所員の社宅・寮がある島根原子力発電所から半径5km圏内に、発電所員（約540名）の約4割が居住している。更に、島根原子力発電所から半径5～10km圏内には、発電所員の約3割が居住しており、おおむね島根原子力発電所から半径10km圏内に発電所員の約7割が居住している。（第2図）（第1表）</p> <p>第1表 居住地別の発電所員数（令和3年3月時点）</p> <table border="1" data-bbox="698 861 1332 949"> <thead> <tr> <th>居住地</th> <th>5km圏内</th> <th>5～10km圏内</th> <th>10～20km圏内</th> <th>その他地域 (半径20km圏外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居住者数</td> <td>231名 (43%)</td> <td>155名 (29%)</td> <td>90名 (17%)</td> <td>60名 (11%)</td> </tr> </tbody> </table>	居住地	5km圏内	5～10km圏内	10～20km圏内	その他地域 (半径20km圏外)	居住者数	231名 (43%)	155名 (29%)	90名 (17%)	60名 (11%)	<p>第1表 集合場所に配備する装備品及び携行資機材等（相当品）一覧</p> <table border="1" data-bbox="1444 175 1848 383"> <tbody> <tr> <td>装備品</td> <td>放射線防護服、マスク、作業靴、 雨合羽、防寒着、手袋</td> </tr> <tr> <td>携行資機材等</td> <td>線量計、通信連絡設備、 懐中電灯、ヘッドライト、 スノーシュー、熊鈴、救急キット</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 発電所災害対策要員の所在について 泊発電所の発電所災害対策要員の大多数は共和町、泊村及び岩内町の発電所から半径12.5km圏内に居住している（第2表）。</p> <p>第2表 居住地別の発電所災害対策要員数（2021年12月時点）</p> <table border="1" data-bbox="1366 853 1926 997"> <thead> <tr> <th>居住地</th> <th>共和町宮丘地区※1 (泊発電所から半径2.5km圏内)</th> <th>共和町（宮丘地区を除く）、 岩内町、泊村滝ノ 淵地区※2 (泊発電所から半径12.5km圏内)</th> <th>その他地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居住者数</td> <td>355人 (約71%)</td> <td>141人 (約28%)</td> <td>3人 (約1%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：共和町宮丘地区とは、共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮（集合場所）、 柏木寮、桜木寮、みやおか寮及び社宅、並びに泊村はまなす寮 ※2：泊村滝ノ淵地区とは、滝ノ淵寮とその周辺地域</p>	装備品	放射線防護服、マスク、作業靴、 雨合羽、防寒着、手袋	携行資機材等	線量計、通信連絡設備、 懐中電灯、ヘッドライト、 スノーシュー、熊鈴、救急キット	居住地	共和町宮丘地区※1 (泊発電所から半径2.5km圏内)	共和町（宮丘地区を除く）、 岩内町、泊村滝ノ 淵地区※2 (泊発電所から半径12.5km圏内)	その他地域	居住者数	355人 (約71%)	141人 (約28%)	3人 (約1%)	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、参集時の集合場所に配備する装備品及び携行資機材等を記載。（女川と同様）</p> <p>【女川】運用の相違 ・泊は、積雪を考慮し、防寒着やスノーシューを配備している。女川とは配備する装備品が相違するが、放射線防護具、線量計、通信連絡設備、救急キット等、同等の装備品等を配備している。</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違 ・居住地別の要員数は異なるが、女川及び島根と同等の要員数を確保している。</p>
装備品	携行資機材等																																															
放射線防護服、マスク	線量計	熊鈴																																														
登山靴	通信連絡設備	リュックサック																																														
合羽	懐中電灯、ヘッドライト	救急キット																																														
手袋	ステッキ	ノーバンク自転車																																														
居住地	女川町	石巻市	その他地域																																													
居住者数	345人 (約77%)	92人 (約20%)	13人 (約3%)																																													
居住地	5km圏内	5～10km圏内	10～20km圏内	その他地域 (半径20km圏外)																																												
居住者数	231名 (43%)	155名 (29%)	90名 (17%)	60名 (11%)																																												
装備品	放射線防護服、マスク、作業靴、 雨合羽、防寒着、手袋																																															
携行資機材等	線量計、通信連絡設備、 懐中電灯、ヘッドライト、 スノーシュー、熊鈴、救急キット																																															
居住地	共和町宮丘地区※1 (泊発電所から半径2.5km圏内)	共和町（宮丘地区を除く）、 岩内町、泊村滝ノ 淵地区※2 (泊発電所から半径12.5km圏内)	その他地域																																													
居住者数	355人 (約71%)	141人 (約28%)	3人 (約1%)																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>(3) 発電所構外からの要員の参集ルート</p> <p>a. 概要</p> <p>女川町内からの要員参集ルートについては、第5図に示すとおりであり、ルート①「五部浦ルート（県道41号線）」、ルート②「コバルトラインルート（県道220号線）」及びルート③「表浜ルート（県道2号線）」の3ルートを基本とし、これらのルートに迂回路を組み合わせた複数の経路を確保している。</p> <p>さらに、発電所への入構についても、第6図のとおり通常時に使用している正門ゲートのほかに、発電所南側の牡鹿ゲートの使用も可能であることから、迂回路と組み合わせることで、ルートを重複させることなく、参集が可能である。</p> <p>集合場所（浦宿寮）から発電所までの徒歩による参集所要時間を第3表に示す。</p>  <table border="1" data-bbox="100 798 369 885"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>ルート</th> <th>表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>五部浦ルート</td> <td>青線</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>コバルトラインルート</td> <td>赤線</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>表浜ルート</td> <td>緑線</td> </tr> </tbody> </table> <p>※破線は迂回ルートを示す</p> <p>第5図 発電所へのアクセスルート</p>  <p>第6図 発電所構内への入城ルート</p>	No.	ルート	表示	①	五部浦ルート	青線	②	コバルトラインルート	赤線	③	表浜ルート	緑線	<p>3. 発電所構外からの要員の参集ルート</p> <p>(1) 概要</p> <p>発電所構外からの参集ルートについては、第3図に示すとおりであり、参集ルートの障害要因としては、比較的に平坦な土地であることから、土砂災害の影響は少なく、地震による橋の崩壊、津波による参集ルートの浸水が考えられる。</p> <p>地震による橋梁の崩落については、参集ルート上の橋梁が崩落等により通行ができなくなった場合でも、迂回ルートが複数存在することから、参集は可能である。また、木造建物の密集地域はなくアクセスに支障はない。</p> <p>なお、地震による参集ルート上の主要な橋梁への影響については、平成12年鳥取県西部地震においても、実際に徒歩による通行に支障はなかった。</p> <p>大規模な地震が発生し、発電所で重大事故等が発生した場合には、住民避難の交通渋滞が発生すると考えられるため、交通集中によるアクセス性への影響回避のため、参集ルートとしては可能な限り住民避難の渋滞を避けることとし、複数ある参集ルートから適切なルートを選定する。</p>	<p>4. 発電所構外からの要員の参集ルート</p> <p>(1) 概要</p> <p>発電所構外からの参集ルートについては、第5図に示すとおりであり、参集ルートの障害要因としては、比較的に平坦な土地であることから、土砂災害の影響は少なく、地震による橋の崩壊、津波による参集ルートの浸水が考えられる。</p> <p>地震による橋梁の崩落については、参集ルート上の橋梁が崩落等により通行ができなくなった場合でも、参集ルートが複数存在することから、参集は可能である。また、木造建物の密集地域はなくアクセスに支障はない。</p> <p>なお、地震による参集ルート上の主要な橋梁への影響については、平成5年北海道南西沖地震においても、徒歩による通行に支障はなかった。</p> <p>大規模な地震が発生し、発電所で重大事故等が発生した場合には、住民避難の交通渋滞が発生すると考えられるため、交通集中によるアクセス性への影響回避のため、参集ルートとしては可能な限り住民避難の渋滞を避けることとし、複数ある参集ルートから適切なルートを選定する。</p>	<p>【女川】地理的要因の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊発電所の周辺は比較的平坦な土地であり、島根と類似していることから、以降は、主に島根との相違について相違理由を記載する。 <p>【島根】運用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、参集ルート上の橋梁の崩落等により通行不可となった場合を想定して、複数の参集ルートを確認している。 <p>【島根】地理的要因の相違</p>
No.	ルート	表示													
①	五部浦ルート	青線													
②	コバルトラインルート	赤線													
③	表浜ルート	緑線													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第3表 徒歩による参集所要時間

	ルート①	ルート②	ルート③
移動距離	約18km	約17km	約29km
所要時間（往復、晴天）*	約3時間50分	約3時間40分	約6時間10分
歩行距離	—	3時間13分（約5.2km/h）	—
参集時間の目安	所要時間に、道路状況、往復距離、夜間・雨天等を考慮し、12時間を目安と設定		
震災時の実績	震災時に、地震・津波の影響によりがれきが散乱している道路状況において当社社員が参集した実績：約5.8kmを1時間（約90m/min）で歩行		

※：「不動産の表示に関する公正競争規約施行規則」における徒歩所要時間（90m/minで歩行）

島根原子力発電所2号炉



第3図 発電所構外からの参集ルート

本資料のうち、特記の内容は機密に係る事項のため公開できません。

津波浸水時については、アクセス性への影響を未然に回避するため、大津波警報発生時には**基準津波が来襲した際に**浸水が予想されるルート（第3図に示す、比較的海に近いルート）は使用しないこととし、これ以外の参集ルートを使用して参集することとする。

泊発電所3号炉



第5図 発電所構外からの参集ルート

津波浸水時については、アクセス性への影響を未然に回避するため、大津波警報発生時には浸水が予想されるルート（第6図に示す、比較的海に近いルート）は使用しないこととし、これ以外の参集ルートを使用して参集することとする。

相違理由

【女川】記載方針の相違
 ・泊は、徒歩による要員参集の検証結果を参考²⁾に示す。

【島根】運用の相違
 ・泊は、発電所周辺地域のハザードマップにおける津波浸水範囲を考慮して、迂回が可能となるよう複数の参集ルートを確認している。（女川と同様）
 ・女川は、女川町及び石巻市のハザードマップを用いて自然災害が参集ルートへ与える影響について検討している。（1.0.2-補足10-19頁参照）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>b. 津波による影響が考えられる場合の参集ルート</p> <p>重大事故等対策要員が女川町内から参集する場合、基本的に車両を使用するが、道路状況等により通行が困難な場合には徒歩による参集を行うこととしている。参集ルートの中には、一部低地が含まれており、この場合には津波の取束状況等を勘案して通行することとしている。さらに、低地の通行が不可能な場合にも、送電線の巡視ルート等を活用し、高台のみの通行により発電所（緊急時対策所）まで参集することが可能であることを確認している（第7図、第8図）。</p>  <p>第7図 高台のみを通行する場合の要員参集ルート（所外）</p>  <p>第8図 高台のみを通行する場合の要員参集ルート（所内）</p>	<p>(2) 津波による影響が考えられる場合の参集ルート</p> <p>松江市津波ハザードマップによると、松江市中心部から発電所までの参集ルートへの影響はほとんど見られない（川岸で数10cm程度）が、大津波警報発生時は、津波による影響を想定し、海側や左陀川の河口付近を避けたルートにより参集する。（第4図）</p>  <p>第4図 構外参集拠点からの参集ルート</p> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p>	<p>(2) 津波による影響が考えられる場合の参集ルート</p> <p>泊村、共和町及び岩内町ハザードマップによると、海側及び河口付近を経由した発電所までの参集ルートが津波浸水予測範囲となっている。大津波警報発生時は、津波による影響を想定し、海側や堀株川の河口付近を避けたルートにより参集する。（第6図）</p>  <p>第6図 発電所構外からの参集ルート（津波による影響が考えられる場合）</p>	<p>【島根】地理的要因の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、海側及び河口付近が津波浸水予測範囲となっていることから、大津波警報発生時は迂回することとしている。 <p>【島根】河川名称の相違</p> <p>【女川】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、集合場所までの移動ルートについては複数の迂回ルート（青線）を示す。集合場所から発電所までのルートのうち、津波の影響を受けない大和門扉ルートに係る説明は5.項にて整理している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 住民避難がなされている場合の参集について 全面緊急事態に該当する事象が発生し、住民避難が開始している場合、住民の避難方向と逆方向に要員が移動することが想定される。 発電所へ参集する要員は、原則、住民避難に影響のないよう行動し、自動車による参集ができないような場合は、自動車を避難に支障のない場所に停止した上で、徒歩等により参集する。</p> <p>d. 発電所構内への参集ルート 発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常の正門を通過するルートに加え、迂回ルートを確認している（第9図）。</p>	<p>(3) 住民避難が行われている場合の参集について 全面緊急事態に該当する事象が発生し、住民避難が開始している場合、住民の避難方向と逆方向に要員が移動することが想定される。 発電所へ参集する要員は、原則、住民避難に影響のないよう行動し、自動車による参集ができないような場合は、自動車を避難に支障のない場所に停止した上で、徒歩や自転車により参集する。</p> <p>4. 発電所構内への参集ルート 発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常の一矢入口及び本谷入口を通過するルートに加え迂回ルートを確認している。（第5図）</p> <p>発電所近傍にある 500kV、220kV 及び 66kV の送電鉄塔の倒壊による障害を想定し、鉄塔が倒壊しても影響を受けない参集ルートを設定する。</p> <p>発電所近傍にある 500kV、220kV 及び 66kV の送電鉄塔の倒壊による障害を想定し、鉄塔が倒壊した場合における通行の考え方を別紙補足1に示す。</p>	<p>(3) 住民避難が行われている場合の参集について 全面緊急事態に該当する事象が発生し、住民避難が開始している場合、住民の避難方向と逆方向に要員が移動することが想定される。 発電所へ参集する要員は、原則、住民避難に影響のないよう行動し、自動車による参集ができないような場合は、自動車を避難に支障のない場所に停止した上で、徒歩や自転車により参集する。</p> <p>5. 発電所構内への参集ルート 発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常時に使用する茶津門扉を通過するルート（以下「茶津門扉ルート」という。）に加え、津波発生時に茶津門扉ルートが使用できない場合を考慮し、津波による影響を受けない大和門扉を通過するルート（以下「大和門扉ルート」という。）を確認している（第7図及び第8図）。大和門扉ルートを使用した要員参集の状況について参考2に示す。</p> <p>発電所近傍にある 275kV 及び 66kV の送電鉄塔の倒壊による障害を想定し、275kV送電鉄塔が倒壊した場合には、徒歩により第二大和門扉を通過する迂回ルートを確認しており、鉄塔が倒壊しても影響を受けない参集ルートを設定する。</p> <p>発電所近傍にある 275kV 及び 66kV の送電鉄塔の倒壊による障害を想定し、鉄塔が倒壊した場合における通行の考え方を参考3に示す。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違（島根と同様）</p> <p>【女川及び島根】記載方針の相違 ・泊は、通常入構ルートの大和門扉ルートについて記載し、その補足説明を参考資料にて整理している。</p> <p>【女川】記載方針の相違 ・泊は、発電所近傍にある送電鉄塔の倒壊による障害を想定し参集ルートの設定を行っている。（島根と同様）</p> <p>【女川及び島根】記載方針の相違 ・泊は、275kV送電鉄塔が倒壊した場合の徒歩により第二大和門扉を通過する迂回ルートについて記載した。送電鉄塔が倒壊した場合における通行の考え方については、参考3に整理している。</p> <p>【島根】倒壊を想定する送電鉄塔の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項


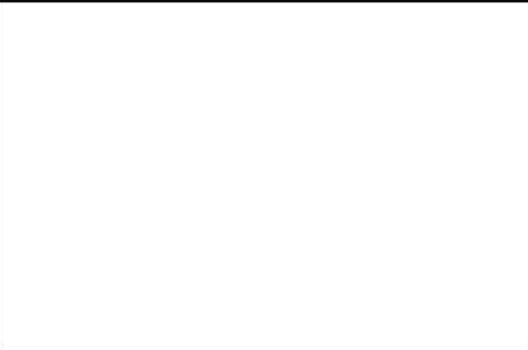

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>平日の勤務時間帯においては、緊急時対策要員の多くは管理事務所で執務しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においては、初動対応する要員が免震重要棟又はその近傍及び制御室建物又はその近傍で執務若しくは待機しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>管理事務所及び免震重要棟から緊急時対策所までのアクセスルートを、第5図に示す。</p>	<p>平日の勤務時間帯においては、発電所災害対策要員の多くは総合管理事務所で執務しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においては、初動対応する要員が総合管理事務所又はその近傍の建屋内で執務若しくは待機しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>総合管理事務所等の発電所構内の建屋内から緊急時対策所までのアクセスルートを第8図に示す。</p> <p>なお、第7図及び第8図に示す参集ルートについては、外部からの支援を受けるためのルートとしても使用する。通常時の構内入構ルートである茶津門扉ルートについては、津波発生時の使用不可も考慮し、津波の影響を受けない大和門扉ルートを確保することとし、今後、必要に応じて外部からのアクセス性を確保するための道路拡幅や整地等を行い、車両・物資輸送が適切に行えるよう対応していく。</p> <p>※ 大和門扉ルートについては、現状において資機材等の輸送に必要な外部支援用車両は問題なく通行できることを確認しているが、今後支援を期待する車両の追加や変更が発生し車両が大型化した場合においても、道路の拡幅や整地を行い車両による物資輸送が適切に実施できるよう対応していく。</p>	<p>【島根】名称の相違（以降、相違理由を省略）</p> <p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <p>・泊は、外部からの支援を受けるためのルートについても整理した。</p> <p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <p>・泊は、集合場所であるエナメゾン共和寮から緊急時対策所までの参集ルートを第7図と第8図で示している。</p>



第7図 集合場所から発電所構内への参集ルート（茶津門扉ルート及び大和門扉ルート）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第9図 発電所構内への参集ルート</p>	 <p>第5図 発電所構内への参集ルート及び緊急時対策所へのアクセスルート</p> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p>	 <p>第8図 発電所構内への参集ルート及び緊急時対策所へのアクセスルート</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>e. 夜間及び休日における要員参集について</p>	<p>5. 夜間及び休日における要員参集について (1) 要員の想定参集時間 第1表及び第2図に示すとおり、要員の大多数は発電所から半径10km圏内に居住していることから、仮に発電所から10km地点に所在する要員が、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、発災30分後に自宅を出発するものとし、徒歩移動で参集する場合であっても、参集時間は約6時間30分と考えられる。 さらに、要員集合場所（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）に立寄り、情報収集を行った上で参集することから、情報収集する場合の時間を30分必要であると仮定した場合であっても、発電所から10kmに所在する要員は、約7時間で発電所に参集可能であると考えられる。</p>	<p>6. 夜間及び休日における要員参集について (1) 要員の想定参集時間 第2表及び第4図に示すとおり、要員の大多数は発電所から半径12.5km圏内の共和町宮丘地区、共和町（宮丘地区を除く）、岩内町及び泊村滝ノ淵地区（以下「参集可能地域」という。）に居住していることから、仮に参集可能地域に所在する要員が、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、発災30分後に自宅を出発するものとし、さらに要員の集合場所（エナメゾン共和寮）に立寄り、情報収集を行った上で参集することから、情報収集する場合の時間を30分必要であると仮定した場合であっても、徒歩移動で参集する場合で、参集時間は約10時間と考えられることから、要員参集の目安として設定した12時間以内に発電所構外から発電所へ参集する要員は十分確保可能である。</p>	<p>【女川及び島根】地理的要因の相違 ・泊は、発電所から半径2.5km圏内の共和町宮丘地区に約71%、共和町宮丘地区を除く発電所から半径12.5km圏内の共和町、泊村及び岩内町に約28%の発電所員が居住している。 【島根】記載方針の相違 ・泊は、徒歩にて12時間以内に発電所へ参集可能な地域を「参集可能地域」と定義した。 【島根】参集時間の相違 ・泊は、要員参集の目安として設定した12時間以内に参集要員を確保することとしており、保守的に参集時間を10時間と設定している。 【島根】記載表現の相違 【島根】記載方針の相違 ・泊は、要員参集の目安として設定した12時間以内に参集可能であることを記載。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(a) 夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の重大事故等対策要員の参集動向（所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの参集に要する時間）を評価した。その結果、集合場所からの要員の参集手段が徒歩移動を想定した場合かつ、年末年始、ゴールデンウィーク等の大型連休（以下「大型連休」という。）であっても、6時間以内に参集可能な要員は半数以上（250名以上）と考えられることから、要員参集の目安として設定した12時間以内に外部から発電所へ参集する要員は十分な数を確保可能であることを確認した。</p> <p>なお、自動車等の移動手段が使用可能な場合は、より多くの要員が早期に参集することが期待できる。</p> <p>(b) 大型連休（土日、祝日を含む。）においては、あらかじめ参集要員を指名することにより、要員を確実に確保する。</p> <p>(c) さらに、初動対応を確実にするため1時間を目途に参集可能な発電所近傍に4名、12時間を目途に参集可能な範囲に50名を拘束する。</p>	<p>(2) 要員参集調査</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の重大事故等に対処する要員の参集動向（所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの参集に要する時間）を評価した結果、要員の参集手段が徒歩移動のみを想定した場合かつ、年末年始やゴールデンウィーク等の大型連休であっても、7時間以内に参集可能な要員は150名以上（発電所員約540名の約3割）と考えられる。</p> <p>なお、自動車等の移動手段が使用可能な場合は、より多くの要員が早期に参集することが期待できる。</p>	<p>(2) 要員参集調査</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の発電所災害対策要員の参集動向（所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの参集に要する時間）を評価した結果、要員の参集手段が徒歩移動のみを想定した場合かつ、年末年始やゴールデンウィーク等の大型連休であっても、10時間以内に参集可能な要員は100名以上（発電所員約490名の約2割）と考えられる。</p> <p>なお、自動車等の移動手段が使用可能な場合は、より多くの要員が早期に参集することが期待できる。</p>	<p>【女川及び島根】要員参集調査結果の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、大型連休であっても10時間以内に100名以上が参集可能であることを要員参集調査から確認した。要員参集調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる参集要員を確保する方針について女川及び島根と同様。 【女川】記載方針の相違 泊は、要員参集の目安として設定した12時間以内に発電所構外から発電所へ参集する要員は十分確保可能であることを6.項(D)も、に記載。 【女川】運用の相違 泊は、大型連休においてあらかじめ参集要員を指名する運用とはしないが、要員参集調査の結果から必要な参集要員の人数は確保できることを確認している。（島根と同様）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>○1時間を目途に徒歩で参集可能な範囲は、出発準備の30分を考慮して発電所（緊急時対策所）を中心に、約2km 徒歩移動圏内とする（第10図）。</p> <p>約2km 徒歩移動圏内には発電所事務建屋、小屋取寮等がある。例えば、小屋取寮から発電所（緊急時対策所）への移動を考えた場合、以下のとおり1時間を目途に発電所に参集できることを確認した。</p> <p>①出発準備として30分を考慮。</p> <p>②小屋取寮から発電所（緊急時対策所）までの移動ルートは、小屋取寮からの要員参集ルート（迂回ルート：徒歩移動距離約1km）を通行する（第9図）。</p> <p>③迂回ルートを使用した徒歩による参集訓練実績では、移動時間は約25分。</p>  <p>第10図 参集要員の滞在範囲の目安(1時間を目途に参集)</p>	<p>また、集合場所（緑ヶ丘施設）からの参集訓練結果について別紙補足2に示す。</p>	<p>また、要員参集調査による評価を参考1に、要員参集の検証結果について参考2に示す。</p>	<p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、要員参集調査による評価を参考1に整理した。 ・泊は、要員参集の検証結果について、参考2に示す。


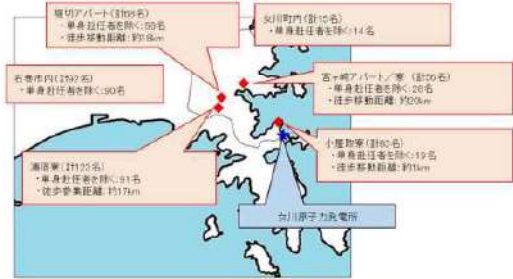
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>○12時間を目途に徒歩で参集可能な範囲^{※1}は、集合場所（浦宿寮：女川町内）を中心に、約17km徒歩移動圏内とする（第11図）。</p> <p>※1：今後の発電所の道路整備状況等に応じて見直す可能性がある。</p> <p>・考え方 次の前提条件のもとに、12時間のうち集合場所までの移動に使用可能な時間を算出</p> <p>①出発準備として30分を考慮。 ②集合場所（浦宿寮：女川町内）までの徒歩での移動速度は、4.0km/h^{※2}と想定。 ③女川町内の集合場所での情報収集・装備品及び携行資機材準備等（休息含む。）に30分考慮。 ④女川町内の集合場所から発電所（緊急時対策所）までの移動距離は17km（コバルトライン12km、送電線巡視ルート5km）とする。 ⑤徒歩の移動速度は、コバルトライン（舗装道路）は4.0km/h^{※2}、送電線巡視ルート（未舗装）は1.8km/h^{※3}と想定。 ⑥長時間の移動を考慮して、55分移動して5分の休憩を想定。</p> <p>※2：歩行実績約5.2km/hに対して、悪天候時の影響を考慮し保守的に4.0km/hとする。 ※3：歩行実績約2.4km/hに対して、悪天候時の影響を考慮し保守的に1.8km/hとする。</p> <p>【集合場所までの移動に使用可能な時間】 =【参集目途時間】-【出発準備時間】+【集合場所での情報収集時間】+【集合場所から発電所までの移動に要する時間】 =12(h)-【0.5(h)】+【0.5(h)】 +【12(km)/4(km/h)×60(m)/55(m)+5(km)/1.8(km/h)×60(m)/55(m)】 =4.69(h)</p> <p>よって、</p> <p>【集合場所までの徒歩での移動距離】 =4.69(h)×4(km/h)×55(m)/60(m)=17.2(km)≒17(km)</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・要員参集の検証結果を考慮した徒歩による集合場所までの移動可能距離については、参考2に示す。</p>


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第11図 参集要員の滞在範囲の目安(12時間を目途に参集)</p> <p>(d) 休日における所員の所在地確認を行い、発電所周辺に所在する所員を把握することにより、あらかじめ指名した要員以外の要員を速やかに参集・確保することができる。なお、単身赴任者以外の所員は全所員の約7割であり、女川町又は石巻市に居住している(第12図)。</p>  <p>第12図 女川原子力発電所 所員の居住地(平成30年1月時点)</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・泊の要員参集調査の結果については参考1に示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p> 4. 自然災害が参集ルートに与える影響について 土石流や地滑り、浸水などの自然災害が参集ルートに与える影響について、女川町及び石巻市のハザードマップを用いて検討した。女川町及び石巻市のハザードマップを第13図に示す。 </p>  <p>第13図 女川町及び石巻市ハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項、5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(a) 浦宿～野々浜地区（五部浦ルート）の自然災害による影響評価 浦宿～野々浜地区（五部浦ルート）のハザードマップを第14図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、地震時においても通行可能である。また、女川町中心部付近等の土砂災害警戒区域又は土砂災害危険箇所についても、斜面から離れていて海側に開けており通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて浸水範囲が女川町中心部、大石原浜～野々浜地区に示されており、津波の収束状況を勘案して通行する。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害警戒区域又は土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。また、斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p>  <p>第14図 浦宿～野々浜地区（五部浦ルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項、5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(b) 浦宿～野々浜地区（コバルトラインルート）の自然災害による影響評価</p> <p>浦宿～野々浜地区（コバルトラインルート）のハザードマップを第15図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】ハザードマップでは区間のほとんどに土砂災害危険箇所が示されているものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて、浸水範囲が野々浜地区のみに示されており、津波の収束状況を勘案して通行する。また、送電線の巡視点検ルートを利用し、高台のみの通行により発電所まで参集することが可能である。なお、2011年東北地方太平洋沖地震及びその後発生した津波による被害状況下において、浦宿～小積ICまでは車両通行可能であった。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、ほぼ全域が土砂災害危険箇所となっている。また、斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p> <p>なお、コバルトラインルートは、時間雨量20mm、連続雨量80mmを超えた場合に通行が規制されるため、豪雨の際は通行不可となる可能性がある。</p>  <p>第15図 浦宿～野々浜地区（コバルトラインルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <p>・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項、5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(c) 浦宿～野々浜地区（表浜ルート）の自然災害による影響評価 浦宿～野々浜地区（表浜ルート）のハザードマップを第16図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】斜面が道路に迫っている区間が多く、土砂災害警戒区域又は土砂災害危険箇所も存在するものの、安定化対策が施されている箇所、道路の片側が開けている箇所が多く、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて多くの区間が浸水範囲となることから、津波の収束状況を勘案して通行する。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害警戒区域又は土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。また、斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p>  <p>第16図 浦宿～野々浜地区（表浜ルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項、5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(d) 野々浜地区～発電所の自然災害による影響評価</p> <p>野々浜地区～発電所のハザードマップを第17図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】ハザードマップにおいて、土砂災害危険箇所が示されているが、道路の片側が開けており迂回することが可能であることから、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて多くの区間が浸水範囲となることから、津波の収束状況を勘案して通行する。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。また、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p>     <p>第17図 野々浜地区～発電所のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <p>・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項、5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(e) 小積IC～発電所（送電線巡視点検ルート）の自然災害による影響評価</p> <p>小積IC～発電所（送電線巡視点検ルート）のハザードマップを第18図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】ハザードマップにおいて土砂災害危険箇所が示されているが、林道であり迂回することが可能であることから、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて浸水箇所は示されていない。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。</p>  <p>第18図 小積IC～発電所（送電線巡視点検ルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項、5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(f) 小積IC～発電所（迂回ルート）の自然災害による影響評価 小積IC～発電所（迂回ルート）のハザードマップを第19図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】ハザードマップにおいて土砂災害危険箇所が示されているが、道路の片側が開けており迂回することも可能であることから、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて多くの区間が浸水範囲となることから、津波の収束状況を勘案して通行する。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。また、斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p>   <p>第19図 小積IC～発電所（迂回ルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項、5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(g) 自然災害発生時の陸路の選択について</p> <p>発電所構外からの参集要員のアクセスルートについて、浦宿寮から発電所までの間の各ルートについてハザード評価を実施した。</p> <p>要員参集のアクセスルートについて、地震時、津波時、豪雨時の観点からそれぞれのルートの特徴を評価し、その結果、1つの要因で複数あるルートのすべてのルートが通行不可とならないことを確認した。</p> <p>また、参集要員がルート選択に迷わないために、津波時にはコバルトラインルート、豪雨時には五部浦ルート又は表浜ルートを優先的に選択するルートとする。</p> <p>それぞれのルートの特徴、優先的に選択するルート、ハザードマップを手順書に記載し、参集要員に事前に周知することより、参集要員は出発前に適切なルートを選択することが可能となり、安全に発電所へ移動できる。</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <p>・泊は、自然災害発生時の発電所構外からの要員の参集ルート選択について、地震時には複数の参集ルートを確認していること、及び津波発生時には津波による影響を受けないルートを選択することを4.項、5.項に記載している。</p> <p>(島根と同様)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">＜参考：要員参集調査による評価＞</p> <p>○夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合、重大事故等対策要員の参集動向をより具体的に把握するため、「平日夜間」、「休日日中」、「休日夜間」、「大型連休日中」、「大型連休夜間」の5ケースにおいて緊急呼出しがかかった場合を想定し、その時々における要員の所在場所（自宅、発電所、それ以外の場所の場合は集合場所までの参集時間を回答）を調査することで、参集状況を評価した。</p> <p>○出発場所での準備時間 30 分及び集合場所（浦宿寮）での情報収集・装備等準備時間 30 分を考慮した。</p> <p>○小屋取寮所在者は、直接発電所に参集するとした。</p> <p>○宮ヶ崎寮／アパート、堀切アパート所在者は、状況が確認できている場合は直接発電所に参集することとしているが、今回の評価上は、必要に応じて装備等の準備を行うため、浦宿寮を経由するとして評価した。</p>	<p style="text-align: center;">＜参考：要員参集調査による評価＞</p> <p>○夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の重大事故等に対処する要員の参集動向をより具体的に把握するため、「平日夜間」「休日日中」「休日夜間」「大型連休日中」「大型連休夜間」の5ケースにおいて緊急呼び出しがかかった場合を想定し、その時々における要員の所在場所（発電所からの直線距離に応じた区分を回答）を調査することで、参集状況を評価する。（第7図及び第8図）</p> <p>○参集の流れは、所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの移動とする。</p> <p>○集合場所（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）での情報収集時間 30 分を考慮する。（第6図）</p>	<p style="text-align: center;">＜参考1＞</p> <p style="text-align: center;">要員参集調査による評価</p> <p>○夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の発電所災害対策要員の参集動向をより具体的に把握するため、「平日夜間」「休日日中」「休日夜間」「大型連休日中」「大型連休夜間」の5ケースにおいて緊急呼び出しがかかった場合を想定し、その時々における要員の所在場所を調査することで、参集状況を評価する。（第2図及び第3図）</p> <p>○参集の流れは、所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの移動とする。</p> <p>○所在場所での出発準備時間 30 分を考慮する。</p> <p>○集合場所（エナメゾン共和寮）での情報収集時間 30 分を考慮する。（第1図）</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】要員参集調査方法の相違</p> <p>・泊は、要員の所在場所（共和町宮丘地区、岩内町等）を調査し、徒歩移動のみであっても所在場所から10時間以内に参集可能であることを確認している。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載方針の相違</p> <p>・島根は、出発までの準備時間を考慮することを「参考 第7図、第8図」に記載している。</p> <p>【女川】地理的要因による相違</p> <p>【島根】集合場所の名称の相違</p> <p>【島根】要員参集調査</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>○過去5回の要員参集調査を実施し、重大事故等が発生した場合の重大事故等に対処する要員の参集動向を評価した結果、年末年始やゴールデンウィーク等の大型連休であっても、7時間以内に参集可能な重大事故等に対処する要員は150名以上(発電所員約540名の約3割)と考えられる。このことから、夜間及び休日(平日の勤務時間帯以外)の初動体制の拡大を図り、長期的な事故対応を行うために外部から発電所へ参集する緊急時対策要員(54名)は、要員参集の目安としている8時間以内に確保可能であることを確認している※。</p> <p>※： (a) 平成28年5月：162名(うち、実施組織109名(復旧班49名、プラント監視班60名)) (b) 平成29年5月：167名(うち、実施組織118名(復旧班67名、プラント監視班51名)) (c) 平成30年1月：151名(うち、実施組織102名(復旧班50名、プラント監視班52名)) (d) 令和元年1月：157名(うち、実施組織105名(復旧班49名、プラント監視班56名)) (e) 令和2年1月：221名(うち、実施組織145名(復旧班74名、プラント監視班71名))</p>	<p>○過去4回の要員参集調査を実施し、重大事故等が発生した場合の発電所災害対策要員の参集動向を評価した結果、年末年始やゴールデンウィーク等の大型連休であっても、10時間以内に参集可能な発電所災害対策要員は100名以上(発電所員約490名の約2割)と考えられる。このことから、夜間及び休日(平日の勤務時間帯以外)の初動体制の拡大を図り、長期的な事故対応を行うために外部から発電所へ参集する発電所災害対策要員(51名)は、要員参集の目安としている12時間以内に確保可能であることを確認している※。</p> <p>※：要員参集調査の期間、参集可能な要員数等は以下のとおり。 (a) 2020年12月26日(土)～2021年1月5日(火)：130名(うち、実施組織91名(運転班66名、復旧班25名)) (b) 2021年4月29日(木)～2021年5月9日(日)：118名(うち、実施組織80名(運転班61名、復旧班19名)) (c) 2021年12月24日(金)～2022年1月4日(火)：106名(うち、実施組織76名(運転班58名、復旧班18名)) (d) 2022年4月29日(金)～2022年5月8日(日)：128名(うち、実施組織87名(運転班65名、復旧班22名))</p>	<p>における実施回数^{の相違}</p> <p>【島根】要員参集調査結果の相違 ・泊は、大型連休であっても10時間以内に100名以上が参集可能であることを要員参集調査から確認した。要員参集調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる参集要員を確保する方針について女川及び島根と同様。 【島根】参集要員の人数の相違 ・泊は、12時間以内に参集要員51名を確保し発電所対策本部を強化する。参集要員の人数に相違はあるものの、女川及び島根と同様に対策本部として必要な機能は確保できる。</p> <p>【女川】記載方針の相違 ・泊は、要員参集調査の期間における参集可能な要員数と、実施組織の人数を記載した。(島根と同様)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第20図 要員参集の流れについて（イメージ）</p> <p>1. 車が使える場合（第21図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4時間以内に約9割の要員が参集可能な場所にいることを確認した（大型連休は除く。） ○大型連休においても、4時間以内に約7割の要員が参集可能な場所にいることを確認した。 	 <p>第6図 要員参集の流れについて（イメージ）</p> <p>a. 車が使える場合（第7図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3時間30分以内に約8割の要員が参集可能な場所にいることを確認した。（大型連休は除く。） ○大型連休でも、3時間30分以内に約5割の要員が参集可能な場所にいる。 	 <p>第1図 要員参集の流れについて（イメージ）</p> <p>a. 車が使える場合（第2図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5時間30分以内に参集可能な場所（発電所から半径12.5km圏内）に約3割の要員が、12時間以内に参集可能な場所（発電所から半径30km圏内及び札幌市を含む）に約7割の要員が所在していることを確認した。（大型連休は除く。） ○大型連休でも、12時間以内に約6割の要員が参集可能な場所（発電所から半径30km圏内及び札幌市を含む）にいることを確認した。 	<p>【女川及び島根】要員参集調査結果の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、大型連休であっても、車が使える場合には徒歩移動のみの場合に比べ、12時間以内に参集可能な要員が増加することを調査から確認し記載している。調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる要員を確保することについて女川及び島根と同様。 <p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、徒歩による参集可能地域から車を使える場合の参集時間に加えて、要員参集時間の目安である12時間以内に参集可能な要員数についても記載した。 <p>【女川】記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

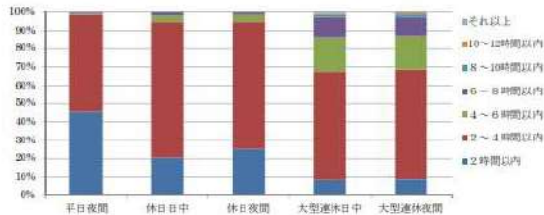
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため本比較表の抜粋を掲載（比較表p1.0.2-補足10-33）】</p> <p>2. 集合場所（浦宿寮）から徒歩で参集する場合（第22図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○車を使用した場合に比べ要員参集のタイミングが遅くなるが、9割程度の要員は、6時間以内に参集可能な場所にいることを確認した（大型連休は除く）。 ○通常の休日と大型連休を比較すると、大型連休の6時間以内の参集要員は通常と比較して約3割少ないが、6時間以内に約6割の要員が参集可能な場所にいることを確認した。 	<p>b. 徒歩移動のみの場合（第8図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○車を使用した場合に比べ要員参集のタイミングが遅くなるが、6割程度の要員は、7時間以内に参集可能な場所にいることを確認した。（大型連休は除く。） ○通常の休日と大型連休を比較すると、大型連休には約3割多い要員が半径10km圏内から不在（徒歩7時間以上）となるが、7時間以内で参集可能な要員は約3割。 	<p>b. 徒歩移動のみの場合（第3図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○車を使用した場合に比べ要員参集のタイミングが遅くなるが、約3割の要員は、10時間以内に参集可能な場所にいることを確認した。（大型連休は除く。） ○通常の休日と大型連休を比較すると、大型連休には要員が共和町宮丘地区、岩内町等の参集可能地域から不在（徒歩10時間以上）となるが、10時間以内で参集可能な要員は約2割。 	<p>【女川及び島根】要員参集調査結果の相違</p> <p>・泊は、大型連休であっても10時間以内に100名以上が参集可能であることを要員参集調査から確認した。要員参集調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる参集要員を確保する方針について女川及び島根と同様。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

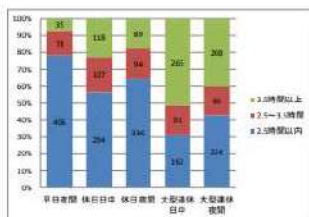
女川原子力発電所2号炉



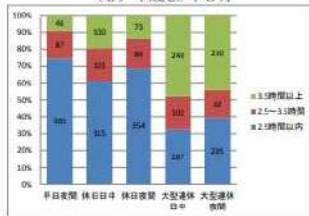
※ それぞれの存在場所から、以下の集合場所又は集合場所までの移動に要する時間を回答してもらい、その時間以下の数値を加えた上で算出。
 ・小艇取集、浦宿寮に所在の場合
 → 出発準備時間（30分）：発電所までの所要時間を加算して評価
 ・小艇取集、浦宿寮以外の場所に所在の場合
 → 出発時間（30分）、集合場所（浦宿寮）までの所要時間、集合場所（浦宿寮）での情報収集・装備準備時間（30分）、発電所までの所要時間を加算して評価

第21図 要員参集シミュレーション結果（車が使える場合）

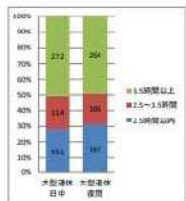
島根原子力発電所2号炉



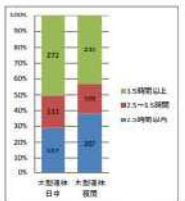
(a) 平成28年5月



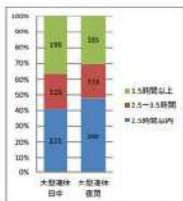
(b) 平成29年5月



(c) 平成30年1月



(d) 令和元年1月

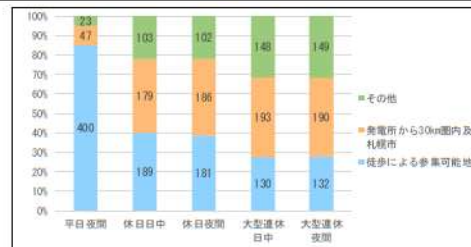


(e) 令和2年1月

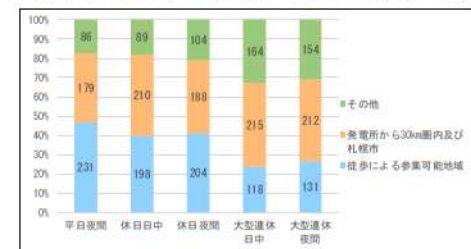
※：発電所からの直線距離に応じた区分を回答してもらい、その区分に応じた移動時間（30分以内（～10km）、30分～1.5時間（10～30km）、1.5時間以上（30km～））以下の数値を加えて算出。
 ・出発までの準備時間：30分
 ・集合場所での情報収集時間：30分
 ・集合場所から発電所に設ける一時立寄場所に駐車し、そこから徒歩で発電所までの移動時間：1時間

第7図 要員参集シミュレーション結果（車でアクセス可能）

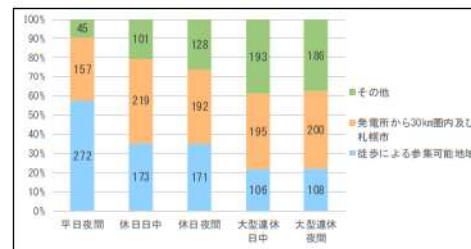
泊発電所3号炉



(a) 2020年12月26日(土)～2021年1月5日(火)



(b) 2021年4月29日(木)～2021年5月9日(日)



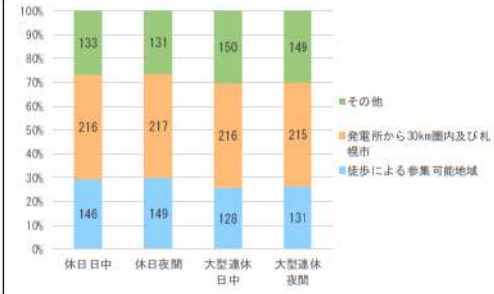
(c) 2021年12月24日(金)～2022年1月4日(火)

第2図 要員参集シミュレーション結果（車でアクセス可能）
 (1/2)

相違理由

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p style="text-align: center;">泊発電所3号炉</p>  <p>※：2022年5月2日、2022年5月6日は平日だが、発電所が休日体制であるため、休日とした。 (d) 2022年4月29日(金)～2022年5月8日(日)</p> <p>※：調査の対象期間中の所在場所を回答してもらった。車を使用した場合の要員参集シミュレーションについては以下の事項を考慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所在場所から共和町宮丘地区（集合場所）までの区間は車で移動とする。 ・共和町宮丘地区（集合場所）から緊急時対策所までの区間は、大和門扉ルートを経由した徒歩による参集とし、参集時間は、要員参集の検証結果を考慮し、保守的に3時間とした。 ・所在場所での出発準備時間：30分 ・集合場所での情報収集時間：30分 <p>※：棒グラフ内の数値は、発電所災害対策要員の人数を示す。</p> <p style="text-align: center;">第2図 要員参集シミュレーション結果（車でアクセス可能） (2/2)</p>	<p>【女川及び島根】要員参集調査方法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、要員の所在場所（共和町宮丘地区、岩内町、札幌市等）を調査し、車が使える場合、所在場所から12時間以内に参集可能であることを確認している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

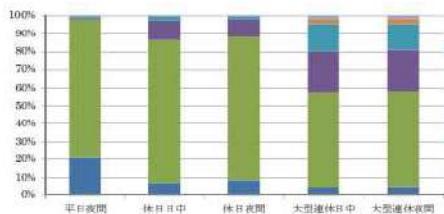
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉

【本比較表の pl. 0.2-補足 10-30にて比較する】

2. 集合場所（浦宿寮）から徒歩で参集する場合（第22図）

- 車を使用した場合に比べ要員参集のタイミングが遅くなるが、9割程度の要員は、6時間以内に参集可能な場所にいることを確認した（大型連休は除く。）。
- 通常の休日と大型連休を比較すると、大型連休の6時間以内の参集要員は通常と比較して約3割少ないが、6時間以内に約6割の要員が参集可能な場所にいることを確認した。

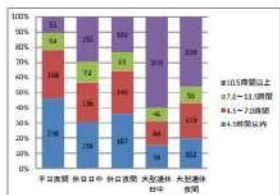


※ それぞれの潜在場所から、以下の集合場所又は集合場所までの移動に要する時間を回答してもらい、その時間に以下の数値を加えた上で算出。

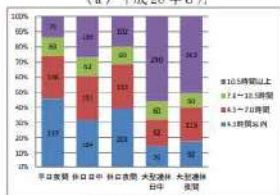
- ・小乗取室、浦宿寮に所在の場合
 →出発準備時間（30分）、発電所までの所要時間を加算して評価
- ・小乗取室、浦宿寮以外の場所に所在の場合
 →出発時間（30分）、集合場所（浦宿寮）までの所要時間、集合場所（浦宿寮）での情報収集・支援準備時間（30分）、発電所までの所要時間を加算して評価

第22図 要員参集シミュレーション結果（集合場所から徒歩で参集する場合）

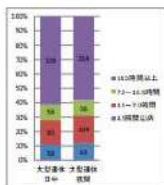
島根原子力発電所 2号炉



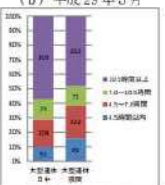
(a) 平成28年5月



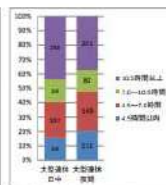
(b) 平成29年5月



(c) 平成30年1月



(d) 令和元年1月

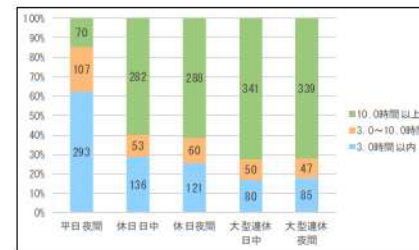


(e) 令和2年1月

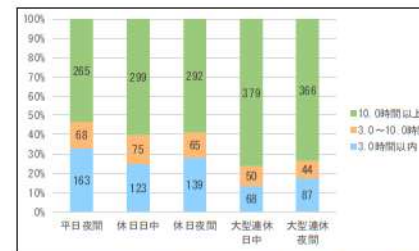
※：出発までの準備時間を考慮の上、天候が良好な状況を想定し、集合場所を経由した場合の発電所（緊急時対策所）までの移動距離4.0時間以内（～3.5km）、4.0～6.5時間（3.5～10km）、6.5～10.0時間（10～20km）、10.0時間以上（20km～）により算出。なお、移動速度は参集訓練の実績（4.0km/h（67m/min））を基に算出している。
 ※：発電所からの直線距離に応じた区分を回答。
 ※：集合場所での情報収集時間の30分を考慮。

第8図 要員参集シミュレーション結果（徒歩移動のみ）

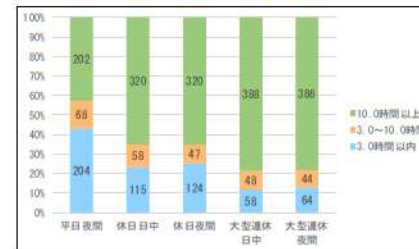
泊発電所 3号炉



(a) 2020年12月26日(土)～2021年1月5日(火)



(b) 2021年4月29日(木)～2021年5月9日(日)



(c) 2021年12月24日(金)～2022年1月4日(火)

第3図 要員参集シミュレーション結果（徒歩移動のみ）(1/2)

【女川】記載方針の相違・泊は、徒歩移動のみであっても所在場所から10時間以内に参集可能な要員の割合について、参考1 b.項に記載している。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
		<p style="text-align: center;">泊発電所3号炉</p> <table border="1"> <caption>泊発電所3号炉 要員参集シミュレーション結果 (徒歩移動のみ)</caption> <thead> <tr> <th>シナリオ</th> <th>3.0時間以内</th> <th>3.0~10.0時間</th> <th>10.0時間以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>休日日中</td> <td>109</td> <td>37</td> <td>349</td> </tr> <tr> <td>休日夜間</td> <td>100</td> <td>49</td> <td>348</td> </tr> <tr> <td>大型連休日中</td> <td>84</td> <td>44</td> <td>366</td> </tr> <tr> <td>大型連休夜間</td> <td>88</td> <td>43</td> <td>364</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：2022年5月2日、2022年5月6日は平日だが、発電所が休日体制であるため、休日とした。 (d) 2022年4月29日(金)～2022年5月8日(日)</p> <p>※：調査の対象期間中の所在場所を回答してもらった。所在場所から徒歩移動による要員参集シミュレーションについては以下の事項を考慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所在場所から共和町宮丘地区（集合場所）までの区間における徒歩移動速度は、要員参集の検証結果を考慮し、保守的に4 km/hとした。 ・共和町宮丘地区（集合場所）から緊急時対策所までの区間は、徒歩による大和門扉ルートを経由したルートとし、参集時間は、要員参集の検証結果を考慮し、保守的に3時間とした。 ・所在場所での出発準備時間：30分 ・集合場所での情報収集時間：30分 <p>※：棒グラフ内の数値は、発電所災害対策要員の人数を示す。</p> <p>第3図 要員参集シミュレーション結果（徒歩移動のみ）(2/2)</p>	シナリオ	3.0時間以内	3.0~10.0時間	10.0時間以上	休日日中	109	37	349	休日夜間	100	49	348	大型連休日中	84	44	366	大型連休夜間	88	43	364	<p>【女川及び島根】要員参集調査方法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、要員の所在場所（共和町宮丘地区、岩内町等）を調査し、徒歩移動のみの場合、所在場所から10時間以内に参集可能であることを確認している。
シナリオ	3.0時間以内	3.0~10.0時間	10.0時間以上																				
休日日中	109	37	349																				
休日夜間	100	49	348																				
大型連休日中	84	44	366																				
大型連休夜間	88	43	364																				

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(3) 参集要員の確保</p> <p>(1)要員の想定参集時間、及び(2)要員参集調査から、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）かつ、参集手段が徒歩移動のみを想定した場合であっても、発電所構外の重大事故等に対処する要員は事象発生から約7時間で発電所に参集可能と考えられること、また、年末年始、ゴールデンウィーク等の大型連休に重大事故等が発生した場合であっても、7時間以内に参集可能な重大事故等に対処する要員は150名以上（発電所員約540名の約3割）と考えられる。このことから、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）の初動体制の拡大を図り、長期的な事故対応を行うために外部から発電所へ参集する緊急時対策要員（54名*）は、要員参集の目安としている8時間以内に確保可能であることを確認した。</p> <p>※：要員数については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。</p>	<p>(3) 参集要員の確保</p> <p>(1)要員の想定参集時間、及び(2)要員参集調査から、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）かつ、参集手段が徒歩移動のみを想定した場合であっても、発電所構外の発電所災害対策要員は事象発生から約10時間で発電所に参集可能と考えられること、また、年末年始、ゴールデンウィーク等の大型連休に重大事故等が発生した場合であっても、10時間以内に参集可能な発電所災害対策要員は100名以上（発電所員約490名の約2割）と考えられる。このことから、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）の初動体制の拡大を図り、長期的な事故対応を行うために外部から発電所へ参集する発電所災害対策要員（51名*）は、要員参集の目安としている12時間以内に確保可能であることを確認した。</p> <p>※：要員数については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。</p>	<p>【島根】地理的要因の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参集時間の相違 <p>【女川及び島根】要員参集調査結果の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、大型連休であっても10時間以内に100名以上が参集可能であることを要員参集調査から確認した。要員参集調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる参集要員を確保する方針について女川及び島根と同様。 <p>【女川及び島根】参集要員の人数の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、12時間以内に参集要員51名を確保し発電所対策本部を強化する。参集要員の人数は相違するが、女川及び島根と同様に対策本部として必要な機能は確保できる。


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
		<p style="text-align: right;">＜参考2＞</p> <p style="text-align: center;">大和門扉ルートを使用した要員参集について</p> <p>発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常時に使用している茶津門扉ルートに加え、津波発生時に茶津門扉ルートが使用できない場合を考慮し、津波による影響を受けない大和門扉ルートを確保している。大和門扉ルートを第1図（紫実線）に示す。</p> <p>また、大和門扉ルート上の送電鉄塔の倒壊を想定し、第二大和門扉を通過する徒歩にて迂回するルートを確保している。（第1図（緑実線））</p>  <p>※：①～⑥は大和門扉ルートの撮影箇所</p>  <p style="text-align: center;">第1図 大和門扉ルート</p> <p>1. 大和門扉ルートの運用等 大和門扉ルートを使用した要員参集の運用については、以下のとおりであり、これらの運用については社内規程類に定めている。</p>	<p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <p>・泊は、参考2に大和門扉ルートに係る補足、要員参集の検証結果等について整理した。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<ul style="list-style-type: none"> ● 大津波警報が発表された場合は、中央制御室の運転員から守衛所の警備員に連絡する。 ● 連絡を受けた警備員は、大和門扉及び展望台上門扉を開放し、大和門扉を経由して緊急時対策所まで参集するルートを通行可能とする。 ● 警戒事態となれば、発電所長は社員に非常招集をかける。また、社員は、発電所周辺地域（泊村、共和町、岩内町、神恵内村）において震度5弱以上の地震、大津波警報が発表されれば、自主的に参集する運用としている。 ● 大和門扉ルートの始点となる共和町宮丘地区から終点となる大和門扉までの間の道路地権者は共和町、泊村及び当社であり、共和町及び泊村からは道路の使用許可を文書で取り交わしている。また、ルート上の橋梁の崩落、送電鉄塔の倒壊等により迂回するルートについては当社所有地に確保している。 ● 大和門扉ルートの道路には共和町及び泊村がチェーンを取付けているが、共和町及び泊村より鍵を貸与されており、当社社員が通行する場合には、開錠してチェーンを外し通行する運用としている。 ● 鍵は参集する社員の集合場所となっている当社の社員寮（エナメゾン共和寮、柏木寮）に保管している。 ● 今後、道路の拡幅や整地等を行う場合には、地権者、並びに道路管理者である共和町及び泊村との協議の上実施することとなる。 ● 共和町宮丘地区からの要員参集用としてクローラー車（1台）を配備し、要員参集の効率化を図っている。（最大登坂斜度：30度、最高速度：60km/h） <div data-bbox="1464 927 1854 1209" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">第2図 クローラー車</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大和門扉ルートは、緊急時に使用するルートであることから、積雪対策として、積雪量が10cmを超えることが予想される場合又は積もった場合に除雪する運用としている。なお、発電所構内のアクセスルートの除雪を行う場合には、大和門扉ルートより優先して行う。 	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>2. 大和門扉ルート上における橋梁の崩落等時に通行する参集ルートについて 大和門扉ルート上の橋梁の崩落等が発生し、通行ができない場合には、徒歩で迂回するルートを設定する。（第3図）</p>  <p>水路橋、ボックスカルバートは徒歩により迂回可能</p>  <p>①水路橋</p>  <p>②ボックスカルバート</p>  <p>③迂回ルート（徒歩）進行方向</p>  <p>④冬季における徒歩による迂回の様子</p>  <p>⑤冬季・夜間における徒歩による迂回の様子</p> <p>第3図 水路橋及びボックスカルバートの通行不可時の徒歩による迂回（イメージ図）</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙補足2</p> <p style="text-align: center;">参集訓練の実施結果について</p> <p>1. 概要</p> <p>重大事故等が発生した場合において、発電所外から参集する重大事故等に対処する要員の参集性を評価するため参集訓練を実施した。</p> <p>集合場所である緑ヶ丘施設から緊急時対策所に参集する時間を実際に計測して、移動速度を算出した。</p> <p>この結果から、発電所外から参集する重大事故等に対処する要員の参集するための移動速度を設定した。</p> <p>2. 参集訓練の実施</p> <p>参集訓練の実施に当たっての条件と実施結果を以下に示す。</p> <p>(1) 参集訓練の実施概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動経路は、通常参集ルートである一矢入口及び本谷入口、迂回ルートである宇中入口及び内カネ入口を通過して発電所にアクセスする4ルートを設定して実施。(第1図) ・移動速度の計測は、移動手段を徒歩として実施。 ・各コースとも2名/組で実施。 <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center;">第1図 集合場所（緑ヶ丘施設）からの参集訓練ルート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<p>3. 要員参集の検証結果</p> <p>(1) 概要</p> <p>重大事故等が発生した場合において、発電所外から参集する発電所災害対策要員の参集性を評価するため要員参集の検証を実施した。</p> <p>検証については、集合場所である共和町宮丘地区から大和門扉を経由し緊急時対策所までの区間、及び岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮までの区間について、参集する時間を実際に計測した。</p> <p>この結果から、事象発生から12時間以内に発電所災害対策要員が発電所外から参集可能であることを確認した。</p> <p>なお、共和町宮丘地区から大和門扉を経由し緊急時対策所までの区間については、緊急時に使用するルートであることから、計画的に参集訓練を実施する。</p> <p>(2) 共和町宮丘地区から大和門扉を経由し緊急時対策所までの区間の検証</p> <p>a. 実施概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動経路は、共和町宮丘地区から大和門扉を経由して緊急時対策所にアクセスするルート（紫実線）にて実施。(第1図) ・検証結果等を第1表に示す。 	<p>【島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根は、集合場所から緊急時対策所までの徒歩による参集訓練の実施結果を記載している。 ・泊は、『集合場所である共和町宮丘地区から大和門扉を経由し、緊急時対策所までの区間』及び『岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮までの区間』について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
	<p>(2) 参集訓練の実施結果</p> <p>第1表 参集訓練の実績結果（令和元年11月22日実施）</p> <table border="1" data-bbox="712 225 1319 501"> <thead> <tr> <th>ルート</th> <th>移動手段</th> <th>実際の移動距離</th> <th>参集時間</th> <th>実際の移動速度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①一矢ルート</td> <td>徒歩</td> <td>5.7km</td> <td>80分</td> <td>4.3 km/h (72 m/min)</td> <td>通常ルート</td> </tr> <tr> <td>②本谷ルート</td> <td>徒歩</td> <td>9.0km</td> <td>110分</td> <td>4.9 km/h (82 m/min)</td> <td>通常ルート</td> </tr> <tr> <td>③宇中ルート</td> <td>徒歩</td> <td>11.4km</td> <td>169分</td> <td>4.0 km/h (67 m/min)</td> <td>迂回ルート</td> </tr> <tr> <td>④内カネルート</td> <td>徒歩</td> <td>7.0km</td> <td>99分</td> <td>4.2 km/h (70 m/min)</td> <td>迂回ルート</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均移動速度</td> <td colspan="4">4.4 km/h (73 m/min)</td> </tr> </tbody> </table>	ルート	移動手段	実際の移動距離	参集時間	実際の移動速度	備考	①一矢ルート	徒歩	5.7km	80分	4.3 km/h (72 m/min)	通常ルート	②本谷ルート	徒歩	9.0km	110分	4.9 km/h (82 m/min)	通常ルート	③宇中ルート	徒歩	11.4km	169分	4.0 km/h (67 m/min)	迂回ルート	④内カネルート	徒歩	7.0km	99分	4.2 km/h (70 m/min)	迂回ルート	平均移動速度		4.4 km/h (73 m/min)				<p>第1表 検証結果等</p> <table border="1" data-bbox="1361 236 1935 738"> <thead> <tr> <th>日時、気象条件等</th> <th>検証実施者</th> <th>所要時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夜間 天候：雪 2018年1月31日 18:05～ 積雪(道路)： 10～20cm程度 風速：2.4m/s 気温：-6.0℃</td> <td>20代～50代 (13名)</td> <td>1時間14分</td> </tr> <tr> <td>夜間 天候：くもり 2019年2月27日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：8.9m/s 気温：1.0℃</td> <td>40代、50代 (10名)</td> <td>1時間</td> </tr> <tr> <td>夜間 天候：くもり 2020年2月17日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：2.1m/s 気温：1.9℃</td> <td>20代～50代 (10名)</td> <td>1時間</td> </tr> </tbody> </table>	日時、気象条件等	検証実施者	所要時間	夜間 天候：雪 2018年1月31日 18:05～ 積雪(道路)： 10～20cm程度 風速：2.4m/s 気温：-6.0℃	20代～50代 (13名)	1時間14分	夜間 天候：くもり 2019年2月27日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：8.9m/s 気温：1.0℃	40代、50代 (10名)	1時間	夜間 天候：くもり 2020年2月17日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：2.1m/s 気温：1.9℃	20代～50代 (10名)	1時間	<p>【島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 島根は、集合場所から緊急時対策所までの徒歩による参集訓練の実施結果を記載している。 泊は、『集合場所である共和町宮丘地区から大和門扉を經由し、緊急時対策所までの区間』について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。 また、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮までの区間についても、徒歩による要員参集の検証を実施しており、検証結果については、参考2 (3) 第2表に記載している。
ルート	移動手段	実際の移動距離	参集時間	実際の移動速度	備考																																														
①一矢ルート	徒歩	5.7km	80分	4.3 km/h (72 m/min)	通常ルート																																														
②本谷ルート	徒歩	9.0km	110分	4.9 km/h (82 m/min)	通常ルート																																														
③宇中ルート	徒歩	11.4km	169分	4.0 km/h (67 m/min)	迂回ルート																																														
④内カネルート	徒歩	7.0km	99分	4.2 km/h (70 m/min)	迂回ルート																																														
平均移動速度		4.4 km/h (73 m/min)																																																	
日時、気象条件等	検証実施者	所要時間																																																	
夜間 天候：雪 2018年1月31日 18:05～ 積雪(道路)： 10～20cm程度 風速：2.4m/s 気温：-6.0℃	20代～50代 (13名)	1時間14分																																																	
夜間 天候：くもり 2019年2月27日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：8.9m/s 気温：1.0℃	40代、50代 (10名)	1時間																																																	
夜間 天候：くもり 2020年2月17日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：2.1m/s 気温：1.9℃	20代～50代 (10名)	1時間																																																	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>3. 参集訓練の評価</p> <p>第1表の参集訓練の結果より、徒歩での移動速度は73m/min (4.4km/h)と算出され、本訓練の評価用歩行速度を67m/min (4.0km/h)で設定した。</p> <p>また、上記の参集性の評価に当たっては、測定結果に交通事情や道路条件及び道路上に発生した障害によって発生する迂回に要する時間を考慮し、保守的に参集に係る移動速度を67m/min (4.0km/h)とした。</p>	<p>b. 評価</p> <p>第1表の検証結果等より、条件の厳しい冬季、夜間においても徒歩での共和町宮丘地区から大和門扉を経由して緊急時対策所までの所要時間は最大で1時間14分であった。</p> <p>また、要員参集の想定時間は、検証結果に道路条件及び道路上に発生した橋梁の崩落や送電鉄塔の倒壊等の障害によって発生する迂回に要する時間を考慮し、保守的に参集に係る所要時間を3時間と設定した。</p>	<p>【島根】要員参集の検証における評価方法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根は、集合場所から緊急時対策所までの参集ルートにおいて参集訓練を行い、その結果から保守的に参集に係る移動速度を4.0km/hと設定している。 ・島根は、発電所から10km地点に所在する要員の参集時間については、移動速度を4.0km/h、発災後30分後に自宅を出発することを考慮し、6.5時間と設定している。 ・泊は、集合場所である共和町宮丘地区から大和門扉を経由し緊急時対策所までルートにおいて、要員参集の検証を行い、その結果から3時間以内に要員が参集可能であることを確認した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 参集訓練の様子 参集訓練の様子を第2図に示す。</p>  <p>一矢ルート 本谷ルート</p> <p>宇中ルート 内カネルート</p> <p>第2図 参集訓練の様子</p>	<p>c. 検証の様子 冬季、夜間に実施した要員参集の検証の様子を第4図に示す。</p>  <p>※：道路脇にスノーボールを設置（赤矢印）</p> <p>第4図 要員参集の検証の様子</p> <p>(3) 岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から共和町富丘地区までの区間の検証</p> <p>a. 実施概要 移動経路は、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）*から最も距離が長くなるルートにて実施。（第5図）</p> <p>※：発電所災害対策要員の主な居住地である岩内町において、津波による被害を想定し、岩内町の避難場所の1つである岩内町高台地区の岩内町地域交流センターを出発地点として設定。</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、冬季、夜間に実施した要員参集の検証の様子を示した。</p> <p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町富丘地区のエナメゾン共和寮までの区間について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由										
		<p>泊発電所3号炉</p> <p>※：①～⑥は検証の様子撮影箇所（第6図）</p> <p>第5図 岩内町高台地区から共和町宮丘地区（集合場所）までの要員参集の検証ルート</p> <p>第2表 検証結果等</p> <table border="1" data-bbox="1346 895 1951 1134"> <thead> <tr> <th colspan="2">日時、気象条件等</th> <th>検証実施者</th> <th>所要時間・距離</th> <th>歩行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天候： 午前中は おおむね 晴れ、午 後は曇り 一時雪</td> <td>2021年12月21日 気温： 2.7℃(最高気 温)、0.7℃(最低 気温) 積雪：約14cm</td> <td>6名 (20代1名、30 代1名、40代1 名、50代2名、 60代1名)</td> <td>3時間34分 約19km</td> <td>約5.3km/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>b. 評価 第2表の検証結果等より、条件の厳しい冬季においても徒歩での岩内町高台地区から集合場所である共和町宮丘地区までの所要時間は最大で約3時間34分であった。</p>	日時、気象条件等		検証実施者	所要時間・距離	歩行速度	天候： 午前中は おおむね 晴れ、午 後は曇り 一時雪	2021年12月21日 気温： 2.7℃(最高気 温)、0.7℃(最低 気温) 積雪：約14cm	6名 (20代1名、30 代1名、40代1 名、50代2名、 60代1名)	3時間34分 約19km	約5.3km/h	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮までの区間について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。</p>
日時、気象条件等		検証実施者	所要時間・距離	歩行速度									
天候： 午前中は おおむね 晴れ、午 後は曇り 一時雪	2021年12月21日 気温： 2.7℃(最高気 温)、0.7℃(最低 気温) 積雪：約14cm	6名 (20代1名、30 代1名、40代1 名、50代2名、 60代1名)	3時間34分 約19km	約5.3km/h									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>c. 検証の様子 冬季に実施した要員参集の検証の様子を第6図に示す。</p>  <p>第6図 要員参集の検証の様子</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮までの区間について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>(4) まとめ</p> <p>要員参集の検証結果、以下の条件等を踏まえ、事象発生後12時間を目途に参集することが可能な地域について整理した。</p> <p>a. 条件等</p> <p>①事象発生後12時間を目途に参集要員を確保するため、保守的に参集目途時間を10時間とする。</p> <p>②所在場所から集合場所（共和町宮丘地区）までの徒歩移動速度は、4.0km/h[*]と想定。</p> <p>③所在場所での出発準備時間として30分を考慮。</p> <p>④集合場所での情報収集、装備品及び携行資機材の準備等（休息含む。）に30分を考慮。</p> <p>⑤集合場所（共和町宮丘地区）から発電所構内の緊急時対策所までの区間は、大和門扉ルートを使用した要員参集の検証実績を考慮し保守的に3時間とする。</p> <p>⑥長時間の移動を考慮して、55分移動して5分の休憩を想定。</p> <p>※：歩行実績約5.3km/hに対して、悪天候時の影響を考慮し保守的に4.0km/hとする。</p> <p>b. 集合場所までの移動に使用可能な時間 =【参集目途時間】-【出発準備時間】+【集合場所での情報収集時間】+【集合場所から発電所までの移動に要する時間】 =10(h)-【0.5(h)】+【0.5(h)】+【3(h)】 =6(h)</p> <p>c. 集合場所までの徒歩での移動可能距離 =6(h)×4(km/h)×55(min)/60(min)=22km</p> <p>d. 岩内町から集合場所までの距離が最も長くなるよう設定した要員参集の検証ルートが約19kmであること及び大きく迂回する形となっていることを踏まえ、発電所から半径12.5km圏内にある共和町宮丘地区、共和町（宮丘地区を除く）、岩内町及び泊村滝ノ瀬地区を参集可能地域と設定した。</p>	<p>【島根】要員参集の検証における評価方法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、事象発生後12時間を目途に参集要員を確保することとしており、保守的に参集時間を10時間と設定している。 ・出発準備時間、休憩等を考慮し、集合場所までの徒歩での移動可能距離は22kmとなることから、事象発生後12時間を目途に参集することが可能な地域は、要員参集の検証ルートの距離等から発電所から半径12.5km圏内と設定している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙補足1</p> <p style="text-align: center;">鉄塔倒壊時のアクセスについて</p> <p>1. 鉄塔の倒壊と参集ルートについて 発電所周囲には500kV、220kV及び66kVの送電鉄塔が設置されており、送電線及び送電鉄塔は参集ルート上を横断又は参集ルートに近接している。(第1図) 送電線の脱落及び断線、あるいは送電鉄塔が倒壊した場合においても、垂れ下がった送電線又は倒壊した送電鉄塔に対して十分な離隔距離を保って通行すること、又は複数の参集ルートからその他の適切な参集ルートを選択することで、発電所に参集することは可能である。</p> <p>2. 送電鉄塔の倒壊時に通行する参集ルート 送電鉄塔の倒壊等が発生した際に通行する参集ルートについては、倒壊した送電鉄塔の場所及び損壊状況に応じて、その他の複数の参集ルートから、以下の事項を考慮して、確実に安全を確保できる適切な参集ルートを選定して通行する。 ・大津波警報発生の有無 ・倒壊した送電鉄塔及び送電線の損壊状況及び送電線の停電状況 ・上記以外の倒壊物による参集ルートへの影響状況</p> <div data-bbox="712 863 1317 1289" style="border: 1px solid black; height: 200px; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center;">第1図 発電所周辺の参集ルートと送電鉄塔の位置</p> <div data-bbox="797 1353 1317 1401" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<p style="text-align: right;">＜参考3＞</p> <p style="text-align: center;">鉄塔倒壊時のアクセスについて</p> <p>1. 鉄塔の倒壊と参集ルートについて 発電所周囲には275kV及び66kVの送電鉄塔が設置されており、送電線及び送電鉄塔は参集ルート上を横断又は参集ルートに近接している。(第1図) 送電線の脱落及び断線、あるいは送電鉄塔が倒壊した場合においても、垂れ下がった送電線又は倒壊した送電鉄塔に対して十分な離隔距離を保って通行すること、又は複数の参集ルートからその他の適切な参集ルートを選択することで、発電所に参集することは可能である。</p> <p>2. 送電鉄塔の倒壊時に通行する参集ルート 送電鉄塔の倒壊等が発生した際に通行する参集ルートについては、倒壊した送電鉄塔の場所及び損壊状況に応じて、その他の複数の参集ルートから、以下の事項を考慮して、確実に安全を確保できる適切な参集ルートを選定して通行する。 ・大津波警報発生の有無 ・倒壊した送電鉄塔及び送電線の損壊状況及び送電線の停電状況 ・上記以外の倒壊物による参集ルートへの影響状況</p> <div data-bbox="1341 836 1946 1270" style="border: 1px solid yellow; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div> <p style="text-align: center;">第1図 発電所周辺の参集ルートと送電鉄塔の位置</p>	<p>【女川】記載方針の相違 ・泊は、発電所近傍にある送電鉄塔の倒壊による障害を想定した参集ルートの設定を行い、送電鉄塔が倒壊した場合における通行の考え方を参考3に整理している。(島根と同様)</p> <p>【島根】倒壊を想定する送電鉄塔の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(1) 66kV No. 54-甲及び No. 54-乙送電鉄塔が倒壊した場合 発電所進入道路を阻害することになる 66kV No. 54-甲及び No. 54-乙送電鉄塔の倒壊が起きても、これらの送電鉄塔を迂回することでアクセスすることは可能である。(第2図)</p> <div data-bbox="736 434 1285 925" data-label="Image"> </div> <p>第2図 一矢入口周辺の参集ルートと送電鉄塔の位置</p> <div data-bbox="801 1023 1319 1066" data-label="Text"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<p>(1) 275kV送電鉄塔が倒壊した場合 発電所進入道路を阻害することになる275kV送電鉄塔の倒壊が起きても、第二大門扉を通過するルートによりこれらの送電鉄塔、送電線等を迂回することでアクセスすることは可能である。(第1図)</p> <p>(2) 66kV泊支線No.5鉄塔が倒壊した場合 51m倉庫・車庫エリア付近に設置されている66kV泊支線No.5鉄塔の倒壊が起きても、これらの送電鉄塔、送電線等を迂回することでアクセスすることは可能である。(第2図)</p> <div data-bbox="1346 434 1955 919" data-label="Image"> </div> <p>第2図 51m倉庫・車庫エリア付近の参集ルートと送電鉄塔の位置</p>	<p>【島根】記載表現の相違 ・泊は、発電所周囲に設置している275kV及び66kVの送電鉄塔が倒壊した場合を想定し、迂回ルートを設定している。島根は、66kV送電鉄塔のみであるが、送電鉄塔が倒壊した場合、送電鉄塔を迂回することで参集可能となることについては同様である。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>3. 倒壊した送電鉄塔の影響について 自然災害により送電鉄塔が倒壊した事例を第3図に示す。</p>  <p>強風による送電鉄塔の倒壊事例①^{*1} 強風による送電鉄塔の倒壊事例②^{*1}</p> <p>地震による斜面の崩落に伴う送電鉄塔の倒壊事例^{*2}</p> <p>津波による隣接鉄塔の倒壊に伴う送電鉄塔の倒壊事例^{*3}</p> <p>【出典】 ※1：電力安全小委員会送電鉄塔倒壊事故調査ワーキンググループ報告書（平成14年11月28日） ※2：原子力安全・保安部会・電力安全小委員会電気設備地震対策ワーキンググループ報告書（平成24年3月）</p> <p>第3図 自然災害による送電鉄塔の倒壊事例</p> <p>重大事故等に対処する要員は、送電線の停電など安全を確認した上で、倒壊した送電鉄塔の影響を受けていない箇所を、離隔距離を保って迂回するルートで鉄塔の近傍を通過することが可能である。</p>	<p>3. 倒壊した送電鉄塔の影響について 自然災害により送電鉄塔が倒壊した事例を第3図に示す。</p>  <p>強風による送電鉄塔の倒壊事例①^{*1} 強風による送電鉄塔の倒壊事例②^{*1}</p> <p>地震による斜面の崩落に伴う送電鉄塔の倒壊事例^{*2}</p> <p>津波による隣接鉄塔の倒壊に伴う送電鉄塔の倒壊事例^{*3}</p> <p>大雪による鉄塔倒壊事例^{*3}</p> <p>【出典】 ※1：電力安全小委員会送電鉄塔倒壊事故調査ワーキンググループ報告書（平成14年11月28日） ※2：原子力安全・保安部会・電力安全小委員会電気設備地震対策ワーキンググループ報告書（平成24年3月） ※3：第28回電力安全小委員会資料2-1（令和5年2月28日）</p> <p>第3図 自然災害による送電鉄塔の倒壊事例</p> <p>発電所災害対策要員は、送電線の停電等安全を確認した上で、倒壊した送電鉄塔の影響を受けていない箇所を離隔距離を保って迂回するルートで鉄塔の近傍を通過することが可能である。</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・大雪による鉄塔倒壊事例を追加した。</p>

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																							
該当箇所無し	該当箇所無し	<p style="text-align: right;">補足資料(11)</p> <p style="text-align: center;">第1098回審査会合（令和4年12月6日）からの 主要な変更点について</p> <p>第1098回審査会合（令和4年12月6日）から第1149回審査会合（令和5年5月25日）における主な変更点を以下に示す。</p> <p>1. 可搬型設備の位置付け、台数及び保管場所の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効性評価において期待しているホース延長・回収車（送水車用）の位置付けを自主対策設備から重大事故等対処設備に変更することに伴い、配置数を4台から6台に変更する。 可搬型水中ポンプ（地下水低下設備が機能喪失した場合に復旧作業を行うために必要な資機材）の配置箇所の設定に伴い、可搬型直流電源用発電機の保守点検時の予備の保管場所を1、2号炉北側31mエリアから展望台行管理道路脇西側60mエリアに変更する。 重大事故等対処設備に位置付けた集水樹シルトフェンスを新たに配備する。 放射性物質吸着剤の位置付けを重大事故等対処設備から自主対策設備に変更し、保管場所をT.P.10m集水樹から51m倉庫・車庫エリアに変更する。 <p>第1表 可搬型設備の位置付け、台数及び保管場所の変更 一覧</p> <table border="1" data-bbox="1346 847 1955 1093"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th rowspan="2">設備名</th> <th rowspan="2">配置数</th> <th colspan="6">保管場所</th> </tr> <tr> <th>51m倉庫・車庫エリア</th> <th>1号炉西側31mエリア</th> <th>1、2号炉北側31mエリア</th> <th>2号炉北側31mエリア(a)</th> <th>2号炉東側31mエリア(b)</th> <th>展望台行管理道路脇西側60mエリア</th> <th>緊急時対策所エリア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重大事故等 対処設備 (2台+4台設備)</td> <td>ホース延長 ・回収車 (送水車用)</td> <td>6台</td> <td>2台</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2台</td> <td>1台</td> <td>1台</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>重大事故等 対処設備 (2台+4台設備)</td> <td>可搬型直流 電源用発電機</td> <td>4台</td> <td>-</td> <td>1台</td> <td>2</td> <td>1台</td> <td>1台</td> <td>1台</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>重大事故等 対処設備 (1台設備)</td> <td>集水樹シルト フェンス</td> <td>3組</td> <td>1組</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2組</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>自主対策設備</td> <td>放射性物質 吸着剤</td> <td>1式</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">51m倉庫・車庫エリア</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">下線部：変更箇所</p>	分類	設備名	配置数	保管場所						51m倉庫・車庫エリア	1号炉西側31mエリア	1、2号炉北側31mエリア	2号炉北側31mエリア(a)	2号炉東側31mエリア(b)	展望台行管理道路脇西側60mエリア	緊急時対策所エリア	重大事故等 対処設備 (2台+4台設備)	ホース延長 ・回収車 (送水車用)	6台	2台	-	-	2台	1台	1台	-	重大事故等 対処設備 (2台+4台設備)	可搬型直流 電源用発電機	4台	-	1台	2	1台	1台	1台	-	重大事故等 対処設備 (1台設備)	集水樹シルト フェンス	3組	1組	-	-	2組	-	-	-	自主対策設備	放射性物質 吸着剤	1式	51m倉庫・車庫エリア						
分類	設備名	配置数				保管場所																																																				
			51m倉庫・車庫エリア	1号炉西側31mエリア	1、2号炉北側31mエリア	2号炉北側31mエリア(a)	2号炉東側31mエリア(b)	展望台行管理道路脇西側60mエリア	緊急時対策所エリア																																																	
重大事故等 対処設備 (2台+4台設備)	ホース延長 ・回収車 (送水車用)	6台	2台	-	-	2台	1台	1台	-																																																	
重大事故等 対処設備 (2台+4台設備)	可搬型直流 電源用発電機	4台	-	1台	2	1台	1台	1台	-																																																	
重大事故等 対処設備 (1台設備)	集水樹シルト フェンス	3組	1組	-	-	2組	-	-	-																																																	
自主対策設備	放射性物質 吸着剤	1式	51m倉庫・車庫エリア																																																							

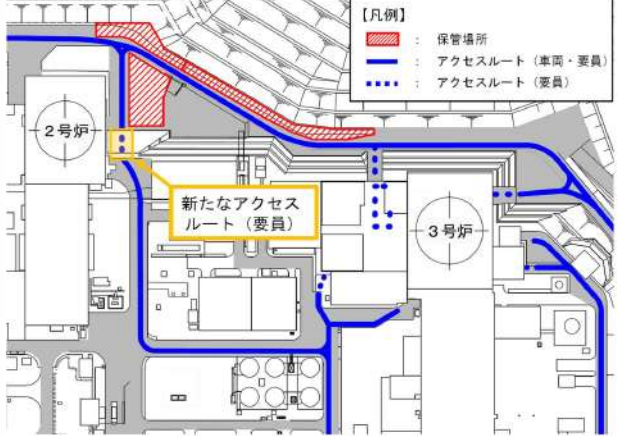

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p>2. アクセスルート仮復旧作業の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外作業の有効性評価の制限時間に対する余裕時間を確保するため、51m倉庫・車庫エリアからのアクセスルートが周辺斜面の崩壊影響を受けないよう道路の拡幅を行うこととした。（第1図参照） ・これにより、アクセスルート復旧作業なしで可搬型設備の通行が可能となった。  <p>第1図 51m倉庫・車庫エリアからのアクセスルートの道路拡幅イメージ</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由
		<p>3. アクセスルート（要員）の追加及びホース敷設ルートの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 2号炉脇の法面箇所については、ホース敷設後の充水確認及び定期的な点検を行うための固定梯子を設置し、アクセスルート（要員）を確保する。（第2図参照） 使用済燃料ピット注水のホース敷設ルートのうち3号原子炉建屋東側を経由したルートについては、3号炉脇の法面箇所を通行しないルートに変更する。（第3図参照）  <p>第2図 アクセスルート（要員）の追加（2号炉脇の法面箇所）</p>  <p>第3図 ホース敷設ルート変更（使用済燃料ピット注水）</p>	
		<p>4. 3号炉原子炉建屋西側を経由したルートの設定変更</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・3号炉原子炉建屋西側を経由したルートは3号炉タービン建屋を一部通行するルートを設定していたが、女川2号炉における審査実績を踏まえ、地震によるタービン建屋内の配管破損等の影響を考慮して、3号炉タービン建屋を通行しないルートに設定変更している。（第4図参照） ・設定変更したルートを使用する以下①、②の作業について、要員、想定時間、ホース圧損等の成立性の確認を行った。 ①：原子炉補機冷却水系への通水確保（海水） ②：ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ及び可搬型タンクローリーを用いた燃料補給 	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由
		<p>変更前</p> <p>変更後</p> <p>第4図 3号炉原子炉建屋西側を経由したルートの設定変更</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

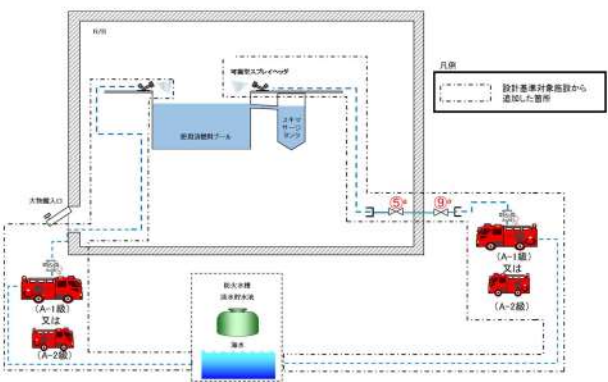

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p>(1) 原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の成立性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本作業のルート設定変更の結果を第5図に、設定変更に伴う要員数、想定時間等の結果を第2表に示す。 ・ ホース敷設等の作業量の増加により要員数を従来の3人から6人に増員させる必要があるが、想定時間である4時間10分に変更はなく、この想定時間内（所要時間目安：3時間20分）に対応可能であることを確認した。要員数の変更による有効性評価の成立性への影響については第6図に示す。 ・ 原子炉補機冷却水系への通水に必要な流量は、ホース・配管圧損を考慮しても必要な流量が確保可能であることを確認した。 ・ 災害対策要員を3人から6人に増員したが、災害対策要員の総数7人に変更がなく有効性評価の成立性に影響がないことを第6図のとおり確認した。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 有効性評価のうち本作業の制限時間が最も短い「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」を代表として記載した。 ・ 以上のことから、有効性評価の成立性に影響がないことを確認した。 	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

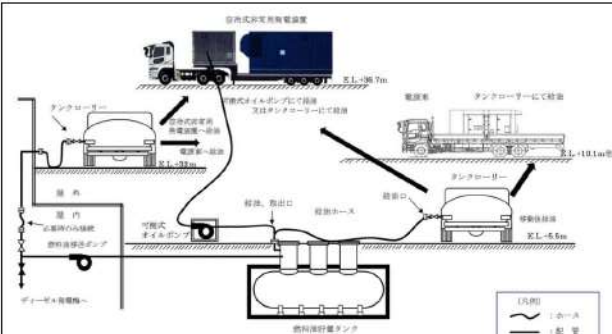

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																								
	<p>【柏崎刈羽 6, 7号炉のまとめ資料（技術的能力 1.11）より転載】</p>  <table border="1" data-bbox="772 630 1254 710"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>弁名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑤</td> <td>SFP接続口内側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>SFP接続口外側隔離弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>第 1.11.8 図 燃料プール代替注水系による可搬型スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水（淡水/海水） 概要図</p>	操作手順	弁名称	⑤	SFP接続口内側隔離弁	③	SFP接続口外側隔離弁	 <p>第 5 図 原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の概略図</p> <p>第 2 表 原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の変更結果</p> <table border="1" data-bbox="1344 813 1960 1061"> <thead> <tr> <th></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要員数</td> <td>災害対策要員 3 人</td> <td>災害対策要員 6 人</td> </tr> <tr> <td>所要時間目安</td> <td>3 時間 25 分</td> <td>3 時間 20 分</td> </tr> <tr> <td>想定時間</td> <td>4 時間 10 分</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>系統成立性</td> <td>187.5m³/h 以上 確保可能</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>タイムチャート</td> <td colspan="2">変更あり（詳細を第 6 図に記載）</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">下線部：変更箇所</p>		変更前	変更後	要員数	災害対策要員 3 人	災害対策要員 6 人	所要時間目安	3 時間 25 分	3 時間 20 分	想定時間	4 時間 10 分	変更なし	系統成立性	187.5m ³ /h 以上 確保可能	変更なし	タイムチャート	変更あり（詳細を第 6 図に記載）		<p>【女川及び島根】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋西側を経由したホースルートについては、一部、常設配管を経由して屋内の接続口に接続する設計としている。（原子炉建屋の外から水を供給するためのホースルートのうち屋外から屋内に接続する経路について一部、常設配管を経由してホースを敷設する設計については柏崎と同様）
操作手順	弁名称																										
⑤	SFP接続口内側隔離弁																										
③	SFP接続口外側隔離弁																										
	変更前	変更後																									
要員数	災害対策要員 3 人	災害対策要員 6 人																									
所要時間目安	3 時間 25 分	3 時間 20 分																									
想定時間	4 時間 10 分	変更なし																									
系統成立性	187.5m ³ /h 以上 確保可能	変更なし																									
タイムチャート	変更あり（詳細を第 6 図に記載）																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由
	<p>【美浜 3号炉のまとめ資料（技術的能力 1.14）より転載】</p>  <p>第 1.14.24 図 空冷式非常用発電装置、電源車等への燃料（重油）補給 概略図</p>	<p>(2) ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ及び可搬型タンクローリーを用いた燃料補給の成立性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本作業のルート設定変更の結果を第 7 図に、設定変更に伴う要員数、想定時間等の結果を第 3 表に示す。 ・ホース敷設等の作業量の増加により所要時間が増加するが、要員数 3 人及び想定時間内（所要時間目安：2 時間 21 分）に対応可能であることを確認した。 ・要員数及び想定時間に変更がないことからタイムチャートに変更がないことを確認した。 ・燃料補給に必要な流量は、ホース・配管等の圧損を考慮しても確保可能であることを確認した。 ・以上のことから、本変更に伴う作業の成立性に影響がないことを確認した。  <p>第 7 図 ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ及び可搬型タンクローリーを用いた燃料補給のルート概略図</p> <p>第 3 表 ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ及び可搬型タンクローリーを用いた燃料補給の変更結果</p>	<p>【女川及び島根】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、燃料油移送ポンプを用いた燃料油貯油槽からの燃料汲み上げのためのホースルートについて一部、常設配管を経由したルートを設定しており、燃料の直接汲み上げ手順のみを整備している女川、島根と異なっている。（美浜 3号炉と同様）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																				
		<table border="1" data-bbox="1346 153 1953 443"> <thead> <tr> <th></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">要員数</td> <td>運転員 1人</td> <td rowspan="3">変更なし</td> </tr> <tr> <td>災害対策要員 2人</td> </tr> <tr> <td>合計 3人</td> </tr> <tr> <td>所要時間目安</td> <td>2時間 06分</td> <td>2時間 21分</td> </tr> <tr> <td>想定時間</td> <td>3時間</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>系統成立性</td> <td>6m³/h 以上確保可能</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>タイムチャート</td> <td colspan="2">変更なし</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">下線部：変更箇所</p> <p>5. 屋内のアクセスルートのうち地震による内部溢水の水位評価概要図の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 設置許可基準規則第9条（溢水による損傷の防止等）の評価方針及び先行審査実績を確認し、屋内のアクセスルートにおける溢水水位の評価方法を記載した水位評価概要図を以下のとおり変更した（第8図（変更後））。 <ul style="list-style-type: none"> 第9条の溢水水位の評価方針では、目皿の排水及びサンプタンクへの流入に期待せず水位を評価している（第9図及び第4表）。アクセスルートの溢水評価もこれと同様の評価方針であるにもかかわらず、説明資料で示した水位評価概要図（第8図（変更前））では目皿の排水及びサンプタンクに期待する図となっていたことから、評価方針と整合するよう適正化した。 一方、両者の評価方針については、第9条における溢水評価では、評価対象の階層においては床開口部の排水に期待せず、さらにその上の層階における溢水量（全量）を含めて溢水水位として設定することに対して、アクセスルートでの溢水評価では、より現実的な想定で、評価対象の階層においては床開口部からの排水に期待するとともに、当該箇所の最大堰高さを溢水水位として設定する点で相違している。このため、この相違点が明確となるよう溢水水位評価概要図を適正化した。 <div data-bbox="1346 1166 1953 1426"> </div> <p style="text-align: center;">第8図 アクセスルートの溢水水位評価概要図の変更内容</p>		変更前	変更後	要員数	運転員 1人	変更なし	災害対策要員 2人	合計 3人	所要時間目安	2時間 06分	2時間 21分	想定時間	3時間	変更なし	系統成立性	6m ³ /h 以上確保可能	変更なし	タイムチャート	変更なし		
	変更前	変更後																					
要員数	運転員 1人	変更なし																					
	災害対策要員 2人																						
	合計 3人																						
所要時間目安	2時間 06分	2時間 21分																					
想定時間	3時間	変更なし																					
系統成立性	6m ³ /h 以上確保可能	変更なし																					
タイムチャート	変更なし																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																
		<div data-bbox="1346 178 1955 707"> <p>第9条（溢水による損傷の防止等）</p> <p>上部の階層で発生した溢水量の全量が流入する。</p> <p>評価する階層においては、床開口部からの排水には期待せず、全量滞留する。</p> <p>目皿の排水には期待しない。</p> <p>上層階を評価する場合</p> <p>止水に期待できる設備により溢水は流入しない。</p> <p>上部の階層で発生した溢水量の全量が流入する。</p> <p>サンプタンクには期待しない。</p> <p>溢水防護区画</p> <p>最地下階を評価する場合</p> </div> <p>第9図 第9条における溢水水位評価概要図</p> <p>第4表 第9条とアクセスルートとの比較</p> <table border="1" data-bbox="1346 820 1955 1114"> <thead> <tr> <th></th> <th>第9条 (溢水による損傷の防止等)</th> <th>第43条、技術1.0 [アクセスルート]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価対象範囲</td> <td>溢水防護区画</td> <td>アクセスルートエリア^{※1}</td> </tr> <tr> <td>溢水高</td> <td>地震により破損する機器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水量</td> <td>使用済燃料ピット(スロッシング)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水経路</td> <td>設備の構造が複数箇所でも発生すること</td> <td>第9条を踏まえる</td> </tr> <tr> <td>溢水経路</td> <td>床開口部（階段等）及び溢水影響評価において期待することのできる設備（艇等）の抽出を行い設定（溢水伝播経路図）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層階の水位設定</td> <td>複数ある伝播経路のうち溢水防護区画の水位が最も高くなるよう溢水経路を設定し、この場合の溢水量と密閉面積から水位算出</td> <td>下階に排水される床開口部のうち最大高さ水位設定^{※2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">溢水水位</td> <td>目皿の排水</td> <td>期待しない（第9条と整合）</td> </tr> <tr> <td>床開口部からの排水</td> <td>期待する^{※2}</td> </tr> <tr> <td>最地下階の水位設定</td> <td>複数ある伝播経路のうち溢水防護区画の水位が最も高くなるよう溢水経路を設定し、この場合の溢水量と密閉面積から水位算出</td> <td>伝播経路上にある溢水部の全溢水量と密閉面積から算出した水位を設定^{※2}</td> </tr> <tr> <td>評価基準</td> <td>溢水水位<機能喪失高さ</td> <td>溢水水位<通行困難水位^{※1}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：第9条と評価の観点異なるため相違している。 ※2：重大事故等時の実質の通行性を評価するアクセスルートでは現実的な想定で床開口部からの排水に期待している。</p>		第9条 (溢水による損傷の防止等)	第43条、技術1.0 [アクセスルート]	評価対象範囲	溢水防護区画	アクセスルートエリア ^{※1}	溢水高	地震により破損する機器		溢水量	使用済燃料ピット(スロッシング)		溢水経路	設備の構造が複数箇所でも発生すること	第9条を踏まえる	溢水経路	床開口部（階段等）及び溢水影響評価において期待することのできる設備（艇等）の抽出を行い設定（溢水伝播経路図）		上層階の水位設定	複数ある伝播経路のうち溢水防護区画の水位が最も高くなるよう溢水経路を設定し、この場合の溢水量と密閉面積から水位算出	下階に排水される床開口部のうち最大高さ水位設定 ^{※2}	溢水水位	目皿の排水	期待しない（第9条と整合）	床開口部からの排水	期待する ^{※2}	最地下階の水位設定	複数ある伝播経路のうち溢水防護区画の水位が最も高くなるよう溢水経路を設定し、この場合の溢水量と密閉面積から水位算出	伝播経路上にある溢水部の全溢水量と密閉面積から算出した水位を設定 ^{※2}	評価基準	溢水水位<機能喪失高さ	溢水水位<通行困難水位 ^{※1}	
	第9条 (溢水による損傷の防止等)	第43条、技術1.0 [アクセスルート]																																	
評価対象範囲	溢水防護区画	アクセスルートエリア ^{※1}																																	
溢水高	地震により破損する機器																																		
溢水量	使用済燃料ピット(スロッシング)																																		
溢水経路	設備の構造が複数箇所でも発生すること	第9条を踏まえる																																	
溢水経路	床開口部（階段等）及び溢水影響評価において期待することのできる設備（艇等）の抽出を行い設定（溢水伝播経路図）																																		
上層階の水位設定	複数ある伝播経路のうち溢水防護区画の水位が最も高くなるよう溢水経路を設定し、この場合の溢水量と密閉面積から水位算出	下階に排水される床開口部のうち最大高さ水位設定 ^{※2}																																	
溢水水位	目皿の排水	期待しない（第9条と整合）																																	
	床開口部からの排水	期待する ^{※2}																																	
最地下階の水位設定	複数ある伝播経路のうち溢水防護区画の水位が最も高くなるよう溢水経路を設定し、この場合の溢水量と密閉面積から水位算出	伝播経路上にある溢水部の全溢水量と密閉面積から算出した水位を設定 ^{※2}																																	
評価基準	溢水水位<機能喪失高さ	溢水水位<通行困難水位 ^{※1}																																	

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(14)</p> <p>保管場所内の可搬型設備配置について</p> <p>女川原子力発電所の可搬型設備保管場所は第1図のとおりであり、保管場所における可搬型設備（車両型）の配置については第2図、第3図に示す。</p>	<p style="text-align: right;">補足(16)</p> <p>保管場所内の可搬型設備配置について</p> <p>1. 可搬型設備の配置の考え方</p> <p>各保管エリア内の可搬型設備の配置は、以下事項を満足した必要な離隔距離を確保する設計とすることから、隣接する可搬型設備及びアクセスルートに影響を与えることはない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両の地震による転倒防止及び加振試験による変位量を考慮した離隔距離の確保^{※1} ・竜巻による飛散防止を考慮した固縛^{※2} ・車両火災による他の車両への影響を想定した離隔距離(3.0m以上)の確保^{※3} ・保管場所の敷地境界から3.0m以上の空地の確保^{※4} <p>また、可搬型設備は、作業性及び車両の動線を考慮し、手順毎に設備をまとめて配置する設計とすることから、搬出に支障となることはない。また、車両移動を考慮した通行幅は、アクセスルートに必要な通行幅(3.0m以上^{※3})を確保し、他の可搬型設備と干渉しない設計とすることから、搬出に支障はない。</p> <p>保管エリア毎の可搬型設備の配置を第1～5図に示す。</p> <p>※1：車両同士の離隔距離は、隣り合う設備の変位量（加振試験にて確認した変位量であり、第1、3、4保管エリアの最大値は約1.5m、第2保管エリアの最大値は約1.8m）の合算値以上とする。</p> <p>なお、車両と構造物（遮蔽壁、コンテナ等）間は、構造物は移動しない（コンテナはボルト固定、免震重要棟は最大変位量を考慮）ことから、車両の変位量以上の離隔距離を確保する。</p> <p>※2：飛来物発生防止対策エリア内のみを対象とする。</p> <p>※3：「設置許可基準規則」第六条（外部火災）における評価。保管場所において、車両（可搬型設備）の火災が起こったとしても周囲の車両に影響を及ぼさないことを評価。具体的には、燃料積載量の大きい大型送水ポンプ車（エンジン用燃料タンク）の火災により熱容量の最も小さいタンクローリ（走行用燃料タンク）が受熱する際に、軽油の温度が許容限界温度となる危険距離を求める。</p> <p>その結果、危険距離は2.2mとなり、可搬型設備間の離隔距離を3.0m以上取ることにより、影響を及ぼすことはないと評価できる。</p> <p>※4：可搬型設備には危険物である燃料油や可燃物を含むものがあることから、その保管場所については、「危険物の規則に関する政令」で要求される空地のない対象設備は、同令「屋外タンク貯蔵所」とみなし、同令第十一条第一項第二号で要求さ</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(12)</p> <p>保管場所内の可搬型設備配置について</p> <p>泊発電所の可搬型設備保管場所は第1図のとおりであり、保管場所における可搬型設備の配置については第2図に示す。</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】記載方針の相違 ・泊は女川の資料構成をベースとして作成。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表


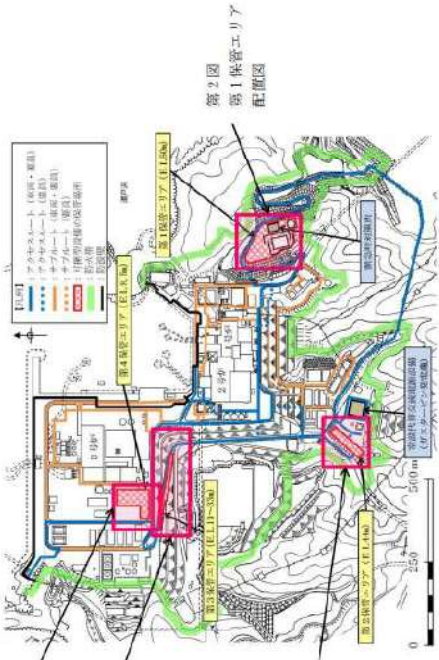

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>れる空地の幅を参考にして、保管場所の敷地境界から3.0m以上の空地を確保する。</p> <p>※5：可搬型設備のうち最大車両幅を有する大型送水ポンプ車の車両幅（約2.5m）及び使用するホースのうち最大サイズの300Aホース1本敷設の幅（約0.4m）を考慮し、設定する。なお、その他のサイズのホース使用時も1本敷設で使用する。</p> <p>2. 第1保管エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各可搬型設備は、必要な離隔距離を確保したうえで、作業性を考慮して手順毎に使用する設備をまとめて配置する。また、同一手順で使用する可搬型設備同士を必要に応じて縦列配置にする設計とする。 緊急時対策関連設備（緊急時対策所用発電機、緊急時対策所正圧化装置（空気ポンプ）、緊急時対策所空気浄化送風機、緊急時対策所空気浄化フィルタユニット）は、配置場所にて使用するため移動することはない。 第1保管エリア内の通路のうち最も狭い免震重要棟遮蔽壁と緊急時対策所間等においても通路幅は約4mあり、可搬型設備のうち最大幅の大型送水ポンプ車の車両幅（約2.5m）を考慮しても、通行に支障はない。 第1保管エリア内の最小離隔距離は、免震重要棟遮蔽壁と化学消防自動車等間の1.5mであり、地震による変位量を考慮し、互いに干渉しない設計とする。 一部に埋戻部が存在することから、詳細設計段階において決定する地下水位が埋戻部下端で浅となる場合、噴砂による不陸の影響の評価を実施し、不陸の発生が想定される場合は、あらかじめ路盤補強等の対策を行う。 <p>3. 第2保管エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）の上部に、淡水送水手順に使用する大量送水車、中型ホース展開車（150A）、可搬型ストレーナを、必要な離隔距離を確保した上で、縦列配置する設計とする。 中型ホース展開車（150A）は、出入口近傍に配置し、搬出する際に、大量送水車と干渉しない設計とする。 第2保管エリア内の最小離隔距離は、可搬型ストレーナ間の5.6mであり、互いに干渉しない設計とする。 <p>4. 第3保管エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型設備毎に、コンクリート基礎を設置し、それぞれ出入口を確保したうえで、他可搬型設備と干渉しない設計とする。なお、コンクリート基礎は、地震時における各可搬型設備の変位量を考慮した十分な広さを確保し、コンクリート基礎から落下しない設計とする。また、可搬型設備同士は必要な離隔距離を確保する。 第3保管エリア内の最小離隔距離は、可搬型ストレーナ間の2.5m 		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第1図 可搬型設備保管場所</p> 	<p>であり、互いに干渉しない設計とする。</p> <p>5. 第4保管エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各可搬型設備は、必要な離隔距離を確保したうえで、手順毎に使用する設備をまとめて配置する。また、同一手順で使用する可搬型設備同士を必要に応じて縦列配置にする設計とする。 重大事故等時に、優先的に使用する可搬型設備は、出入口付近に配置する設計とする。 埋戻土上には、可搬型重大事故等対処設備（α及び予備を除く。）は配置しない。 第4保管エリア内の最小離隔距離は、大型送水ポンプ車と大型ホース展開車（300A）間等の3.0mであり、地震による変位量を考慮し、互いに干渉しない設計とする。 可搬型設備（α及び予備を除く。）は、切土地盤（岩盤）上に保管し、通行範囲の埋戻土はあらかじめコンクリート置換等の対策を実施することから、噴砂による不陸の影響はない。 <p>第1図 保管場所及び屋外アクセスルート図</p> 	<p>第1図 可搬型設備保管場所</p> 	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】 記載表現の相違 ・プラントの相違による図の内容の相違。</p>

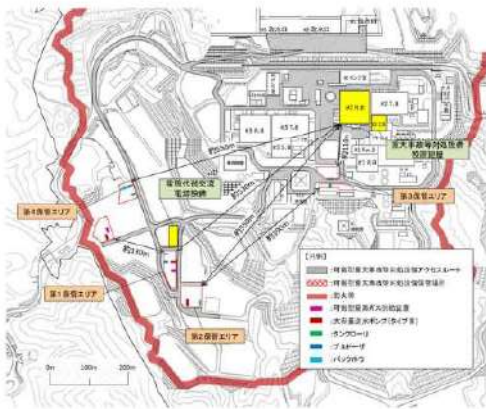
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉



第2図 「2n+a」の可搬型設備配置



第3図 「n」の可搬型設備配置

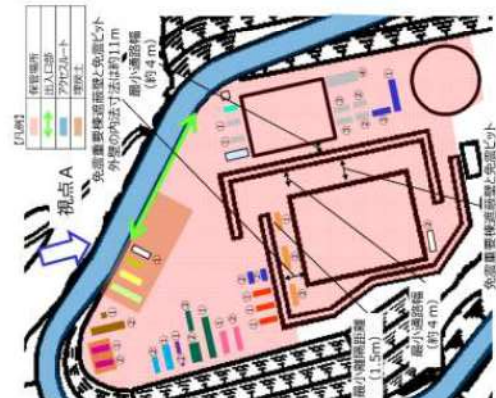
島根原子力発電所2号炉



視点A

①取水ポンプ	①可搬型大型送水ポンプ車 ※1	①可搬型大型送水ポンプ車 ※1
②消防用水貯留設備	②ホース延長・回収車（送水用） ※1	②ホース延長・回収車（送水用） ※1
③消防用水貯留設備	③可搬型スプレインゾル ※4	③可搬型スプレインゾル ※4
④消防用水貯留設備	④可搬型大容量海水送水ポンプ車 ※4	④可搬型大容量海水送水ポンプ車 ※4
⑤消防用水貯留設備	⑤ホース延長・回収車（放水用） ※3	⑤ホース延長・回収車（放水用） ※3
⑥消防用水貯留設備	⑥可搬型ホース（300A） ※4	⑥可搬型ホース（300A） ※4
⑦消防用水貯留設備	⑦泡混合設備 ※4	⑦泡混合設備 ※4
⑧消防用水貯留設備	⑧放水砲 ※4	⑧放水砲 ※4
⑨消防用水貯留設備	⑨集水筒シルトフェンス ※4	⑨集水筒シルトフェンス ※4
⑩消防用水貯留設備	⑩放射能吸着剤 ※2	⑩放射能吸着剤 ※2
⑪消防用水貯留設備	⑪放射能吸着剤 ※2	⑪放射能吸着剤 ※2
⑫消防用水貯留設備	⑫放射能吸着剤 ※2	⑫放射能吸着剤 ※2
⑬消防用水貯留設備	⑬放射能吸着剤 ※2	⑬放射能吸着剤 ※2
⑭消防用水貯留設備	⑭放射能吸着剤 ※2	⑭放射能吸着剤 ※2
⑮消防用水貯留設備	⑮放射能吸着剤 ※2	⑮放射能吸着剤 ※2
⑯消防用水貯留設備	⑯放射能吸着剤 ※2	⑯放射能吸着剤 ※2
⑰消防用水貯留設備	⑰放射能吸着剤 ※2	⑰放射能吸着剤 ※2
⑱消防用水貯留設備	⑱放射能吸着剤 ※2	⑱放射能吸着剤 ※2
⑲消防用水貯留設備	⑲放射能吸着剤 ※2	⑲放射能吸着剤 ※2
⑳消防用水貯留設備	⑳放射能吸着剤 ※2	⑳放射能吸着剤 ※2
㉑消防用水貯留設備	㉑放射能吸着剤 ※2	㉑放射能吸着剤 ※2
㉒消防用水貯留設備	㉒放射能吸着剤 ※2	㉒放射能吸着剤 ※2
㉓消防用水貯留設備	㉓放射能吸着剤 ※2	㉓放射能吸着剤 ※2
㉔消防用水貯留設備	㉔放射能吸着剤 ※2	㉔放射能吸着剤 ※2
㉕消防用水貯留設備	㉕放射能吸着剤 ※2	㉕放射能吸着剤 ※2
㉖消防用水貯留設備	㉖放射能吸着剤 ※2	㉖放射能吸着剤 ※2
㉗消防用水貯留設備	㉗放射能吸着剤 ※2	㉗放射能吸着剤 ※2
㉘消防用水貯留設備	㉘放射能吸着剤 ※2	㉘放射能吸着剤 ※2
㉙消防用水貯留設備	㉙放射能吸着剤 ※2	㉙放射能吸着剤 ※2
㉚消防用水貯留設備	㉚放射能吸着剤 ※2	㉚放射能吸着剤 ※2
㉛消防用水貯留設備	㉛放射能吸着剤 ※2	㉛放射能吸着剤 ※2
㉜消防用水貯留設備	㉜放射能吸着剤 ※2	㉜放射能吸着剤 ※2
㉝消防用水貯留設備	㉝放射能吸着剤 ※2	㉝放射能吸着剤 ※2
㉞消防用水貯留設備	㉞放射能吸着剤 ※2	㉞放射能吸着剤 ※2
㉟消防用水貯留設備	㉟放射能吸着剤 ※2	㉟放射能吸着剤 ※2
㊱消防用水貯留設備	㊱放射能吸着剤 ※2	㊱放射能吸着剤 ※2
㊲消防用水貯留設備	㊲放射能吸着剤 ※2	㊲放射能吸着剤 ※2
㊳消防用水貯留設備	㊳放射能吸着剤 ※2	㊳放射能吸着剤 ※2
㊴消防用水貯留設備	㊴放射能吸着剤 ※2	㊴放射能吸着剤 ※2
㊵消防用水貯留設備	㊵放射能吸着剤 ※2	㊵放射能吸着剤 ※2
㊶消防用水貯留設備	㊶放射能吸着剤 ※2	㊶放射能吸着剤 ※2
㊷消防用水貯留設備	㊷放射能吸着剤 ※2	㊷放射能吸着剤 ※2
㊸消防用水貯留設備	㊸放射能吸着剤 ※2	㊸放射能吸着剤 ※2
㊹消防用水貯留設備	㊹放射能吸着剤 ※2	㊹放射能吸着剤 ※2
㊺消防用水貯留設備	㊺放射能吸着剤 ※2	㊺放射能吸着剤 ※2
㊻消防用水貯留設備	㊻放射能吸着剤 ※2	㊻放射能吸着剤 ※2
㊼消防用水貯留設備	㊼放射能吸着剤 ※2	㊼放射能吸着剤 ※2
㊽消防用水貯留設備	㊽放射能吸着剤 ※2	㊽放射能吸着剤 ※2
㊾消防用水貯留設備	㊾放射能吸着剤 ※2	㊾放射能吸着剤 ※2
㊿消防用水貯留設備	㊿放射能吸着剤 ※2	㊿放射能吸着剤 ※2

※1：重大事故等対策設備 ※2：自主対策設備 ※3：予備品
 ※4：資機材 ※5：α又は予備



※ 各設備の保管場所については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。

第2図 第1 保管エリア 配置図

泊発電所3号炉



第2図 保管場所の可搬型設備配置 (1/3)



第2図 保管場所の可搬型設備配置 (2/3)

相違理由

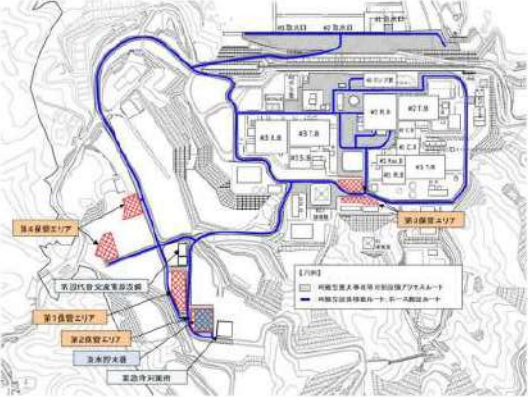

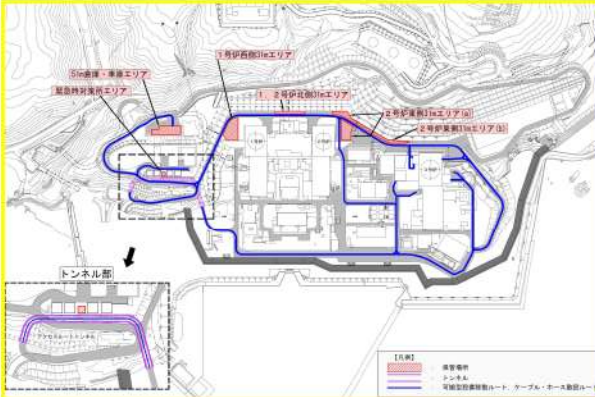

【女川及び島根】
 記載内容の相違
 ・プラントの相違に伴う可搬型設備配置の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="728 335 817 614" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①：①大容量送水機 ②：②中容量送水機（150A）及び③：③中容量送水機（100A、150A） ④：④可搬型ストレージ </div> <div data-bbox="907 183 1176 614" style="text-align: center;"> <p>出入口部長さ 約7m</p> <p>視点B</p> </div> <div data-bbox="739 662 1232 1157" style="text-align: center;"> <p>最小クリアランス (5.6m)</p> <p>視点B</p> <div data-bbox="739 965 817 1133" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■：保管場所 ■：出入口部 ■：アレイシート </div> </div> <div data-bbox="1243 662 1276 1173" style="font-size: small;"> <p>※ 各設備の保管場所については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。</p> </div> <div data-bbox="1265 598 1310 885" style="text-align: center;"> <p>第3図 第2保管エリア 配置図</p> </div>	<div data-bbox="1344 175 1948 574" style="text-align: center;"> <p>第2図 保管場所の可搬型設備配置(3/3)</p> </div> <div data-bbox="1523 183 1680 454" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※1：重大事故等対応設備</p> <p>※2：自主対策設備</p> <p>※3：資機材</p> <p>※4：α又はβ機</p> </div> <div data-bbox="1680 175 1948 454" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①可搬型大型送水ポンプ ※1 ②可搬型大型送水ポンプ ※4 ③ホース延長・回収車（送水専用）※1 ④ホース延長・回収車（送水専用）※4 可搬型スプレイズル ※1 ①可搬型代替電源車 ※1 ②可搬型代替電源車 ※4 ①可搬型直流電源用発電機 ※1 ②可搬型交流電源用発電機 ※4 可搬型タンクローリー ※4 ①集水網シルトフェンス ※1 ②小型船舶 ※4 ホイールローダ ※4 バックホウ ※4 緊急時対策用発電機 ※4 ホイールローダ（自主対策設備）※2 2号炉常設代替交流電源設備 </div>	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う 可搬型設備配置の相違。</p>

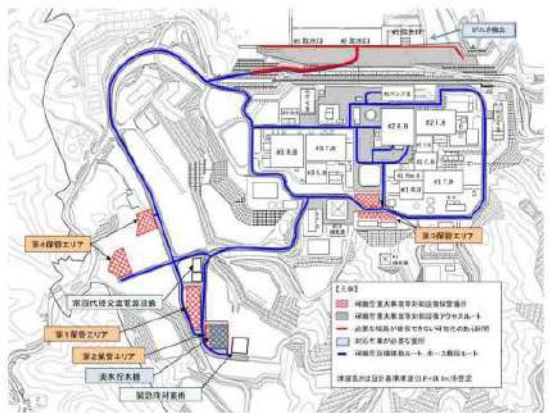
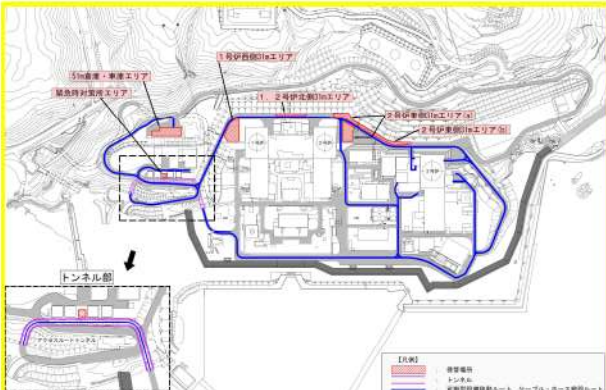
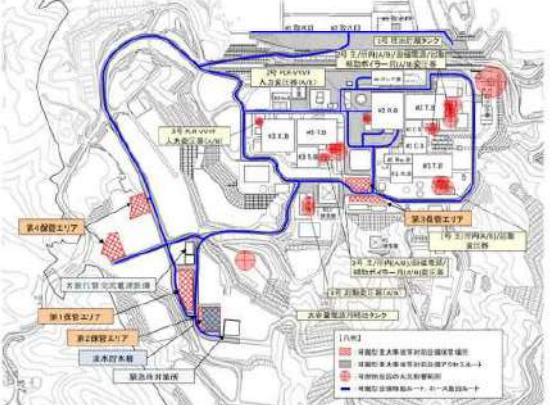

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉 補足資料(15)	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉 補足資料(13)	相違理由
<p>可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて</p> <p>各可搬型設備ごとの移動及びホース敷設ルートについて第1図～第12図に示す。</p>  <p>第1図 可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>  <p>第2図 地震時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>	<p>可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて</p> <p>各可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて第1図～第9図に示す。</p>  <p>第1図 可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>  <p>第2図 地震時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて</p> <p>各可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて第1図～第9図に示す。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>

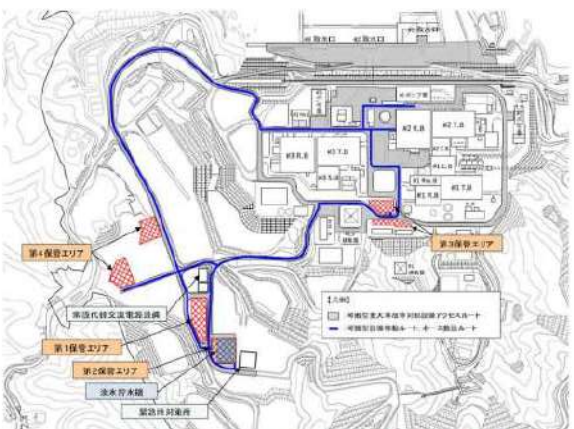
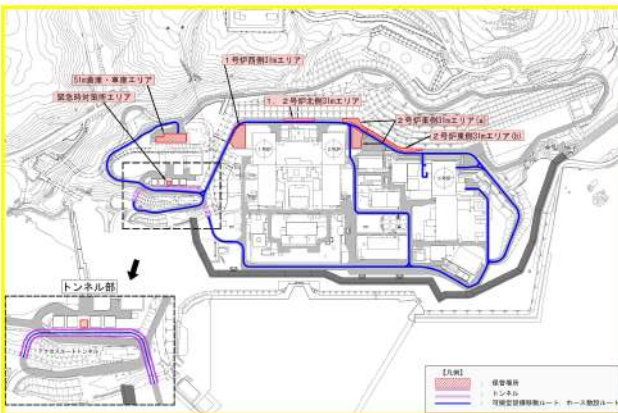
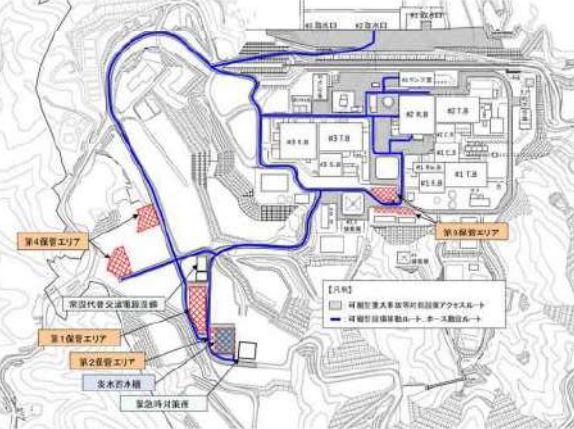
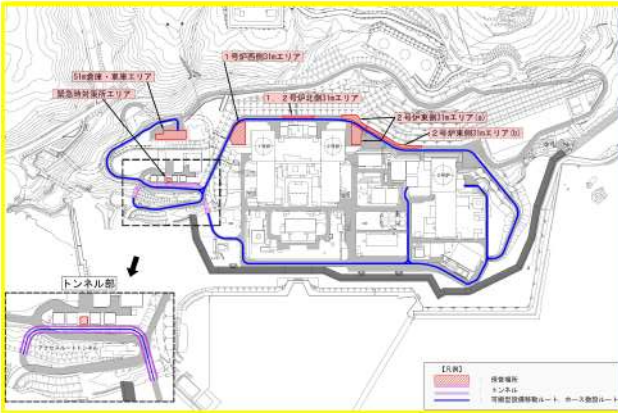
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			
<p>第3図 津波時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>		<p>第3図 津波時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>	<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>
			
<p>第4図 火災時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>		<p>第4図 火災時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>

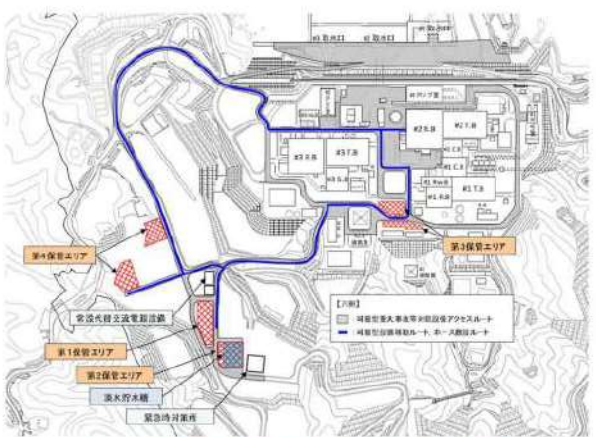
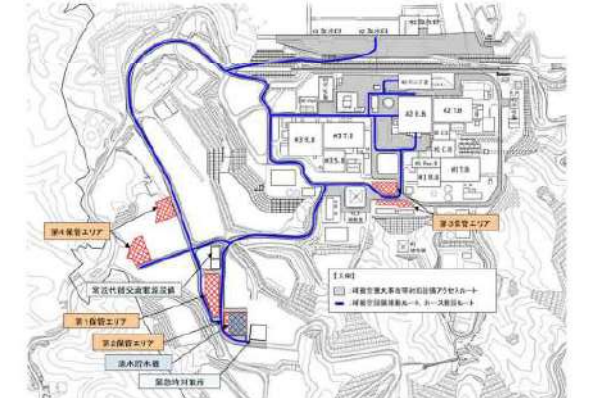
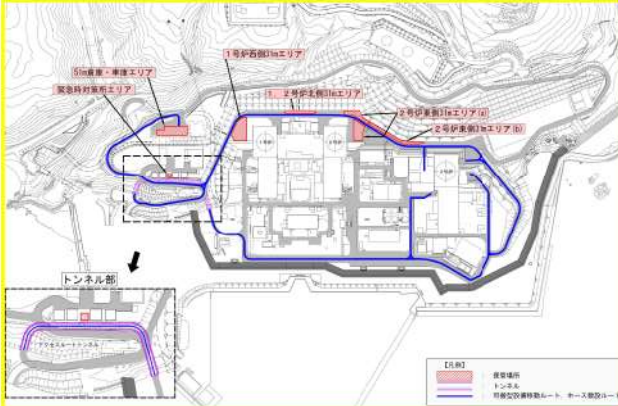
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="156 606 616 662">第5図 大容量送水ポンプ（タイプI）による送水（淡水貯水槽から原子炉建屋及び復水貯蔵タンクへ）</p>		 <p data-bbox="1355 606 1948 694">第5図 可搬型大型送水ポンプ車による注水（代替炉心注水、補助給水ピットへの補給、燃料取替用水ピットへの補給及び使用済燃料ピットへの注水）</p>	<p data-bbox="1982 606 2161 694">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>
 <p data-bbox="78 1212 694 1268">第6図 熱交換器ユニット及び大容量送水ポンプ（タイプI）による除熱</p>		 <p data-bbox="1355 1212 1948 1268">第6図 可搬型大型送水ポンプ車による通水（原子炉補機冷却水系への海水通水）</p>	<p data-bbox="1982 1212 2161 1300">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>

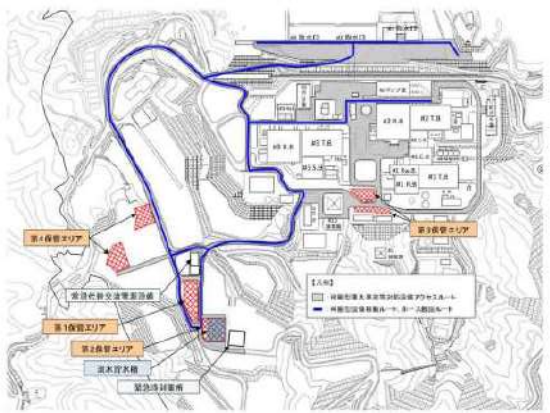
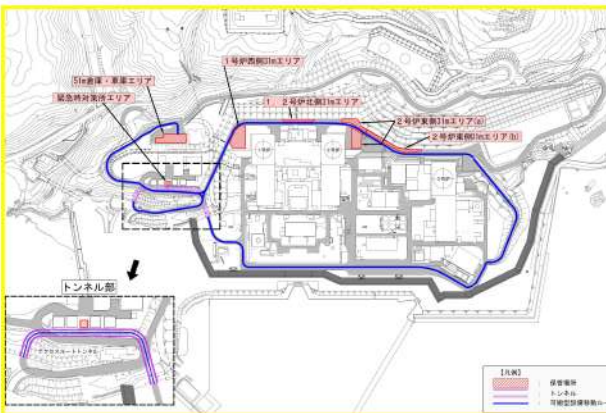
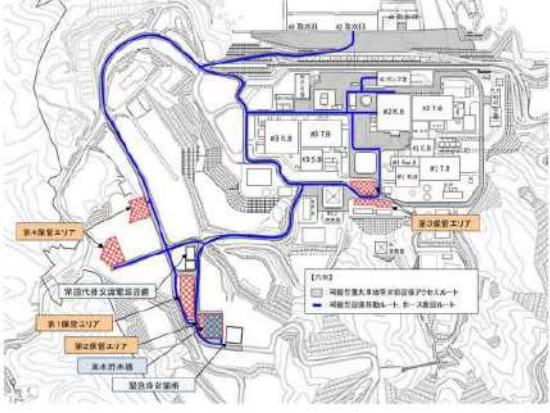
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="168 606 604 630">第7図 可搬型窒素ガス供給装置による窒素供給</p>  <p data-bbox="89 1157 683 1181">第8図 大容量海水送水ポンプ（タイプII）による放射性物質拡散抑制</p>		 <p data-bbox="1344 1157 1960 1181">第7図 可搬型大容量海水送水ポンプ車による放射性物質拡散抑制</p>	<p data-bbox="1982 606 2161 686">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p> <p data-bbox="1982 1157 2161 1236">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p>

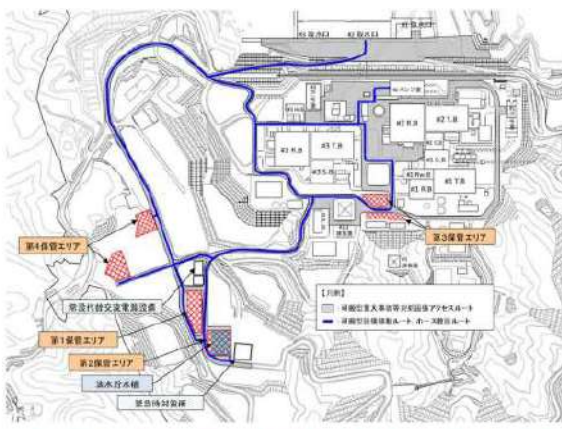
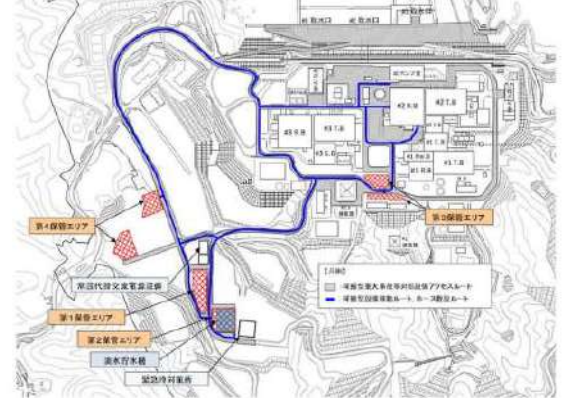
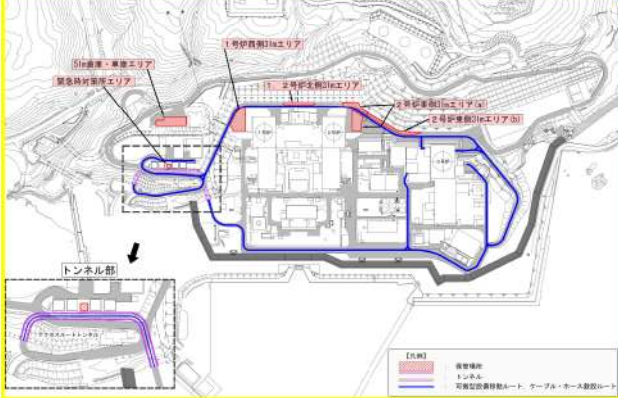
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="156 606 616 630">第9図 シルトフェンスによる放射性物質拡散抑制</p>		 <p data-bbox="1388 606 1904 630">第8図 集水樹シルトフェンスによる放射性物質拡散抑制</p>	<p data-bbox="1982 606 2161 686">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p>
 <p data-bbox="112 1189 660 1212">第10図 大容量送水ポンプ（タイプ1）による海水直接注水</p>			<p data-bbox="1982 1189 2161 1268">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第11図 大容量送水ポンプ（タイプII）による淡水貯水槽への海水補給</p>			<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p>
 <p>第12図 電源車による電源確保及びタンクローリによる燃料補給</p>		 <p>第9図 可搬型代替電源車による電源確保及び可搬型タンクローリによる燃料補給</p>	<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">補足 (3)</p> <p>屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒調査について</p> <p>アクセスルートにおける資機材設備の転倒等による影響について、有効性評価の各事象の対応操作毎にウォークダウンを行っている。具体的な確認内容については、有効性評価の事象の対応操作において、時間的裕度が少ない注水弁電源切替操作を例に、中央制御室から原子炉建物 3階にある A 及び B 非常用電気室送風機室までのウォークダウン結果を示す。</p> <p>ウォークダウンに用いたアクセスルートは第 1 図のとおりである。ルート近傍にある資機材設備の場所及び大きさ、通路幅を計測した結果は第 1 表のとおりであり、「アクセスルート近傍の設置物は、転倒防止処置を施している物を含めすべて転倒する」ものとし、「設置物が転倒した際、最も通路がふさがれるパターンを想定しても通行可能な幅が 30cm あれば通過可能」、「設置物が転倒した際に設置物の移動が可能な場合（重量物でない場合）は、通過可能」とした場合の各資機材設備に対する通行可能性評価を行った。通行できない場合は乗り越えることを想定する。</p> <p>このケースの場合、乗り越えの可能性がある場所がないことを確認した。</p> <p>さらに、万一通常のアクセスルートが使用できない場合を想定し、他のアクセスルートについても通過可能であることを確認した。（第 1 図の青破線）</p> <p>このケースの場合、転倒による乗り越えの可能性がある箇所がないことを確認した。</p>	<p style="text-align: right;">補足資料 (14)</p> <p>屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒調査について</p> <p>アクセスルートにおける資機材設備の転倒等による影響について、有効性評価の各事象の対応操作ごとにウォークダウンを行っている。具体的な確認内容については、有効性評価の事象の対応操作において、時間的裕度が少ない主蒸気逃がし弁開放操作を例に、中央制御室から原子炉建屋 T.P.33.1m にある主蒸気管室までのウォークダウンの結果を示す。</p> <p>ウォークダウンに用いたアクセスルートは第 1 図のとおりである。ルート近傍にある資機材設備の場所及び大きさ、通路幅を計測した結果は第 1 表のとおりであり、「アクセスルート近傍の設置物は、転倒防止処置を施している物を含めすべて転倒する」ものとし、「設置物が転倒した際、最も通路がふさがれるパターンを想定しても通行可能な幅が 30cm あれば通過可能」、「設置物が転倒した際に設置物の移動が可能な場合（重量物でない場合）は、通過可能」とした場合の各資機材設備に対する通行可能性評価を行った。通行できない場合は乗り越えることを想定する。</p> <p>このケースの場合、2箇所（第 1 図及び第 1 表における②、③）について転倒による乗り越えの可能性がある場所として抽出した。</p> <p>さらに、万一通常のアクセスルートが使用できない場合を想定し、他のアクセスルートについても通過可能であることを確認した。（第 1 図の赤破線）</p> <p>このケースの場合、転倒による乗り越えの可能性がある箇所がないことを確認した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>：地震による影響評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・有効性評価の対応手段及びアクセスルートの相違</p> <p>【島根】調査結果の相違 ・泊は、乗り越えの可能性がある場所を抽出し、「別紙(32) 屋内アクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について」においてアクセス性への影響について評価している。（柏崎と同様）</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	<div data-bbox="721 260 1272 1129" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1279 284 1308 1098" style="position: absolute; right: 0; top: 50%; transform: translateY(-50%); font-size: small;">第1図 屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(1/4)</div> <div data-bbox="927 1158 1308 1185" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto; font-size: x-small;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1346 209 1906 1129" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1912 300 1942 1066" style="position: absolute; right: 0; top: 50%; transform: translateY(-50%); font-size: small;">第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(1/4)</div> <div data-bbox="1368 1190 1928 1225" style="border: 1px dashed blue; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto; font-size: x-small;">: 地震による影響評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1352 1270 1928 1297" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto; font-size: x-small;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【島根】記載内容の相違 ・有効性評価の対応手段及びアクセスルートの相違</p>

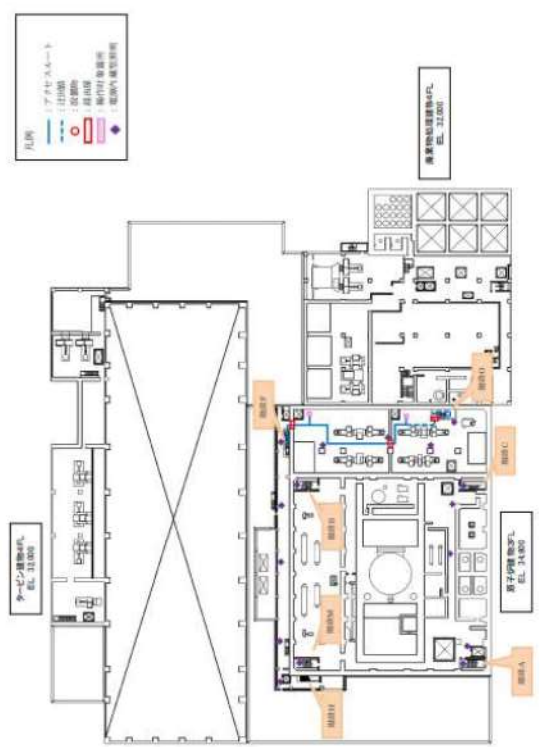
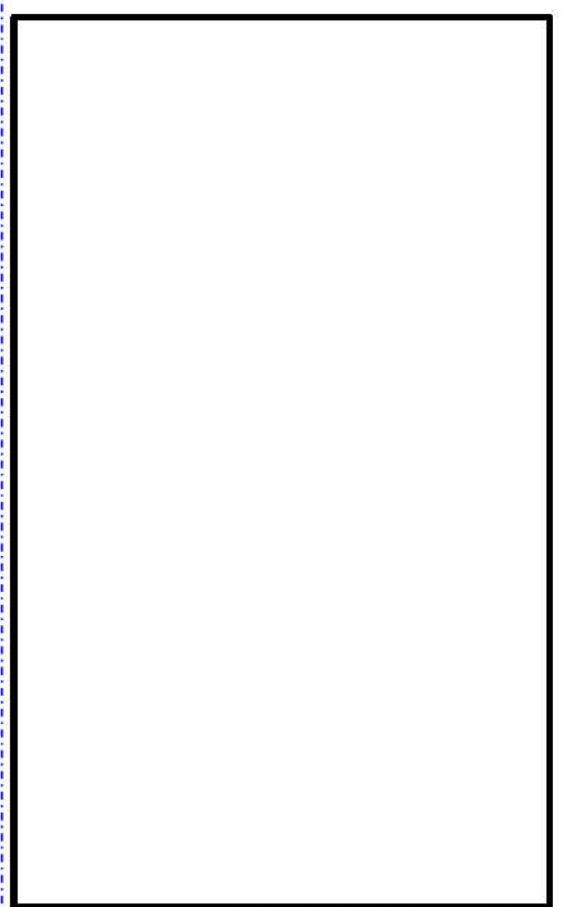
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第1図 屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(3/4)</p> <p>第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(3/4)</p> <p>PN </p> <p>：地震による影響評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>	<p>【島根】記載内容の相違 ・有効性評価の対応手段 及びアクセスルートの相違</p>

























赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	 <p>第1図 屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(4/4)</p>	 <p>第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(4/4)</p> <p>：地震による影響評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【島根】記載内容の相違 ・有効性評価の対応手段 及びアクセスルートの相違</p>
















赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由																																																																																																																																																																				
	<p style="text-align: center;">第1表 資機材設備の設置状況</p> <table border="1" data-bbox="723 215 1308 643"> <thead> <tr> <th rowspan="3">番号</th> <th rowspan="3">場所 (フロア)</th> <th rowspan="3">物品名</th> <th colspan="4">(上段) 物品の計測結果 [mm]</th> <th rowspan="3">通路の幅</th> <th rowspan="3">写真</th> </tr> <tr> <th>高さ</th> <th>奥行</th> <th>幅</th> <th>最大長さ</th> </tr> <tr> <th colspan="4">(下段) 評価結果</th> <th>[mm]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>廃棄物処理建物 1階 補助室至 連絡通路</td> <td>資機材 保管庫</td> <td>900</td> <td>400</td> <td>900</td> <td>1,273</td> <td rowspan="2">1,590</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="7">設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>原子炉建 物付属棟 2階 A-非常用 電気室</td> <td>資機材 保管庫</td> <td>1,800</td> <td>400</td> <td>900</td> <td>2,013</td> <td rowspan="2">2,300</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="7">設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>原子炉建 物付属棟 2階 B-非常用 電気室</td> <td>踏み台</td> <td>900</td> <td>700</td> <td>500</td> <td>1,141</td> <td rowspan="2">2,300</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="7">設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> </tr> </tbody> </table>	番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路の幅	写真	高さ	奥行	幅	最大長さ	(下段) 評価結果				[mm]	①	廃棄物処理建物 1階 補助室至 連絡通路	資機材 保管庫	900	400	900	1,273	1,590		設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし							②	原子炉建 物付属棟 2階 A-非常用 電気室	資機材 保管庫	1,800	400	900	2,013	2,300		設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし							③	原子炉建 物付属棟 2階 B-非常用 電気室	踏み台	900	700	500	1,141	2,300		設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし							<p style="text-align: center;">第1表 資機材設備の設置状況(1/3)</p> <table border="1" data-bbox="1352 215 1937 1026"> <thead> <tr> <th rowspan="3">番号</th> <th rowspan="3">場所 (フロア)</th> <th rowspan="3">物品名</th> <th colspan="4">(上段) 物品の計測結果 [mm]</th> <th rowspan="3">通路の幅</th> <th rowspan="3">写真</th> </tr> <tr> <th>高さ</th> <th>奥行</th> <th>幅</th> <th>最大長さ</th> </tr> <tr> <th colspan="4">(下段) 評価結果</th> <th>[mm]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)</td> <td>靴箱</td> <td>910</td> <td>400</td> <td>1,000</td> <td>1,353</td> <td rowspan="2">2,160</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="7">設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)</td> <td>担架格納箱</td> <td>2,230</td> <td>200</td> <td>280</td> <td>2,347</td> <td rowspan="2">2,350</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="7">設置物の転倒後、乗り越え可能なためアクセス性問題は なし</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)</td> <td>ボンベ ラック</td> <td>1,800</td> <td>500</td> <td>950</td> <td>2,036</td> <td rowspan="2">2,010</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="7">設置物の転倒後、乗り越え可能なためアクセス性問題は なし</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>3号炉 原子炉建屋 (T.P. 33.1m)</td> <td>踏み台</td> <td>500</td> <td>400</td> <td>600</td> <td>781</td> <td rowspan="2">1,030</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="7">当該アクセスルートと関係のない場所に設置されているため アクセス性問題なし</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)</td> <td>ヘルメット棚 (赤囲み箇所)</td> <td>2,100</td> <td>450</td> <td>900</td> <td>2,285</td> <td rowspan="2">2,320</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="7">あらかじめ撤去することから アクセス性問題なし</td> </tr> </tbody> </table> <p style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin-top: 10px;">⑤：地震による影響評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>	番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路の幅	写真	高さ	奥行	幅	最大長さ	(下段) 評価結果				[mm]	①	3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)	靴箱	910	400	1,000	1,353	2,160		設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし							②	3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)	担架格納箱	2,230	200	280	2,347	2,350		設置物の転倒後、乗り越え可能なためアクセス性問題は なし							③	3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)	ボンベ ラック	1,800	500	950	2,036	2,010		設置物の転倒後、乗り越え可能なためアクセス性問題は なし							④	3号炉 原子炉建屋 (T.P. 33.1m)	踏み台	500	400	600	781	1,030		当該アクセスルートと関係のない場所に設置されているため アクセス性問題なし							⑤	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	2,320		あらかじめ撤去することから アクセス性問題なし							<p>【島根】記載内容の相違・資機材の配置状況の相違</p>
番号	場所 (フロア)				物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]					通路の幅	写真																																																																																																																																																											
						高さ	奥行	幅					最大長さ																																																																																																																																																										
		(下段) 評価結果				[mm]																																																																																																																																																																	
①	廃棄物処理建物 1階 補助室至 連絡通路	資機材 保管庫	900	400	900	1,273	1,590																																																																																																																																																																
設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																																																																																																																							
②	原子炉建 物付属棟 2階 A-非常用 電気室	資機材 保管庫	1,800	400	900	2,013	2,300																																																																																																																																																																
設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																																																																																																																							
③	原子炉建 物付属棟 2階 B-非常用 電気室	踏み台	900	700	500	1,141	2,300																																																																																																																																																																
設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																																																																																																																							
番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路の幅	写真																																																																																																																																																															
			高さ	奥行	幅	最大長さ																																																																																																																																																																	
			(下段) 評価結果						[mm]																																																																																																																																																														
①	3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)	靴箱	910	400	1,000	1,353	2,160																																																																																																																																																																
設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																																																																																																																							
②	3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)	担架格納箱	2,230	200	280	2,347	2,350																																																																																																																																																																
設置物の転倒後、乗り越え可能なためアクセス性問題は なし																																																																																																																																																																							
③	3号炉 原子炉建屋 (T.P. 17.8m)	ボンベ ラック	1,800	500	950	2,036	2,010																																																																																																																																																																
設置物の転倒後、乗り越え可能なためアクセス性問題は なし																																																																																																																																																																							
④	3号炉 原子炉建屋 (T.P. 33.1m)	踏み台	500	400	600	781	1,030																																																																																																																																																																
当該アクセスルートと関係のない場所に設置されているため アクセス性問題なし																																																																																																																																																																							
⑤	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	2,320																																																																																																																																																																
あらかじめ撤去することから アクセス性問題なし																																																																																																																																																																							










赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由																																																																																																																
		<p style="text-align: center;">第1表 資機材設備の設置状況(2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">番号</th> <th rowspan="2">場所 (フロア)</th> <th rowspan="2">物品名</th> <th colspan="4">(上段) 物品の計測結果 [mm]</th> <th rowspan="2">通路 の幅</th> <th rowspan="2">写真</th> </tr> <tr> <th>高さ</th> <th>奥行</th> <th>幅</th> <th>最大 長さ</th> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <th colspan="4">(下段) 評価結果</th> <td></td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑥</td> <td>3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)</td> <td>ヘルメット棚 (赤囲み箇所)</td> <td>2,100</td> <td>450</td> <td>900</td> <td>2,285</td> <td>3,120</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4">設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>3号炉 原子炉補助建 屋 (T.P. 17.8m)</td> <td>工具棚 (赤囲み箇所)</td> <td>900</td> <td>450</td> <td>900</td> <td>1,273</td> <td>2,660</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4">設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)</td> <td>ヘルメット棚 (赤囲み箇所)</td> <td>2,100</td> <td>450</td> <td>900</td> <td>2,285</td> <td>3,120</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4">設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)</td> <td>ヘルメット棚 (赤囲み箇所)</td> <td>2,100</td> <td>450</td> <td>900</td> <td>2,285</td> <td>3,120</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4">設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24.8m)</td> <td>踏み台</td> <td>700</td> <td>400</td> <td>500</td> <td>861</td> <td>1,250</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4">当該アクセスルートと関係の ない場所に設置されているた めアクセス性問題なし</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路 の幅	写真	高さ	奥行	幅	最大 長さ				(下段) 評価結果						⑥	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	3,120					設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし						⑦	3号炉 原子炉補助建 屋 (T.P. 17.8m)	工具棚 (赤囲み箇所)	900	450	900	1,273	2,660					設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし						⑧	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	3,120					設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし						⑨	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	3,120					設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし						⑩	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24.8m)	踏み台	700	400	500	861	1,250					当該アクセスルートと関係の ない場所に設置されているた めアクセス性問題なし						<p>【島根】記載内容の相違 ・資機材の配置状況の相違</p>
番号	場所 (フロア)	物品名				(上段) 物品の計測結果 [mm]						通路 の幅	写真																																																																																																						
			高さ	奥行	幅	最大 長さ																																																																																																													
			(下段) 評価結果																																																																																																																
⑥	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	3,120																																																																																																												
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																																																																
⑦	3号炉 原子炉補助建 屋 (T.P. 17.8m)	工具棚 (赤囲み箇所)	900	450	900	1,273	2,660																																																																																																												
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																																																																
⑧	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	3,120																																																																																																												
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																																																																
⑨	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	3,120																																																																																																												
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																																																																
⑩	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24.8m)	踏み台	700	400	500	861	1,250																																																																																																												
			当該アクセスルートと関係の ない場所に設置されているた めアクセス性問題なし																																																																																																																
		<p>：地震による影響評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>																																																																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由																																																																					
		<p style="text-align: center;">第1表 資機材設備の設置状況(3/3)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">番号</th> <th rowspan="3">場所 (フロア)</th> <th rowspan="3">物品名</th> <th colspan="4">(上段) 物品の計測結果 [mm]</th> <th rowspan="2">通路 の幅</th> <th rowspan="3">写真</th> </tr> <tr> <th>高さ</th> <th>奥行</th> <th>幅</th> <th>最大 長さ</th> </tr> <tr> <th colspan="4">(下段) 評価結果</th> <th>[mm]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑩</td> <td>3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24. 8m)</td> <td>移動式架台</td> <td>2,700</td> <td>1,600</td> <td>600</td> <td>3,191</td> <td>4,800</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4">設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24. 8m)</td> <td>踏み台</td> <td>700</td> <td>400</td> <td>500</td> <td>861</td> <td>5m 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4">設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 33. 1m)</td> <td>担架格納箱</td> <td>2,330</td> <td>200</td> <td>280</td> <td>2,347</td> <td>3,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4">設置物が転倒したとしても通 路の幅が十分なため アクセス性問題なし</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin-top: 10px;">! : 地震による影響評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>	番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路 の幅	写真	高さ	奥行	幅	最大 長さ	(下段) 評価結果				[mm]	⑩	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24. 8m)	移動式架台	2,700	1,600	600	3,191	4,800					設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					⑪	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24. 8m)	踏み台	700	400	500	861	5m 以上					設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					⑫	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 33. 1m)	担架格納箱	2,330	200	280	2,347	3,300					設置物が転倒したとしても通 路の幅が十分なため アクセス性問題なし					<p>【島根】記載内容の相違・資機材の配置状況の相違</p>
番号	場所 (フロア)	物品名				(上段) 物品の計測結果 [mm]						通路 の幅	写真																																																											
						高さ	奥行	幅	最大 長さ																																																															
			(下段) 評価結果				[mm]																																																																	
⑩	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24. 8m)	移動式架台	2,700	1,600	600	3,191	4,800																																																																	
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																					
⑪	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24. 8m)	踏み台	700	400	500	861	5m 以上																																																																	
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																					
⑫	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 33. 1m)	担架格納箱	2,330	200	280	2,347	3,300																																																																	
			設置物が転倒したとしても通 路の幅が十分なため アクセス性問題なし																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足 (15)</p> <p>迂回路における人力による仮置資機材の排除の考え方について</p> <p>屋内の迂回路における人力による仮置資機材の排除の考え方、仮置資機材の軽量物や重量物の選定及び仮置資機材の設置に関する運用について整理し、アクセス性を確保するとともに、運用を社内規程に定める。</p> <p>1. 迂回路における人力による排除可能な重量 屋内の迂回路における仮置資機材の排除の考え方について、人力（2名）で排除可能な軽量物（40kg 以下）と排除できない重量物（40kg 超過）を定義し社内規程に定める。</p> <p>また、転倒時において通行可能な迂回路幅が確保できないかつ、乗り越え（高さ 40cm 程度*1）ができない仮置資機材のうち重量物は迂回路周辺に置かないことを社内規程に定める。</p> <p>※1：「建築基準法施行令」第二十三条（階段及びその踊場の幅並びに階段の蹴上げ及び踏面の寸法）を参考に2段分の段差を設定。 【考え方】第1項（四）：蹴上げ（高さ）寸法 22cm/段×2段⇨40cm</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(15)</p> <p>屋内アクセスルートにおける人力による資機材の排除の考え方について</p> <p>屋内アクセスルートにおける人力による資機材の排除の考え方、資機材の軽量物や重量物の選定及び資機材の設置に関する運用について整理し、アクセス性を確保するとともに、運用を社内規程類に定める。</p> <p>1. 屋内アクセスルートにおける人力による排除可能な重量 屋内アクセスルートにおける資機材の排除の考え方について、人力（1名）で排除可能な資機材を軽量物（20kg 以下）、人力で排除できない資機材を重量物（20kg 超過）として定義し社内規程類に定める。</p> <p>また、転倒時において通行可能な通路幅が確保できないかつ、乗り越え（高さ 100cm 以下*1）ができない資機材のうち重量物は、屋内アクセスルート周辺に置かないことを社内規程類に定める。</p> <p>※1：別紙(32)「屋内のアクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について」において示す、転倒資機材の乗り越え高さ検証結果に基づき設定。 【考え方】別紙(32)のとおり、乗り越え可能であること及び当該所要時間が有意な影響を与えないことを確認した高さとして約 100cm を設定。</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】評価内容の相違 ・泊は、アクセスルート及び迂回路の両方について、資機材転倒時に人力による排除を考慮したアクセス性の評価を実施している。(柏崎と同様)(島根は、迂回路のみ人力による排除を考慮している。)</p> <p>【島根】評価内容の相違 【島根】記載名称の相違</p> <p>【島根】評価内容の相違 【島根】記載名称の相違 【島根】体制の相違 ・泊は、屋内作業については1名作業を基本としているため、軽量物を 20kg 以下としている。</p> <p>【島根】運用の相違 ・泊は、「別紙(32) 屋内のアクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について」において実際に乗り越えることを確認した高さとしている。(柏崎と同様)</p> <p>【島根】記載内容の相違 【島根】記載名称の相違</p>

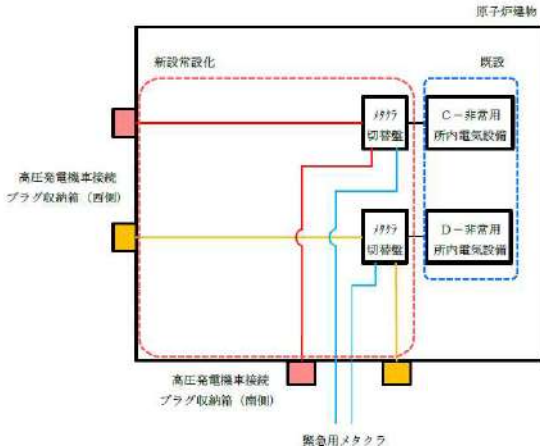
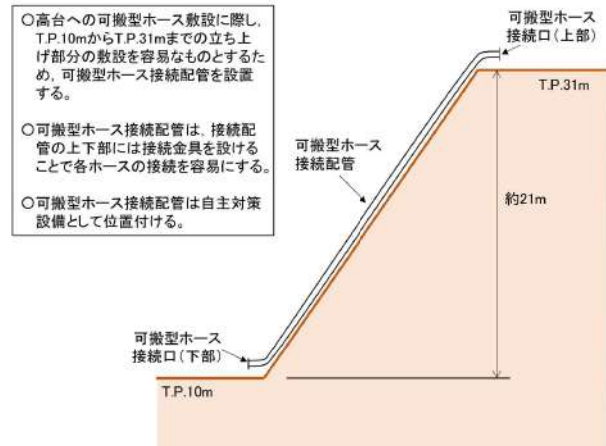

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

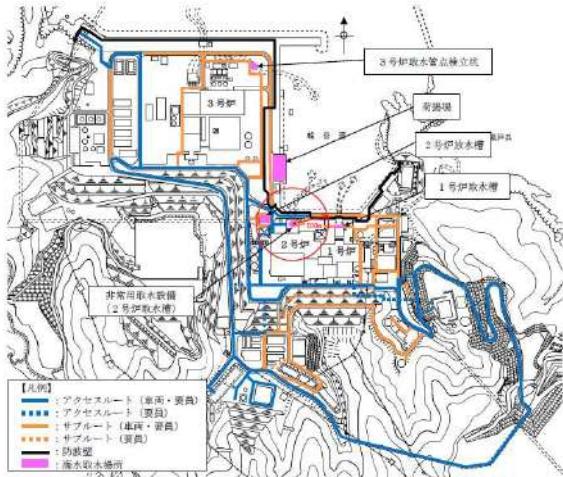
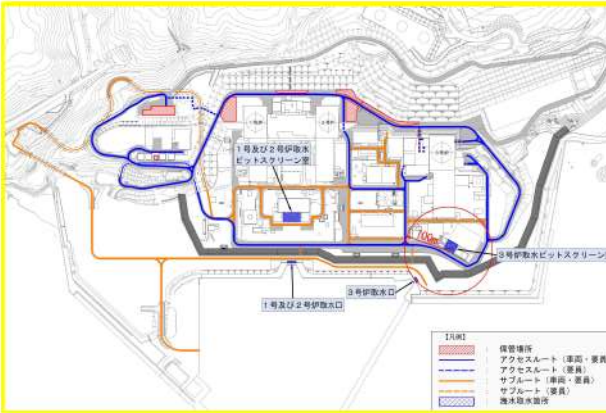
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
	<p style="text-align: center;">第1表 仮置資機材の重量目安</p> <table border="1" data-bbox="721 209 1312 331"> <thead> <tr> <th>仮置資機材 種別</th> <th>仮置資機材 重量目安</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽量物</td> <td>40kg[※]以下</td> <td>人力（2名）で排除可能な仮置資機材</td> </tr> <tr> <td>重量物</td> <td>40kg超過</td> <td>軽量物を超える重量の仮置資機材であり、人力（2名）による排除ができない仮置資機材</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2：厚生労働省公表の「職場における腰痛予防対策指針」（平成 25年6月18日）を参考に設定。 【考え方】腰痛予防の目安とされている基準が18歳以上の男子労働者の場合は体重のおおむね40%以下である。また、「厚生統計要覧」（平成30年度 厚生労働省公表）によると18歳以上の男性の平均体重が60kg程度であることから、人力により排除可能な重量は2名作業を想定し、60kg×40%×2名≒40kg以下と設定する。</p>	仮置資機材 種別	仮置資機材 重量目安	考え方	軽量物	40kg [※] 以下	人力（2名）で排除可能な仮置資機材	重量物	40kg超過	軽量物を超える重量の仮置資機材であり、人力（2名）による排除ができない仮置資機材	<p style="text-align: center;">第1表 資機材の重量目安</p> <table border="1" data-bbox="1346 204 1951 336"> <thead> <tr> <th>資機材 種別</th> <th>資機材 重量目安</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽量物</td> <td>20kg[※]以下</td> <td>人力（1名）による排除可能な資機材</td> </tr> <tr> <td>重量物</td> <td>20kg超過</td> <td>軽量物を超える重量の資機材であり、人力（1名）による排除ができない資機材</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2：厚生労働省公表の「職場における腰痛予防対策指針」（平成 25年6月18日）を参考に設定。 【考え方】腰痛予防の目安とされている基準が18歳以上の男子労働者の場合は体重のおおむね40%以下である。また、「厚生統計要覧」（平成30年度 厚生労働省公表）によると18歳以上の男性の平均体重が60kg程度であることから、人力により排除可能な重量は1名作業を想定し、60kg×40%×1名≒20kg以下と設定する。</p>	資機材 種別	資機材 重量目安	考え方	軽量物	20kg [※] 以下	人力（1名）による排除可能な資機材	重量物	20kg超過	軽量物を超える重量の資機材であり、人力（1名）による排除ができない資機材	<p>【島根】体制の相違による資機材の重量目安の相違</p> <p>【島根】体制の相違</p>
仮置資機材 種別	仮置資機材 重量目安	考え方																			
軽量物	40kg [※] 以下	人力（2名）で排除可能な仮置資機材																			
重量物	40kg超過	軽量物を超える重量の仮置資機材であり、人力（2名）による排除ができない仮置資機材																			
資機材 種別	資機材 重量目安	考え方																			
軽量物	20kg [※] 以下	人力（1名）による排除可能な資機材																			
重量物	20kg超過	軽量物を超える重量の資機材であり、人力（1名）による排除ができない資機材																			

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>【伊方3号炉まとめ資料より転載】</p> <p>また、中型ポンプ車等による原子炉格納容器スプレィ及び使用済燃料ピットへの注水、大型ポンプ車による原子炉格納容器等への放水のための海水取水場所（EL.+10m）と注水先又は放水先（EL.+32m）との間の斜面に、海水送水用及び海水放水用の鋼製配管を敷設することとした。</p>	<p>補足(4)</p> <p>作業時間短縮に向けた取り組みについて</p> <p>重大事故等時における可搬型代替交流電源設備からの電源供給を行う際、電源ケーブルを敷設する作業時間を短縮する観点で、第1図に示すあらかじめ建物内にケーブル等を敷設配置することを実施している。</p>  <p>第1図 電源設備の常設化概略図</p>	<p>補足資料(16)</p> <p>作業時間短縮に向けた取り組みについて</p> <p>重大事故等時における可搬型大型送水ポンプ車による注水や可搬型大容量海水送水ポンプ車による建屋への放水等の作業を行う際、可搬型ホースを敷設する作業時間を短縮する観点で、第1図及び第2図に示すとおり、あらかじめT.P.10mからT.P.31mの立ち上げ部分に可搬型ホース接続用の配管を設置している。</p>  <p>第1図 可搬型ホース接続配管の概略図</p>  <p>第2図 可搬型ホース接続配管の設置箇所</p>	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う取組み内容の相違。あらかじめ法面に可搬型ホース接続配管を敷設することは伊方と同様。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">補足 (7)</p> <p>海水取水場所での取水ができない場合の代替手段について</p> <p>海水取水については、E.L.8.5mに位置する海水取水場所（非常用取水設備（2号炉取水槽））から取水することとしているが、2号炉の北側（海側）で海水取水ができない場合を想定し検討を行った。</p> <p>海水取水の成立性について、大型航空機落下の影響を受けた場合を想定した原子炉補機代替冷却系の設置及び使用の成立性について、大型航空機が非常用取水設備（2号炉取水槽）へ落下すると仮定し評価を行った。（第1図）</p> <p>評価の結果、非常用取水設備及び2号炉放水槽以外の海水取水場所（1号炉取水槽、荷揚場、3号炉取水点検立坑）は健全であるため、当該箇所から取水する。万が一すべての取水場所が使用不可の場合は、格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の除熱を行う。燃料プールについては燃料損傷までの時間余裕があることから、燃料プルスプレイ系等による注水に切り替える。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 海水取水場所と原子炉建物の配置図</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(17)</p> <p>海水取水場所での取水ができない場合の代替手段について</p> <p>海水取水については、T.P.10mに位置する海水取水場所（3号炉取水ビットスクリーン室）から取水することとしているが、3号炉の南側（海側）で海水取水ができない場合を想定し検討を行った。</p> <p>海水取水の成立性について、大型航空機落下の影響を受けた場合を想定した原子炉補機冷却水系への通水に係る可搬型設備の設置及び使用の成立性について、大型航空機が3号炉取水ビットスクリーン室へ落下すると仮定し評価を行った。（第1図）</p> <p>評価の結果、3号炉取水ビットスクリーン室及び3号炉取水口以外の海水取水場所（1号及び2号炉取水ビットスクリーン室、1号及び2号炉取水口）は健全であるため、当該箇所から取水する。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 海水取水場所と原子炉建屋の配置図</p>	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う海水取水場所及び対応内容の相違。</p> <p>【島根】設備の相違・プラント形式の相違に伴う設備の相違。</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

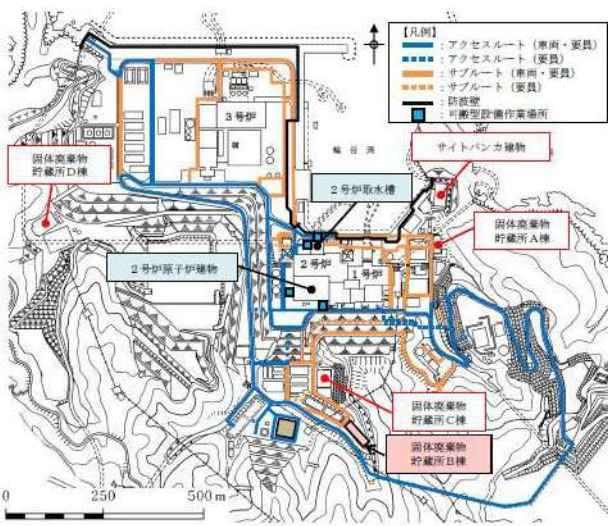
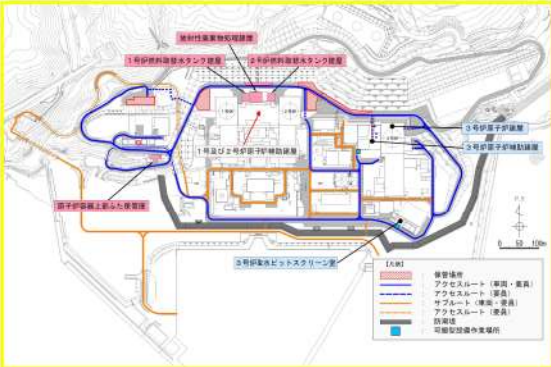
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足 (11)</p> <p>地震時における屋外のアクセスルートへの放射線影響について</p> <p>発電所内の構造物が地震により損壊することを想定した場合のアクセスルートへの放射線影響について検討した。</p> <p>1. 損壊を想定する構造物 防波壁内側に設置される構造物のうち、耐震Sクラス（Ss機能維持含む。）の構造物*を除く全ての構造物が地震により損壊することを想定する。 ※：別紙(28)第5表及び第6表の評価結果により耐震評価に基づき影響がないことを確認した構造物</p> <p>2. 構造物損壊時の放射線影響 1. において損壊を想定する構造物のうち、放射性物質を内包する設備等を含む構造物（以下「構造物」という。）を以下に示す。構造物の配置を第1図に、構造物が地震により損壊した場合の放射線影響を第1表に示す。 ・ 固体廃棄物貯蔵所B棟</p> <p>なお、上記に示す構造物の他に、サイトバンカ建物、固体廃棄物貯蔵所A棟、固体廃棄物貯蔵所C棟、固体廃棄物貯蔵所D棟に線源となる設備があるが、各建物内にある線源からアクセスルートまでは十分に離れていることから、重大事故等対応に影響を及ぼすものではないと考えている。</p> <p>3. アクセスルートへの放射線影響 2. に示した構造物が地震により損壊した場合のアクセスルートに対する放射線影響について検討した結果、重大事故等対応に影響を及ぼすものはないと考える。 (1) 重大事故等対応において、ポンプ設置作業を実施することにより、作業時間が比較的長くなる場所となる可搬型設備の作業場所（2号炉原子炉建物周辺、2号炉取水槽周辺）付近に構造物が設置されていない。 (2) 比較的線量率の高い構造物（固体廃棄物貯蔵所B棟）の周辺にアクセスルートが設定されているが、可搬型設備の通行時に一時的に通過する場所であり、長期間滞在することはないため、放射線影響は小さい。</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(18)</p> <p>地震時における屋外のアクセスルートへの放射線影響について</p> <p>発電所内の構造物が地震により損壊することを想定した場合のアクセスルートへの放射線影響について検討した。</p> <p>1. 損壊を想定する構造物 防潮堤内側に設置される構造物のうち、耐震Sクラス（Ss機能維持含む。）の構造物*を除くすべての構造物が地震により損壊することを想定する。 ※：別紙(9)第2表の評価結果により耐震評価に基づき影響がないことを確認した構造物</p> <p>2. 構造物損壊時の放射線影響 1. において損壊を想定する構造物のうち、放射性物質を内包する設備等を含む構造物（以下「構造物」という。）を以下に示す。構造物の配置を第1図に、構造物が地震により損壊した場合の放射線影響を第1表に示す。 ・ 原子炉容器上部ふた保管庫 ・ 1号炉燃料取替用水タンク建屋 ・ 2号炉燃料取替用水タンク建屋 ・ 放射性廃棄物処理建屋</p> <p>なお、上記に示す構造物の他に、1号及び2号炉原子炉補助建屋に線源となる設備があるが、建屋内にある線源からアクセスルートまでは十分に離れていることから、重大事故等対応に影響を及ぼすものではないと考えている。</p> <p>3. アクセスルートへの放射線影響 2. に示した構造物が地震により損壊した場合のアクセスルートに対する放射線影響について検討した結果、重大事故等対応に影響を及ぼすものはないと考える。 (1) 重大事故等対応において、ポンプ設置作業を実施することにより、作業時間が比較的長くなる場所となる可搬型設備の作業場所（3号炉原子炉建屋及び3号炉原子炉補助建屋周辺、3号炉取水ピットスクリーン室周辺）付近に構造物が設置されていない。 (2) 比較的線量率の高い構造物（原子炉容器上部ふた保管庫）の周辺にアクセスルートが設定されているが、可搬型設備の通行時に一時的に通過する場所であり、長期間滞在することはないため、放射線影響は小さい。</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・ 損壊を想定する構造物のうち、放射性物質を内包する構造物の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・ 作業時間が比較的長くなる場所の相違。 【島根】記載内容の相違 ・ 損壊を想定する構造物の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																					
	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アクセスルート（東西・要員） ■ アクセスルート（要員） ■ サブルート（東西・要員） ■ サブルート（要員） ■ 防壁壁 ■ 可搬型設備作業場所 <p>第1図 地震による損壊を想定する放射性物質を内包する構造物</p> <p>第1表 構造物損壊時の放射線影響</p> <table border="1" data-bbox="728 1013 1299 1093"> <thead> <tr> <th>構造物名称</th> <th>放射性物質を内包する設備等</th> <th>放射線影響（構造物損壊時）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固体廃棄物貯蔵所B棟</td> <td>ドラム缶^{※1}</td> <td>約 2mSv/h^{※2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：雑固体廃棄物（管理区域内の作業によって生じた金属や養生シート等の可燃雑物）、セメントや溶融体等の固化された物、焼却炉で可燃物を燃やした後の灰等を保管 ※2：ドラム缶表面</p>	構造物名称	放射性物質を内包する設備等	放射線影響（構造物損壊時）	固体廃棄物貯蔵所B棟	ドラム缶 ^{※1}	約 2mSv/h ^{※2}	 <p>第1図 地震による損壊を想定する放射性物質を内包する構造物</p> <p>第1表 構造物損壊時の放射線影響</p> <table border="1" data-bbox="1355 1013 1948 1189"> <thead> <tr> <th>構造物名称</th> <th>放射性物質を内包する設備等</th> <th>放射線影響（構造物損壊時）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉容器上部ふた保管庫</td> <td>原子炉容器上部ふた等^{※1}</td> <td>約 1.3mSv/h^{※2}</td> </tr> <tr> <td>1号炉燃料取替用水タンク建屋</td> <td>1号炉燃料取替用水タンク</td> <td>0.1mSv/h 以下^{※3}</td> </tr> <tr> <td>2号炉燃料取替用水タンク建屋</td> <td>2号炉燃料取替用水タンク</td> <td>0.1mSv/h 以下^{※3}</td> </tr> <tr> <td>放射性廃棄物処理建屋</td> <td>放射性廃棄物処理建屋内タンク</td> <td>0.1mSv/h 以下^{※3}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：原子炉容器上部ふたの他、再生熱交換器、制御棒クラスター案内管、1次冷却材ポンプ電動機固定子を保管している ※2：※1のうち最も表面線量当量率の高い制御棒クラスター案内管の値を記載 ※3：タンク表面</p>	構造物名称	放射性物質を内包する設備等	放射線影響（構造物損壊時）	原子炉容器上部ふた保管庫	原子炉容器上部ふた等 ^{※1}	約 1.3mSv/h ^{※2}	1号炉燃料取替用水タンク建屋	1号炉燃料取替用水タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}	2号炉燃料取替用水タンク建屋	2号炉燃料取替用水タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}	放射性廃棄物処理建屋	放射性廃棄物処理建屋内タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}	<p>【島根】記載表現の相違・プラントの相違による地震による損壊を想定する放射性物質を内包する構造物の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違・構造物の相違による内容の相違。</p>
構造物名称	放射性物質を内包する設備等	放射線影響（構造物損壊時）																						
固体廃棄物貯蔵所B棟	ドラム缶 ^{※1}	約 2mSv/h ^{※2}																						
構造物名称	放射性物質を内包する設備等	放射線影響（構造物損壊時）																						
原子炉容器上部ふた保管庫	原子炉容器上部ふた等 ^{※1}	約 1.3mSv/h ^{※2}																						
1号炉燃料取替用水タンク建屋	1号炉燃料取替用水タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}																						
2号炉燃料取替用水タンク建屋	2号炉燃料取替用水タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}																						
放射性廃棄物処理建屋	放射性廃棄物処理建屋内タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項


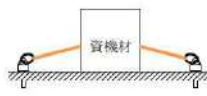
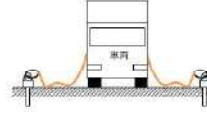

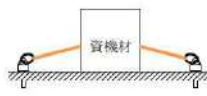
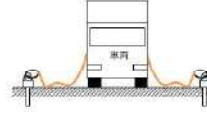
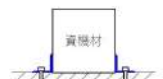
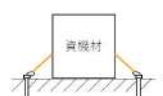
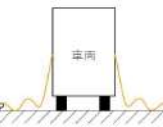
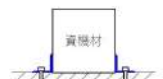
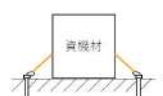
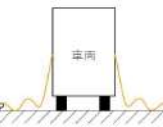

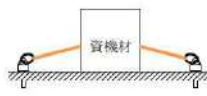
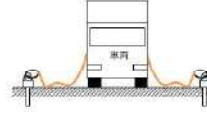
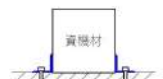
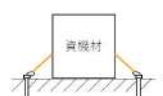
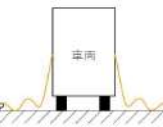
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
	<p style="text-align: right;">補足 (12)</p> <p>飛来物発生防止対策のうち固縛を解除する時間の考慮について</p> <p>1. 飛来物発生防止対策のうち固縛の概要 可搬型設備は、外部事象防護対象施設及び外部事象防護対象施設に波及的影響を及ぼす施設に悪影響を及ぼす可能性のある飛来物源として、飛来物発生防止対策の選定フローに従い選定した対策手法により固縛を実施する。 第1図に島根原子力発電所2号炉の飛来物発生防止対策の選定フロー、第2図に飛来物発生防止対策の例を示す。 可搬型設備は、上記の選定フローに従い、固定、緊張固縛又は余長付き固縛のいずれかの対策手法により保管場所に固縛することとしている。</p> <p>2. 固縛解除作業の想定時間 第1表に飛散物発生防止対策エリア内に位置する第3保管エリアにおける可搬型設備の出動準備に係る作業内容と作業時間を示す。</p> <p>飛来物発生防止対策のうち固縛の解除は、重大事故等時における可搬型設備の出動準備約40分のうち、車両等出動前確認の約10分で行うことを想定する。</p> <p>第1表 可搬型設備の出動準備作業時間と固縛解除作業の想定時間</p> <table border="1" data-bbox="757 847 1267 978"> <thead> <tr> <th>作業内容</th> <th>作業時間</th> <th>合計時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時対策所から保管場所までの移動 (第3保管エリアの場合)</td> <td>約30分</td> <td rowspan="2">約40分</td> </tr> <tr> <td>車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む。)</td> <td>約10分</td> </tr> </tbody> </table>	作業内容	作業時間	合計時間	緊急時対策所から保管場所までの移動 (第3保管エリアの場合)	約30分	約40分	車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む。)	約10分	<p style="text-align: right;">補足資料(19)</p> <p>飛来物発生防止対策のうち固縛を解除する時間の考慮について</p> <p>1. 飛来物発生防止対策のうち固縛の概要 可搬型設備は、外部事象防護対象施設及び外部事象防護対象施設に波及的影響を及ぼす施設に悪影響を及ぼす可能性のある飛来物源として、飛来物発生防止対策の選定フローに従い選定した対策手法により固縛を実施する。 第1図に泊発電所3号炉の飛来物発生防止対策の選定フロー、第2図に飛来物発生防止対策の例を示す。 可搬型設備は、上記の選定フローに従い、固定、緊張固縛又は余長付き固縛のいずれかの対策手法により保管場所に固縛することとしている。</p> <p>2. 固縛解除作業の想定時間 第1表に有効性評価における可搬型設備設置のクリティカルとなる可搬型大型送水ポンプ車の出動準備に係る作業内容と作業時間を示す。 飛来物発生防止対策のうち固縛の解除は、重大事故等時における可搬型設備の出動準備約45分のうち、車両等出動前確認の約15分で行うことを想定する。</p> <p>第1表 可搬型設備の出動準備作業時間と固縛解除作業の想定時間</p> <table border="1" data-bbox="1348 852 1953 935"> <thead> <tr> <th>作業内容</th> <th>作業時間</th> <th>合計時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央制御室又は緊急時対策所から保管場所までの移動</td> <td>約30分</td> <td rowspan="2">約45分</td> </tr> <tr> <td>車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む)</td> <td>約15分</td> </tr> </tbody> </table>	作業内容	作業時間	合計時間	中央制御室又は緊急時対策所から保管場所までの移動	約30分	約45分	車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む)	約15分	<p>【島根】記載名称の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う作業内容及び作業時間の相違</p>
作業内容	作業時間	合計時間																	
緊急時対策所から保管場所までの移動 (第3保管エリアの場合)	約30分	約40分																	
車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む。)	約10分																		
作業内容	作業時間	合計時間																	
中央制御室又は緊急時対策所から保管場所までの移動	約30分	約45分																	
車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む)	約15分																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第1図 島根原子力発電所2号炉の飛来物発生防止対策の選定フロー</p>	<p>第1図 泊発電所3号炉飛来物発生防止対策選定フロー</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																								
	<p>【飛来物発生防止（固定、固縛）の手法の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛来物発生防止対策のうち、固定及び固縛の手法の例を下図に示す。 <table border="1" data-bbox="728 319 1299 869"> <thead> <tr> <th>手法</th> <th colspan="2">対策の概要図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①固定</td> <td></td> <td>飛来物源に固定金具を取り付けて固定</td> </tr> <tr> <td>②緊張固縛</td> <td></td> <td>飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛</td> </tr> <tr> <td>③余長付き固縛</td> <td></td> <td>飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】</td> </tr> </tbody> </table> <p>第2図 飛来物発生防止対策の例</p> <p>3. 固縛解除作業の想定時間の妥当性 車両等出動前確認の作業内容と固縛解除作業の想定時間の妥当性について以下に示す。</p> <p>(1) 車両等出動前確認の作業内容等 飛散物発生防止対策エリア内に位置する第3保管エリアに保管する可搬型設備は、ホイールローダ、大量送水車、中型ホース展張車(150A)、タンクローリ及び予備として保管する大型送水ポンプ車、移動式代替熱交換設備、高圧発電機車がある。その中で、重大事故等時の初動対応として出動が想定される可搬型設備は、アクセスルート確保に使用するホイールローダ、給水確保に使用する大量送水車及びその中型ホース展張車(150A)、燃料補給に使用するタンクローリである。車両等出動前確認においては、これらの可搬型設備について以下の作業を実施する。</p>	手法	対策の概要図		①固定		飛来物源に固定金具を取り付けて固定	②緊張固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛	③余長付き固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】	<p>【飛来物発生防止（固定、固縛）の手法の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛来物発生防止対策のうち、固定及び固縛の手法の例を下図に示す。 <table border="1" data-bbox="1355 303 1937 869"> <thead> <tr> <th>手法</th> <th colspan="2">対策の概要図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①固定</td> <td></td> <td>飛来物源に固定金具を取り付けて固定</td> </tr> <tr> <td>②緊張固縛</td> <td></td> <td>飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛</td> </tr> <tr> <td>③余長付き固縛</td> <td></td> <td>飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】</td> </tr> </tbody> </table> <p>第2図 飛来物発生防止対策の例</p> <p>3. 固縛解除作業の想定時間の妥当性 車両等出動前確認の作業内容と固縛解除作業の想定時間の妥当性について以下に示す。</p> <p>(1) 車両等出動前確認の作業内容等 重大事故等時の初動対応として出動が想定される可搬型設備は、アクセスルート確保に使用するホイールローダ、給水確保に使用する可搬型大型送水ポンプ車及びそのホース延長・回収車(送水車用)、燃料補給に使用する可搬型タンクローリである。車両等出動前確認においては、これらの可搬型設備について以下の作業を実施する。</p>	手法	対策の概要図		①固定		飛来物源に固定金具を取り付けて固定	②緊張固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛	③余長付き固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】	<p>【島根】設備の相違 ・泊は保管場所内に配備している可搬型設備は固縛を実施している。</p> <p>【島根】記載名称の相違</p>
手法	対策の概要図																										
①固定		飛来物源に固定金具を取り付けて固定																									
②緊張固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛																									
③余長付き固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】																									
手法	対策の概要図																										
①固定		飛来物源に固定金具を取り付けて固定																									
②緊張固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛																									
③余長付き固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】																									

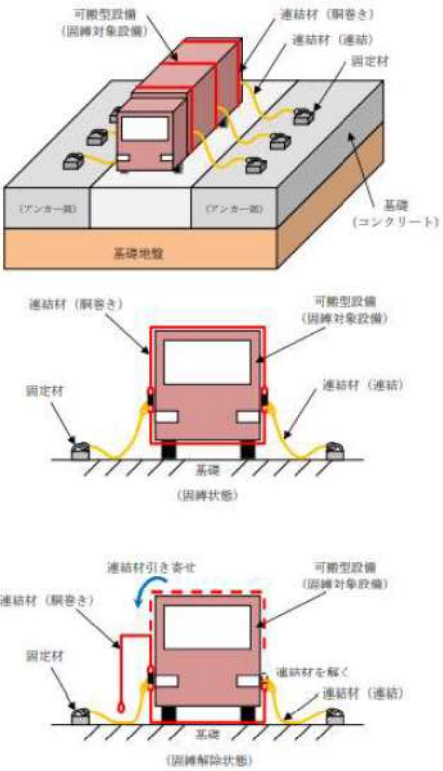
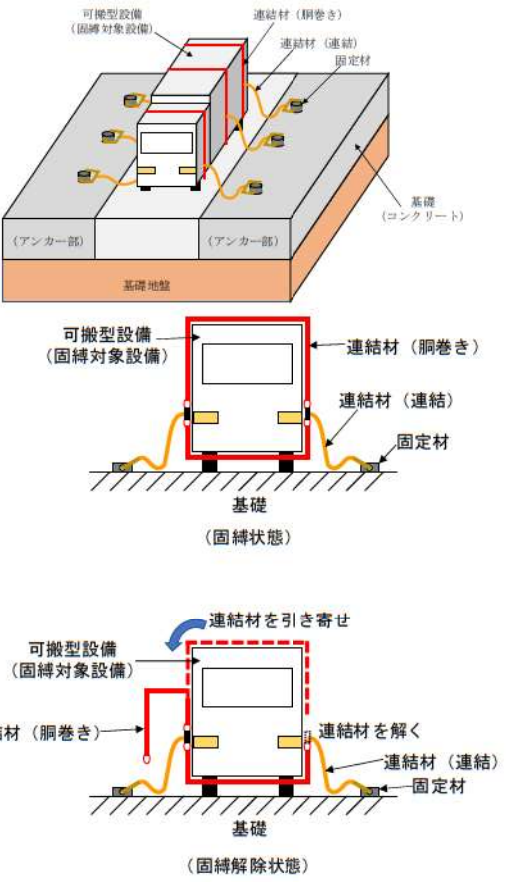
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
	<p>a. 可搬型設備の固縛解除及び輪留め取り外し 第3図に可搬型設備の固縛解除の概要、第2表に重大事故等時の初動対応において固縛解除する箇所数を示す。なお、ホイールローダは、飛散評価により飛来物とならないことから固縛不要である。</p> <p>第2表に示す固縛箇所数に対して、固縛解除は2名1組で対応することとし、固縛箇所1箇所当たりの作業時間については、約1分と設定する。また、固縛解除に併せて輪止めの取り外しを行う。</p> <p>第2表 重大事故等時の初動対応において固縛解除する箇所数[※]</p> <table border="1" data-bbox="779 547 1272 703"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象設備</th> <th rowspan="2">台数 (台)</th> <th colspan="2">固縛箇所数 (箇所)</th> </tr> <tr> <th>1台あたり</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中型ホース展張車 (150A)</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>大量送水車</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>タンクローリ</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>初動対応で固縛解除する箇所数</td> <td></td> <td></td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※：第3保管エリアにおいて、初動対応として仕動が想定される可搬型設備を対象とする。 また、固縛箇所数は今後の検討結果等により変更となる可能性があるが、作業時間に影響がない範囲で行う。</small></p>	対象設備	台数 (台)	固縛箇所数 (箇所)		1台あたり	合計	中型ホース展張車 (150A)	1	3	3	大量送水車	1	3	3	タンクローリ	1	3	3	初動対応で固縛解除する箇所数			9	<p>a. 可搬型設備の固縛解除及び輪留め取り外し 第3図に可搬型設備の固縛解除の概要、第2表に重大事故等時の初動対応において固縛解除する箇所数を示す。</p> <p>第2表に示す固縛箇所数に対して、固縛解除は2名1組で対応することとし、固縛箇所1箇所当たりの作業時間については、約1分と設定する。また、固縛解除に併せて輪止めの取り外しを行う。</p> <p>第2表 重大事故等時の初動対応において固縛解除する箇所数[※]</p> <table border="1" data-bbox="1350 560 1951 762"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象設備</th> <th rowspan="2">台数 (台)</th> <th colspan="2">固縛箇所数 (箇所)</th> </tr> <tr> <th>1台あたり</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホイールローダ</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>ホース延長・回収車 (送水車用)</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>可搬型タンクローリ</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>初動対応で固縛解除する箇所数</td> <td></td> <td></td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：固縛箇所数は今後の検討結果等により変更となる可能性があるが、作業時間に影響がない範囲で行う。</p>	対象設備	台数 (台)	固縛箇所数 (箇所)		1台あたり	合計	ホイールローダ	1	2	2	可搬型大型送水ポンプ車	1	5	5	ホース延長・回収車 (送水車用)	1	5	5	可搬型タンクローリ	1	3	3	初動対応で固縛解除する箇所数			15	<p>【島根】設備の相違 ・泊は保管場所内に配備している可搬型設備は固縛を実施している。</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う対象設備の相違</p>
対象設備	台数 (台)			固縛箇所数 (箇所)																																															
		1台あたり	合計																																																
中型ホース展張車 (150A)	1	3	3																																																
大量送水車	1	3	3																																																
タンクローリ	1	3	3																																																
初動対応で固縛解除する箇所数			9																																																
対象設備	台数 (台)	固縛箇所数 (箇所)																																																	
		1台あたり	合計																																																
ホイールローダ	1	2	2																																																
可搬型大型送水ポンプ車	1	5	5																																																
ホース延長・回収車 (送水車用)	1	5	5																																																
可搬型タンクローリ	1	3	3																																																
初動対応で固縛解除する箇所数			15																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	 <p>可搬型設備 (固縛対象設備) 連結材 (銅巻き) 連結材 (連結) 固定材 基礎 (コンクリート) 基礎地盤 (アンカー部)</p> <p>連結材 (銅巻き) 可搬型設備 (固縛対象設備) 固定材 連結材 (連結) 基礎 (固縛状態)</p> <p>連結材引き寄せ 可搬型設備 (固縛対象設備) 連結材 (銅巻き) 固定材 連結材を解く 連結材 (連結) 基礎 (固縛解除状態)</p> <p>※：今後の検討結果等により変更となる可能性があるが、作業時間に影響がない範囲で行う。</p> <p>第3図 可搬型設備の固縛解除の概要</p>	 <p>可搬型設備 (固縛対象設備) 連結材 (銅巻き) 連結材 (連結) 固定材 基礎 (コンクリート) 基礎地盤 (アンカー部)</p> <p>可搬型設備 (固縛対象設備) 連結材 (銅巻き) 連結材 (連結) 固定材 基礎 (固縛状態)</p> <p>連結材を引き寄せ 可搬型設備 (固縛対象設備) 連結材 (銅巻き) 連結材を解く 連結材 (連結) 固定材 基礎 (固縛解除状態)</p> <p>第3図 可搬型設備の固縛解除の概要</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>b. 外観点検及びエンジン始動 外観点検及びエンジン始動は2名1組で対応することとし、徒歩による移動速度（4km/h）に余裕を考慮した時間として、可搬型設備1台当たり約1分と設定する。</p> <p>(2) 固縛解除作業の想定時間の妥当性 重大事故等時の初動対応において、固縛対象となる可搬型設備の出動準備は緊急時対策要員9名で実施する。想定時間の妥当性確認に当たっては、保守的に以下の事項を考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホイールローダ、大量送水車、中型ホース展張車（150A）及びタンクローリーの車両等出動前確認は、各2名で実施 <p>上記を踏まえ、固縛解除を含む車両等出動前確認に要する時間について検討した結果、約4分で対応が可能であることより、固縛解除作業の想定時間は妥当であることを確認した。（第3表）</p> <p>現実的には、妥当性確認において考慮していない緊急時対策要員1名の増員による対応も可能であることから、車両等出動前確認時間は短縮するものとする。</p>	<p>b. 外観点検及びエンジン始動 外観点検及びエンジン始動は2名1組で対応することとし、徒歩による移動速度（4km/h）に余裕を考慮した時間として、可搬型設備1台当たり約1分と設定する。</p> <p>(2) 固縛解除作業の想定時間の妥当性 重大事故等時の初動対応において、固縛対象となる可搬型設備の出動準備は以下の要員で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホイールローダは、アクセスルートの状況確認後に災害対策要員2名で実施する。 ・可搬型大型送水ポンプ車及びホース延長・回収車（送水車用）は、屋外作業開始後に災害対策要員2名で実施する。 ・可搬型タンクローリーは、給油活動を行う災害対策要員2名で実施する。 <p>有効性評価における可搬型設備設置のクリティカルとなる可搬型大型送水ポンプ車については、固縛解除を含む車両等出動前確認に要する時間について検討した結果、約15分で対応が可能であることより、固縛解除作業の想定時間は妥当であることを確認した。（第3表）</p> <p>現実的には、妥当性確認において考慮していない災害対策要員1名の増員による対応も可能であることから、車両等出動前確認時間は短縮するものとする。</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う対応要員の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う作業内容及び作業時間の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う対応要員の相違</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由																																																																																																										
	<p style="text-align: center;">第3表 車両等出動前確認に係る想定時間の妥当性</p> <table border="1" data-bbox="721 164 1314 608"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象設備</th> <th rowspan="2">作業内容</th> <th rowspan="2">対象数^{※1}</th> <th rowspan="2">単位作業時間^{※4}</th> <th rowspan="2">対応要員^{※5}</th> <th colspan="2">作業時間</th> </tr> <tr> <th>作業</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ホイールローダ</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>0箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>0分</td> <td rowspan="2">1分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中型ホース展張車(150A)</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>3箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>3分</td> <td rowspan="2">4分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大量送水車</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>3箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>3分</td> <td rowspan="2">4分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">タンクローリ</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>3箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>3分</td> <td rowspan="2">4分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：可搬型設備の固縛解除及び車輪止め外し ※2：外観点検及びエンジン始動 ※3：各設備の固縛箇所数及び台数は第2表参照 ※4：繫帯固縛又は余長付き固縛を解除する時間 ※5：対応要員1組2名で構成 ※6：1組（2名）で対応するため、固縛解除後に外観点検を実施する場合の作業時間を記載</p>	対象設備	作業内容	対象数 ^{※1}	単位作業時間 ^{※4}	対応要員 ^{※5}	作業時間		作業	合計	ホイールローダ	固縛解除 ^{※1}	0箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	0分	1分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	中型ホース展張車(150A)	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	大量送水車	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	タンクローリ	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	<p style="text-align: center;">第3表 車両等出動前確認に係る想定時間の妥当性</p> <table border="1" data-bbox="1352 180 1953 616"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象設備</th> <th rowspan="2">作業内容</th> <th rowspan="2">対象数^{※1}</th> <th rowspan="2">単位作業時間^{※4}</th> <th rowspan="2">対応要員^{※5}</th> <th colspan="2">作業時間</th> </tr> <tr> <th>作業</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ホイールローダ</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>2箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>2分</td> <td rowspan="2">3分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>5箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>5分</td> <td rowspan="2">6分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ホース延長・回収車(送水車用)</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>5箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>5分</td> <td rowspan="2">6分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型タンクローリ</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>3箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>3分</td> <td rowspan="2">4分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：可搬型設備の固縛解除及び車輪止め外し ※2：外観点検及びエンジン始動 ※3：各設備の固縛箇所数及び台数は第2表参照 ※4：余長付き固縛を解除する時間 ※5：対応要員1組2名で構成 ※6：1組（2名）で対応するため、固縛解除後に外観点検を実施する場合の作業時間を記載</p>	対象設備	作業内容	対象数 ^{※1}	単位作業時間 ^{※4}	対応要員 ^{※5}	作業時間		作業	合計	ホイールローダ	固縛解除 ^{※1}	2箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	2分	3分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	可搬型大型送水ポンプ車	固縛解除 ^{※1}	5箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	5分	6分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	ホース延長・回収車(送水車用)	固縛解除 ^{※1}	5箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	5分	6分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	可搬型タンクローリ	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う対象車両及び作業時間の相違</p>
対象設備	作業内容						対象数 ^{※1}	単位作業時間 ^{※4}	対応要員 ^{※5}	作業時間																																																																																																			
		作業	合計																																																																																																										
ホイールローダ	固縛解除 ^{※1}	0箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	0分	1分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
中型ホース展張車(150A)	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
大量送水車	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
タンクローリ	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
対象設備	作業内容	対象数 ^{※1}	単位作業時間 ^{※4}	対応要員 ^{※5}	作業時間																																																																																																								
					作業	合計																																																																																																							
ホイールローダ	固縛解除 ^{※1}	2箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	2分	3分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
可搬型大型送水ポンプ車	固縛解除 ^{※1}	5箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	5分	6分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
ホース延長・回収車(送水車用)	固縛解除 ^{※1}	5箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	5分	6分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
可搬型タンクローリ	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由																																		
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足 (14)</p> <p style="text-align: center;">アクセスルートの用語の定義</p> <p>アクセスルートの用語の定義を以下に整理する。整理結果を第1表に示す。</p> <p>1. 屋外アクセスルート 屋外アクセスルートは、緊急時対策所及び可搬型設備の保管場所から設置場所及び接続場所までのルートであり、「アクセスルート」と「サブルート」で定義する。</p> <p>2. 屋内アクセスルート 屋内アクセスルートは、外部からの衝撃による損傷の防止が図られた建物内における各設備の操作場所までのルートであり、「アクセスルート」と「迂回路」で定義する。</p> <p style="text-align: center;">第1表 アクセスルートの用語の定義</p> <table border="1" data-bbox="721 689 1310 1145"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>大分類</th> <th>小分類</th> <th>概要説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">屋外</td> <td rowspan="2">屋外アクセスルート</td> <td>アクセスルート</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震及び地震に伴う津波を考慮しても使用が可能である。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 </td> </tr> <tr> <td>サブルート</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震及び津波時に期待しないルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋内</td> <td rowspan="2">屋内アクセスルート</td> <td>アクセスルート</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 </td> </tr> <tr> <td>迂回路</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 転倒した常置品及び仮置資機材の人力による排除や乗り越え等により通行が可能である。 アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。 </td> </tr> </tbody> </table>	場所	大分類	小分類	概要説明	屋外	屋外アクセスルート	アクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震及び地震に伴う津波を考慮しても使用が可能である。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 	サブルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震及び津波時に期待しないルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 	屋内	屋内アクセスルート	アクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 	迂回路	<ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 転倒した常置品及び仮置資機材の人力による排除や乗り越え等により通行が可能である。 アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。 	<p style="text-align: right;">補足資料 (20)</p> <p style="text-align: center;">アクセスルートの用語の定義</p> <p>アクセスルートの用語の定義を以下に整理する。整理結果を第1表に示す。</p> <p>1. 屋外アクセスルート 屋外アクセスルートは、緊急時対策所及び可搬型設備の保管場所から設置場所及び接続場所までのルートであり、「アクセスルート」、「サブルート」、「自主整備ルート」で定義する。</p> <p>2. 屋内アクセスルート 屋内アクセスルートは、外部からの衝撃による損傷の防止が図られた建屋内における各設備の操作場所までのルートであり、「アクセスルート」と「迂回路」で定義する。</p> <p style="text-align: center;">第1表 アクセスルートの用語の定義</p> <table border="1" data-bbox="1361 699 1937 1200"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>大分類</th> <th>小分類</th> <th>概要説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">屋外</td> <td rowspan="3">屋外アクセスルート</td> <td>アクセスルート</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震及び地震に伴う津波を考慮しても使用が可能である。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 </td> </tr> <tr> <td>サブルート</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震及び津波時に期待しないルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 </td> </tr> <tr> <td>自主整備ルート</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 使用可能な場合に活用するルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋内</td> <td rowspan="2">屋内アクセスルート</td> <td>アクセスルート</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 </td> </tr> <tr> <td>迂回路</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震による内部溢水の影響を受けない。 アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。 </td> </tr> </tbody> </table>	場所	大分類	小分類	概要説明	屋外	屋外アクセスルート	アクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震及び地震に伴う津波を考慮しても使用が可能である。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 	サブルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震及び津波時に期待しないルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 	自主整備ルート	<ul style="list-style-type: none"> 使用可能な場合に活用するルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 	屋内	屋内アクセスルート	アクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 	迂回路	<ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震による内部溢水の影響を受けない。 アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。 	<p>【島根】方針の相違 ・泊は、自主整備ルートを設定している。(柏崎と同様)</p> <p>【島根】記載表現の相違 【島根】方針の相違 ・「自主整備ルート」を使用可能な場合に活用するルートとして設定している。 ・島根は、屋内アクセスルートについて迂回路のみ排除や乗り越え等による通行を考慮していることから、アクセスルートとの評価の違いを説明するために記載していると考えられる。一方、泊は、アクセスルート及び迂回路のいずれも、転倒した資機材の排除や乗り越えによる通行を考慮した評価を実施し、両者に差異が無いことから記載していない。</p>
場所	大分類	小分類	概要説明																																		
屋外	屋外アクセスルート	アクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震及び地震に伴う津波を考慮しても使用が可能である。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 																																		
		サブルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震及び津波時に期待しないルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 																																		
屋内	屋内アクセスルート	アクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 																																		
		迂回路	<ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 転倒した常置品及び仮置資機材の人力による排除や乗り越え等により通行が可能である。 アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。 																																		
場所	大分類	小分類	概要説明																																		
屋外	屋外アクセスルート	アクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震及び地震に伴う津波を考慮しても使用が可能である。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 																																		
		サブルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震及び津波時に期待しないルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 																																		
		自主整備ルート	<ul style="list-style-type: none"> 使用可能な場合に活用するルート。 地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。 																																		
屋内	屋内アクセスルート	アクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震に伴う内部溢水の影響を受けない。 有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。 																																		
		迂回路	<ul style="list-style-type: none"> 地震、地震に伴う火災及び地震による内部溢水の影響を受けない。 アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。 																																		

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足 (10)</p> <p style="text-align: center;">大量送水車等使用時におけるホースの配備長さ並びに ホースコンテナ及びホース展張車の配備イメージについて</p> <p>島根原子力発電所における大量送水車及び大型送水ポンプ車とともに使用するホースの配備長さ、ホースコンテナ、ホース展張車等の配備イメージについて、以下に示す。</p> <p>1. ホースの配備長さ ホースの配備長さは、以下の考え方で設定した。 ①用途ごとに算出したホース敷設距離（自主設備の使用を含む。）をもとに、敷設数及び同時使用を考慮して必要長さを設定 ②ホースコンテナ及びホース展張車に搭載可能なホース長さをもとに、ホース必要長さを満足するコンテナ数及びホース展張車台数を設定 ③ホースコンテナ数及びホース展張車台数とホースコンテナ及びホース展張車に搭載可能なホース長さからホースの配備長さを設定</p> <p>ホース展張車数は用途ごとの同時使用を考慮して設定した。 用途ごとのホース配備長さ、ホース展張車配備数を第1表に示す。また、用途ごとのホース敷設ルートを第1図～第7図に、用途ごとのホース必要長さを第2表～第8表に示す。</p> <p>2. ホースコンテナ及び展張車の配備イメージ ホースコンテナ及び展張車の配備イメージについて、第9表に示す。</p>	<p style="text-align: right;">補足資料 (21)</p> <p style="text-align: center;">可搬型大型送水ポンプ車等使用時におけるホースの配備長さ並びに ホースコンテナ及びホース延長・回収車の配備イメージについて</p> <p>泊発電所における可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型大容量海水送水ポンプ車とともに使用するホースの配備長さ、ホースコンテナ、ホース延長・回収車等の配備イメージについて、以下に示す。</p> <p>1. ホースの配備長さ ホースの配備長さは、以下の考え方で設定した。 ①用途ごとに算出したホース敷設距離（自主対策設備の使用を含む。）を基に、敷設数及び同時使用を考慮して必要長さを設定 ②ホースコンテナ及びホース延長・回収車に搭載可能なホース長さを基に、ホース必要長さを満足するコンテナ数及びホース延長・回収車台数を設定 ③ホースコンテナ数及びホース延長・回収車台数とホースコンテナ及びホース延長・回収車に搭載可能なホース長さからホースの配備長さを設定</p> <p>ホース延長・回収車数は用途ごとの同時使用を考慮して設定した。 用途ごとのホース配備長さ、ホース延長・回収車配備数を第1表に示す。また、用途ごとのホース敷設ルートを第1図～第6図に、用途ごとのホース必要長さを第2表～第7表に示す。</p> <p>2. ホースコンテナ及びホース延長・回収車の配備イメージ ホースコンテナ及びホース延長・回収車の配備イメージについて、第8表に示す。</p>	<p>【島根】設備名称の相違</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

差異理由

第1図 用途ごとのホース配管長さ及びホース展開車配備数(1/2)

用途	必要長さ	配備するホース展開車数*	補足
輸谷貯水槽（西1/西2）を水源とした低圧代替注水作業及び補給作業			
低圧代替注水（淡水・海水）	768 m (第1図 ルート②、④)	中型ホース展開車 (150A) 950m 【ホース (150A) 750m, ホース (100A) 200m 積載可】 1台	<ul style="list-style-type: none"> 低圧代替注水と水源補給は、同時敷設となるため、合算する。 左記の4ヶ所は同時に行われる作業ではなく、それぞれ状況に応じて対応が選ばれるものであるため、配備するホースは2,776mと設定する。
水源補給（淡水・海水）	2,010m (第3図 ルート⑤)		
低圧原子炉代替注水槽への水源補給作業			
水源補給（淡水・海水）	1,728m (第4図 ルート③)	大型ホース展開車 (150A) 1,050m 【ホース (150A) 1,050m 積載可】 2台	
復水貯蔵タンクへの水源補給作業			
水源補給（淡水・海水）	1,760m (第5図 ルート⑧)		
海を水源とした低圧代替注水作業			
低圧代替注水（海水）	1,781m (第2図 ルート⑥)		

※：1セット分の配備数

第1表 用途ごとのホース配管長さ及びホース延長・回収車配備数(1/2)

ホース径	用途	必要長さ	配備するホース延長・回収車数*	補足
150A	代替炉心注水、補助給水ピット補給、燃料取替用水ピット補給、使用済燃料ピット排水（S.A.手動）	950m (第1図(1/3) ルート①)	ホース延長・回収車（逆水車用） 1,800m 1台 【ホース (150A) 1,900m 積載可】	<ul style="list-style-type: none"> 代替炉心注水/補助給水ピット補給/燃料取替用水ピット補給は舟の切替えによる逆水車の必要に応じて 代替炉心注水/補助給水ピット補給/燃料取替用水ピット補給と使用済燃料ピット排水は、同時敷設となるため、合算する。
	・3号炉原子炉建屋裏側を越したルート	1,700m (第1図(1/3) ルート②)		
150A	原子炉補給冷却水を過水（S.A.手動）	400m (第2図(1/2) ルート①)	ホース延長・回収車（逆水車用） 1,800m 1台 【ホース (150A) 1,900m 積載可】	-
	・3号炉原子炉建屋裏側を越したルート	550m (第2図(1/2) ルート②)		
150A	代替格納容器スプレイ（自主手動）	950m (第3図(1/3) ルート②)	-	<ul style="list-style-type: none"> 代替格納容器スプレイ（自主手動）は、代替炉心注水/補助給水ピット補給/燃料取替用水ピット補給の配管経路の舟の切替えによる逆水車の必要、又は赤字設備にて対応 蒸気発生器注水（自主手動）は赤字設備にて対応
150A	蒸気発生器注水（自主手動）	750m (第4図 ルート②、④)	-	

※：1セット分の配備数

【島根】記載内容の相違
 ・使用する水源、可搬型設備、手順の相違。

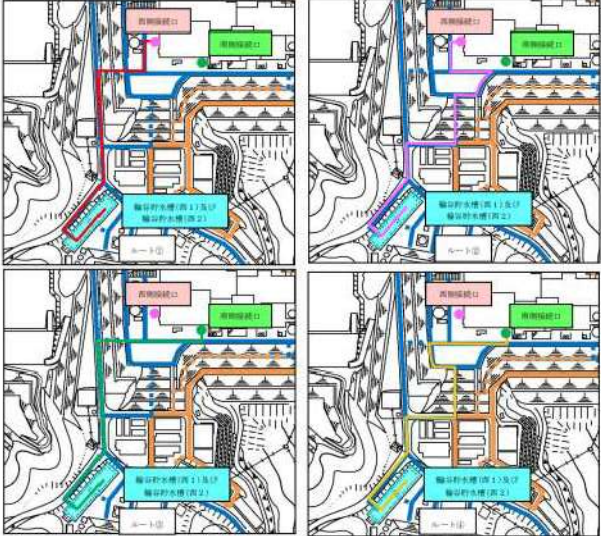
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																		
	<p style="text-align: center;">第1図 用途ごとのホース配備長さ及びホース展開車配備数(2/2)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">用途</th> <th style="width: 15%;">必要長さ</th> <th style="width: 15%;">配備するコンテナ数*</th> <th style="width: 15%;">配備するホース展開車数*</th> <th style="width: 15%;">補足</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射性物質拡散抑制</td> <td>755m (第6図 ルート①)</td> <td>コンテナ1基 (820m/1基)</td> <td>大型ホース展開車(300A) 1台</td> <td>・航空機燃料火災消火も同様のルートを使用</td> </tr> <tr> <td>最終ヒートシンク(海)への代替熱輸送</td> <td>1,575m (第7図 ルート③)</td> <td>コンテナ2基 (820m/1基)</td> <td>大型ホース展開車(300A) 1台</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>初期対応における延焼防止措置</td> <td>1,084m</td> <td>1,100m</td> <td>1台</td> <td>・使用するホースは初階消火に使用する化学消防自動車、小型動力ポンプ付水槽車及び泡消火薬剤運搬車に車載し運搬する</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※：1セット分の配備数</p>	用途	必要長さ	配備するコンテナ数*	配備するホース展開車数*	補足	放射性物質拡散抑制	755m (第6図 ルート①)	コンテナ1基 (820m/1基)	大型ホース展開車(300A) 1台	・航空機燃料火災消火も同様のルートを使用	最終ヒートシンク(海)への代替熱輸送	1,575m (第7図 ルート③)	コンテナ2基 (820m/1基)	大型ホース展開車(300A) 1台	—	初期対応における延焼防止措置	1,084m	1,100m	1台	・使用するホースは初階消火に使用する化学消防自動車、小型動力ポンプ付水槽車及び泡消火薬剤運搬車に車載し運搬する	<p style="text-align: center;">第1表 用途ごとのホース配備長さ及びホース延長・回収車配備数(2/2)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ホース径</th> <th rowspan="2">用途</th> <th colspan="2">必要長さ</th> <th rowspan="2">配備するコンテナ数*</th> <th rowspan="2">配備するホース延長・回収車数*</th> <th rowspan="2">補足</th> </tr> <tr> <th>800m (第5図(1/2) ルート①)</th> <th>700m (第5図(1/2) ルート③)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300A</td> <td>放射性物質拡散抑制(SA手順) ・3号炉原子炉建屋東側を經由したルート ・3号炉原子炉建屋西側を經由したルート</td> <td>800m (第5図(1/2) ルート①)</td> <td>800m (第5図(1/2) ルート③)</td> <td>コンテナ2基 【ホース(300A) 400m/1基】</td> <td>ホース延長・回収車(放水砲用) 1台</td> <td></td> </tr> <tr> <td>300A</td> <td>原子炉補機冷却海水系通水(自主手順)</td> <td>1,200m (第6図 ルート②)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>・原子炉補機冷却海水系通水(自主手順)は余剰設備にて対応</td> </tr> <tr> <td>65A</td> <td>初期対応における延焼防止措置(自主手順)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,180m</td> <td>—</td> <td>・使用するホースは初階消火に使用する化学消防自動車、水槽付消防ポンプ自動車及び大規模火災用消防自動車に車載し運搬する。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※：1セット分の配備数</p>	ホース径	用途	必要長さ		配備するコンテナ数*	配備するホース延長・回収車数*	補足	800m (第5図(1/2) ルート①)	700m (第5図(1/2) ルート③)	300A	放射性物質拡散抑制(SA手順) ・3号炉原子炉建屋東側を經由したルート ・3号炉原子炉建屋西側を經由したルート	800m (第5図(1/2) ルート①)	800m (第5図(1/2) ルート③)	コンテナ2基 【ホース(300A) 400m/1基】	ホース延長・回収車(放水砲用) 1台		300A	原子炉補機冷却海水系通水(自主手順)	1,200m (第6図 ルート②)	—	—	—	・原子炉補機冷却海水系通水(自主手順)は余剰設備にて対応	65A	初期対応における延焼防止措置(自主手順)	—	—	1,180m	—	・使用するホースは初階消火に使用する化学消防自動車、水槽付消防ポンプ自動車及び大規模火災用消防自動車に車載し運搬する。	<p>【島根】記載内容の相違 ・使用する水源、可搬型設備、手順の相違。</p>
用途	必要長さ	配備するコンテナ数*	配備するホース展開車数*	補足																																																	
放射性物質拡散抑制	755m (第6図 ルート①)	コンテナ1基 (820m/1基)	大型ホース展開車(300A) 1台	・航空機燃料火災消火も同様のルートを使用																																																	
最終ヒートシンク(海)への代替熱輸送	1,575m (第7図 ルート③)	コンテナ2基 (820m/1基)	大型ホース展開車(300A) 1台	—																																																	
初期対応における延焼防止措置	1,084m	1,100m	1台	・使用するホースは初階消火に使用する化学消防自動車、小型動力ポンプ付水槽車及び泡消火薬剤運搬車に車載し運搬する																																																	
ホース径	用途	必要長さ		配備するコンテナ数*	配備するホース延長・回収車数*	補足																																															
		800m (第5図(1/2) ルート①)	700m (第5図(1/2) ルート③)																																																		
300A	放射性物質拡散抑制(SA手順) ・3号炉原子炉建屋東側を經由したルート ・3号炉原子炉建屋西側を經由したルート	800m (第5図(1/2) ルート①)	800m (第5図(1/2) ルート③)	コンテナ2基 【ホース(300A) 400m/1基】	ホース延長・回収車(放水砲用) 1台																																																
300A	原子炉補機冷却海水系通水(自主手順)	1,200m (第6図 ルート②)	—	—	—	・原子炉補機冷却海水系通水(自主手順)は余剰設備にて対応																																															
65A	初期対応における延焼防止措置(自主手順)	—	—	1,180m	—	・使用するホースは初階消火に使用する化学消防自動車、水槽付消防ポンプ自動車及び大規模火災用消防自動車に車載し運搬する。																																															

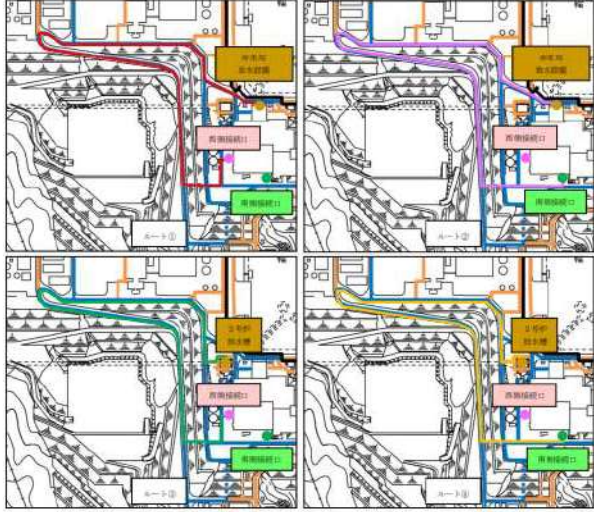

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																											
	 <p data-bbox="904 724 1128 746">第1図 ホース敷設ルート (輸谷貯水槽(西1)及び輸谷貯水槽(西2)を水源とした 低圧代替注水)</p> <p data-bbox="916 868 1120 890">第2表 ホース敷設距離 (輸谷貯水槽(西1)及び輸谷貯水槽(西2)を水源とした 低圧代替注水)</p> <table border="1" data-bbox="719 991 1294 1171"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td rowspan="4">輸谷貯水槽(西1)及び 輸谷貯水槽(西2)</td> <td>西側接続口</td> <td>602m</td> <td>626m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>西側接続口</td> <td>702m</td> <td>766m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>南側接続口</td> <td>649m</td> <td>676m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>南側接続口</td> <td>726m</td> <td>766m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	輸谷貯水槽(西1)及び 輸谷貯水槽(西2)	西側接続口	602m	626m	—	ルート②	西側接続口	702m	766m	—	ルート③	南側接続口	649m	676m	—	ルート④	南側接続口	726m	766m		<p data-bbox="1980 145 2161 225">【島根】記載内容の相違 ・使用する水源、可搬型 設備、手順の相違。</p>
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																									
—	ルート①	輸谷貯水槽(西1)及び 輸谷貯水槽(西2)	西側接続口	602m	626m																									
—	ルート②		西側接続口	702m	766m																									
—	ルート③		南側接続口	649m	676m																									
—	ルート④		南側接続口	726m	766m																									

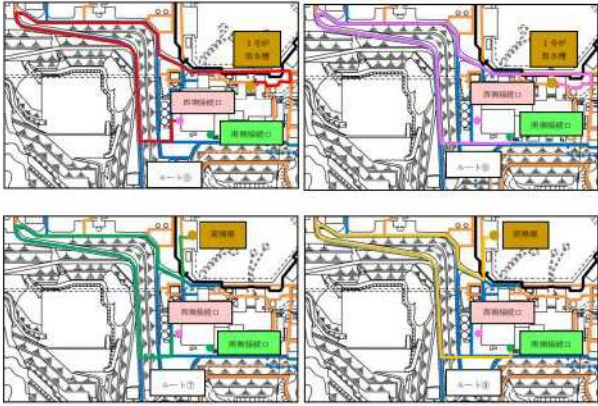

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

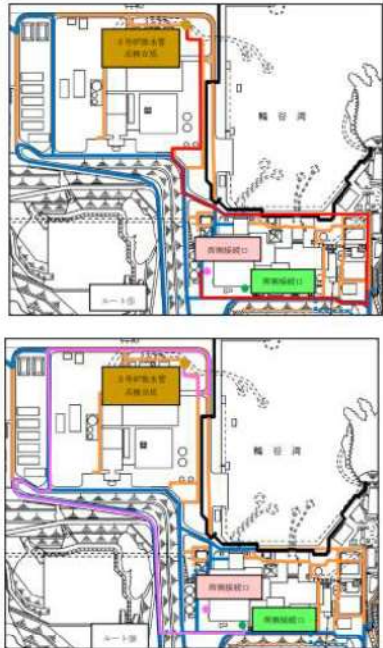
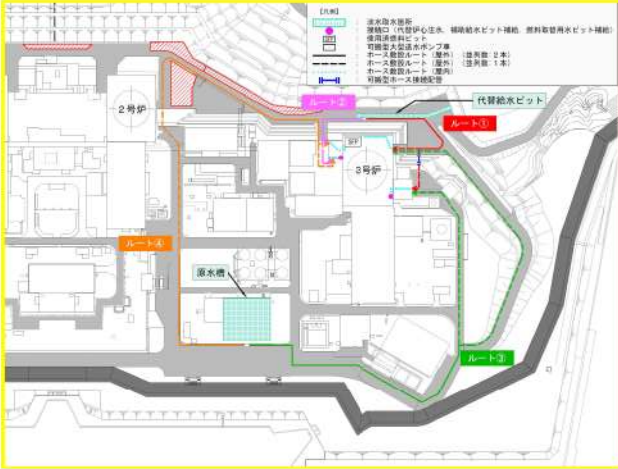
女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																									
	 <p data-bbox="712 694 1317 719">第2図 ホース敷設ルート（海を水源とした低圧代替注水）（1/3）</p> <p data-bbox="725 810 1303 836">第3表 ホース敷設距離（海を水源とした低圧代替注水）（1/3）</p> <table border="1" data-bbox="712 900 1317 1091"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td rowspan="2">非常用取水設備</td> <td>西側接続口</td> <td>1,322n</td> <td>1,331m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>南側接続口</td> <td>1,370n</td> <td>1,381m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td rowspan="2">2号炉放水槽</td> <td>西側接続口</td> <td>1,307a</td> <td>1,331m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>南側接続口</td> <td>1,354n</td> <td>1,381m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	非常用取水設備	西側接続口	1,322n	1,331m	—	ルート②	南側接続口	1,370n	1,381m	—	ルート③	2号炉放水槽	西側接続口	1,307a	1,331m	—	ルート④	南側接続口	1,354n	1,381m	 <p data-bbox="1339 694 1966 751">第1図 ホース敷設ルート（代替炉心注水、補助給水ピット補給、燃料取替用水ピット補給、使用済燃料ピット注水）（1/3）</p> <p data-bbox="1339 810 1966 868">第2表 ホース敷設距離（代替炉心注水、補助給水ピット補給、燃料取替用水ピット補給、使用済燃料ピット注水）（1/3）</p> <table border="1" data-bbox="1346 900 1964 1054"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td rowspan="2">ルート①※1</td> <td rowspan="2">3号炉取水ピット</td> <td>東側接続口、使用済燃料ピット</td> <td>555m</td> <td>650m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">950m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>西側接続口、使用済燃料ピット</td> <td>235m</td> <td>300m</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②※1</td> <td>3号炉取水ピットスクリーン室</td> <td>東側接続口、使用済燃料ピット</td> <td>610m</td> <td>700m</td> <td>2</td> <td>1,700m</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1346 1059 1563 1078">※1：SA手順、※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート①※1	3号炉取水ピット	東側接続口、使用済燃料ピット	555m	650m	1	950m	—	西側接続口、使用済燃料ピット	235m	300m	1	—	ルート②※1	3号炉取水ピットスクリーン室	東側接続口、使用済燃料ピット	610m	700m	2	1,700m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																							
—	ルート①	非常用取水設備	西側接続口	1,322n	1,331m																																																							
—	ルート②		南側接続口	1,370n	1,381m																																																							
—	ルート③	2号炉放水槽	西側接続口	1,307a	1,331m																																																							
—	ルート④		南側接続口	1,354n	1,381m																																																							
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																					
—	ルート①※1	3号炉取水ピット	東側接続口、使用済燃料ピット	555m	650m	1	950m																																																					
—			西側接続口、使用済燃料ピット	235m	300m	1																																																						
—	ルート②※1	3号炉取水ピットスクリーン室	東側接続口、使用済燃料ピット	610m	700m	2	1,700m																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

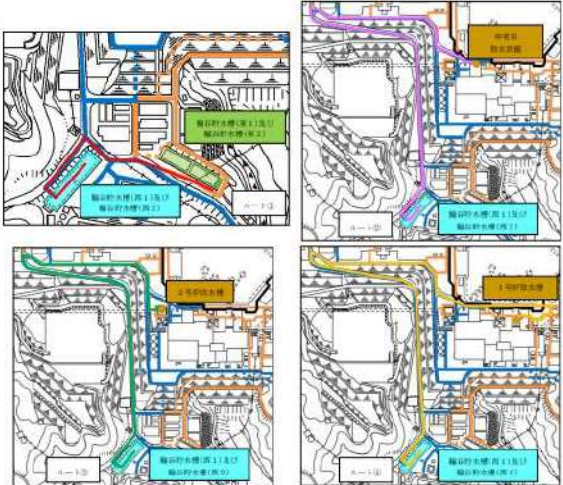

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																																											
	 <p>第2図 ホース敷設ルート（海を水源とした低圧代替注水）（2/3）</p> <p>第3表 ホース敷設距離（海を水源とした低圧代替注水）（2/3）</p> <table border="1" data-bbox="712 869 1319 1061"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑤</td> <td rowspan="2">1号炉取水槽</td> <td>西側接続口</td> <td>1,687m</td> <td>1,731m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑥</td> <td>南側接続口</td> <td>1,735m</td> <td>1,781m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑦</td> <td rowspan="2">荷揚場</td> <td>西側接続口</td> <td>1,405m</td> <td>1,431m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑧</td> <td>南側接続口</td> <td>1,452m</td> <td>1,481m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート⑤	1号炉取水槽	西側接続口	1,687m	1,731m	—	ルート⑥	南側接続口	1,735m	1,781m	—	ルート⑦	荷揚場	西側接続口	1,405m	1,431m	—	ルート⑧	南側接続口	1,452m	1,481m	 <p>第1図 ホース敷設ルート（代替炉心注水、補助給水ビット補給、燃料取替用水ビット補給、使用済燃料ビット注水）（2/3）</p> <p>第2表 ホース敷設距離（代替炉心注水、補助給水ビット補給、燃料取替用水ビット補給、使用済燃料ビット注水）（2/3）</p> <table border="1" data-bbox="1346 842 1951 1070"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td rowspan="2">ルート①^{※2}</td> <td rowspan="2">1号及び2号炉取水ビットスクリーン室</td> <td>西側接続口、取水ビット</td> <td>235m</td> <td>300m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">1,300m</td> </tr> <tr> <td></td> <td>使用済燃料ビット</td> <td>450m</td> <td>500m</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td rowspan="2">ルート②^{※2}</td> <td rowspan="2">3号炉取水口</td> <td>東側接続口、取水口</td> <td>555m</td> <td>650m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">1,450m</td> </tr> <tr> <td></td> <td>使用済燃料ビット</td> <td>320m</td> <td>400m</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td rowspan="2">ルート③^{※2}</td> <td rowspan="2">1号及び2号炉取水口</td> <td>西側接続口、取水口</td> <td>235m</td> <td>300m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">1,500m</td> </tr> <tr> <td></td> <td>使用済燃料ビット</td> <td>545m</td> <td>600m</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：SA手順、※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート① ^{※2}	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	西側接続口、取水ビット	235m	300m	1	1,300m		使用済燃料ビット	450m	500m	2	—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口	東側接続口、取水口	555m	650m	1	1,450m		使用済燃料ビット	320m	400m	2	—	ルート③ ^{※2}	1号及び2号炉取水口	西側接続口、取水口	235m	300m	1	1,500m		使用済燃料ビット	545m	600m	2	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																																									
—	ルート⑤	1号炉取水槽	西側接続口	1,687m	1,731m																																																																									
—	ルート⑥		南側接続口	1,735m	1,781m																																																																									
—	ルート⑦	荷揚場	西側接続口	1,405m	1,431m																																																																									
—	ルート⑧		南側接続口	1,452m	1,481m																																																																									
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																																							
—	ルート① ^{※2}	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	西側接続口、取水ビット	235m	300m	1	1,300m																																																																							
			使用済燃料ビット	450m	500m	2																																																																								
—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口	東側接続口、取水口	555m	650m	1	1,450m																																																																							
			使用済燃料ビット	320m	400m	2																																																																								
—	ルート③ ^{※2}	1号及び2号炉取水口	西側接続口、取水口	235m	300m	1	1,500m																																																																							
			使用済燃料ビット	545m	600m	2																																																																								

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																									
	 <p data-bbox="712 837 1317 865">第2図 ホース敷設ルート（海を水源とした低圧代替注水）（3/3）</p> <p data-bbox="712 954 1317 981">第3表 ホース敷設距離（海を水源とした低圧代替注水）（3/3）</p> <table border="1" data-bbox="712 1050 1317 1168"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td rowspan="2">3号炉取水管 点検立坑</td> <td>西側接続口</td> <td>1,556m</td> <td>1,567m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>南側接続口</td> <td>1,694m</td> <td>1,728m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	3号炉取水管 点検立坑	西側接続口	1,556m	1,567m	—	ルート②	南側接続口	1,694m	1,728m	 <p data-bbox="1355 837 1937 893">第1図 ホース敷設ルート（代替炉心注水、補助給水ピット補給、燃料取替用水ピット補給、使用済燃料ピット注水）（3/3）</p> <p data-bbox="1355 954 1937 1010">第2表 ホース敷設距離（代替炉心注水、補助給水ピット補給、燃料取替用水ピット補給、使用済燃料ピット注水）（3/3）</p> <table border="1" data-bbox="1344 1050 1953 1305"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">ルート①②</td> <td rowspan="2">代替給水ピット</td> <td>東側接続口、 使用済燃料ピット</td> <td>70m</td> <td>100m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">400m</td> </tr> <tr> <td>西側接続口、 使用済燃料ピット</td> <td>130m</td> <td>150m</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">ルート③④</td> <td rowspan="2">原水槽</td> <td>東側接続口、 使用済燃料ピット</td> <td>50m</td> <td>100m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">300m</td> </tr> <tr> <td>西側接続口、 使用済燃料ピット</td> <td>70m</td> <td>100m</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">ルート③④</td> <td rowspan="2">原水槽</td> <td>東側接続口、 使用済燃料ピット</td> <td>550m</td> <td>650m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">1,350m</td> </tr> <tr> <td>西側接続口、 使用済燃料ピット</td> <td>310m</td> <td>350m</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">ルート③④</td> <td rowspan="2">原水槽</td> <td>東側接続口、 使用済燃料ピット</td> <td>235m</td> <td>300m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">1,300m</td> </tr> <tr> <td>西側接続口、 使用済燃料ピット</td> <td>435m</td> <td>500m</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1344 1308 1568 1332">※1：SA手順、※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート①②	代替給水ピット	東側接続口、 使用済燃料ピット	70m	100m	1	400m	西側接続口、 使用済燃料ピット	130m	150m	2	—	ルート③④	原水槽	東側接続口、 使用済燃料ピット	50m	100m	1	300m	西側接続口、 使用済燃料ピット	70m	100m	2	—	ルート③④	原水槽	東側接続口、 使用済燃料ピット	550m	650m	1	1,350m	西側接続口、 使用済燃料ピット	310m	350m	2	—	ルート③④	原水槽	東側接続口、 使用済燃料ピット	235m	300m	1	1,300m	西側接続口、 使用済燃料ピット	435m	500m	2	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																																							
—	ルート①	3号炉取水管 点検立坑	西側接続口	1,556m	1,567m																																																																							
—	ルート②		南側接続口	1,694m	1,728m																																																																							
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																																					
—	ルート①②	代替給水ピット	東側接続口、 使用済燃料ピット	70m	100m	1	400m																																																																					
			西側接続口、 使用済燃料ピット	130m	150m	2																																																																						
—	ルート③④	原水槽	東側接続口、 使用済燃料ピット	50m	100m	1	300m																																																																					
			西側接続口、 使用済燃料ピット	70m	100m	2																																																																						
—	ルート③④	原水槽	東側接続口、 使用済燃料ピット	550m	650m	1	1,350m																																																																					
			西側接続口、 使用済燃料ピット	310m	350m	2																																																																						
—	ルート③④	原水槽	東側接続口、 使用済燃料ピット	235m	300m	1	1,300m																																																																					
			西側接続口、 使用済燃料ピット	435m	500m	2																																																																						

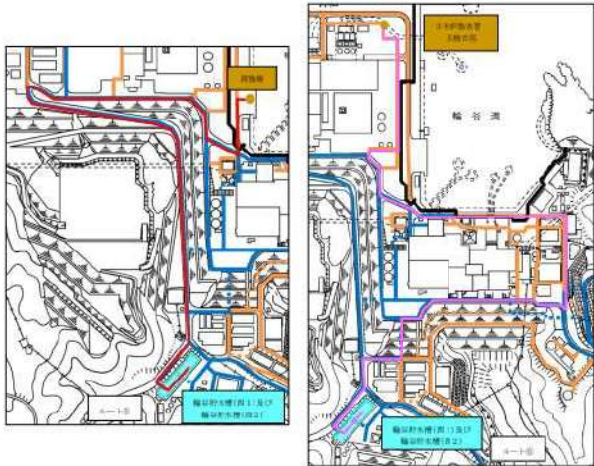

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																										
	 <p>第3図 ホース敷設ルート (輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)への補給)(1/2)</p> <p>第4表 ホース敷設距離 (輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)への補給)(1/2)</p> <table border="1" data-bbox="712 853 1317 1045"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>輪谷貯水槽(東1)及び輪谷貯水槽(東2)</td> <td rowspan="2">輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)</td> <td>434m</td> <td>455m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>非常用取水設備</td> <td>1,589m</td> <td>1,610m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>2号炉放水槽</td> <td rowspan="2">輪谷貯水槽(西2)</td> <td>1,574m</td> <td>1,610m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>1号炉取水槽</td> <td>1,954m</td> <td>1,960m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	輪谷貯水槽(東1)及び輪谷貯水槽(東2)	輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)	434m	455m	—	ルート②	非常用取水設備	1,589m	1,610m	—	ルート③	2号炉放水槽	輪谷貯水槽(西2)	1,574m	1,610m	—	ルート④	1号炉取水槽	1,954m	1,960m	 <p>第2図 ホース敷設ルート(原子炉補機冷却水系通水)(1/2)</p> <p>第3表 ホース敷設距離(原子炉補機冷却水系通水)(1/2)</p> <table border="1" data-bbox="1355 885 1948 1029"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①※1</td> <td rowspan="2">3号炉取水ビットスクリーン室</td> <td>東側接続口</td> <td>340m</td> <td>400m</td> <td>1</td> <td>400m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②※1</td> <td>西側接続口</td> <td>130m</td> <td>150m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">550m</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>165m</td> <td>200m</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：SA手順, ※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート①※1	3号炉取水ビットスクリーン室	東側接続口	340m	400m	1	400m	—	ルート②※1	西側接続口	130m	150m	1	550m					165m	200m	2	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																								
—	ルート①	輪谷貯水槽(東1)及び輪谷貯水槽(東2)	輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)	434m	455m																																																								
—	ルート②	非常用取水設備		1,589m	1,610m																																																								
—	ルート③	2号炉放水槽	輪谷貯水槽(西2)	1,574m	1,610m																																																								
—	ルート④	1号炉取水槽		1,954m	1,960m																																																								
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																						
—	ルート①※1	3号炉取水ビットスクリーン室	東側接続口	340m	400m	1	400m																																																						
—	ルート②※1		西側接続口	130m	150m	1	550m																																																						
				165m	200m	2																																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																									
	 <p data-bbox="728 635 1310 689">第3図 ホース敷設ルート （輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）への補給）（2/2）</p> <p data-bbox="728 751 1310 805">第4表 ホース敷設距離 （輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）への補給）（2/2）</p> <table border="1" data-bbox="712 815 1321 943"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑤</td> <td>荷揚場</td> <td>輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）</td> <td>1,672m</td> <td>1,710m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑥</td> <td>3号炉取水管 点検立坑</td> <td>輪谷貯水槽（西2）</td> <td>1,966m</td> <td>2,010m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート⑤	荷揚場	輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）	1,672m	1,710m	—	ルート⑥	3号炉取水管 点検立坑	輪谷貯水槽（西2）	1,966m	2,010m	 <p data-bbox="1377 635 1915 659">第2図 ホース敷設ルート（原子炉補機冷却水系通水）（2/2）</p> <p data-bbox="1377 751 1915 775">第3表 ホース敷設距離（原子炉補機冷却水系通水）（2/2）</p> <table border="1" data-bbox="1346 791 1951 1062"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①^{※1}</td> <td>1号及び2号炉取水ビットスクリーン室</td> <td>西側接続口</td> <td>395m</td> <td>450m</td> <td>2</td> <td>900m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②^{※2}</td> <td rowspan="2">3号炉取水口</td> <td>東側接続口</td> <td>525m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③^{※2}</td> <td>西側接続口</td> <td>270m</td> <td>300m</td> <td>2</td> <td>600m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④^{※2}</td> <td>1号及び2号炉取水口</td> <td>西側接続口</td> <td>475m</td> <td>550m</td> <td>2</td> <td>1,100m</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1355 1066 1568 1085">※1：SA手順、※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート① ^{※1}	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	西側接続口	395m	450m	2	900m	—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口	東側接続口	525m	600m	2	1,200m	—	ルート③ ^{※2}	西側接続口	270m	300m	2	600m	—	ルート④ ^{※2}	1号及び2号炉取水口	西側接続口	475m	550m	2	1,100m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																							
—	ルート⑤	荷揚場	輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）	1,672m	1,710m																																																							
—	ルート⑥	3号炉取水管 点検立坑	輪谷貯水槽（西2）	1,966m	2,010m																																																							
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																					
—	ルート① ^{※1}	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	西側接続口	395m	450m	2	900m																																																					
—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口	東側接続口	525m	600m	2	1,200m																																																					
—	ルート③ ^{※2}		西側接続口	270m	300m	2	600m																																																					
—	ルート④ ^{※2}	1号及び2号炉取水口	西側接続口	475m	550m	2	1,100m																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																		
<div data-bbox="712 178 1317 678"> </div> <div data-bbox="712 694 1317 721"> <p>第4図 ホース敷設ルート（低圧原子炉代替注水槽への補給）（1/3）</p> </div> <div data-bbox="712 778 1317 805"> <p>第5表 ホース敷設距離（低圧原子炉代替注水槽への補給）（1/3）</p> </div> <div data-bbox="712 817 1317 1029"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）</td> <td rowspan="4">低圧原子炉代替 注水槽</td> <td>726m</td> <td>766m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>純水タンク （A）、（B）</td> <td>318m</td> <td>355m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>1号ろ過水 タンク</td> <td>483m</td> <td>505m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>2号ろ過水 タンク</td> <td>530m</td> <td>555m</td> </tr> </tbody> </table> </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）	低圧原子炉代替 注水槽	726m	766m	—	ルート②	純水タンク （A）、（B）	318m	355m	—	ルート③	1号ろ過水 タンク	483m	505m	—	ルート④	2号ろ過水 タンク	530m	555m	<div data-bbox="1339 178 1960 654"> </div> <div data-bbox="1384 694 1915 721"> <p>第3図 ホース敷設ルート（代替格納容器スプレィ）（1/3）</p> </div> <div data-bbox="1384 778 1915 805"> <p>第4表 ホース敷設距離（代替格納容器スプレィ）（1/3）</p> </div> <div data-bbox="1339 817 1960 973"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①^{※2}</td> <td rowspan="2">3号炉 取水ビット スクリーン室</td> <td>東側接続口</td> <td>340m</td> <td>400m</td> <td>1</td> <td>400m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②^{※2}</td> <td>西側接続口</td> <td>835m</td> <td>950m</td> <td>1</td> <td>950m</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1344 976 1568 997"> <p>※1：SA手順、※2：自主手順</p> </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート① ^{※2}	3号炉 取水ビット スクリーン室	東側接続口	340m	400m	1	400m	—	ルート② ^{※2}	西側接続口	835m	950m	1	950m		
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																
—	ルート①	輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）	低圧原子炉代替 注水槽	726m	766m																																																
—	ルート②	純水タンク （A）、（B）		318m	355m																																																
—	ルート③	1号ろ過水 タンク		483m	505m																																																
—	ルート④	2号ろ過水 タンク		530m	555m																																																
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																														
—	ルート① ^{※2}	3号炉 取水ビット スクリーン室	東側接続口	340m	400m	1	400m																																														
—	ルート② ^{※2}		西側接続口	835m	950m	1	950m																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉

島根原子力発電所 2号炉

泊発電所 3号炉

差異理由



第4図 ホース敷設ルート（低圧原子炉代替注水槽への補給）（2 / 3）

第5表 ホース敷設距離（低圧原子炉代替注水槽への補給）（2 / 3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート⑤	非常用ろ過水タンク	低圧原子炉代替注水槽	907m	915m
—	ルート⑥	非常用取水設備		1,370m	1,381m
—	ルート⑦	2号炉放水槽		1,354m	1,381m
—	ルート⑧	荷揚場		1,452m	1,481m



第3図 ホース敷設ルート（代替格納容器スプレィ）（2/3）

第4表 ホース敷設距離（代替格納容器スプレィ）（2/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート① ^{※2}	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	西側接続口	680m	750m	1	750m
—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口	東側接続口	525m	600m	1	600m
—	ルート③ ^{※2}	1号及び2号炉取水口	西側接続口	765m	850m	1	850m

※1：S A手順、※2：自主手順

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

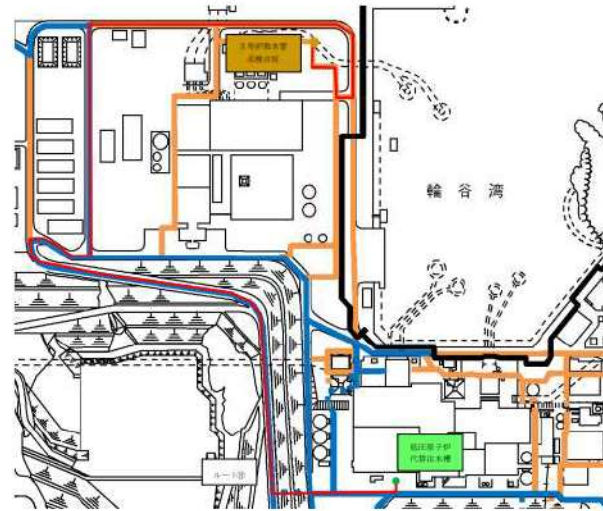
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

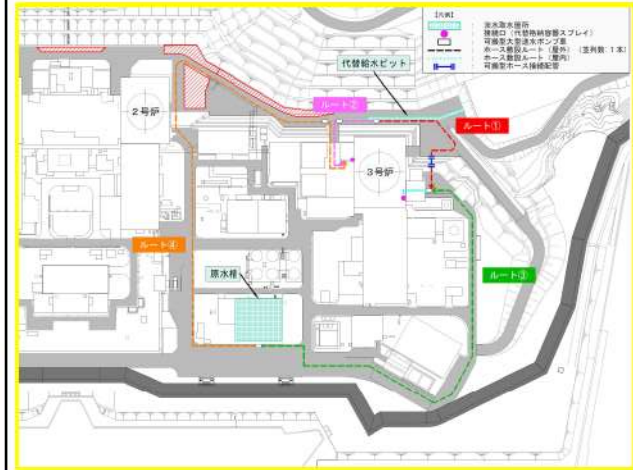
差異理由



第4図 ホース敷設ルート（低圧原子炉代替注水槽への補給）（3/3）

第5表 ホース敷設距離（低圧原子炉代替注水槽への補給）（3/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート⑤	3号炉取水管 点検立坑	低圧原子炉代替 注水槽	1,693m	1,728m



第3図 ホース敷設ルート（代替格納容器スプレィ）（3/3）

第4表 ホース敷設距離（代替格納容器スプレィ）（3/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート①②	代替給水ピット	東側接続口	170m	200m	1	200m
—	ルート②③		西側接続口	110m	150m	1	150m
—	ルート③④	原水槽	東側接続口	515m	600m	1	600m
—	ルート④⑤		西側接続口	665m	750m	1	750m

※1：SA手順、※2：自主手順

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																																
	<div data-bbox="721 167 1308 683" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="734 691 1294 716" data-label="Caption"> <p>第5図 ホース敷設ルート（復水貯蔵タンクへの補給）（1/3）</p> </div> <div data-bbox="743 777 1285 802" data-label="Caption"> <p>第6表 ホース敷設距離（復水貯蔵タンクへの補給）（1/3）</p> </div> <div data-bbox="710 813 1308 1026" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）</td> <td rowspan="4">復水貯蔵 タンク</td> <td>712m</td> <td>786m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>純水タンク （A）、（B）</td> <td>491m</td> <td>533m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>1号ろ過水 タンク</td> <td>655m</td> <td>683m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>2号ろ過水 タンク</td> <td>703m</td> <td>733m</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="880 1070 1308 1098" data-label="Text"> <p>本資料のうち、特記の内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）	復水貯蔵 タンク	712m	786m	—	ルート②	純水タンク （A）、（B）	491m	533m	—	ルート③	1号ろ過水 タンク	655m	683m	—	ルート④	2号ろ過水 タンク	703m	733m	<div data-bbox="1339 204 1960 683" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="1440 691 1843 716" data-label="Caption"> <p>第4図 ホース敷設ルート（蒸気発生器注水）</p> </div> <div data-bbox="1449 777 1834 802" data-label="Caption"> <p>第5表 ホース敷設距離（蒸気発生器注水）</p> </div> <div data-bbox="1339 813 1951 1086" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用 距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート ①^{※1}</td> <td>3号炉 取水ビット スクリーン室</td> <td rowspan="4">可搬型大型送水 ポンプ車代替給水 ライン接続口</td> <td>480m</td> <td>550m</td> <td>1</td> <td>550m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート ②^{※2}</td> <td>3号炉 取水口</td> <td>675m</td> <td>750m</td> <td>1</td> <td>750m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート ③^{※2}</td> <td>代替給水ビット</td> <td>160m</td> <td>200m</td> <td>1</td> <td>200m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート ④^{※2}</td> <td>原水槽</td> <td>655m</td> <td>750m</td> <td>1</td> <td>750m</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1346 1090 1563 1109" data-label="Text"> <p>※1：SA手順、※2：自主手順</p> </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用 距離	並列数	必要長さ	—	ルート ① ^{※1}	3号炉 取水ビット スクリーン室	可搬型大型送水 ポンプ車代替給水 ライン接続口	480m	550m	1	550m	—	ルート ② ^{※2}	3号炉 取水口	675m	750m	1	750m	—	ルート ③ ^{※2}	代替給水ビット	160m	200m	1	200m	—	ルート ④ ^{※2}	原水槽	655m	750m	1	750m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																														
—	ルート①	輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）	復水貯蔵 タンク	712m	786m																																																														
—	ルート②	純水タンク （A）、（B）		491m	533m																																																														
—	ルート③	1号ろ過水 タンク		655m	683m																																																														
—	ルート④	2号ろ過水 タンク		703m	733m																																																														
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用 距離	並列数	必要長さ																																																												
—	ルート ① ^{※1}	3号炉 取水ビット スクリーン室	可搬型大型送水 ポンプ車代替給水 ライン接続口	480m	550m	1	550m																																																												
—	ルート ② ^{※2}	3号炉 取水口		675m	750m	1	750m																																																												
—	ルート ③ ^{※2}	代替給水ビット		160m	200m	1	200m																																																												
—	ルート ④ ^{※2}	原水槽		655m	750m	1	750m																																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																											
	<div data-bbox="721 183 1310 683" style="border: 1px solid black; height: 313px; width: 263px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="734 694 1294 721">第5図 ホース敷設ルート（復水貯蔵タンクへの補給）（2 / 3）</p> <p data-bbox="743 778 1285 805">第6表 ホース敷設距離（復水貯蔵タンクへの補給）（2 / 3）</p> <table border="1" data-bbox="714 805 1317 1007"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート⑤</td> <td>非常用ろ過水タンク</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">復水貯蔵タンク</td> <td style="text-align: center;">1,086m</td> <td style="text-align: center;">1,085m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート⑥</td> <td>非常用取水設備</td> <td style="text-align: center;">1,332m</td> <td style="text-align: center;">1,360m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート⑦</td> <td>2号炉放水槽</td> <td style="text-align: center;">1,316m</td> <td style="text-align: center;">1,360m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート⑧</td> <td>1号炉取水槽</td> <td style="text-align: center;">1,697m</td> <td style="text-align: center;">1,760m</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="882 1038 1312 1066" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 本資料のうち、特許等の内容は機密に係る事項のため公開できません。 </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート⑤	非常用ろ過水タンク	復水貯蔵タンク	1,086m	1,085m	—	ルート⑥	非常用取水設備	1,332m	1,360m	—	ルート⑦	2号炉放水槽	1,316m	1,360m	—	ルート⑧	1号炉取水槽	1,697m	1,760m		
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																									
—	ルート⑤	非常用ろ過水タンク	復水貯蔵タンク	1,086m	1,085m																									
—	ルート⑥	非常用取水設備		1,332m	1,360m																									
—	ルート⑦	2号炉放水槽		1,316m	1,360m																									
—	ルート⑧	1号炉取水槽		1,697m	1,760m																									

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																	
	<div data-bbox="728 167 1310 726" style="border: 1px solid black; height: 350px; margin-bottom: 10px;"></div> <p data-bbox="728 750 1310 774">第5図 ホース敷設ルート（復水貯蔵タンクへの補給）（3/3）</p> <p data-bbox="728 837 1310 861">第6表 ホース敷設距離（復水貯蔵タンクへの補給）（3/3）</p> <table border="1" data-bbox="728 877 1310 997"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート㊸</td> <td>荷揚場</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">復水貯蔵 タンク</td> <td style="text-align: center;">1,415m</td> <td style="text-align: center;">1,460m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート㊹</td> <td>3号炉取水管 点検立坑</td> <td style="text-align: center;">1,890m</td> <td style="text-align: center;">1,890m</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="884 1029 1310 1061" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> 本資料のうち、特選みの内容は機密に係る事項のため公開できません。 </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート㊸	荷揚場	復水貯蔵 タンク	1,415m	1,460m	—	ルート㊹	3号炉取水管 点検立坑	1,890m	1,890m		
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ															
—	ルート㊸	荷揚場	復水貯蔵 タンク	1,415m	1,460m															
—	ルート㊹	3号炉取水管 点検立坑		1,890m	1,890m															


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																													
	<p>第6図 ホース敷設ルート（放射性物質拡散抑制）</p> <p>第7表 ホース敷設距離（放射性物質拡散抑制）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>非常用取水設備</td> <td rowspan="4">放水砲</td> <td>747m</td> <td>755m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>2号炉放水槽</td> <td>330m</td> <td>355m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>1号炉取水槽</td> <td>643m</td> <td>650m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>荷揚場</td> <td>545m</td> <td>550m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	非常用取水設備	放水砲	747m	755m	—	ルート②	2号炉放水槽	330m	355m	—	ルート③	1号炉取水槽	643m	650m	—	ルート④	荷揚場	545m	550m	<p>第5図 ホース敷設ルート（放射性物質拡散抑制）(1/2)</p> <p>第6表 ホース敷設距離（放射性物質拡散抑制）(1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①^{※1}</td> <td rowspan="4">3号炉 取水ビット スクリーン室</td> <td rowspan="4">放水砲</td> <td>335m</td> <td>400m</td> <td>2</td> <td>800m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②^{※2}</td> <td>470m</td> <td>550m</td> <td>2</td> <td>1,100m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③^{※1}</td> <td>305m</td> <td>350m</td> <td>2</td> <td>700m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④^{※2}</td> <td>530m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：SA手順、※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート① ^{※1}	3号炉 取水ビット スクリーン室	放水砲	335m	400m	2	800m	—	ルート② ^{※2}	470m	550m	2	1,100m	—	ルート③ ^{※1}	305m	350m	2	700m	—	ルート④ ^{※2}	530m	600m	2	1,200m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																											
—	ルート①	非常用取水設備	放水砲	747m	755m																																																											
—	ルート②	2号炉放水槽		330m	355m																																																											
—	ルート③	1号炉取水槽		643m	650m																																																											
—	ルート④	荷揚場		545m	550m																																																											
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																									
—	ルート① ^{※1}	3号炉 取水ビット スクリーン室	放水砲	335m	400m	2	800m																																																									
—	ルート② ^{※2}			470m	550m	2	1,100m																																																									
—	ルート③ ^{※1}			305m	350m	2	700m																																																									
—	ルート④ ^{※2}			530m	600m	2	1,200m																																																									



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																												
		 <p data-bbox="1400 662 1892 694">第5図 ホース敷設ルート（放射性物質拡散抑制）(2/2)</p> <p data-bbox="1400 750 1892 782">第6表 ホース敷設距離（放射性物質拡散抑制）(2/2)</p> <table border="1" data-bbox="1344 790 1960 1093"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①^{B2}</td> <td>1号及び2号炉 取水ピット</td> <td rowspan="5">放水砲</td> <td>410m</td> <td>500m</td> <td>2</td> <td>1,000m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②^{B2}</td> <td>スクリーン室</td> <td>540m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③^{B2}</td> <td>3号炉</td> <td>520m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④^{B2}</td> <td>取水口</td> <td>285m</td> <td>350m</td> <td>2</td> <td>700m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑤^{B2}</td> <td>1号及び2号炉 取水口</td> <td>490m</td> <td>550m</td> <td>2</td> <td>1,100m</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1344 1093 1568 1117">※1：SA手順，※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート① ^{B2}	1号及び2号炉 取水ピット	放水砲	410m	500m	2	1,000m	—	ルート② ^{B2}	スクリーン室	540m	600m	2	1,200m	—	ルート③ ^{B2}	3号炉	520m	600m	2	1,200m	—	ルート④ ^{B2}	取水口	285m	350m	2	700m	—	ルート⑤ ^{B2}	1号及び2号炉 取水口	490m	550m	2	1,100m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																								
—	ルート① ^{B2}	1号及び2号炉 取水ピット	放水砲	410m	500m	2	1,000m																																								
—	ルート② ^{B2}	スクリーン室		540m	600m	2	1,200m																																								
—	ルート③ ^{B2}	3号炉		520m	600m	2	1,200m																																								
—	ルート④ ^{B2}	取水口		285m	350m	2	700m																																								
—	ルート⑤ ^{B2}	1号及び2号炉 取水口		490m	550m	2	1,100m																																								

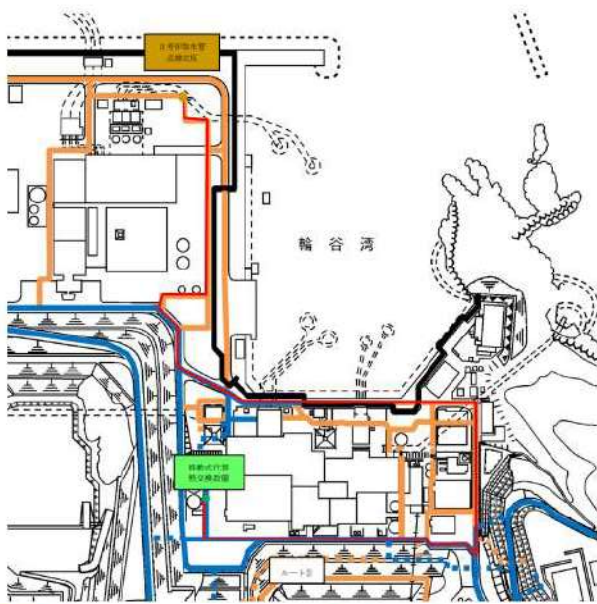
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																		
	 <p data-bbox="707 719 1314 774">第7図 ホース敷設ルート（最終ヒートシンク（海）への代替熱輸送）（1/2）</p> <p data-bbox="707 805 1314 860">第8表 ホース敷設距離（最終ヒートシンク（海）への代替熱輸送）（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="714 869 1317 1061"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>非常用取水設備</td> <td rowspan="4">移動式代替熱交換設備</td> <td>908m</td> <td>925m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>2号炉放水槽</td> <td>388m</td> <td>425m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>1号炉取水槽</td> <td>818m</td> <td>825m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>荷揚場</td> <td>603m</td> <td>625m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	非常用取水設備	移動式代替熱交換設備	908m	925m	—	ルート②	2号炉放水槽	388m	425m	—	ルート③	1号炉取水槽	818m	825m	—	ルート④	荷揚場	603m	625m	 <p data-bbox="1391 719 1890 743">第6図 ホース敷設ルート（原子炉補機冷却海水系通水）</p> <p data-bbox="1391 805 1890 829">第7表 ホース敷設距離（原子炉補機冷却海水系通水）</p> <table border="1" data-bbox="1350 874 1951 1050"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①※2</td> <td>3号炉取水ビットスクリーン室</td> <td rowspan="2">可搬型大容量海水送水ポンプ車 A母管接続口 又はB母管接続口</td> <td>345m</td> <td>400m</td> <td>2</td> <td>800m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②※2</td> <td>3号炉取水口</td> <td>535m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1350 1051 1563 1070">※1：S.A手順、※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート①※2	3号炉取水ビットスクリーン室	可搬型大容量海水送水ポンプ車 A母管接続口 又はB母管接続口	345m	400m	2	800m	—	ルート②※2	3号炉取水口	535m	600m	2	1,200m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																
—	ルート①	非常用取水設備	移動式代替熱交換設備	908m	925m																																																
—	ルート②	2号炉放水槽		388m	425m																																																
—	ルート③	1号炉取水槽		818m	825m																																																
—	ルート④	荷揚場		603m	625m																																																
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																														
—	ルート①※2	3号炉取水ビットスクリーン室	可搬型大容量海水送水ポンプ車 A母管接続口 又はB母管接続口	345m	400m	2	800m																																														
—	ルート②※2	3号炉取水口		535m	600m	2	1,200m																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由												
	 <p data-bbox="712 805 1310 861">第7図 ホース敷設ルート（最終ヒートシンク（海）への代替熱輸送） （2/2）</p> <p data-bbox="712 917 1310 973">第8表 ホース敷設距離（最終ヒートシンク（海）への代替熱輸送） （2/2）</p> <table border="1" data-bbox="716 989 1310 1077"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>3号炉取水管 点検立坑</td> <td>移動式代替 熱交換設備</td> <td>1,529m</td> <td>1,575m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	3号炉取水管 点検立坑	移動式代替 熱交換設備	1,529m	1,575m		
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ										
—	ルート①	3号炉取水管 点検立坑	移動式代替 熱交換設備	1,529m	1,575m										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

差異理由

第9図 ホースコンテナ及びびん展張車の配備イメージ

用途	ホース長さ	コンテナ数	展張車数	配備イメージ
低圧代替注水 及び水源補給	2,776m	—	中型ホース展張車 (150A) 【ホース950m】 1台	第2・第3保管エリアに同数配備  ホース展張車
			大型ホース展張車 (150A) 【ホース1,050m】 2台	第1・第4保管エリアに同数配備  ホース展張車
放射性物質拡散 抑制	755m	コンテナ1基 (820m/1基)	大型ホース展張車 (300A) 1台	第4保管エリアに同数配備  ホース展張車
			大型ホース展張車 (300A) 1台	コンテナ  コンテナ
最終ヒートシンク (他)への 代替熱輸送	1,575m	コンテナ2基 (820m/1基)	大型ホース展張車 (300A) 1台	第1・第4保管エリアに同数配備  ホース展張車

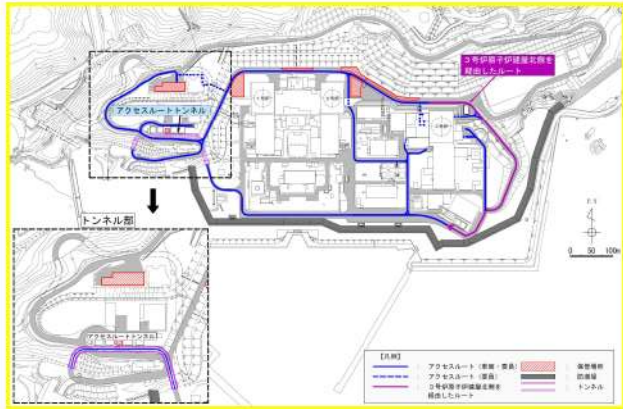
第8表 ホースコンテナ及びびんホース延長・回収車の配備イメージ

用途	ホース長さ	コンテナ数	ホース延長・回収車	配備イメージ
代替炉心注水、補助給水ピット 補給、燃料取替用水ピット 補給、使用済燃料ピット注水	1,700m	—	ホース延長・回収車 (送水車用) 【ホース(150A) 1,800m】 1台	2号炉東側31mエリア(a), 51m 倉庫・車庫エリアに同数配備  ホース延長・回収車 (送水車用)
			ホース延長・回収車 (送水車用) 【ホース(150A) 1,800m】 1台	2号炉東側31mエリア(a), 51m 倉庫・車庫エリアに同数配備  ホース延長・回収車 (送水車用)
原子炉補機冷却水系通水	550m	—	ホース延長・回収車 (放水車用) 【ホース(150A) 1,800m】 1台	2号炉北側31mエリア, 51m倉庫・ 車庫エリアに同数配備  ホース延長・回収車 (放水車用)
放射性物質拡散抑制	800m	コンテナ2基 【ホース(300A) 400m/1基】	ホース延長・回収車 (放水車用) 1台	1, 2号炉北側31mエリア, 51m倉庫・ 車庫エリアに同数配備  ホース延長・回収車 (放水車用)  コンテナ

【島根】記載内容の相違
 ・用途に応じた使用する
 ホース長さ、コンテナ
 基数、車両台数の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(22)</p> <p style="text-align: center;">アクセスルートトンネルの運用について</p> <p>アクセスルートトンネルは、重大事故等時の活動における屋外のアクセスルートとして設定しており、耐震性を確保する設計としていことから、高台から 10m 盤への可搬型設備の通行経路として期待する。</p> <p>このため、重大事故等に備えたルートとして常時確保する必要性から、通常の発電所の運用には使用しないため、現場にその旨の注意表示を掲示し識別する。ただし、発電所構内での傷病者、火災発生等の緊急時、訓練、巡視及び保守・点検時については、一時的に使用するものであり通行状況を把握できることから制限しない。</p> <p>また、アクセスルートトンネルに障害物等がなく通行可能であることを確認するため 1 回/日の巡視を実施することに加え、1 回/年の点検を実施し、当該トンネルの健全性を確認するとともに、必要に応じて補修作業を実施する。</p> <p>なお、アクセスルートとして必要な道路幅 (4.0m) を確保できていない状況であることを確認した場合は、速やかに復旧を行うと同時に、3号炉原子炉建屋北側を經由したルートが通行可能であることを確認する。</p> <p>以上のアクセスルートトンネルの運用については、保安規定に基づく社内規程類に規定するものとする。 アクセスルートトンネルの配置図を第 1 図に示す。</p>  <p style="text-align: center;">第 1 図 アクセスルートトンネルの配置図</p>	<p>【女川及び島根】 記載方針の相違 ・泊固有の補足資料</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

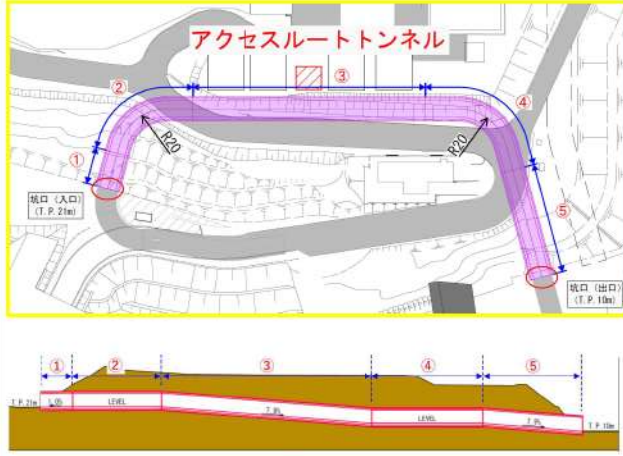
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由														
該当箇所無し	該当箇所無し	<p style="text-align: right;">補足資料(23)</p> <p>アクセスルートトンネルの可搬型設備及び重機の通行性について</p> <p>アクセスルートトンネルの仕様は第1表のとおりであり、勾配、幅員、曲線部における設計の考慮事項を以下に示す。</p> <p style="text-align: center;">第1表 アクセスルートトンネルの仕様</p> <table border="1" data-bbox="1346 384 1951 794"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構造及び形状</td> <td>鉄筋コンクリート造、馬蹄形トンネル</td> </tr> <tr> <td>トンネル長</td> <td>約250m</td> </tr> <tr> <td>断面形状 (内空)</td> <td>幅：約8.7m 高さ：約6.2m 曲線半径：R20m（第1図の②、④部）</td> </tr> <tr> <td>縦断勾配</td> <td>1.0%、7.9%</td> </tr> <tr> <td>設計速度*</td> <td>15km/h</td> </tr> <tr> <td>通行する車両 (最大となる 可搬型設備 ・重機)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替電源車 幅：2,980mm、高さ：4,992mm、全長：16,606mm ・ホイールローダ 幅：3,370mm、高さ：3,370mm、全長：7,130mm ・バックホウ 幅：3,150mm、高さ：3,160mm、全長：9,530mm </td> </tr> </tbody> </table> <p>※：設定根拠については添付資料-1参照</p>	項目	仕様	構造及び形状	鉄筋コンクリート造、馬蹄形トンネル	トンネル長	約250m	断面形状 (内空)	幅：約8.7m 高さ：約6.2m 曲線半径：R20m（第1図の②、④部）	縦断勾配	1.0%、7.9%	設計速度*	15km/h	通行する車両 (最大となる 可搬型設備 ・重機)	<ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替電源車 幅：2,980mm、高さ：4,992mm、全長：16,606mm ・ホイールローダ 幅：3,370mm、高さ：3,370mm、全長：7,130mm ・バックホウ 幅：3,150mm、高さ：3,160mm、全長：9,530mm 	<p>【女川及び島根】 記載方針の相違 ・泊固有の補足資料。</p>
項目	仕様																
構造及び形状	鉄筋コンクリート造、馬蹄形トンネル																
トンネル長	約250m																
断面形状 (内空)	幅：約8.7m 高さ：約6.2m 曲線半径：R20m（第1図の②、④部）																
縦断勾配	1.0%、7.9%																
設計速度*	15km/h																
通行する車両 (最大となる 可搬型設備 ・重機)	<ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替電源車 幅：2,980mm、高さ：4,992mm、全長：16,606mm ・ホイールローダ 幅：3,370mm、高さ：3,370mm、全長：7,130mm ・バックホウ 幅：3,150mm、高さ：3,160mm、全長：9,530mm 																

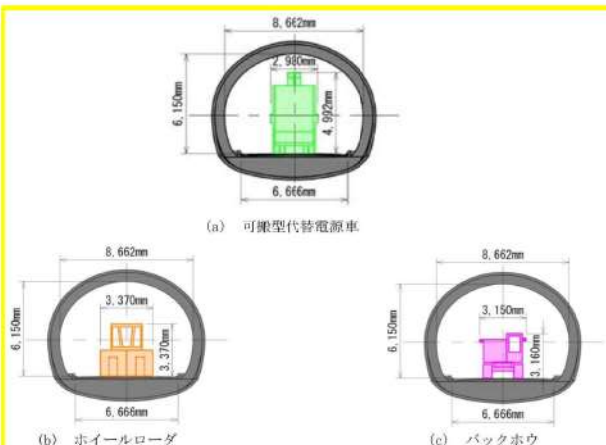
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由
		<p>1. トンネルの勾配 アクセスルートトンネルの勾配は、最大7.9%であるため、車両が登坂可能な勾配である12%[*]を下回る（第1図参照）。 ※：車両重量が最も大きい可搬型代替電源車の登坂可能な勾配は12%である。</p>  <p>断面図</p> <p>第1図 アクセスルートトンネルの平面図及び断面図</p>	

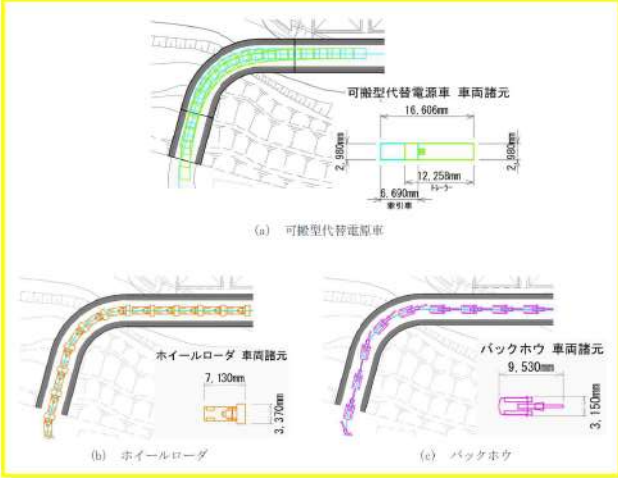
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p>2. トンネルの内空 アクセスルートトンネルの内空は、重機を含めた通行車両に対して余裕のある幅員、高さを確保している（第2図参照）。 なお、トンネルの入城及び退城の際は、緊急時対策所又は中央制御室へ連絡する運用とすることから、トンネル内での車両のすれ違いは発生しない。 なお、緊急時対策所又は中央制御室への連絡に要する時間及びトンネルを交互通行することになった場合に要する時間については、屋外作業の所要時間に見込んでいる。 上記の運用については、保安規定に基づく社内規程類に規定するとともに、トンネル設置後に実施する訓練を通じて事故対応が円滑にできるよう改善を図っていく。 重大事故等時における車両の通行量について別紙(26)に、屋外での通信機器通話状況の確認結果について補足資料(6)に示す。</p>  <p>第2図 アクセスルートトンネルの断面図</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
		<p>3. トンネルの曲線部 アクセスルートトンネルの曲線部は、可搬型設備のうち車幅・延長が最大となる可搬型代替電源車及び重機（ホイールローダ及びバックホウ）の通行性を考慮している（第3図参照）。</p>  <p>(a) 可搬型代替電源車 (b) ホイールローダ (c) バックホウ</p>	

第3図 トンネル曲線部における車両の軌跡図（第1図の②部）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由														
		<p style="text-align: right;">添付資料-1</p> <p style="text-align: center;">アクセスルートトンネルの設計速度の設定根拠</p> <p>アクセスルートトンネルの設計速度は、R20の曲線部に片勾配を設けない条件下において走行可能な車両速度とする。なお、曲線部を走行可能な車両速度は、「道路構造令の解説と運用（令和3年3月）」に基づき、下式より算出する。</p> $V = \sqrt{127R(i+f)}$ <p>ここで、</p> <p>V : 曲線部を走行する車両の速度 (km/h)</p> <p>R : 曲線半径 (m) (20m)</p> <p>i : 片勾配 (%) (0%)</p> <p>f : 路面の横すべり摩擦係数 (0.15) (下表参照)</p> <p style="text-align: center;">第1表 設計に用いる横すべり摩擦係数</p> <table border="1" data-bbox="1348 699 1951 770"> <thead> <tr> <th>設計速度 V (km/h)</th> <th>120</th> <th>100</th> <th>80</th> <th>60</th> <th>50</th> <th>40以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計上の横すべり摩擦係数 f</td> <td>0.10</td> <td>0.11</td> <td>0.12</td> <td>0.13</td> <td>0.14</td> <td>0.15</td> </tr> </tbody> </table> $V = \sqrt{127 \times 20(0 + 0.15)}$ $= 19.5 \text{ km/h}$ <p>よって、アクセスルートトンネルを安全に走行可能な速度は19km/h以下であることから、設計速度を15km/hと設定した。</p>	設計速度 V (km/h)	120	100	80	60	50	40以下	設計上の横すべり摩擦係数 f	0.10	0.11	0.12	0.13	0.14	0.15	
設計速度 V (km/h)	120	100	80	60	50	40以下											
設計上の横すべり摩擦係数 f	0.10	0.11	0.12	0.13	0.14	0.15											

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由
	<p>【高浜1,2号炉のまとめ資料より転載】</p> <p>(参考)：重大事故等発生時における車両の通行性の評価</p> <p>使用する可搬型重大事故等対処設備が最も多く、時間的制約が最も厳しい「格納容器過圧破損」の事故シナリオの4基同時発災を想定した場合においても、新設するアクセスルートを通行する必要がある車両は下記①～④に限定されており、アクセスルートの通行性が事故対応の支障となることはない。</p> <p>① アクセスルート復旧後、下記2台の車両が、1,2号炉背面道路の保管場所から取水場所付近まで移動する(事故発生～約2時間後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1号炉送水車 ・2号炉送水車 <p>② 原子炉格納容器の長期的な冷却のため、下記1台の車両が1,2号炉背面道路の保管場所から取水場所まで移動する(事故発生の12時間後以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大容量ポンプ <p>③ 事象発生後、6日目までにホース敷設のため、下記2台の車両が1,2号炉背面道路-取水場所間を1往復する(事故発生の約40時間後以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1号炉ホース運搬車 ・2号炉ホース運搬車 <p>④ 燃料補給用のため、送水車については事象発生2時間後以降2時間毎に、大容量ポンプについては事象発生12時間後以降4.5時間毎に、1,2号炉背面道路-取水場所間をトラックまたはタンクローリーが1往復する</p> <p>大規模損壊発生時等、緊急で使用済燃料ピットへのスプレーが必要となる場合は、事故発生後2時間以内に上記①および③の車両の通行が発生するが、現場調整者が車両の調整を行うことにより、アクセスルートの通行性を確保できる。</p>	<p style="text-align: right;">添付資料-2</p> <p>重大事故等時におけるアクセスルートトンネルの可搬型設備の通行性の評価</p> <p>使用する可搬型設備が最も多く、時間的制約が最も厳しい「全交流動力電源喪失(外部電源喪失時に非常用所内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールLOCAが発生する事故)」の事故シナリオを想定した場合においても、アクセスルートトンネルを通行する必要がある可搬型設備は下記①～③に限定されており、アクセスルートトンネルの通行性が事故対応の支障となることはない(第1図参照)。</p> <p>① 蒸気発生器への注水確保(海水)及び使用済燃料ピットへの注水確保(海水)のため、下記2台の車両が保管場所からT.P.10m作業場所まで移動する(事故発生～約7時間後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・ホース延長・回収車(送水車用) <p>② 原子炉補機冷却水系への通水確保(海水)のため、下記2台の車両が保管場所からT.P.10m作業場所まで移動する(約7時間後～約11時間後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・ホース延長・回収車(送水車用) <p>③ 燃料補給用のため、代替非常用発電機については事象発生約5時間後以降4時間ごとに、緊急時対策所用発電機については事象発生約10時間後以降8時間ごとに、T.P.31m以上の高台エリア-燃料油貯油槽間を可搬型タンクローリーが1往復する</p> <p>大規模損壊発生時等、緊急で使用済燃料ピットへのスプレーが必要となる場合は、事故発生後2時間以内に上記①の車両の通行が発生するが、トンネルの入城及び退城の際に緊急時対策所又は中央制御室へ連絡することにより、アクセスルートトンネルの通行性を確保できる。</p>	<p>高浜1,2号炉アクセスルートまとめ資料添付資料(14)「新設するアクセスルートの通行性について」において、車両の通行性の評価を行っていることから、本資料を参考とし、アクセスルートトンネルの通行性の評価を行った。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

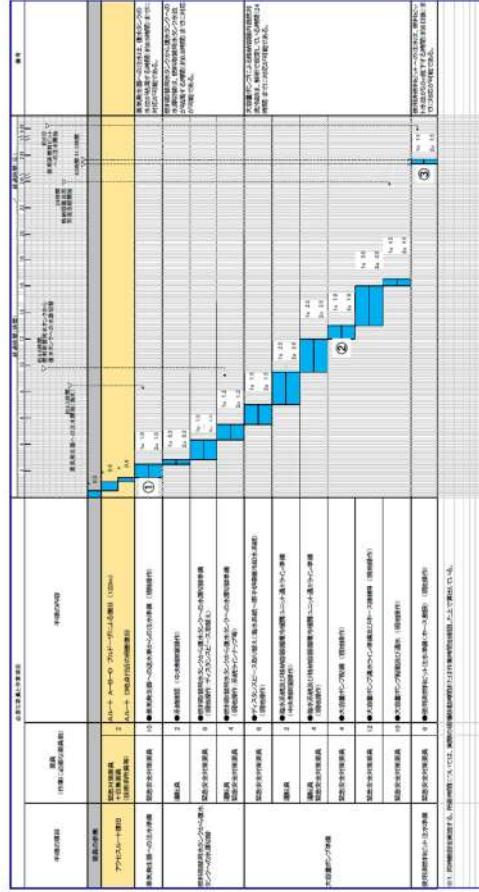
女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

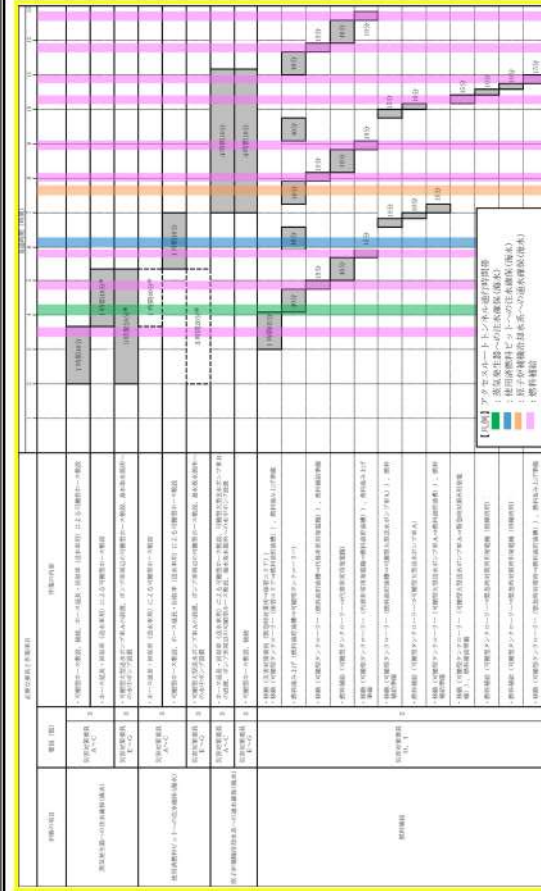
泊発電所3号炉

差異理由

【高浜1,2号炉のまとめ資料より転載】



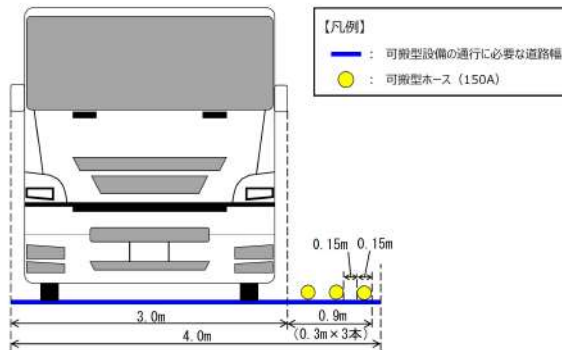
「格納容器過圧破損」シナリオにおける対応手順と所要時間



第1図 「全交流動力電源喪失」(外部電源喪失時に非常用所内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールLOCAが発生する事故)シナリオにおける対応手順と想定時間

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由
<p>該当箇所無し</p>	<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(24)</p> <p style="text-align: center;">可搬型設備の通行に必要な道路幅の考え方について</p> <p>可搬型設備の通行に必要な道路幅 4.0m は、可搬型設備のうち最大車幅の可搬型代替電源車約 3.0m 及び可搬型ホースの敷設幅 0.9m（150A ホース計 3 本敷設した場合の占有幅 0.45m に余裕を考慮）から設定する。可搬型設備の通行に必要な道路幅の設定の考え方について以下に示す。</p> <p>1. 道路幅の設定の考え方</p> <p>可搬型設備のうち最大車幅となるのは、可搬型代替電源車（2,980mm）である。</p> <p>可搬型ホースの敷設幅は、有効性評価のうち可搬型ホースの敷設幅が最も広くなるシナリオ*を想定した場合において 0.9m（150A ホース計 3 本敷設した場合の占有幅 0.45m に余裕を考慮）である。</p> <p>上記を踏まえ、可搬型設備の通行に必要な道路幅は、可搬型設備のうち最大車幅の可搬型代替電源車約 3.0m 及び可搬型ホースの敷設幅 0.9m を考慮して 4.0m と設定する（第 1 図参照）。</p> <p>可搬型代替電源車の移動ルートと可搬型ホースの敷設状況を第 2 図に示す。</p> <p>※：全交流動力電源喪失、原子炉補機冷却機能喪失、雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）</p> <div style="text-align: center;">  <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> — : 可搬型設備の通行に必要な道路幅 ● : 可搬型ホース（150A） </div> <p>第 1 図 可搬型設備の通行に必要な道路幅の考え方 （可搬型代替電源車通行幅及び可搬型ホース敷設幅を考慮）</p>	<p>【女川及び島根】 記載方針の相違</p> <p>・泊は可搬型設備の通行に必要な道路幅の考え方を明確化している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由
		<p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護場所 可搬型大型送水ポンプ車 可搬型代替電源車 可搬型代替電源車移動ルート ケーブル <p>補助給水ピット又は燃料設備用水ピットへの補給、使用済燃料ピット注水に係るホース敷設ルート（並列数：2本） 補助給水ピット又は燃料設備用水ピットへの補給、使用済燃料ピット注水に係るホース敷設ルート（並列数：1本） 原子炉補機冷却水系への連水に係るホース敷設ルート（並列数：2本） 原子炉補機冷却水系への連水に係るホース敷設ルート（並列数：1本） ホースパイプ</p> <p>3号炉原子炉建屋西側を経由したルートにホースを敷設した場合 3号炉原子炉建屋東側を経由したルートにホースを敷設した場合</p> <p>第2図 可搬型代替電源車の移動ルート及び可搬型ホースの敷設状況</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料 1.0.3</p> <p>予備品等の確保及び保管場所について</p>	<p>添付資料 1.0.3</p> <p>予備品等の確保及び保管場所について</p> <p>< 目次 ></p> <p>1. 重要安全施設..... 1.0.3-1</p> <p>2. 予備品等の確保..... 1.0.3-1</p> <p>3. 予備品等の保管場所..... 1.0.3-2</p> <p>第1表 重要安全施設一覧..... 1.0.3-3</p> <p>第2表 予備品及び予備品への取替のために必要な機材..... 1.0.3-5</p> <p>第1図 予備品等の保管場所及びアクセスルート..... 1.0.3-6</p>	<p>添付資料 1.0.3</p> <p>予備品等の確保及び保管場所について</p> <p>< 目次 ></p> <p>1. 重要安全施設..... 1.0.3-1</p> <p>2. 予備品等の確保..... 1.0.3-1</p> <p>3. 予備品等の保管場所..... 1.0.3-2</p> <p>表1 重要安全施設一覧..... 1.0.3-3</p> <p>表2 予備品及び予備品への取替のために必要な機材... 1.0.3-5</p> <p>図1 予備品等の保管場所及びアクセスルート..... 1.0.3-6</p>	<p>女川との比較において、BWR固有の設備や対応手段であり、泊と比較対象とならない記載内容については、マーキング()を施している。</p> <p>目次では相違箇所の着色及び相違理由の記載をせず、1.0.3-2ページ以降の具体的な内容にて記載する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」のうち、「1.0 共通事項 (2) 復旧作業に係る要求事項①予備品等の確保」において、重要安全施設の適切な予備品等を確保することが規定されている。</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」(以下、「設置許可基準規則」という。)第二条において、「重要安全施設とは、安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものをいう。」とされている。</p> <p>また、設置許可基準規則第十二条の解釈において「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」の機能が示されている。</p> <p>ここでは、これらの重要安全施設のうち、重要安全施設の取替え可能な機器及び部品等に対する予備品及び予備品への取替えのために必要な機材等の選定及び保管場所について記載する。</p> <p>1. 重要安全施設 上記の設置許可基準規則第十二条の解釈の表に規定された安全機能の重要度が特に高い安全機能に対応する具体的な系統・設備を表1に示す。</p> <p>2. 予備品の確保 重大事故等発生後の事故対応については、重大事故等対処設備にて実施することにより、事故収束を行う。</p> <p>事故収束を継続させるためには、機能喪失した重要安全施設の機能を回復することが有効な手段であるため、以下の方針に基づき重要安全施設の取替え可能な機器、部品等の復旧作業を優先的に実施することとし、そのために必要な予備品を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期的には重大事故等対処設備で対応を行い、その後の事故収束対応の信頼性向上のため長期的に使用する設備を復旧する。 単一の重要安全施設の機能を回復することによって、重要安全施設の多数の設備の機能を回復することができ、事故収束を実施する上で最も効果が大きいサポート系設備を復旧する。 復旧作業の実施に当たっては、復旧が困難な設備についても、復旧するための対策を検討し実施することとするが、放射線の影響、その他の作業環境条件の視点を踏まえ、復旧作業の成立性が高い設備を復旧する。 	<p>「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」のうち、「1.0 共通事項 (2) 復旧作業に係る要求事項①予備品等の確保」において、重要安全施設の適切な予備品等を確保することが規定されている。</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」(以下、「設置許可基準規則」という。)第二条において、「重要安全施設とは、安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものをいう。」とされている。</p> <p>また、設置許可基準規則第十二条の解釈において「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」の機能が示されている。</p> <p>ここでは、これら重要安全施設のうち、重要安全施設の取替え可能な機器、部品等に対する予備品及び予備品への取替えのために必要な機材等の確保及び保管場所について記載する。</p> <p>1. 重要安全施設 上記の設置許可基準規則第十二条の解釈の表に規定された安全機能の重要度が特に高い安全機能に対応する具体的な系統・設備を表1に示す。</p> <p>2. 予備品等の確保 重大事故等時の事故対応については、重大事故等対処設備にて実施することにより、事故収束を行う。</p> <p>事故収束を継続させるためには、機能喪失した重要安全施設の機能回復を図ることが有効な手段であるため、以下の方針に基づき重要安全施設の取替え可能な機器、部品等の復旧作業を優先的に実施することとし、そのために必要な予備品を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期的には重大事故等対処設備で対応を行い、その後の事故収束対応の信頼性向上のため長期的に使用する設備を復旧する。 単一の重要安全施設の機能を回復することによって、重要安全施設の多数の設備の機能を回復することができ、事故収束を実施する上で最も効果が大きいサポート系設備を復旧する。 復旧作業の実施に当たっては、復旧が困難な設備についても、復旧するための対策を検討し実施することとするが、放射線の影響、その他作業環境条件を踏まえ、復旧作業の成立性が高い設備を復旧する。 <p>上記の方針に適合する系統として、海水ポンプ室に設置している原子炉補機冷却海水系ポンプ及び原子炉建屋に設置している原子炉補機冷却海水系ポンプを対象機器として選定し、予備品として保有することで復旧までの時間が短縮でき、成立性の高い作業で機能回復できる機器であり、機械的故障と電氣的故障の要因が考えられる原子炉補機冷却海水ポンプ及び原子炉補機冷却水ポンプの電動機及びポンプ部品を予備品として確保する。</p> <p>残留熱除去系については、機能喪失の原因によっては大型機器の</p>	<p>「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」のうち、「1.0 共通事項 (2) 復旧作業に係る要求事項①予備品等の確保」において、重要安全施設の適切な予備品等を確保することが規定されている。</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」(以下、「設置許可基準規則」という。)第二条において、「重要安全施設とは、安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものをいう。」とされている。</p> <p>また、設置許可基準規則第十二条の解釈において「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」の機能が示されている。</p> <p>ここでは、これら重要安全施設のうち、重要安全施設の取替え可能な機器、部品等に対する予備品及び予備品への取替えのために必要な機材等の選定及び保管場所について記載する。</p> <p>1. 重要安全施設 上記の設置許可基準規則第十二条の解釈の表に規定された安全機能の重要度が特に高い安全機能に対応する具体的な系統・設備を表1に示す。</p> <p>2. 予備品等の確保 重大事故等時の事故対応については、重大事故等対処設備にて実施することにより、事故収束を行う。</p> <p>事故収束を継続させるためには、機能喪失した重要安全施設の機能回復を図ることが有効な手段であるため、以下の方針に基づき重要安全施設の取替え可能な機器、部品等の復旧作業を優先的に実施することとし、そのために必要な予備品を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期的には重大事故等対処設備で対応を行い、その後の事故収束対応の信頼性向上のため長期的に使用する設備を復旧する。 単一の重要安全施設の機能を回復することによって、重要安全施設の多数の設備の機能を回復することができ、事故収束を実施する上で最も効果が大きいサポート系設備を復旧する。 復旧作業の実施に当たっては、復旧が困難な設備についても、復旧するための対策を検討し実施することとするが、放射線の影響、その他作業環境条件を踏まえ、復旧作業の成立性が高い設備を復旧する。 <p>上記の方針に適合する設備として、循環水ポンプ建屋に設置している原子炉補機冷却海水ポンプを対象機器として選定し、予備品として保有することで復旧までの時間が短縮でき、成立性の高い作業で機能回復できる機器であり、機械的故障と電氣的故障の要因が考えられる原子炉補機冷却海水ポンプの電動機を予備品として確保する。</p>	<p>記載表現の相違 (女川実績の反映)</p> <p>【大飯】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【女川】名称の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>なお、今後も多様な復旧手段の確保、復旧を想定する機器の拡大、その他の有効な復旧対策について継続的な検討を行うとともに、そのために必要な予備品等の確保に努める。</p> <p>また、予備品の取替え作業に必要な資機材等として、ガレキ除去等のためのブルドーザ、夜間の対応を想定した照明機器等及びその他の作業環境を想定した資機材を確保する。</p>	<p>交換が必要となり、復旧に時間がかかる場合も想定されるため、残留熱除去系ポンプについても、電動機及びポンプ部品を予備品として確保する。</p> <p>なお、今後も多様な復旧手段の確保、復旧を想定する機器の拡大、その他の有効な復旧対策について継続的な検討を行うとともに、そのために必要な予備品の確保に努める。</p> <p>また、予備品への取替え作業に必要な資機材等として、がれき撤去等のためのブルドーザ等の重機、夜間の対応を想定した照明機器その他作業環境を想定した資機材を確保する。</p>	<p>なお、今後も多様な復旧手段の確保、復旧を想定する機器の拡大、その他の有効な復旧対策について継続的な検討を行うとともに、そのために必要な予備品の確保に努める。</p> <p>また、予備品への取替え作業に必要な資機材等として、がれき撤去等のためのホイールローダ等の重機、夜間の対応を想定した照明機器、その他作業環境を想定した資機材をあらかじめ確保する。</p>	<p>【大飯】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【大飯・女川】設備の相違</p> <p>・泊は、段差緩和対策やアクセスルート拡幅等の事前対策により、アクセスルート復旧作業が想定されないが、万が一のがれき、土砂、段差等の発生に備え、ホイールローダ及びバックホウを配備する。(島根と同様)</p> <p>【大飯・女川】記載表現の相違</p> <p>泊は、技術的能力1.0まとめ資料1.0.1(2)a.項及び1.0.2(2)a.項と同様に「その他作業環境を想定した資機材をあらかじめ確保する」との表現とした。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 予備品等の保管場所</p> <p>予備品等については、地震による周辺斜面の崩落、敷地下斜面のすべり、津波による浸水等の外部事象の影響を受けにくい場所に当該重要安全施設との位置的分散を考慮し保管する。</p>	<p>3. 予備品等の保管場所</p> <p>予備品等については、地震による周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべり、津波による浸水の外部事象の影響を受けにくい場所に重要安全施設との位置的分散を考慮し保管する。</p> <p>保管場所については、可搬型重大事故等対処設備と同じであり、保管場所及び屋外アクセスルートの対策概要については、添付資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」の「3.保管場所及びアクセスルートに係る方針(1)保管場所及びアクセスルートの設定方針」に記載する。</p> <p>なお、設備の復旧作業場所へのアクセスルートについては、第1図に示す複数ルートのうち少なくとも1ルート確保されたアクセスルートを使用して、予備品の保管場所から復旧作業場所へ予備品を移動させて復旧する。</p> <p>また、保管場所及びアクセスルートの点検管理については、添付資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」に記載している「10.補足資料(9)保管場所及び屋外アクセスルートの点検状況について」と同じ点検管理を実施する。</p>	<p>3. 予備品等の保管場所</p> <p>予備品等については、地震による周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべり、津波による浸水等の外部事象の影響を受けにくい場所に当該重要安全施設との位置的分散を考慮し保管する。</p> <p>保管場所については、可搬型重大事故等対処設備と同じであり、保管場所及び屋外アクセスルートの対策概要については、添付資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」の「3.保管場所及びアクセスルートに係る方針」に記載する。</p> <p>なお、設備の復旧作業場所へのアクセスルートについては、図1に示す複数ルートのうち少なくとも1ルート確保されたアクセスルートを使用して、予備品の保管場所から復旧作業場所へ予備品を移動させて復旧する。</p> <p>また、保管場所及びアクセスルートの点検管理については、添付資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」に記載している「10.補足資料(8)保管場所及び屋外のアクセスルート等の点検状況」と同じ点検管理を実施する。</p>	<p>【大阪】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】飛び先名称の相違</p> <p>【女川】飛び先名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>安全機能 (設置許可基準規則第12条)</th> <th>系統・設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常用の交流電源機能</td> <td>ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>非常用の直流電源機能</td> <td>直流電源設備(蓄電池設備)</td> </tr> <tr> <td>非常用の計測制御用直流電源機能</td> <td>計測制御用電源設備</td> </tr> <tr> <td>補機冷却機能</td> <td>原子炉補機冷却設備</td> </tr> <tr> <td>冷却用海水供給機能</td> <td>原子炉補機冷却海水設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉制御室非常用換気空調機能</td> <td>換気空調設備(中央制御室非常用循環系統)</td> </tr> <tr> <td>圧縮空気供給機能</td> <td>制御用空気圧縮設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>原子炉圧力バウンダリ隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>原子炉格納容器バウンダリ隔離弁等</td> </tr> <tr> <td>原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能</td> <td>安全保護系(原子炉保護系設備)</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能</td> <td>安全保護系(工学的安全施設等作動設備)</td> </tr> <tr> <td>事故時の原子炉の停止状態の把握機能</td> <td>中性子源領域中性子束 ほう素濃度サンプリング分析 原子炉トリップしゃ断器の状態</td> </tr> <tr> <td>事故時の炉心冷却状態の把握機能</td> <td>1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位</td> </tr> <tr> <td>事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能</td> <td>格納容器圧力 格納容器高レンジエリアモニタ</td> </tr> <tr> <td>事故時のプラント操作のための情報の把握機能</td> <td>1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位 蒸気発生器水位(狭域、広域) 蒸気ライン圧力 ほう酸タンク水位 燃料取替用水ビット水位 復水ビット水位 格納容器再循環サンプル水位(狭域、広域) 補助給水流量</td> </tr> </tbody> </table>	安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備	非常用の交流電源機能	ディーゼル発電機	非常用の直流電源機能	直流電源設備(蓄電池設備)	非常用の計測制御用直流電源機能	計測制御用電源設備	補機冷却機能	原子炉補機冷却設備	冷却用海水供給機能	原子炉補機冷却海水設備	原子炉制御室非常用換気空調機能	換気空調設備(中央制御室非常用循環系統)	圧縮空気供給機能	制御用空気圧縮設備	原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	原子炉圧力バウンダリ隔離弁	原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	原子炉格納容器バウンダリ隔離弁等	原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	安全保護系(原子炉保護系設備)	工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	安全保護系(工学的安全施設等作動設備)	事故時の原子炉の停止状態の把握機能	中性子源領域中性子束 ほう素濃度サンプリング分析 原子炉トリップしゃ断器の状態	事故時の炉心冷却状態の把握機能	1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位	事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	格納容器圧力 格納容器高レンジエリアモニタ	事故時のプラント操作のための情報の把握機能	1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位 蒸気発生器水位(狭域、広域) 蒸気ライン圧力 ほう酸タンク水位 燃料取替用水ビット水位 復水ビット水位 格納容器再循環サンプル水位(狭域、広域) 補助給水流量	<table border="1"> <thead> <tr> <th>安全機能 (設置許可基準規則第十二条)</th> <th>系統・設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常用の計測制御用直流電源機能</td> <td>・計測制御用電源設備</td> </tr> <tr> <td>補機冷却機能</td> <td>・原子炉補機冷却水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却水系</td> </tr> <tr> <td>冷却用海水供給機能</td> <td>・原子炉補機冷却海水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却海水系</td> </tr> <tr> <td>原子炉制御室非常用換気空調機能</td> <td>・中央制御室換気空調系</td> </tr> <tr> <td>圧縮空気供給機能</td> <td>・主蒸気逃がし安全弁の駆動用空気源 ・主蒸気隔離弁の駆動用空気源又は駆動用圧縮空気源</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>・原子炉格納容器隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能</td> <td>・原子炉保護系の安全保護回路</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能</td> <td>・非常用炉心冷却系作動の安全保護回路 ・主蒸気隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路 ・非常用ガス処理系作動の安全保護回路</td> </tr> <tr> <td>事故時の原子炉の停止状態の把握機能</td> <td>・中性子束(長動領域モニタ) ・原子炉スクラム用電磁接触器の状態及び制御棒位置</td> </tr> <tr> <td>事故時の炉心冷却状態の把握機能</td> <td>・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力</td> </tr> <tr> <td>事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能</td> <td>・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内空同気放射線モニタ</td> </tr> <tr> <td>事故時のプラント操作のための情報の把握機能</td> <td>・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力 ・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内空同気水素濃度 ・格納容器内空同気酸素濃度 ・気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 予備品(表2表1.予備品)を保管する系統</p>	安全機能 (設置許可基準規則第十二条)	系統・設備	非常用の計測制御用直流電源機能	・計測制御用電源設備	補機冷却機能	・原子炉補機冷却水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却水系	冷却用海水供給機能	・原子炉補機冷却海水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却海水系	原子炉制御室非常用換気空調機能	・中央制御室換気空調系	圧縮空気供給機能	・主蒸気逃がし安全弁の駆動用空気源 ・主蒸気隔離弁の駆動用空気源又は駆動用圧縮空気源	原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁	原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉格納容器隔離弁	原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	・原子炉保護系の安全保護回路	工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	・非常用炉心冷却系作動の安全保護回路 ・主蒸気隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路 ・非常用ガス処理系作動の安全保護回路	事故時の原子炉の停止状態の把握機能	・中性子束(長動領域モニタ) ・原子炉スクラム用電磁接触器の状態及び制御棒位置	事故時の炉心冷却状態の把握機能	・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力	事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内空同気放射線モニタ	事故時のプラント操作のための情報の把握機能	・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力 ・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内空同気水素濃度 ・格納容器内空同気酸素濃度 ・気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ	<p>表1 重要安全施設一覧(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>安全機能 (設置許可基準規則第12条)</th> <th>系統・設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常用の計測制御用直流電源機能</td> <td>・計測制御用電源設備</td> </tr> <tr> <td>補機冷却機能</td> <td>・原子炉補機冷却水設備</td> </tr> <tr> <td>冷却用海水供給機能</td> <td>・原子炉補機冷却海水設備*</td> </tr> <tr> <td>原子炉制御室非常用換気空調機能</td> <td>・換気空調設備(中央制御室非常用循環系)</td> </tr> <tr> <td>圧縮空気供給機能</td> <td>・制御用圧縮空気設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>・原子炉格納容器隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能</td> <td>・原子炉保護系の安全保護回路</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能</td> <td>・非常用炉心冷却設備作動の安全保護回路 ・原子炉格納容器スプレィ作動の安全保護回路 ・主蒸気ライン隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路</td> </tr> <tr> <td>事故時の原子炉の停止状態の把握機能</td> <td>・中性子源領域中性子束 ・ほう素濃度(サンプリング分析) ・原子炉トリップ断器の状態</td> </tr> <tr> <td>事故時の炉心冷却状態の把握機能</td> <td>・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位</td> </tr> <tr> <td>事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能</td> <td>・格納容器圧力 ・格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ) ・格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)</td> </tr> <tr> <td>事故時のプラント操作のための情報の把握機能</td> <td>・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位 ・蒸気発生器水位(広域) ・蒸気発生器水位(狭域) ・主蒸気ライン圧力 ・ほう酸タンク水位 ・燃料取替用水ビット水位 ・補機給水ビット水位 ・格納容器再循環サンプル水位(広域) ・格納容器再循環サンプル水位(狭域) ・補助給水ライン流量</td> </tr> </tbody> </table>	安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備	非常用の計測制御用直流電源機能	・計測制御用電源設備	補機冷却機能	・原子炉補機冷却水設備	冷却用海水供給機能	・原子炉補機冷却海水設備*	原子炉制御室非常用換気空調機能	・換気空調設備(中央制御室非常用循環系)	圧縮空気供給機能	・制御用圧縮空気設備	原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁	原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉格納容器隔離弁	原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	・原子炉保護系の安全保護回路	工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	・非常用炉心冷却設備作動の安全保護回路 ・原子炉格納容器スプレィ作動の安全保護回路 ・主蒸気ライン隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路	事故時の原子炉の停止状態の把握機能	・中性子源領域中性子束 ・ほう素濃度(サンプリング分析) ・原子炉トリップ断器の状態	事故時の炉心冷却状態の把握機能	・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位	事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	・格納容器圧力 ・格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ) ・格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)	事故時のプラント操作のための情報の把握機能	・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位 ・蒸気発生器水位(広域) ・蒸気発生器水位(狭域) ・主蒸気ライン圧力 ・ほう酸タンク水位 ・燃料取替用水ビット水位 ・補機給水ビット水位 ・格納容器再循環サンプル水位(広域) ・格納容器再循環サンプル水位(狭域) ・補助給水ライン流量	<p>【大阪】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【女川】設計の相違詳細は引用元にて整理 引用元 ・DB12条 安全施設まとめ資料 別紙1-2</p>
安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備																																																																																										
非常用の交流電源機能	ディーゼル発電機																																																																																										
非常用の直流電源機能	直流電源設備(蓄電池設備)																																																																																										
非常用の計測制御用直流電源機能	計測制御用電源設備																																																																																										
補機冷却機能	原子炉補機冷却設備																																																																																										
冷却用海水供給機能	原子炉補機冷却海水設備																																																																																										
原子炉制御室非常用換気空調機能	換気空調設備(中央制御室非常用循環系統)																																																																																										
圧縮空気供給機能	制御用空気圧縮設備																																																																																										
原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	原子炉圧力バウンダリ隔離弁																																																																																										
原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	原子炉格納容器バウンダリ隔離弁等																																																																																										
原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	安全保護系(原子炉保護系設備)																																																																																										
工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	安全保護系(工学的安全施設等作動設備)																																																																																										
事故時の原子炉の停止状態の把握機能	中性子源領域中性子束 ほう素濃度サンプリング分析 原子炉トリップしゃ断器の状態																																																																																										
事故時の炉心冷却状態の把握機能	1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位																																																																																										
事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	格納容器圧力 格納容器高レンジエリアモニタ																																																																																										
事故時のプラント操作のための情報の把握機能	1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位 蒸気発生器水位(狭域、広域) 蒸気ライン圧力 ほう酸タンク水位 燃料取替用水ビット水位 復水ビット水位 格納容器再循環サンプル水位(狭域、広域) 補助給水流量																																																																																										
安全機能 (設置許可基準規則第十二条)	系統・設備																																																																																										
非常用の計測制御用直流電源機能	・計測制御用電源設備																																																																																										
補機冷却機能	・原子炉補機冷却水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却水系																																																																																										
冷却用海水供給機能	・原子炉補機冷却海水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却海水系																																																																																										
原子炉制御室非常用換気空調機能	・中央制御室換気空調系																																																																																										
圧縮空気供給機能	・主蒸気逃がし安全弁の駆動用空気源 ・主蒸気隔離弁の駆動用空気源又は駆動用圧縮空気源																																																																																										
原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁																																																																																										
原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉格納容器隔離弁																																																																																										
原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	・原子炉保護系の安全保護回路																																																																																										
工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	・非常用炉心冷却系作動の安全保護回路 ・主蒸気隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路 ・非常用ガス処理系作動の安全保護回路																																																																																										
事故時の原子炉の停止状態の把握機能	・中性子束(長動領域モニタ) ・原子炉スクラム用電磁接触器の状態及び制御棒位置																																																																																										
事故時の炉心冷却状態の把握機能	・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力																																																																																										
事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内空同気放射線モニタ																																																																																										
事故時のプラント操作のための情報の把握機能	・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力 ・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内空同気水素濃度 ・格納容器内空同気酸素濃度 ・気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ																																																																																										
安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備																																																																																										
非常用の計測制御用直流電源機能	・計測制御用電源設備																																																																																										
補機冷却機能	・原子炉補機冷却水設備																																																																																										
冷却用海水供給機能	・原子炉補機冷却海水設備*																																																																																										
原子炉制御室非常用換気空調機能	・換気空調設備(中央制御室非常用循環系)																																																																																										
圧縮空気供給機能	・制御用圧縮空気設備																																																																																										
原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁																																																																																										
原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉格納容器隔離弁																																																																																										
原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	・原子炉保護系の安全保護回路																																																																																										
工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	・非常用炉心冷却設備作動の安全保護回路 ・原子炉格納容器スプレィ作動の安全保護回路 ・主蒸気ライン隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路																																																																																										
事故時の原子炉の停止状態の把握機能	・中性子源領域中性子束 ・ほう素濃度(サンプリング分析) ・原子炉トリップ断器の状態																																																																																										
事故時の炉心冷却状態の把握機能	・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位																																																																																										
事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	・格納容器圧力 ・格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ) ・格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)																																																																																										
事故時のプラント操作のための情報の把握機能	・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位 ・蒸気発生器水位(広域) ・蒸気発生器水位(狭域) ・主蒸気ライン圧力 ・ほう酸タンク水位 ・燃料取替用水ビット水位 ・補機給水ビット水位 ・格納容器再循環サンプル水位(広域) ・格納容器再循環サンプル水位(狭域) ・補助給水ライン流量																																																																																										
		<p>※予備品(表2表1.予備品)を保管する設備</p>																																																																																									

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																												
<p>表2 予備品及び予備品への取替のために必要な機材</p> <p>1. 予備品</p> <table border="1" data-bbox="100 303 705 391"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海水ポンプモータ</td> <td>全閉外扇形、980kW、10極、6,600V</td> <td>2台</td> <td>E.L. +約 33m</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. ガレキ撤去用重機</p> <table border="1" data-bbox="100 446 705 534"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブルドーザ</td> <td>D275AX-5 ブレード幅 4.3m ブレード高さ 1.96m</td> <td>1台</td> <td>E.L. +約 31m</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 作業用照明</p> <table border="1" data-bbox="100 598 705 869"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬式照明灯</td> <td>バッテリー式</td> <td>9個</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td>ヘッドライト</td> <td>乾電池式</td> <td>70個</td> <td>第1サービスビル</td> </tr> <tr> <td>LED懐中電灯</td> <td>乾電池式</td> <td>70個</td> <td>第1サービスビル</td> </tr> </tbody> </table>	名称	仕様	数量	保管場所	海水ポンプモータ	全閉外扇形、980kW、10極、6,600V	2台	E.L. +約 33m	名称	仕様	数量	保管場所	ブルドーザ	D275AX-5 ブレード幅 4.3m ブレード高さ 1.96m	1台	E.L. +約 31m	名称	仕様	数量	保管場所	可搬式照明灯	バッテリー式	9個	中央制御室	ヘッドライト	乾電池式	70個	第1サービスビル	LED懐中電灯	乾電池式	70個	第1サービスビル	<p>第2表 予備品及び予備品への取替のために必要な機材</p> <p>1. 予備品</p> <table border="1" data-bbox="761 279 1332 582"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量*</th> <th>保管場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉補機冷却水ポンプ用電動機</td> <td>三相誘導電動機</td> <td>1台</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却水ポンプポンプ部品</td> <td>—</td> <td>1式</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却海水ポンプ用電動機</td> <td>三相誘導電動機</td> <td>1台</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却海水ポンプポンプ部品</td> <td>—</td> <td>1式</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ用電動機</td> <td>三相誘導電動機</td> <td>1台</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプポンプ部品</td> <td>—</td> <td>1式</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. がれき撤去用重機</p> <table border="1" data-bbox="761 630 1332 702"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様*</th> <th>数量*</th> <th>保管場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブルドーザ</td> <td>D85EX-15</td> <td>2台</td> <td>第1、第4保管エリア</td> </tr> <tr> <td>バックホウ</td> <td>SK-200</td> <td>2台</td> <td>第1、第4保管エリア</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 可搬型照明</p> <table border="1" data-bbox="761 750 1332 933"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>電源種別</th> <th>数量*</th> <th>保管場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型照明 (SA)</td> <td>常設代替交流電源設備</td> <td>7個</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型照明 (ヘッドライト)</td> <td rowspan="2">乾電池</td> <td>10個</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td>100個</td> <td>緊急時対策所</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型照明 (ランタン)</td> <td rowspan="2">乾電池</td> <td>4個</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td>60個</td> <td>緊急時対策所</td> </tr> <tr> <td>可搬型照明 (懐中電灯)</td> <td>乾電池</td> <td>10個</td> <td>中央制御室</td> </tr> </tbody> </table> <p>※仕様、数量、保管場所については、今後の検討により変更となる可能性がある。</p>	名称	仕様	数量*	保管場所*	原子炉補機冷却水ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋	原子炉補機冷却水ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋	原子炉補機冷却海水ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋	原子炉補機冷却海水ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋	残留熱除去系ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋	残留熱除去系ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋	名称	仕様*	数量*	保管場所*	ブルドーザ	D85EX-15	2台	第1、第4保管エリア	バックホウ	SK-200	2台	第1、第4保管エリア	名称	電源種別	数量*	保管場所*	可搬型照明 (SA)	常設代替交流電源設備	7個	中央制御室	可搬型照明 (ヘッドライト)	乾電池	10個	中央制御室	100個	緊急時対策所	可搬型照明 (ランタン)	乾電池	4個	中央制御室	60個	緊急時対策所	可搬型照明 (懐中電灯)	乾電池	10個	中央制御室	<p>表2 予備品及び予備品への取替のために必要な機材</p> <p>1. 予備品</p> <table border="1" data-bbox="1377 279 1982 359"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉補機冷却海水ポンプ予備電動機</td> <td>三相誘導電動機、約 310kW(1台当たり)</td> <td>2台</td> <td>51m 倉庫・車庫エリア</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. がれき撤去及び段差解消用重機</p> <table border="1" data-bbox="1377 406 1982 534"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホイールローダ</td> <td>55D7-2 バケット 1.6m²</td> <td>2台</td> <td>1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)</td> </tr> <tr> <td>バックホウ</td> <td>320E GLC-T8SC バケット 0.8m²</td> <td>2台</td> <td>1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 可搬型照明</p> <table border="1" data-bbox="1377 582 1982 766"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>電源種別</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型照明 (SA)</td> <td>バッテリー</td> <td>4個</td> <td>3号炉中央制御室</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ヘッドライト</td> <td rowspan="2">乾電池</td> <td>12個</td> <td>3号炉中央制御室</td> </tr> <tr> <td>80個</td> <td>緊急時対策所指揮所</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ワークライト</td> <td rowspan="2">乾電池</td> <td>10個</td> <td>3号炉中央制御室</td> </tr> <tr> <td>80個</td> <td>緊急時対策所指揮所</td> </tr> <tr> <td>懐中電灯</td> <td>乾電池</td> <td>12個</td> <td>3号炉中央制御室</td> </tr> </tbody> </table> <p>※仕様、数量、保管場所については、今後の検討により変更となる可能性がある。</p>	名称	仕様	数量	保管場所	原子炉補機冷却海水ポンプ予備電動機	三相誘導電動機、約 310kW(1台当たり)	2台	51m 倉庫・車庫エリア	名称	仕様	数量	保管場所	ホイールローダ	55D7-2 バケット 1.6m ²	2台	1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)	バックホウ	320E GLC-T8SC バケット 0.8m ²	2台	1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)	名称	電源種別	数量	保管場所	可搬型照明 (SA)	バッテリー	4個	3号炉中央制御室	ヘッドライト	乾電池	12個	3号炉中央制御室	80個	緊急時対策所指揮所	ワークライト	乾電池	10個	3号炉中央制御室	80個	緊急時対策所指揮所	懐中電灯	乾電池	12個	3号炉中央制御室	<p>【大飯・女川】設備の相違</p> <p>・泊は、段差緩和対策やアクセスルート拡張等の事前対策により、アクセスルート復旧作業が想定されないが、万一のがれき、土砂、段差等の発生に備え、ホイールローダ及びバックホウを配備する。(島根と同様)</p>
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																												
海水ポンプモータ	全閉外扇形、980kW、10極、6,600V	2台	E.L. +約 33m																																																																																																																																												
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																												
ブルドーザ	D275AX-5 ブレード幅 4.3m ブレード高さ 1.96m	1台	E.L. +約 31m																																																																																																																																												
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																												
可搬式照明灯	バッテリー式	9個	中央制御室																																																																																																																																												
ヘッドライト	乾電池式	70個	第1サービスビル																																																																																																																																												
LED懐中電灯	乾電池式	70個	第1サービスビル																																																																																																																																												
名称	仕様	数量*	保管場所*																																																																																																																																												
原子炉補機冷却水ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋																																																																																																																																												
原子炉補機冷却水ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋																																																																																																																																												
原子炉補機冷却海水ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋																																																																																																																																												
原子炉補機冷却海水ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋																																																																																																																																												
残留熱除去系ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋																																																																																																																																												
残留熱除去系ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋																																																																																																																																												
名称	仕様*	数量*	保管場所*																																																																																																																																												
ブルドーザ	D85EX-15	2台	第1、第4保管エリア																																																																																																																																												
バックホウ	SK-200	2台	第1、第4保管エリア																																																																																																																																												
名称	電源種別	数量*	保管場所*																																																																																																																																												
可搬型照明 (SA)	常設代替交流電源設備	7個	中央制御室																																																																																																																																												
可搬型照明 (ヘッドライト)	乾電池	10個	中央制御室																																																																																																																																												
		100個	緊急時対策所																																																																																																																																												
可搬型照明 (ランタン)	乾電池	4個	中央制御室																																																																																																																																												
		60個	緊急時対策所																																																																																																																																												
可搬型照明 (懐中電灯)	乾電池	10個	中央制御室																																																																																																																																												
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																												
原子炉補機冷却海水ポンプ予備電動機	三相誘導電動機、約 310kW(1台当たり)	2台	51m 倉庫・車庫エリア																																																																																																																																												
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																												
ホイールローダ	55D7-2 バケット 1.6m ²	2台	1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)																																																																																																																																												
バックホウ	320E GLC-T8SC バケット 0.8m ²	2台	1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)																																																																																																																																												
名称	電源種別	数量	保管場所																																																																																																																																												
可搬型照明 (SA)	バッテリー	4個	3号炉中央制御室																																																																																																																																												
ヘッドライト	乾電池	12個	3号炉中央制御室																																																																																																																																												
		80個	緊急時対策所指揮所																																																																																																																																												
ワークライト	乾電池	10個	3号炉中央制御室																																																																																																																																												
		80個	緊急時対策所指揮所																																																																																																																																												
懐中電灯	乾電池	12個	3号炉中央制御室																																																																																																																																												

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="107 245 580 1206" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="656 277 689 644" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 特記の内の内容は、機密に属しますので公開できません。 </div>	<p style="text-align: center;">第1図 予備品等の保管場所及びアクセスルート</p>	<p style="text-align: center;">図1 予備品等の保管場所及びアクセスルート</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料 1.0.4</p> <p>外部からの支援について</p>	<p>添付資料 1.0.4</p> <p>外部からの支援について</p> <p>< 目次 ></p> <p>1. 事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材...1.0.4-1 (1) 重大事故等発生後7日間の対応.....1.0.4-1 (2) 重大事故等発生後8日目以降の対応.....1.0.4-1</p> <p>2. プラントメーカー及び協力会社による支援.....1.0.4-2 (1) プラントメーカーによる支援.....1.0.4-2 (2) 協力会社による支援.....1.0.4-3</p> <p>3. 原子力事業者による支援.....1.0.4-4</p> <p>4. その他組織による支援.....1.0.4-5</p> <p>5. 原子力事業所災害対策支援拠点.....1.0.4-7</p> <p>第1表 発電所構内に確保している燃料 (事象発生後7日間の対応).....1.0.4-8</p> <p>第2表 放射線管理用資機材等.....1.0.4-9</p> <p>第3表 チェンジングエリア用資機材.....1.0.4-12</p> <p>第4表 その他資機材等(緊急時対策所).....1.0.4-14</p> <p>第5表 原子力災害対策活動で使用する資料 (緊急時対策所).....1.0.4-15</p> <p>第6表 原子力事業者間協力協定に基づき貸与される 原子力防災資機材.....1.0.4-16</p> <p>第7表 原子力事業所災害対策支援拠点における必要な資機材, 通信連絡設備の整備状況等.....1.0.4-17</p> <p>第1図 重大事故等時における発電所外からの支援体制..1.0.4-18</p> <p>第2図 防災組織全体図.....1.0.4-19</p> <p>第3図 原子力事業所災害対策支援拠点 体制図.....1.0.4-20</p> <p>別紙1 プラントメーカー及び協力会社からの支援に関する 合意文書.....1.0.4-別紙1-1</p> <p>別紙2 原子力事業所災害対策支援拠点について...1.0.4-別紙2-1</p>	<p>添付資料 1.0.4</p> <p>外部からの支援について</p> <p>< 目次 ></p> <p>1. 事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材....1.0.4-1 (1) 重大事故等発生後7日間の対応.....1.0.4-1 (2) 重大事故等発生後8日目以降の対応.....1.0.4-1</p> <p>2. 外部からの支援について.....1.0.4-2 (1) プラントメーカー及び協力会社による支援.....1.0.4-2</p> <p>(2) 原子力事業者による支援.....1.0.4-4</p> <p>(3) その他組織による支援.....1.0.4-5</p> <p>3. 原子力事業所災害対策支援拠点.....1.0.4-7</p> <p>表1 発電所構内に確保している燃料 (事象発生後7日間の対応).....1.0.4-8</p> <p>表2 放射線管理用資機材等.....1.0.4-9</p> <p>表3 チェンジングエリア用資機材.....1.0.4-12</p> <p>表4 その他資機材等(緊急時対策所指揮所又は 緊急時対策所待機所).....1.0.4-14</p> <p>表5 原子力災害対策活動で使用する資料 (緊急時対策所指揮所).....1.0.4-15</p> <p>表6 原子力事業者間協力協定に基づき貸与される 原子力防災資機材.....1.0.4-16</p> <p>表7 原子力事業所災害対策支援拠点における 必要な資機材、通信連絡設備の整備状況等.....1.0.4-17</p> <p>図1 重大事故等時における発電所外からの支援体制...1.0.4-18</p> <p>図2 防災組織全体図.....1.0.4-19</p> <p>図3 原子力事業所災害対策支援拠点 体制図.....1.0.4-20</p> <p>別紙1 原子力事業所災害対策支援拠点について...1.0.4-別紙1-1</p>	<p>目次では相違箇所の着色及び相違理由の記載をせず、1.0.4-2ページ以降の具体的な内容にて記載する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1. 事故収束に必要な資機材について</p> <p>復旧作業に必要な燃料は、図1に示すとおり事故発生後7日間までは発電所内に確保しており、それ以降については輸送手段も含め優先的に燃料供給を受けることができる体制とすることとしている。</p> <p>なお、事故発生後7日間の活動に必要な資機材等については、表1～表4に示すとおり緊急時対策等に配備している。</p>	<p>1. 事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材</p> <p>(1) 重大事故等発生後7日間の対応</p> <p>女川原子力発電所では、重大事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するためにあらかじめ用意された手段(重大事故等対処設備、予備品、燃料等)により、重大事故等発生後7日間における事故収束対応を実施する。あらかじめ用意された手段のうち、重大事故等対処設備については、技術的能力1.1「緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」から1.19「通信連絡に関する手順等」にて示す。</p> <p>重大事故等に対処するために必要な燃料とその考え方については、第1表に示すとおり、外部からの支援なしに重大事故等発生後7日間における必要燃料を上回る数量を発電所内に保有している。必要燃料の数量は、重大事故等対処に必要な設備を重大事故等発生後7日間連続して運用する条件で算出している。女川原子力発電所では、第1表に示す必要燃料合計を上回る保有量を、今後も継続して確保する。</p> <p>放射線管理用資機材及びチェンジングエリア用資機材、その他資機材、原子力災害対策活動で使用する資料の数量とその考え方については、第2～5表に示すとおり、外部からの支援なしに重大事故等発生後7日間の活動に必要な資機材等を緊急時対策等に配備している。重大事故等発生時において、現場作業では作業環境が悪化していることが予想され、重大事故等に対処する要員は環境に応じた放射線防護具を着用する必要がある。このため作業員は、添付資料1.0.13「重大事故等に対処する要員の作業時における装備について」に示す着用基準に従い、これらの資機材の中から必要なものを装備し、作業を実施する。女川原子力発電所では、第2～5表に示す緊急時対策建屋内緊急時対策所及び中央制御室の資機材等を、今後も継続して配備する。</p> <p>重大事故等の対応に必要な水源については、淡水貯水槽等の淡水源に加え、最終的に海水に切り替えることにより水源が枯渇することがないよう手順を整備することとしている。具体的には、技術的能力1.13「重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて示す。</p>	<p>1. 事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材</p> <p>(1) 重大事故等発生後7日間の対応</p> <p>泊発電所では、重大事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するためにあらかじめ用意された手段(重大事故等対処設備、予備品、燃料等)により、重大事故等発生後7日間における事故収束対応を実施する。あらかじめ用意された手段のうち、重大事故等対処設備については、技術的能力1.1「緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」から1.19「通信連絡に関する手順等」にて示す。</p> <p>重大事故等に対処するために必要な燃料とその考え方については、表1に示すとおり、外部からの支援なしに重大事故等発生後7日間における必要燃料を上回る数量を発電所内に保有している。必要燃料の数量は、重大事故等対処に必要な設備を重大事故等発生後7日間連続して運用する条件で算出している。泊発電所では、表1に示す必要燃料合計を上回る保有量を今後も継続して確保する。</p> <p>放射線管理用資機材及びチェンジングエリア用資機材、その他資機材、原子力災害対策活動で使用する資料の数量とその考え方については、表2～5に示すとおり、外部からの支援なしに重大事故等発生後7日間の活動に必要な資機材等を緊急時対策等に配備している。重大事故等発生時において、現場作業では作業環境が悪化していることが予想され、重大事故等に対処する要員は環境に応じた放射線防護具を着用する必要がある。このため作業員は、添付資料1.0.13「重大事故等に対処する要員の作業時における装備について」に示す着用基準に従い、これらの資機材の中から必要なものを装備し、作業を実施する。泊発電所では、表2～5に示す緊急時対策所及び中央制御室の資機材等を今後も継続して配備する。</p> <p>重大事故等の対応に必要な水源については、補助給水ピット等の淡水源に加え、最終的に海水に切り替えることにより水源が枯渇することがないよう手順を整備することとしている。具体的には、技術的能力1.13「重大事故等時」に必要な水の供給手順等」にて示す。</p>	<p>外部からの支援については、炉型に関係なく共通的な事項であることから、最新審査実績である女川と比較する。大飯とは資料構成が大きく異なることから比較せず、マーキング()を施している。</p> <p>名称の相違(以降、相違理由を省略)</p> <p>記載表現の相違(以降、相違理由を省略)</p> <p>施設名称の相違 記載表現の相違 記載表現の相違 ・代表的な淡水水源を記載しており実質的な差異なし。 ・審査基準改訂に伴う修正</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
伊方発電所3号炉まとめ資料より引用			
<p>(2) 重大事故等発生後7日間以降の対応</p> <p>(1) に示す手段により事故発生後7日間は重大事故等に対処し、7日間以降については、以下に示すとおり、発電所外から継続的に支援を受けることができる体制を整備している。</p> <p>発電所外に保有している重大事故等対処設備と同種の設備(電源車、通信連絡設備)、主要な設備の取替部品及び燃料等について支援を受けることにより、発電所内に配備する重大事故等対処設備に不具合があった場合の代替手段及び燃料の確保を行い、継続的な重大事故等対策を実施できるよう事故発生後6日間までに支援を受けられる体制を整備する。</p>	<p>(2) 重大事故等発生後8日目以降の対応</p> <p>重大事故等発生後8日目以降の事故収束対応を維持するため、重大事故等発生後6日後までに、あらかじめ選定している候補施設の中から原子力事業所災害対策支援拠点(以下「支援拠点」という。)を選定し、発電所の事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材等を支援できる体制を整備している。また、発電所内に配備している重大事故等対処設備に不具合があった場合の代替手段、資機材及び燃料を支援できるよう、社内で発電所外に保有している重大事故等対処設備と同種の設備(消防車、電源車等)、主要な設備の取替部品、食料その他の消耗品も含めた資機材、予備品、燃料等について、継続的な重大事故等対策を実施できるよう重大事故等発生後6日後までに支援できる体制を整備する。</p>	<p>(2) 重大事故等発生後8日目以降の対応</p> <p>重大事故等発生後8日目以降の事故収束対応を維持するため、重大事故等発生後6日後までに、あらかじめ選定している候補施設の中から原子力事業所災害対策支援拠点(以下「支援拠点」という。)を選定し、発電所の事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材等を支援できる体制を整備している。また、発電所内に配備している重大事故等対処設備に不具合があった場合の代替手段、資機材及び燃料を支援できるよう、社内で発電所外に保有している重大事故等対処設備と同種の設備(通信連絡設備、電源車等)、主要な設備の取替部品、食料その他の消耗品も含めた資機材、予備品、燃料等について、継続的な重大事故等対策を実施できるよう重大事故等発生後6日後までに支援できる体制を整備する。</p>	<p>記載内容の相違</p> <p>・泊は、通信連絡設備、電源車を選定している。(伊方、島根と同様)</p>
島根発電所2号炉まとめ資料より引用			
<p>さらに、現在、他の原子力事業者と、原子力災害発生時における設備及び資機材の融通に向けた検討を進めており、各社が保有する主な設備及び資機材のデータベースを整備し、事業者間でそのリストを共有するとともに、随時、更新を図っている。</p>	<p>さらに現在、他の原子力事業者と、原子力災害発生時における設備及び資機材の融通に向けた検討を進めており、各社が保有する主な設備及び資機材のデータベースを整備中である。</p>	<p>さらに現在、他の原子力事業者と、原子力災害発生時における設備及び資機材の融通に向けた検討を進めており、各社が保有する主な設備及び資機材のデータベースを整備し、事業者間でそのリストを共有するとともに、随時、更新を図っている。</p>	<p>記載表現の相違(島根と同様)</p>
2. 外部からの支援について	2. ブランドメーカー及び協力会社による支援	2. 外部からの支援について	
(1) ブランドメーカー及び協力会社等による支援		(1) ブランドメーカー及び協力会社による支援	
<p>重大事故等発生時における外部からの支援については、ブランドメーカー及び協力会社等から重大事故等発生後に現場操作対応等を実施する要員(重大事故等対策要員含む)派遣や事故収束に向けた対策立案等の技術支援や設備の補修に必要な予備品等の供給及び要員の派遣等について、協議・合意の上、支援計画を定め、災害発生時の技術支援に係る協定を締結し、重大事故等時に必要な支援を受けられる体制を整備する。</p> <p>また、重大事故等時に放射性物質を含んだ汚染水が発生した場合においても、東京電力株式会社福島第一原子力発電所における経験や知見を踏まえ、これらを活用した汚染水処理装置の設置等の対策を行うとともに、ブランドメーカーの協力を得ながら対応する。</p>	<p>重大事故等時における外部からの支援については、ブランドメーカー、協力会社等から重大事故等時に現場操作対応等を実施する要員の派遣や事故収束に向けた対策立案等の技術支援や設備の補修に必要な予備品等の供給及び要員の派遣等について、協議・合意の上、支援計画を定め、災害発生時の技術支援に係る協定を締結し、重大事故等時に必要な支援を受けられる体制を整備する。</p> <p>また、重大事故等時に放射性物質を含んだ汚染水が発生した場合においても、東京電力株式会社福島第一原子力発電所における経験や知見を踏まえ、これらを活用した汚染水処理装置の設置等の対策を行うとともに、ブランドメーカーの協力を得ながら対応する。</p>	<p>重大事故等時における外部からの支援については、ブランドメーカー、協力会社等から重大事故等時に現場操作対応等を実施する要員の派遣や事故収束に向けた対策立案等の技術支援や設備の補修に必要な予備品等の供給及び要員の派遣等について、協議・合意の上、支援計画を定め、災害発生時の技術支援に係る協定を締結し、重大事故等時に必要な支援を受けられる体制を整備する。</p> <p>また、重大事故等時に放射性物質を含んだ汚染水が発生した場合においても、東京電力株式会社福島第一原子力発電所における経験や知見を踏まえ、これらを活用した汚染水処理装置の設置等の対策を行うとともに、ブランドメーカーの協力を得ながら対応する。</p>	<p>既に、2021年3月より他の原子力事業者が保有する主な設備及び資機材のデータベースの整備並びに事業者間でのリストの共有を実施していることから、記載表現が相違している。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子力災害発生時において、当社が実施する事態収束活動を円滑に実施するため、設備の設計根拠や機器の詳細な情報、事故収束手段及び復旧対策を迅速に得られるようプラントメーカー(三菱重工株式会社、三菱電機株式会社)との間で支援体制を整備している。</p> <p>① プラントメーカーによる支援</p> <p>原子力災害発生時において、当社が実施する事態収束活動を円滑に実施するため、設備の設計根拠や機器の詳細な情報、事故収束手段及び復旧対策を迅速に得られるようプラントメーカー(三菱重工株式会社、三菱電機株式会社)との間で支援体制を整備している。</p> <p>a. 支援体制</p> <p>(a) 災害発生時にプラントメーカー幹部をトップとした、即決できる緊急時対応体制として、三菱緊急時原子力安全対策センターを設置。 (所在地:兵庫県神戸市)</p> <p>(b) プラントメーカーの総力を結集した技術者 400~500 人規模の体制を整備。</p> <p>b. 役割</p> <p>(a) 緊急時の大飯発電所の安全確保のため、プラントメーカー総指令本部として発電所の事故対応を支援</p> <p>(b) 緊急時に、設計根拠や機器の詳細な情報提供するとともにプラント状況に応じた事故収束手段、復旧対策の早急な検討・技術支援を実施。</p> <p>② 株原子力安全システム研究所(以下、INSSという。)による支援</p> <p>原子力防災体制が発令された場合に実施する事象進展予測に係る協力が得られるよう、INSSとの間で支援体制を整備している。</p> <p>a. 支援体制</p> <p>原子力防災体制を発令した場合における連絡責任者を定め、協力要員の派遣、資機材の貸与等必要な支援が得られる体制と</p>	<p>なお、プラントメーカー、協力的会社、燃料供給会社等から支援を受ける場合に必要となる資機材については、あらかじめ緊急時対策所に確保している資機材の余裕分を活用すると合わせ、必要に応じて資機材の追加調達を本店対策本部に要請して調達する。</p> <p>(1) プラントメーカーによる支援</p> <p>重大事故等時における当社が実施する事故収束活動を円滑に実施するため、プラントの状況に応じた事故収束手段及び復旧対策に関する技術支援を迅速に得られるよう、プラントメーカー(東芝エネルギーシステムズ株式会社、日立 GE ニュークリア・エナジー株式会社)との間で支援体制を整備するとともに、平常時から必要な連絡体制を整備している。</p> <p>また、事故対応が長期に及んだ場合においても交替要員等の継続的に支援が得られる体制としている。本支援に関するプラントメーカーとの合意文書を別紙1に示す。</p> <p>a. 支援体制</p> <p>(平時体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の技術支援のため、本店とプラントメーカー社員と平時より連絡体制を構築。 <p>(緊急時体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害対策特別措置法(以下「原災法」という。)第10条第1項又は第15条第1項に定める事象が発生した場合に技術支援を要請。 緊急時の状況評価及び復旧対策に関する助言、電気・機械・計装設備、その他の技術的情報を提供等により当社を支援。 中長期対応として、プラントメーカー本社等における1,200名規模の技術支援体制を構築。 技術支援については、本店対策本部のみならず、必要に応じて発電所対策本部でも実施可能。 	<p>なお、プラントメーカー、協力的会社、燃料供給会社等から支援を受ける場合に必要となる資機材については、あらかじめ緊急時対策所に確保している資機材の余裕分を活用すると合わせ、必要に応じて資機材の追加調達を本店対策本部に要請して調達する。</p> <p>① プラントメーカーによる支援</p> <p>重大事故等時における当社が実施する事故収束活動を円滑に実施するため、プラントの状況に応じた事故収束手段及び復旧対策に関する技術支援を迅速に得られるよう、プラントメーカー(三菱重工株式会社、三菱電機株式会社)との間で支援体制を整備するとともに、平常時から必要な連絡体制を整備している。</p> <p>また、事故対応が長期に及んだ場合においても交代要員等の継続的に支援が得られる体制としている。</p> <p>a. 支援体制</p> <p>(平時体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の技術支援のため、本店とプラントメーカー社員と平時より連絡体制を構築。 <p>(緊急時体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害対策特別措置法(以下「原災法」という。)第10条第1項又は第15条第1項に定める事象が発生した場合に技術支援を要請。 緊急時の状況評価及び復旧対策に関する助言、電気・機械・計装設備、その他の技術的情報を提供等により当社を支援。 中長期対応として、プラントメーカー本社等における400~500名規模の技術支援体制を構築。 技術支援については、本店対策本部のみならず、必要に応じて発電所対策本部でも実施可能。 	<p>相違理由</p> <p>プラントメーカーの相違</p> <p>用語の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は法令用語とした。(以降、相違理由を省略) <p>記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、プラントメーカーとの合意文章について記載しない事とした。(大飯、島根と同様) <p>支援人数の相違</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>している。</p> <p>b. 役割</p> <p>以下に係る協力活動を実施する。</p> <p>(a)放射性物質の放出の見通しに関する事項</p> <p>(b)事態の今後の見通しに関する事項</p> <p>(c)その他事象進展予測を実施する上で必要な事項</p> <p>具体的には、当社との協定に基づき、美浜町の原子力事業本部に設置される本店対策本部へ技術者2名程度を派遣する。これらの技術者は、MAAPコードをベースとする事象進展予測ツール、発電所構内の線量率を評価する解析ツール等を用いて、本店対策本部(原子力事業本部)に安全支援係を通じて事象進展予測、放射線影響予測等の評価結果の情報を提供する。</p> <p>なお、INSは、当社の原子力総合防災訓練に毎年参加し、訓練での事故シナリオについて事象進展予測と線量評価を実際に行い、連携強化を図っている。原子力事業本部は、発電所、本店(中之島)等と接続されるTV会議等のなかでこれらの情報を適宜提供する。</p> <p>③ 協力会社による支援</p> <p>協力会社とは、原子力災害発生時において、事故収束及び復旧対策活動の協力が得られるよう支援体制を整備している。当社が実施する事態収拾活動を円滑に実施するため、平常時より必要な連絡体制を整備している。</p> <p>協力会社の支援体制については、高線量下においても支援を要請できる体制を整えている。なお、協力会社の支援については、要員の人命及び身体の安全を最優先にした放射線管理を行う。</p> <p>また、事故発生後6日間以降の事故収束対応に対する支援に関しては、事故対応が長期に及んだ場合においても交代要員等の継続的な派遣を得られる体制とする。</p>	<p>(2) 協力会社による支援</p> <p>重大事故等時における当社が実施する事故収束活動を円滑に実施するため、事故収束及び復旧対策活動の協力が得られるよう、協力会社と支援内容に関する覚書等を締結し、支援体制を整備するとともに、平常時より必要な連絡体制を整備する。</p> <p>協力会社の支援については、重大事故等時においても支援を要請できる体制とし、協力会社要員の人命及び身体の安全を最優先にした放射線管理を行う。</p> <p>また、事故対応が中長期に及んだ場合においても交替要員等の継続的な派遣を得られる体制とする。本支援に関する協力会社との合意文書を別紙1に示す。</p> <p>a. 放射線測定、管理業務等の支援体制</p> <p>重大事故等時における放射線測定、管理業務の実施について、協力会社と合意文書を締結している。</p> <p>b. 緊急時に係る設備の修理・復旧等の支援体制</p> <p>重大事故等時における、以下に示す設備の修理・復旧等の作業に関する支援協力について協力会社と合意文書を締結している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等による原子力災害等の事象発生防止及び発生後の応急復旧対応支援 ・資機材輸送対応 ・放射線測定及び管理対応 ・環境モニタリング対応 ・化学分析対応 ・放射線計測器類保守対応 ・アクセス道路における除雪 	<p>② 協力会社による支援</p> <p>重大事故等時における当社が実施する事故収束活動を円滑に実施するため、事故収束及び復旧対策活動の協力が得られるよう、協力会社と支援内容に関する覚書等を締結し、支援体制を整備するとともに、平常時より必要な連絡体制を整備する。</p> <p>協力会社の支援については、重大事故等時においても支援を要請できる体制とし、協力会社要員の人命及び身体の安全を最優先にした放射線管理を行う。</p> <p>また、事故対応が中長期に及んだ場合においても交代要員等の継続的な派遣を得られる体制とする。</p> <p>a. 放射線測定、管理業務等の支援体制</p> <p>重大事故等時における放射線測定、管理業務の実施について、協力会社と合意文書を締結している。</p> <p>b. 緊急時に係る設備の修理・復旧等の支援体制</p> <p>重大事故等時における、以下に示す設備の修理・復旧等の作業に関する支援協力について協力会社と合意文書を締結している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等による原子力災害等の事象発生防止及び発生後の応急復旧対応支援 ・資機材輸送対応 ・放射線測定及び管理対応 ・環境モニタリング対応 ・化学分析対応 ・放射線計測器類保守対応 ・アクセス道路における除雪 	<p>記載内容の相違</p> <p>・泊は、協力会社との合意文章について記載しない事とした。(大飯、島根と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>伊方発電所3号炉まとめ資料より引用</p> <p>ヘリコプターによる空輸を実施する場合は、高松空港(香川県高松市)に常駐のヘリコプターを優先して使用し、松山臨時ヘリポート(愛媛県松山市の当社所有敷地)と伊方発電所構内臨時ヘリポート間を往復する。</p> <p>(2) 原子力事業者による支援 上記の協力会社やメーカー等からの支援のほか、「原子力事業者間協力協定」に基づき、他の原子力事業者による発電所周辺地域の環境放射線モニタリング及び汚染検査・汚染除去に関する事項について、協力要員の派遣や資機材の貸与等の支援を受けることができる。</p>	<p>・アクセス道路におけるがれき、土砂等の撤去 ・アクセス道路における損壊箇所^①の応急復旧措置 ・給水設備の復旧 ・所内用水の補給</p> <p>c. 資機材及び要員輸送に係る支援体制 女川原子力発電所で重大事故が発生した場合又は発生のおそれがある場合の陸路による資機材の輸送、空路による資機材及び要員の輸送について、それぞれ協力会社から支援協力が可能な体制を整備する。資機材の輸送に当たっては、陸路による輸送を基本とするが、女川原子力発電所又は重大事故等時に設置される支援拠点へのアクセス道路の寸断等により陸路での資機材、要員の輸送が困難な場合には、空路での輸送も実施する。</p> <p>なお、ヘリコプターによる空輸を実施する場合には、仙台空港(宮城県岩沼市)に常駐のヘリコプターを優先して使用し、発電所構内のヘリポート間を往復する。</p> <p>発電所近隣のヘリポートとしては、災害時の飛行場外離着陸場として石巻市内の1か所^②について、発電所構内のヘリポートとともに協力会社から東京航空局へ飛行場外離着陸許可申請書を提出し、許可を得ている。</p> <p>d. 燃料調達に係る支援体制 女川原子力発電所に重大事故等が発生した場合又は発生のおそれがある場合における燃料調達手段として、当社と取引のある燃料供給会社の油槽所等から燃料調達が可能な体制を整備する。</p> <p>また、女川原子力発電所の備蓄を強化しており、今後、調達を強化していく。</p> <p>e. 消火、注水活動に係る支援体制 女川原子力発電所の構内(建物内含む。)で火災が発生した場合の消火、発電用原子炉や使用済燃料プール注水活動、復水貯蔵タンク等への水補給に関する活動の支援について協力会社と契約を締結する。</p> <p>なお、消火活動としては平時から、女川原子力発電所内で訓練を実施するとともに、24時間交替勤務体制が取られているため、迅速な初動活動が可能である。</p> <p>3. 原子力事業者による支援 上記のプラントメーカーや協力会社等からの支援のほか、原子力事業者で「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」を締結し、他の原子力事業者による支援を受けられる体制を整備している。</p> <p>「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」の内容は以</p>	<p>・アクセス道路におけるがれき、土砂等の撤去 ・アクセス道路における損壊箇所^①の応急復旧措置 ・給水設備の復旧 ・所内用水の補給</p> <p>c. 資機材及び要員輸送に係る支援体制 泊発電所で重大事故が発生した場合又は発生のおそれがある場合の陸路による資機材の輸送、空路による資機材及び要員の輸送について、それぞれ協力会社から支援協力が可能な体制を整備する。資機材の輸送に当たっては、陸路による輸送を基本とするが、泊発電所又は重大事故等時に設置される支援拠点へのアクセス道路の寸断等により陸路での資機材、要員の輸送が困難な場合には、空路での輸送も実施する。</p> <p>なお、ヘリコプターによる空輸を実施する場合には、丘珠空港(北海道札幌市)に常駐のヘリコプターを優先して使用し、発電所構内のヘリポートと発電所近隣のヘリポート間を往復する。</p> <p>発電所近隣のヘリポートとしては、災害時の飛行場外離着陸場として共和町宮丘地区の1箇所^②について、発電所構内のヘリポートとともに協力会社から東京航空局へ飛行場外離着陸許可申請書を提出し、許可を得ている。</p> <p>d. 燃料調達に係る支援体制 泊発電所に重大事故等が発生した場合又は発生のおそれがある場合における燃料調達手段として、当社と取引のある燃料供給会社の油槽所等から燃料調達が可能な体制を整備する。</p> <p>また、泊発電所の備蓄を強化しており、今後、調達を強化していく。</p> <p>e. 消火、注水活動に係る支援体制 泊発電所の構内(建屋内含む。)で火災が発生した場合の消火、発電用原子炉や原子炉格納容器、使用済燃料ピット注水活動、タンク等への水補給に関する活動の支援について協力会社と契約を締結する。</p> <p>なお、消火活動としては平時から、泊発電所内で訓練を実施するとともに、24時間交代勤務体制が取られているため、迅速な初動活動が可能である。</p> <p>(2) 原子力事業者による支援 上記のプラントメーカーや協力会社等からの支援のほか、原子力事業者で「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」を締結し、他の原子力事業者による支援を受けられる体制を整備している。</p> <p>「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」の内容は以</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>名称の相違 記載内容の相違 ・ヘリポート位置の相違(伊方同様)</p> <p>名称の相違 記載表現の相違 (以降、相違理由を省略)</p> <p>名称の相違</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>下のとおり。</p> <p>(目的) 国内原子力事業所(事業所外運搬を含む。)において、原子力災害が発生した場合、協力事業者が発災事業者に対し、協力要員の派遣、資機材の貸与その他当該緊急事態応急対策の実施に必要な協力を円滑に実施し、原子力災害の拡大防止及び復旧対策に努める。</p> <p>(情報連絡) ・各社の原子力事業者防災業務計画に定める警戒事象が発生した場合、速やかにその情報を他の原子力事業者に連絡する。</p> <p>(協力要請) ・原災法第10条に基づく通報を実施した場合、直ちに他の協定事業者に協力要員の派遣及び資機材の貸与に係る協力要請を行う。</p> <p>(協力の内容) 協力事業者は、発災事業者からの協力要請に基づき、原子力事業所災害対策が的確かつ円滑に行われるようにするため、以下の措置を講ずる。 ・環境放射線モニタリングに関する協力要員の派遣 ・周辺地域の汚染検査及び汚染除去に関する協力要員の派遣 ・第6表に示す資機材の貸与他</p> <p>(支援本部の活動) ・幹事事業者 発災事業所の場所ごとに、あらかじめ支援本部幹事事業者、支援本部副幹事事業者を設定している(当社女川原子力発電所が発災した場合は、それぞれ東京電力ホールディングス株式会社、日本原燃株式会社としている。) 幹事事業者は副幹事事業者と協力し、協力要員及び貸与された資機材の受入れと協力に係る業務の基地となる原子力事業所支援本部(以下「支援本部」という。)を設置し、運営する。なお、幹事事業者が被災する等、業務の遂行が困難な場合は、副幹事事業者が幹事事業者の任にあたり、幹事事業者以外の事業者の中から副幹事事業者を選出することとしている。また、支援期間が長期化する場合は、幹事事業者、副幹事事業者を交替することができる。 ・支援本部の設置について 当社は、あらかじめ支援本部候補地を3か所程度設定している。発災事業者は、協力を要請する際に、候補地の中から支援本部の設置場所を決定し伝える。 支援本部設置後は、緊急事態応急対策等拠点施設(オフサイトセンター)に設置される原子力災害合同対策協議会と連携を取り</p>	<p>下のとおり。</p> <p>(目的) 国内原子力事業所(事業所外運搬を含む。)において、原子力災害が発生した場合、協力事業者が発災事業者に対し、協力要員の派遣、資機材の貸与その他当該緊急事態応急対策の実施に必要な協力を円滑に実施し、原子力災害の拡大防止及び復旧対策に努める。</p> <p>(情報連絡) ・各社の原子力事業者防災業務計画に定める警戒事象が発生した場合、速やかにその情報を他の原子力事業者に連絡する。</p> <p>(協力要請) ・原災法第10条に基づく通報を実施した場合、直ちに他の協定事業者に協力要員の派遣及び資機材の貸与に係る協力要請を行う。</p> <p>(協力の内容) 協力事業者は、発災事業者からの協力要請に基づき、原子力事業所災害対策が的確かつ円滑に行われるようにするため、以下の措置を講ずる。 ・環境放射線モニタリングに関する協力要員の派遣 ・周辺地域の汚染検査及び汚染除去に関する協力要員の派遣 ・表6に示す資機材の貸与他</p> <p>(支援本部の活動) ・幹事事業者 発災事業所の場所ごとに、あらかじめ支援本部幹事事業者、支援本部副幹事事業者を設定している(当社泊発電所が発災した場合は、それぞれ日本原燃株式会社、電源開発株式会社としている。) 幹事事業者は副幹事事業者と協力し、協力要員及び貸与された資機材の受入れと協力に係る業務の基地となる原子力事業所支援本部(以下「支援本部」という。)を設置し、運営する。なお、幹事事業者が被災する等、業務の遂行が困難な場合は、副幹事事業者が幹事事業者の任にあたり、幹事事業者以外の事業者の中から副幹事事業者を選出することとしている。また、支援期間が長期化する場合は、幹事事業者、副幹事事業者を交代することができる。 ・支援本部の設置について 当社は、あらかじめ支援本部候補地を3箇所程度設定している。発災事業者は、協力を要請する際に、候補地の中から支援本部の設置場所を決定し伝える。 支援本部設置後は、緊急事態応急対策等拠点施設(オフサイトセンター)に設置される原子力災害合同対策協議会と連携を取り</p>	<p>名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) その他組織による支援</p> <p>東京電力福島第一原子力発電所の事故対応の教訓を踏まえ、万が一原子力災害が発生した場合に、多様かつ高度な災害対応を行うため、2013年1月に日本原子力発電(株)内組織として原子力緊急事態支援センターを設置している。さらに、支援組織の更なる強化を図るため、2016年3月には原子力緊急事態支援組織を設立し、整備が完了した資機材、施設から順次使用を開始している。全ての施設が完成し、本格運用を開始するのは2016年12月の予定である。</p> <p>なお、原子力緊急事態支援組織への支援要請については、原災法第10条に基づく通報を実施した場合、その情報を原子力緊急事態支援組織に連絡し、事態に応じて資機材の提供等の支援要請を行う。</p> <p>① 原子力緊急事態支援センター</p> <p>役割 : 原子力緊急事態支援組織の本格運用までの期間において、資機材の調達・管理・輸送や操作要員養成訓練の計画・実施を担う。</p> <p>要員 : 9名</p> <p>資機材 : 現場の偵察用ロボット4台、障害物の除去用ロボット1台除染用資機材一式(2016年3月末現在)</p> <p>② 原子力緊急事態支援組織</p> <p>役割 : 原子力緊急事態支援組織の本格運用開始以降、原子力災害発生時において、高放射線量下での作業員の被ばくを可能な限り低減するため、遠隔操作可能なロボット等の資機材を集中的に管理・運用し、高度な災害対応を実施することにより、事故が発生した事業者の収束活動を支援する。</p> <p>要員 : 21名</p> <p>資機材 : 遠隔操作資機材(小型・中型ロボット、小型・大型無線重機、無線ヘリ)、現地活動用資機材(放射線防護用資機材、除染用資機材等)、搬送用車両</p>	<p>ながら、発災事業者との協議の上、各協力事業者に対して具体的な業務の依頼を実施する。</p> <p>4. その他組織による支援</p> <p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故対応の教訓を踏まえ、重大事故等時に多様かつ高度な災害対応を行うため、平成25年1月に日本原子力発電株式会社内の組織として「原子力緊急事態支援センター」を原子力事業者共同で設置した。</p> <p>原子力緊急事態支援センターでは、平時から遠隔操作が可能なロボットの操作訓練等を実施しており、当社要員も参加しロボット操作技術等を習得させる等、原子力災害対策活動能力の向上を図っている。</p> <p>その後、更に原子力緊急事態支援センターの強化を図るため、当社を含む原子力事業者と日本原子力発電株式会社との間で「原子力緊急事態支援組織の運営に関する基本協定」を締結し、平成28年3月に「原子力緊急事態支援組織」が設立された。なお、平成28年12月には活動拠点を福井県美浜町の「美浜原子力緊急事態支援センター」に移し、本格運用が開始されている(「原子力緊急事態支援センター」は廃止)。</p> <p>原子力緊急事態支援組織の支援に関する事項は以下のとおり。</p> <p>(支援要請)</p> <p>発災事業者は、原災法第10条に基づく通報後、速やかにその情報を原子力緊急事態支援組織に連絡するとともに、事態に応じて資機材の提供などの支援要請を行う。</p> <p>(美浜原子力緊急事態支援センターによる支援の内容)</p> <p>美浜原子力緊急事態支援センターは、発災事業者からの支援要請に基づき、美浜原子力緊急事態支援センター要員の安全が確保される範囲において以下の業務を実施することで、発災事業者の事故収束活動を積極的に支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美浜原子力緊急事態支援センターから支援拠点までの、美浜原子力緊急事態支援センター要員の派遣や資機材の搬送。 ・支援拠点から発災事業所の災害現場までの資機材の搬送。 ・発災事業者の災害現場における放射線量をはじめとする環境情報収集の支援活動。 ・発災事業者の災害現場における作業を行う上で必要となるアクセスルートの確保作業の支援活動。 ・支援組織の活動に必要な範囲での、放射性物質の除去等の除染作業の支援活動。 <p>美浜原子力緊急事態支援センターの支援体制は以下のとおり。</p>	<p>ながら、発災事業者との協議の上、各協力事業者に対して具体的な業務の依頼を実施する。</p> <p>(3) その他組織による支援</p> <p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故対応の教訓を踏まえ、重大事故等時に多様かつ高度な災害対応を行うため、2013年1月に日本原子力発電株式会社内の組織として「原子力緊急事態支援センター」を原子力事業者共同で設置した。</p> <p>原子力緊急事態支援センターでは、平時から遠隔操作が可能なロボットの操作訓練等を実施しており、当社要員も参加しロボット操作技術等を習得させる等、原子力災害対策活動能力の向上を図っている。</p> <p>その後、さらに、原子力緊急事態支援センターの強化を図るため、当社を含む原子力事業者と日本原子力発電株式会社との間で「原子力緊急事態支援組織の運営に関する基本協定」を締結し、2016年3月に「原子力緊急事態支援組織」が設立された。なお、2016年12月には活動拠点を福井県美浜町の「美浜原子力緊急事態支援センター」に移し、本格運用が開始されている(「原子力緊急事態支援センター」は廃止)。</p> <p>原子力緊急事態支援組織の支援に関する事項は以下のとおり。</p> <p>a. 支援要請</p> <p>発災事業者は、原災法第10条に基づく通報後、速やかにその情報を原子力緊急事態支援組織に連絡するとともに、事態に応じて資機材の提供等の支援要請を行う。</p> <p>b. 美浜原子力緊急事態支援センターによる支援の内容</p> <p>美浜原子力緊急事態支援センターは、発災事業者からの支援要請に基づき、美浜原子力緊急事態支援センター要員の安全が確保される範囲において以下の業務を実施することで、発災事業者の事故収束活動を積極的に支援する。</p> <p>(a) 美浜原子力緊急事態支援センターから支援拠点までの、美浜原子力緊急事態支援センター要員の派遣や資機材の搬送。</p> <p>(b) 支援拠点から発災事業所の災害現場までの資機材を搬送。</p> <p>(c) 発災事業者の災害現場における放射線量をはじめとする環境情報収集の支援活動。</p> <p>(d) 発災事業者の災害現場における作業を行う上で必要となるアクセスルートの確保作業の支援活動。</p> <p>(e) 支援組織の活動に必要な範囲での、放射性物質の除去等の除染作業の支援活動。</p> <p>美浜原子力緊急事態支援センターの支援体制は以下のとおり。</p>	<p>記載表現の相違 (以降、相違理由を省略)</p> <p>記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>支援内容：a. 事故時</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害発生時、事故が発生した事業者からの出動要請を受け、要員・資機材を拠点施設から迅速に搬送する。 事故が発生した事業者と協働し、遠隔操作可能なロボット等を用いて現場状況の偵察、空間線量率の測定、ガレキなど屋外障害物の除去によるアクセスルートの確保、屋内障害物の除去や機材運搬等を行う。 <p>b. 平常時</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の連絡体制(24時間体制)を確保し、出動計画を整備する。 支援組織の要員の技能向上を図り、また原子力事業者各社の対応要員の計画的な育成に係る訓練を実施する。 必要な資機材の調達・維持管理に努める。 	<p>(事故時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害発生時、事故が発生した事業者からの出動要請を受け、要員・資機材を拠点施設から迅速に搬送する。 事故が発生した事業者の指揮の下、協働で遠隔操作可能なロボット等を用いて現場状況の偵察、空間線量率の測定、がれき等屋外障害物の除去によるアクセスルートの確保、屋内障害物の除去や機材運搬等を行う。 <p>(平常時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の連絡体制(24時間体制)を確保し、出動計画を整備する。 ロボット等の操作訓練や必要な資機材の調達・維持管理及び訓練等で得られたノウハウや経験に基づく改良を行う。 <p>(要員)</p> <p>21名</p> <p>(資機材)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠隔操作資機材(小型・中型ロボット、小型・大型無線重機、無線小型ヘリコプター) 現地活動用資機材(放射線防護用資機材、放射線管理・除染用資機材、作業用資機材、一般資機材) 搬送用車両(ワゴン車、大型トラック(重機搬送車用)、中型トラック) 	<p>c. 事故時</p> <ul style="list-style-type: none"> (a) 原子力災害発生時、事故が発生した事業者からの出動要請を受け、要員・資機材を拠点施設から迅速に搬送する。 (b) 事故が発生した事業者の指揮の下、協働で遠隔操作可能なロボット等を用いて現場状況の偵察、空間線量率の測定、がれき等屋外障害物の除去によるアクセスルートの確保、屋内障害物の除去や機材運搬等を行う。 <p>d. 平常時</p> <ul style="list-style-type: none"> (a) 緊急時の連絡体制(24時間体制)を確保し、出動計画を整備する。 (b) ロボット等の操作訓練や必要な資機材の調達・維持管理及び訓練等で得られたノウハウや経験に基づく改良を行う。 <p>e. 要員</p> <p>21名</p> <p>f. 資機材</p> <ul style="list-style-type: none"> (a) 遠隔操作資機材(小型・中型ロボット、小型・大型無線重機、無線小型ヘリコプター) (b) 現地活動用資機材(放射線防護用資機材、放射線管理・除染用資機材、作業用資機材、一般資機材) (c) 搬送用車両(ワゴン車、大型トラック(重機搬送)、中型トラック) 	<p>名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>5. 原子力事業所災害対策支援拠点</p> <p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故において、発電所外からの支援に係る対応拠点としてJヴィレッジを活用したことを踏まえ、女川原子力発電所においても同様な機能を配置する候補地点をあらかじめ選定し、必要な要員及び資機材を確保する。候補地点の選定に当たっては、重大事故等時における風向、放射性物質の拡散範囲等を考慮し、女川原子力発電所からの方位、距離(約30km圏内外)が異なる地点を複数選定する。</p> <p>別紙2の第1図に、支援拠点の候補地を記した地図を示す。女川原子力発電所原子力事業者防災業務計画においては、石巻ヘリポート(宮城県石巻市)、当社本店ビル(宮城県仙台市)、女川地域総合事務所(宮城県女川町)、女川地域総合事務所跡地(宮城県女川町)を支援拠点として定めている。</p> <p>第2図に防災組織全体図を、第3図に支援拠点の体制図を示す。原災法第10条に基づく通報の判断基準に該当する事象が発生した場合、社長は、原子力事業所災害対策の実施を支援するための発電所周辺の拠点として支援拠点の設置を指示する。</p> <p>支援拠点の責任者は、原子力災害の進展状況等を踏まえながら支援活動の準備を実施する。支援拠点の設置場所及び活動場所を、放射性物質が放出された場合の影響、周囲の道路状況等を踏まえた上で決定し、発電所、本店や関係機関と連携をして、発電所における災害対策活動の支援を実施する。</p> <p>また、支援拠点で使用する主な原子力関連資機材は本店等にて確保しており、定期的に保守点検を行い、常に使用可能な状態に整備している(第7表)。</p> <p>なお、資機材の消耗品については、初動7日間の対応を可能とする量であり、8日目以降は、原子力事業者間協力協定に基づく支援物資、外部からの購入品等で対応する計画としている。</p>	<p>3. 原子力事業所災害対策支援拠点</p> <p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故において、発電所外からの支援に係る対応拠点としてJヴィレッジを活用したことを踏まえ、泊発電所においても同様な機能を配置する候補地点をあらかじめ選定し、必要な要員及び資機材を確保する。候補地点の選定に当たっては、重大事故等時における風向、放射性物質の拡散範囲等を考慮し、泊発電所からの方位、距離(約30km圏内外)が異なる地点を複数選定する。</p> <p>別紙1の図1に、支援拠点の候補地を記した地図を示す。泊発電所原子力事業者防災業務計画においては、北海道電力ネットワーク株式会社倶知安ネットワークセンター(北海道倶知安町)、北海道電力ネットワーク株式会社倶知安無線局(北海道倶知安町)、北海道電力ネットワーク株式会社所有地(旧変電所用地)(北海道倶知安町)、北海電気工事株式会社小樽支店(北海道小樽市)、北海道電力ネットワーク株式会社余市ネットワークセンター(北海道余市町)、社有地(旧資材置場)(北海道余市町)を支援拠点として定めている。</p> <p>図2に防災組織全体図を、図3に支援拠点の体制図を示す。原災法第10条に基づく通報の判断基準に該当する事象が発生した場合、社長は、原子力事業所災害対策の実施を支援するための発電所周辺の拠点として支援拠点の設置を指示する。</p> <p>原子力班長(原子力部長)は、原子力災害の進展状況等を踏まえながら支援活動の準備を実施する。支援拠点の設置場所及び活動場所を放射性物質が放出された場合の影響、周囲の道路状況等を踏まえた上で決定し、発電所、本店や関係機関と連携をして、発電所における災害対策活動の支援を実施する。</p> <p>また、支援拠点で使用する主な原子力関連資機材は本店及び保管庫にて確保しており、定期的に保守点検を行い、常に使用可能な状態に整備している。(表7)</p> <p>なお、資機材の消耗品については、初動7日間の対応を可能とする量であり、8日目以降は、原子力事業者間協力協定に基づく支援物資、外部からの購入品等で対応する計画としている。</p>	<p>支援拠点名称の相違</p> <p>名称の相違</p> <p>保管場所の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉

表1 放射線管理用資機材及びチェンジングエリア用資機材等(緊急時対策所)

品名	保管数		
	緊急時対策所 指揮所 ^{*16}	緊急時対策所 待機場所 ^{*16}	構内保管 ^{*1}
汚染防護服(タイベック)	1,900着 ^{*2}	1,200着 ^{*3}	約6,000着
綿帽子	950個 ^{*3}	600個 ^{*10}	約6,000個
靴下	950足 ^{*3}	600足 ^{*10}	約6,000足
綿手袋	950双 ^{*3}	600双 ^{*10}	約29,000双
ゴム手袋	1,900双 ^{*4}	1,200双 ^{*11}	約27,000双
全面マスク	120個 ^{*5}	90個 ^{*12}	約1,600個
交換カートリッジ (2個で1組)	950組 ^{*6}	600組 ^{*13}	約3,000組
靴カバー	950足 ^{*3}	600足 ^{*10}	約6,000足
長靴	200足 ^{*7}	100足 ^{*14}	約300足
タンクステンベスト	10着 ^{*8}	10着 ^{*8}	20着
可搬型空気浄化装置	2台 ^{*15}	2台 ^{*15}	約14台

- *1:平成27年6月現在の保有数量(構内台)
- *2:指揮所要員65名×7日+余裕(2重化含む)
- *3:指揮所要員65名×7日+余裕
- *4:指揮所要員65名×7日×2双+余裕
- *5:指揮所要員65名+余裕
- *6:指揮所要員65名×7回(6-4前後各1回+その後1日に1回=5回)+余裕
- *7:指揮所要員65名+余裕
- *8:指揮者1名+放射線管理1名+作業員3名×2班
- *9:待機場所要員41名×7日+余裕(2重化含む)
- *10:待機場所要員41名×7日+余裕
- *11:待機場所要員41名×7日×2双+余裕
- *12:待機場所要員41名+余裕
- *13:待機場所要員41名×7回(6-4前後各1回+その後1日に1回=5回)+余裕
- *14:待機場所要員44名+余裕
- *15:予備1台含む
- *16:一部近傍資機材倉庫に保管

【比較のため、比較表P1.0.4-17より再掲】

表4 防護具及びチェンジングエリア設管用資機材等(中央制御室)

品名	保管数	考え方
汚染防護服(タイベック)	46着(約6,000着)	運転員等12名×1回(初動対応)+余裕(2重化含む)
綿帽子	23個(約6,000個)	運転員等12名×1回(初動対応)+余裕
靴下	23足(約6,000足)	運転員等12名×1回(初動対応)+余裕
綿手袋	23双(約29,000双)	運転員等12名×1回(初動対応)+余裕
ゴム手袋	46双(約27,000双)	運転員等12名×2双×1回(初動対応)+余裕
アノラック	23着(約700着)	運転員等12名×1回(初動対応)+余裕
全面マスク	23個(約1,600個)	運転員等12名×1回(初動対応)+余裕
靴カバー	23足(約6,000足)	運転員等12名×1回(初動対応)+余裕
長靴	10足(約300足)	-
セルフエアセット	2台(約70台)	-
交換カートリッジ(2個/組)	23組(約3,000個)	運転員等12名×1回(初動対応)+余裕

注:初動対応時に運転員は中央制御室保管の防護用資機材を使用。
 ()内は構内保管数。1週間分の防護用資機材は構内保管分を使用。

女川原子力発電所2号炉

第2表 放射線管理用資機材等

○防護具

品名	配備数 ^{※1} /保管容量		中央 制御室	構内 (参考)
タイベック	2,100着 ^{※1}	147着 ^{※7}		
下着(上下セット)	2,100着 ^{※1}	147着 ^{※7}	約6,000着	
帽子	2,100個 ^{※1}	147個 ^{※7}	約20,000個	
靴下	2,100足 ^{※1}	147足 ^{※7}	約30,000足	
綿手袋	2,100双 ^{※1}	147双 ^{※7}	約40,000双	
ゴム手袋	4,200双 ^{※2}	294双 ^{※8}	約150,000双	
全面マスク	900個 ^{※3}	42個 ^{※9}	約1,800個	
電動ファン付き 全面マスク	-	7個 ^{※10}	約300個	
電動ファン付き 全面マスクパッチャー	-	38個 ^{※11}	約300個	
マスク用チャコールフィルタ (2個/セット)	2,100 セット ^{※1}	147セット ^{※7}	約5,900 セット	
EVAスーツ(上下セット)	1,050 セット ^{※4}	74セット ^{※12}	約3,900 セット	
汚染区域用靴	40足 ^{※5}	8足 ^{※6}	約500足	
自給式呼吸器	-	4セット ^{※13}	4セット	
耐熱服	-	3セット ^{※14}	3セット	
タンクステンベスト	20着 ^{※15}	4着 ^{※16}	10着	

- ※1:60名(本部要員38名+余裕)×7日及び現場要員40名×6回/日×7日
- ※2:※1×2
- ※3:60名(本部要員38名+余裕)×3日及び現場要員40名×6回/日×3日(除染による再使用を考慮)
- ※4:(60名(本部要員38名+余裕)×7日及び現場要員40名×6回/日×7日)×50%(中間降水日数を考慮)
- ※5:現場要員20名(ブルーム通過直後の現場要員)×2
- ※6:現場要員20名(ブルーム通過直後の現場要員)
- ※7:2号炉運転員7名×1回/日×7日
- ※8:※7×2
- ※9:2号炉運転員7名×6日
- ※10:2号炉運転員7名×1日
- ※11:2号炉運転員7名×5個/日×1日
- ※12:2号炉運転員7名×3回/日×7日×50%
- ※13:2号炉運転員のうち現場要員2名×2班×2
- ※14:炉心損傷後における原子炉格納容器フィルタベント系による格納容器除熱(現場操作)対応者2名+予備2
- ※15:インターフェイスシステムLOCA対応者2名+予備1
- ※16:2号炉運転員のうち現場要員2名×2班
- ※17:防護具が不足する場合は、構内より適宜運搬することにより補充する

泊発電所3号炉

表2 放射線管理用資機材等

○防護具

品名	配備数 ^{※1} /保管場所			構内 ^{※19} (参考)
	緊急時 対策所 指揮所	緊急時 対策所 待機所	3号炉 中央 制御室	
タイベック	1,050着 ^{※1}	50着 ^{※17}	約2,400着	
下着(上下セット)	-	-	約400着	
帽子	1,050個 ^{※1}	50個 ^{※17}	約15,000個	
靴下	1,050足 ^{※1}	50足 ^{※17}	約7,000足	
綿手袋	1,050双 ^{※1}	50双 ^{※17}	約33,000双	
ゴム手袋	2,100双 ^{※2}	100双 ^{※18}	約78,000双	
全面マスク	1,050個 ^{※1}	100個 ^{※12}	約800個	
電動ファン付きマスク	8個 ^{※3}	10個 ^{※17}	約90個	
全面マスク用チャコール フィルタ(2個/セッ ト)	2,100個 ^{※4}	200個 ^{※14}	約270個	
電動ファン付きマスク 用チャコールフィルタ (1個/セット)	8個 ^{※3}	10個 ^{※17}	約90個	
アノラック	830着 ^{※5}	50着 ^{※17}	約1,800着	
長靴	610足 ^{※6}	30足 ^{※17}	約1,000足	
オーバーシューズ(靴 カバー)	1,050足 ^{※1}	50足 ^{※17}	約820足	
自給式呼吸器	8台 ^{※7}	15台 ^{※18}	約72台	
圧縮酸素形筒状呼吸 器	8台 ^{※8}	-	-	
タンクステンベスト	20着 ^{※9}	-	-	

- ※1:100名(本部要員50名+現場要員30名+3号炉運転員6名+余裕)×1.5倍×7日
- ※2:100名(本部要員50名+現場要員30名+3号炉運転員6名+余裕)×2重×1.5倍×7日
- ※3:6名(事務員2名+放管班員4名)+余裕
- ※4:100名(本部要員50名+現場要員30名+3号炉運転員6名+余裕)×2個×1.5倍×7日
- ※5:79名(緊急時対策所の最大収容人数120名-本部要員41名)×1.5倍×7日
- ※6:79名(緊急時対策所の最大収容人数120名-本部要員41名)×1.1倍×7日
- ※7:8名(災害対策要員(支援)8名+作業要員2名)
- ※8:79名(緊急時対策所の最大収容人数120名-本部要員41名)の10%分
- ※9:8名(現場指揮者1名+放管班員1名+作業要員3名×2班)×2セット+余裕
- ※10:21名(運転員6名+災害対策要員7名+災害対策要員(支援)2名+運転員(交替要員)6名)×1.5倍+余裕
- ※11:21名(運転員6名+災害対策要員7名+災害対策要員(支援)2名+運転員(交替要員)6名)×1.5倍×2重+余裕
- ※12:21名(運転員6名+災害対策要員7名+災害対策要員(支援)2名+運転員(交替要員)6名)×2回分(中央制御室内での運用分)×1.5倍+余裕
- ※13:8名(運転員6名+放管班員2名)+余裕
- ※14:21名(運転員6名+災害対策要員7名+災害対策要員(支援)2名+運転員(交替要員)6名)×2個×2回分(中央制御室内での運用分)×1.5倍+余裕
- ※15:21名(運転員6名+災害対策要員7名+災害対策要員(支援)2名+運転員(交替要員)6名)+余裕
- ※16:15名(運転員6名+災害対策要員7名+災害対策要員(支援)2名)
- ※17:防護具が不足する場合は、構内より適宜運搬することにより補充する
- ※18:発電所構内に保管又は配備している数量

引用元

- ・DB26条 原子炉制御室等まとめ資料 別添1
- ・DB34条 緊急時対策所まとめ資料 別添1

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																									
<p>○計測器（被ばく管理・汚染管理）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">保管数</th> </tr> <tr> <th>緊急時対策所 指揮所</th> <th>緊急時対策所 待機場所</th> <th>構内保管^{*1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人線量計</td> <td>120台^{*2}</td> <td>90台^{*7}</td> <td>約2,900台</td> </tr> <tr> <td>表面汚染密度測定用 サーベイメータ</td> <td>5台^{*3}</td> <td>5台^{*3}</td> <td>約50台</td> </tr> <tr> <td>ガンマ線測定用 サーベイメータ</td> <td>5台^{*4}</td> <td>5台^{*4}</td> <td>約60台</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所内 可搬型エリアモニタ</td> <td colspan="2">3台^{*5*}</td> <td>約15台</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所外 可搬型エリアモニタ</td> <td colspan="2">2台^{*6*}</td> <td>約4台</td> </tr> </tbody> </table> <p>^{*1}：平成27年6月現在の保有数量（構内用） ^{*2}：指揮所要員65名＋余裕 ^{*3}：チェンジングエリアにて使用 ^{*4}：現場作業時に使用 ^{*5}：緊急時対策所にて使用 ^{*6}：原子炉補助建屋内にて使用 ^{*7}：待機場所要員41名＋余裕 ^{*8}：予備1台を含む</p>	品名	保管数			緊急時対策所 指揮所	緊急時対策所 待機場所	構内保管 ^{*1}	個人線量計	120台 ^{*2}	90台 ^{*7}	約2,900台	表面汚染密度測定用 サーベイメータ	5台 ^{*3}	5台 ^{*3}	約50台	ガンマ線測定用 サーベイメータ	5台 ^{*4}	5台 ^{*4}	約60台	緊急時対策所内 可搬型エリアモニタ	3台 ^{*5*}		約15台	緊急時対策所外 可搬型エリアモニタ	2台 ^{*6*}		約4台	<p>○計測器（被ばく管理、汚染管理）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">配備台数[※]/保管場所</th> </tr> <tr> <th>個人線量計</th> <th>電子式検査計</th> <th>ガラスバッジ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人線量計</td> <td>200台^{*1}</td> <td>14台^{*2}</td> <td>14台^{*2}</td> </tr> <tr> <td>表面汚染密度測定用 サーベイメータ</td> <td>8台^{*3}</td> <td>4台^{*4}</td> <td>4台^{*7}</td> </tr> <tr> <td>ガンマ線測定用 サーベイメータ</td> <td>8台^{*3}</td> <td>4台^{*4}</td> <td>4台^{*7}</td> </tr> <tr> <td>可搬型エリアモニタ</td> <td>4台^{*4}</td> <td>緊急時対策所</td> <td>4台^{*8}</td> </tr> </tbody> </table> <p>^{*1}：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×2 ^{*2}：チェンジングエリア用4台（汚染検査を行う放射線管理班員2名分＋余裕）＋緊急時対策建屋内及び屋外用4台（屋外等のモニタリングを行う放射線管理班員2名分＋余裕） ^{*3}：チェンジングエリア用4台（チェンジングエリアのモニタリングを行う放射線管理班員2名分＋余裕）＋緊急時対策建屋内及び屋外用4台（屋外等のモニタリングを行う放射線管理班員2名分＋余裕） ^{*4}：緊急時対策所内2台（1台＋余裕）＋緊急時対策建屋内2台（1台＋余裕） ^{*5}：2号炉運転員7名×2 ^{*6}：チェンジングエリア用2台（汚染検査を行う放射線管理班員1名分＋余裕）＋中央制御室内外用2台（モニタリングを行う放射線管理班員1名分＋余裕） ^{*7}：チェンジングエリア用2台（モニタリングを行う放射線管理班員1名分＋余裕）＋中央制御室内外用2台（モニタリングを行う放射線管理班員1名分＋余裕） ^{*8}：中央制御室内2台（1台＋余裕）＋待機所内2台（1台＋余裕） ^{*9}：予備含む（今後、訓練等で見直しを行う。）</p>	品名	配備台数 [※] /保管場所			個人線量計	電子式検査計	ガラスバッジ	個人線量計	200台 ^{*1}	14台 ^{*2}	14台 ^{*2}	表面汚染密度測定用 サーベイメータ	8台 ^{*3}	4台 ^{*4}	4台 ^{*7}	ガンマ線測定用 サーベイメータ	8台 ^{*3}	4台 ^{*4}	4台 ^{*7}	可搬型エリアモニタ	4台 ^{*4}	緊急時対策所	4台 ^{*8}	<p>○計測器（被ばく管理、汚染管理）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">配備台数[※]/保管場所</th> </tr> <tr> <th>個人線量計</th> <th>ポケット線量計</th> <th>ガラスバッジ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人線量計</td> <td>140台^{*1}</td> <td>140台^{*1}</td> <td>50台^{*5}</td> </tr> <tr> <td>GM汚染サーベイメータ</td> <td>10台^{*2}</td> <td>10台^{*2}</td> <td>3台^{*6}</td> </tr> <tr> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>10台^{*3}</td> <td>10台^{*3}</td> <td>3台^{*7}</td> </tr> <tr> <td>可搬型エリアモニタ</td> <td>4台^{*4}</td> <td>4台^{*4}</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>^{*1}：60名×2箇所（指揮所、待機所）×1.1倍＋余裕 ^{*2}：チェンジングエリア用6台（汚染検査を行う放管班員2名分×2箇所（指揮所、待機所）＋余裕）＋緊急時対策所内及び屋外用4台（屋外等のモニタリングを行う放管班員2名＋余裕） ^{*3}：チェンジングエリア用4台（汚染検査を行う放管班員2名分×2箇所（指揮所、待機所））＋緊急時対策所内及び屋外用6台（屋外等のモニタリングを行う放管班員2名＋余裕） ^{*4}：緊急時対策所指揮所2台（1台＋余裕）＋緊急時対策所待機所2台（1台＋余裕） ^{*5}：31名×1.5倍 ^{*6}：チェンジングエリア用1台（汚染検査を行う放管班員1名分）＋中央制御室内用1台（中央制御室内の汚染検査用1台）＋余裕 ^{*7}：チェンジングエリア用1台（チェンジングエリア内のモニタリング用1台）＋中央制御室内用1台（中央制御室内のモニタリング用1台）＋余裕</p>	品名	配備台数 [※] /保管場所			個人線量計	ポケット線量計	ガラスバッジ	個人線量計	140台 ^{*1}	140台 ^{*1}	50台 ^{*5}	GM汚染サーベイメータ	10台 ^{*2}	10台 ^{*2}	3台 ^{*6}	電離箱サーベイメータ	10台 ^{*3}	10台 ^{*3}	3台 ^{*7}	可搬型エリアモニタ	4台 ^{*4}	4台 ^{*4}	—	<p>引用元 ・DB26条 原子炉制御室等まとめ資料 別添1 ・DB34条 緊急時対策所まとめ資料 別添1</p>
品名		保管数																																																																										
	緊急時対策所 指揮所	緊急時対策所 待機場所	構内保管 ^{*1}																																																																									
個人線量計	120台 ^{*2}	90台 ^{*7}	約2,900台																																																																									
表面汚染密度測定用 サーベイメータ	5台 ^{*3}	5台 ^{*3}	約50台																																																																									
ガンマ線測定用 サーベイメータ	5台 ^{*4}	5台 ^{*4}	約60台																																																																									
緊急時対策所内 可搬型エリアモニタ	3台 ^{*5*}		約15台																																																																									
緊急時対策所外 可搬型エリアモニタ	2台 ^{*6*}		約4台																																																																									
品名	配備台数 [※] /保管場所																																																																											
	個人線量計	電子式検査計	ガラスバッジ																																																																									
個人線量計	200台 ^{*1}	14台 ^{*2}	14台 ^{*2}																																																																									
表面汚染密度測定用 サーベイメータ	8台 ^{*3}	4台 ^{*4}	4台 ^{*7}																																																																									
ガンマ線測定用 サーベイメータ	8台 ^{*3}	4台 ^{*4}	4台 ^{*7}																																																																									
可搬型エリアモニタ	4台 ^{*4}	緊急時対策所	4台 ^{*8}																																																																									
品名	配備台数 [※] /保管場所																																																																											
	個人線量計	ポケット線量計	ガラスバッジ																																																																									
個人線量計	140台 ^{*1}	140台 ^{*1}	50台 ^{*5}																																																																									
GM汚染サーベイメータ	10台 ^{*2}	10台 ^{*2}	3台 ^{*6}																																																																									
電離箱サーベイメータ	10台 ^{*3}	10台 ^{*3}	3台 ^{*7}																																																																									
可搬型エリアモニタ	4台 ^{*4}	4台 ^{*4}	—																																																																									
<p>【比較のため、比較表P1.0.4-14より再掲】</p> <table border="1"> <caption>表2 食料等（緊急時対策所）</caption> <thead> <tr> <th colspan="2">○食料等</th> <th>保管数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料</td> <td>指揮所には1,680食^{*1}、待機場所には1,260食^{*5}を配備</td> <td>2,940食^{*1}</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>指揮所には840リットル^{*4}、待機場所には630リットル^{*5}を配備</td> <td>1,470リットル^{*2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>^{*1}（指揮所65名＋待機場所41名）×3食×7日＋余裕 ^{*2}（指揮所65名＋待機場所41名）×3食×500ミリリットル×7日＋余裕 ^{*3} 指揮所65名×3食×7日＋余裕 ^{*4} 指揮所65名×3食×500ミリリットル×7日＋余裕 ^{*5} 待機場所41名×3食×7日＋余裕 ^{*6} 待機場所41名×3食×500ミリリットル×7日＋余裕</p>	○食料等		保管数量	食料	指揮所には1,680食 ^{*1} 、待機場所には1,260食 ^{*5} を配備	2,940食 ^{*1}	水	指揮所には840リットル ^{*4} 、待機場所には630リットル ^{*5} を配備	1,470リットル ^{*2}	<p>○食料等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">配備数[※]/保管場所</th> </tr> <tr> <th>食料等</th> <th>飲料水</th> <th>簡易トイレ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料等</td> <td>2,100食^{*1}</td> <td>147食^{*5}</td> <td>30個^{*7}</td> </tr> <tr> <td>飲料水</td> <td>1,400本^{*2}</td> <td>98本^{*6}</td> <td>56錠^{*3}</td> </tr> <tr> <td>簡易トイレ</td> <td>4,900個^{*3}</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素剤</td> <td>800錠^{*4}</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>^{*1}：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×7日×3食 ^{*2}：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×7日×2本（1.5リットル/本） ^{*3}：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×（7回/1日×7日）＝3,900個 ^{*4}：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×（初日2錠＋2日目以降1錠/1日×6日）＝800錠 ^{*5}：7名（2号炉運転員）×7日×3食 ^{*6}：7名（2号炉運転員）×7日×2本 ^{*7}：7名（2号炉運転員）×（3回/10時間（ブルーム通過中））＋余裕＝30個 ^{*8}：7名（2号炉運転員）×（初日2錠＋2日目以降1錠/1日×6日）＝56錠 ^{*9}：今後、訓練等で見直しを行う</p>	品名	配備数 [※] /保管場所			食料等	飲料水	簡易トイレ	食料等	2,100食 ^{*1}	147食 ^{*5}	30個 ^{*7}	飲料水	1,400本 ^{*2}	98本 ^{*6}	56錠 ^{*3}	簡易トイレ	4,900個 ^{*3}	—	—	ヨウ素剤	800錠 ^{*4}	—	—	<p>○食料等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">配備数[※]/保管場所</th> </tr> <tr> <th>食料</th> <th>飲料水</th> <th>簡易トイレ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料等</td> <td>2,520食^{*1}</td> <td>1,680L^{*2}</td> <td>2式</td> </tr> <tr> <td>飲料水</td> <td>—</td> <td>2000錠^{*3}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>簡易トイレ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>安定よう素剤</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>^{*1}：120名×3食×7日 ^{*2}：120名×4本×0.5L×7日 ^{*3}：120名×2錠×7日＋余裕分 ^{*4}：6名（運転員）×3食×7日 ^{*5}：6名（運転員）×4本×0.5L×7日 ^{*6}：6名（運転員）×2錠×7日＋余裕分 ^{*7}：今後、訓練等で見直しを行う</p>	品名	配備数 [※] /保管場所			食料	飲料水	簡易トイレ	食料等	2,520食 ^{*1}	1,680L ^{*2}	2式	飲料水	—	2000錠 ^{*3}	—	簡易トイレ	—	—	—	安定よう素剤	—	—	—																			
○食料等		保管数量																																																																										
食料	指揮所には1,680食 ^{*1} 、待機場所には1,260食 ^{*5} を配備	2,940食 ^{*1}																																																																										
水	指揮所には840リットル ^{*4} 、待機場所には630リットル ^{*5} を配備	1,470リットル ^{*2}																																																																										
品名	配備数 [※] /保管場所																																																																											
	食料等	飲料水	簡易トイレ																																																																									
食料等	2,100食 ^{*1}	147食 ^{*5}	30個 ^{*7}																																																																									
飲料水	1,400本 ^{*2}	98本 ^{*6}	56錠 ^{*3}																																																																									
簡易トイレ	4,900個 ^{*3}	—	—																																																																									
ヨウ素剤	800錠 ^{*4}	—	—																																																																									
品名	配備数 [※] /保管場所																																																																											
	食料	飲料水	簡易トイレ																																																																									
食料等	2,520食 ^{*1}	1,680L ^{*2}	2式																																																																									
飲料水	—	2000錠 ^{*3}	—																																																																									
簡易トイレ	—	—	—																																																																									
安定よう素剤	—	—	—																																																																									

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について






















大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																															
<p>大阪発電所3/4号炉</p> <p>○緊急時対策所チェンジングエリア設置用資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="2">保管数*1</th> </tr> <tr> <th>緊急時対策所 指揮所</th> <th>緊急時対策所 待機場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エアビーム製チェンジング エリア</td> <td>1式</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>養生シート</td> <td>6本</td> <td>6本</td> </tr> <tr> <td>バリア</td> <td>5個</td> <td>5個</td> </tr> <tr> <td>粘着マット</td> <td>5個</td> <td>5個</td> </tr> <tr> <td>ゴミ箱(スタンション含む)</td> <td>7個</td> <td>7個</td> </tr> <tr> <td>ポリ袋(赤・黄・黒)</td> <td>各200枚</td> <td>各200枚</td> </tr> <tr> <td>テープ(白・黒)</td> <td>各20巻</td> <td>各20巻</td> </tr> <tr> <td>ウエス</td> <td>2箱</td> <td>2箱</td> </tr> <tr> <td>ウェットティッシュ</td> <td>10個</td> <td>10個</td> </tr> <tr> <td>はさみ・カッター</td> <td>各2本</td> <td>各2本</td> </tr> <tr> <td>マジック</td> <td>2本</td> <td>2本</td> </tr> <tr> <td>簡易シャワー</td> <td>1台</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>簡易タンク</td> <td>1台</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>可搬型空気浄化装置 (ダクトを含む)</td> <td>1式</td> <td>1式</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1:チェンジングエリア設置に必要な数量</p> <p>表2 食料等(緊急時対策所)</p> <p>○食料等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>保管数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料</td> <td>2,940食*1 指揮所には1,680食*3、待機場所には1,260食*5を配備</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>1,470リットル*2 指揮所には840リットル*4、待機場所には630リットル*6を配備</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 指揮所65名+待機場所41名×3食×7日+余裕 (※2) 指揮所65名+待機場所41名×3食×500ミリリットル×7日+余裕 (※3) 指揮所65名×3食×7日+余裕 (※4) 指揮所65名×3食×500ミリリットル×7日+余裕 (※5) 待機場所41名×3食×7日+余裕 (※6) 待機場所41名×3食×500ミリリットル×7日+余裕</p>	品名	保管数*1		緊急時対策所 指揮所	緊急時対策所 待機場所	エアビーム製チェンジング エリア	1式	1式	養生シート	6本	6本	バリア	5個	5個	粘着マット	5個	5個	ゴミ箱(スタンション含む)	7個	7個	ポリ袋(赤・黄・黒)	各200枚	各200枚	テープ(白・黒)	各20巻	各20巻	ウエス	2箱	2箱	ウェットティッシュ	10個	10個	はさみ・カッター	各2本	各2本	マジック	2本	2本	簡易シャワー	1台	1台	簡易タンク	1台	1台	可搬型空気浄化装置 (ダクトを含む)	1式	1式		保管数量	食料	2,940食*1 指揮所には1,680食*3、待機場所には1,260食*5を配備	水	1,470リットル*2 指揮所には840リットル*4、待機場所には630リットル*6を配備	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>第3表 チェンジングエリア用資機材</p> <p>(1)緊急時対策所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>提供</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養生シート(床用)</td> <td>8巻*1</td> <td rowspan="20">チェンジングエ リア設置及び補 修に必要な数量</td> </tr> <tr> <td>養生シート(壁用)</td> <td>12巻*2</td> </tr> <tr> <td>バリア</td> <td>9個*3</td> </tr> <tr> <td>フェンス</td> <td>24枚*4</td> </tr> <tr> <td>粘着シート</td> <td>3枚</td> </tr> <tr> <td>脚</td> <td>2台</td> </tr> <tr> <td>ヘルメット掛け</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>ゴミ箱</td> <td>7個</td> </tr> <tr> <td>ポリ袋</td> <td>100枚</td> </tr> <tr> <td>テープ</td> <td>5巻</td> </tr> <tr> <td>ウエス</td> <td>2箱</td> </tr> <tr> <td>ウェットティッシュ</td> <td>30個</td> </tr> <tr> <td>はさみ</td> <td>3丁</td> </tr> <tr> <td>カッター</td> <td>3本</td> </tr> <tr> <td>マジック</td> <td>3本</td> </tr> <tr> <td>除染エリア用ハウス</td> <td>1式*5</td> </tr> <tr> <td>簡易シャワー</td> <td>1台*6</td> </tr> <tr> <td>ポリタンク</td> <td>1台*7</td> </tr> <tr> <td>トレイ</td> <td>1個</td> </tr> <tr> <td>バケツ</td> <td>2個</td> </tr> <tr> <td>乾電池内蔵型照明</td> <td>6台(予備1台)</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1:仕様 1,800mm×50mm/巻 *2:仕様 2,100mm×25mm/巻 *3:仕様 900mm×240mm×25mm/個(アルミ製) *4:仕様 1,200mm×900mm×25mm/枚(アルミ製) *5:仕様 1,100mm×1,100mm×1,950mm/式(折りたたみ式:ポリエチレン製) *6:仕様 タンク容量7.5リットル(手動ポンプ式) *7:仕様 タンク容量20リットル(ポリタンク)</p>	名称	数量	提供	養生シート(床用)	8巻*1	チェンジングエ リア設置及び補 修に必要な数量	養生シート(壁用)	12巻*2	バリア	9個*3	フェンス	24枚*4	粘着シート	3枚	脚	2台	ヘルメット掛け	1台	ゴミ箱	7個	ポリ袋	100枚	テープ	5巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	30個	はさみ	3丁	カッター	3本	マジック	3本	除染エリア用ハウス	1式*5	簡易シャワー	1台*6	ポリタンク	1台*7	トレイ	1個	バケツ	2個	乾電池内蔵型照明	6台(予備1台)	<p>泊発電所3号炉</p> <p>表3 チェンジングエリア用資機材</p> <p>(1)緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所持機所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>提供</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養生シート</td> <td>6巻*1</td> <td rowspan="18">チェンジングエリア設置 及び補修に必要な数量</td> </tr> <tr> <td>バリア</td> <td>6個*2</td> </tr> <tr> <td>フェンス</td> <td>2個*3</td> </tr> <tr> <td>粘着マット</td> <td>20枚</td> </tr> <tr> <td>靴箱</td> <td>2台</td> </tr> <tr> <td>回収箱</td> <td>13個</td> </tr> <tr> <td>透明ロール袋(大)</td> <td>20巻</td> </tr> <tr> <td>養生テープ</td> <td>40巻</td> </tr> <tr> <td>作業用テープ</td> <td>20巻</td> </tr> <tr> <td>ウエス</td> <td>2箱</td> </tr> <tr> <td>ウェットティッシュ</td> <td>200個</td> </tr> <tr> <td>はさみ</td> <td>4個</td> </tr> <tr> <td>カッター</td> <td>4個</td> </tr> <tr> <td>マジック</td> <td>6本</td> </tr> <tr> <td>除染エリア用ハウス</td> <td>2個*4</td> </tr> <tr> <td>簡易シャワー</td> <td>2個*5</td> </tr> <tr> <td>ポリタンク</td> <td>2個*6</td> </tr> <tr> <td>トレイ</td> <td>2個</td> </tr> <tr> <td>バケツ</td> <td>2個</td> </tr> <tr> <td>可搬型照明</td> <td>4台(予備2台)</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1:仕様 1,800mm×30mm/巻(透明・ピンク・黄) *2:仕様 800mm(750mm,900mm)×100mm×150mm/個(アルミ製) *3:仕様 600mm×900mm/個(アルミ製) *4:仕様 1,120mm×1,120mm×2,000mm/個(据付型、不燃シート製) *5:仕様 タンク容量7.5リットル(手動ポンプ式) *6:仕様 タンク容量20リットル(ポリタンク)</p>	名称	数量	提供	養生シート	6巻*1	チェンジングエリア設置 及び補修に必要な数量	バリア	6個*2	フェンス	2個*3	粘着マット	20枚	靴箱	2台	回収箱	13個	透明ロール袋(大)	20巻	養生テープ	40巻	作業用テープ	20巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	200個	はさみ	4個	カッター	4個	マジック	6本	除染エリア用ハウス	2個*4	簡易シャワー	2個*5	ポリタンク	2個*6	トレイ	2個	バケツ	2個	可搬型照明	4台(予備2台)	<p>相違理由</p> <p>引用元 ・DB34条 緊急時 対策所まとめ資 料 別添1</p>
品名		保管数*1																																																																																																																																																
	緊急時対策所 指揮所	緊急時対策所 待機場所																																																																																																																																																
エアビーム製チェンジング エリア	1式	1式																																																																																																																																																
養生シート	6本	6本																																																																																																																																																
バリア	5個	5個																																																																																																																																																
粘着マット	5個	5個																																																																																																																																																
ゴミ箱(スタンション含む)	7個	7個																																																																																																																																																
ポリ袋(赤・黄・黒)	各200枚	各200枚																																																																																																																																																
テープ(白・黒)	各20巻	各20巻																																																																																																																																																
ウエス	2箱	2箱																																																																																																																																																
ウェットティッシュ	10個	10個																																																																																																																																																
はさみ・カッター	各2本	各2本																																																																																																																																																
マジック	2本	2本																																																																																																																																																
簡易シャワー	1台	1台																																																																																																																																																
簡易タンク	1台	1台																																																																																																																																																
可搬型空気浄化装置 (ダクトを含む)	1式	1式																																																																																																																																																
	保管数量																																																																																																																																																	
食料	2,940食*1 指揮所には1,680食*3、待機場所には1,260食*5を配備																																																																																																																																																	
水	1,470リットル*2 指揮所には840リットル*4、待機場所には630リットル*6を配備																																																																																																																																																	
名称	数量	提供																																																																																																																																																
養生シート(床用)	8巻*1	チェンジングエ リア設置及び補 修に必要な数量																																																																																																																																																
養生シート(壁用)	12巻*2																																																																																																																																																	
バリア	9個*3																																																																																																																																																	
フェンス	24枚*4																																																																																																																																																	
粘着シート	3枚																																																																																																																																																	
脚	2台																																																																																																																																																	
ヘルメット掛け	1台																																																																																																																																																	
ゴミ箱	7個																																																																																																																																																	
ポリ袋	100枚																																																																																																																																																	
テープ	5巻																																																																																																																																																	
ウエス	2箱																																																																																																																																																	
ウェットティッシュ	30個																																																																																																																																																	
はさみ	3丁																																																																																																																																																	
カッター	3本																																																																																																																																																	
マジック	3本																																																																																																																																																	
除染エリア用ハウス	1式*5																																																																																																																																																	
簡易シャワー	1台*6																																																																																																																																																	
ポリタンク	1台*7																																																																																																																																																	
トレイ	1個																																																																																																																																																	
バケツ	2個																																																																																																																																																	
乾電池内蔵型照明	6台(予備1台)																																																																																																																																																	
名称	数量	提供																																																																																																																																																
養生シート	6巻*1	チェンジングエリア設置 及び補修に必要な数量																																																																																																																																																
バリア	6個*2																																																																																																																																																	
フェンス	2個*3																																																																																																																																																	
粘着マット	20枚																																																																																																																																																	
靴箱	2台																																																																																																																																																	
回収箱	13個																																																																																																																																																	
透明ロール袋(大)	20巻																																																																																																																																																	
養生テープ	40巻																																																																																																																																																	
作業用テープ	20巻																																																																																																																																																	
ウエス	2箱																																																																																																																																																	
ウェットティッシュ	200個																																																																																																																																																	
はさみ	4個																																																																																																																																																	
カッター	4個																																																																																																																																																	
マジック	6本																																																																																																																																																	
除染エリア用ハウス	2個*4																																																																																																																																																	
簡易シャワー	2個*5																																																																																																																																																	
ポリタンク	2個*6																																																																																																																																																	
トレイ	2個																																																																																																																																																	
バケツ	2個																																																																																																																																																	
可搬型照明	4台(予備2台)																																																																																																																																																	

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																								
<p>【比較のため、比較表P1.0.4-21より再掲】</p> <p>○中央制御室チェンジングエリア設置用資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>鋼製ボード</td><td>1式</td><td rowspan="14">チェンジングエリア設置に必要な数量</td></tr> <tr><td>養生シート</td><td>6本</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>5個</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>5個</td></tr> <tr><td>ゴミ箱 (スタンション含む)</td><td>7個</td></tr> <tr><td>ポリ袋 (赤・黄・黒)</td><td>各200枚</td></tr> <tr><td>テープ (白・黒)</td><td>各20巻</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>2箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>10個</td></tr> <tr><td>はさみ・カッター</td><td>各2本</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1台</td></tr> <tr><td>簡易タンク</td><td>1台</td></tr> <tr><td>チェンジングエリア可搬型空気浄化装置 (ダクト含む)</td><td>1式</td></tr> </tbody> </table> <p>○その他 資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">仕様等</th> <th colspan="2">台数</th> </tr> <tr> <th>指揮所</th> <th>待機場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> ・測定範囲: 0~2.5% ・測定精度: ±0.5%(0.0~25.0%) 【メーカー値】 ・電源: 乾電池 (単3形電池) 2本【約1年 (無警報時)】 ・検知原理: ガルバニ電池式 ・管理目標: 1.0%以上 </td> <td>2台^{※1}</td> <td>2台^{※1}</td> </tr> <tr> <td></td> <td> ・測定範囲: 0~1%^{※2} ・測定精度: ±3%F、S (同一条件) ・電源: 乾電池 (単3形電池) 4本 ・測定方式: 非分散型赤外線吸収法 (NDIR Non Dispersive InfraRed) センサ ・管理目標: 1.0%以下 </td> <td>2台^{※1}</td> <td>2台^{※1}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>緊急時対策所内の要員が必要な情報の共有を行いやすいよう、資料等を表示するプロジェクターを配備する。</td> <td>1台</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td> ・バッテリー式 ・光源: LED ・連続点灯時間: 1.0時間以上 </td> <td>2台</td> <td>2台</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないように、連続使用可能な簡易トイレを配備する。</td> <td>1式</td> <td>1式</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 予備各1台を含む ※2 0~5%の範囲で測定可能 (カタログ値)</p>	品名	保管数	考え方	鋼製ボード	1式	チェンジングエリア設置に必要な数量	養生シート	6本	バリア	5個	粘着マット	5個	ゴミ箱 (スタンション含む)	7個	ポリ袋 (赤・黄・黒)	各200枚	テープ (白・黒)	各20巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	10個	はさみ・カッター	各2本	マジック	2本	簡易シャワー	1台	簡易タンク	1台	チェンジングエリア可搬型空気浄化装置 (ダクト含む)	1式	名称	仕様等	台数		指揮所	待機場所		・測定範囲: 0~2.5% ・測定精度: ±0.5%(0.0~25.0%) 【メーカー値】 ・電源: 乾電池 (単3形電池) 2本【約1年 (無警報時)】 ・検知原理: ガルバニ電池式 ・管理目標: 1.0%以上	2台 ^{※1}	2台 ^{※1}		・測定範囲: 0~1% ^{※2} ・測定精度: ±3%F、S (同一条件) ・電源: 乾電池 (単3形電池) 4本 ・測定方式: 非分散型赤外線吸収法 (NDIR Non Dispersive InfraRed) センサ ・管理目標: 1.0%以下	2台 ^{※1}	2台 ^{※1}		緊急時対策所内の要員が必要な情報の共有を行いやすいよう、資料等を表示するプロジェクターを配備する。	1台	-		・バッテリー式 ・光源: LED ・連続点灯時間: 1.0時間以上	2台	2台		ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないように、連続使用可能な簡易トイレを配備する。	1式	1式	<p>(2)中央制御室</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>養生シート (床用)</td><td>2巻^{※1}</td><td rowspan="14">チェンジングエリア設置及び補修時に必要な数量</td></tr> <tr><td>養生シート (壁用)</td><td>12巻^{※2}</td></tr> <tr><td>テープ</td><td>20巻</td></tr> <tr><td>粘着シート</td><td>6枚</td></tr> <tr><td>ゴミ箱</td><td>7個</td></tr> <tr><td>ポリ袋</td><td>100枚</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>2箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>50個</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>3丁</td></tr> <tr><td>カッター</td><td>3本</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>3本</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>8個^{※3}</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>12枚^{※4}</td></tr> <tr><td>ヘルメット掛け</td><td>2台</td></tr> <tr><td>棚</td><td>2台</td></tr> <tr><td>除染エリア用ハウス</td><td>1式^{※5}</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1台^{※6}</td></tr> <tr><td>ポリタンク</td><td>1台^{※7}</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>2個</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化設備</td><td>1台 (予備1台)</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化設備用ダクト</td><td>1式</td></tr> <tr><td>乾電池内蔵型照明</td><td>5台 (予備1台)</td></tr> </tbody> </table> <p>※1:仕様 1,800mm×50mm/巻 ※2:仕様 2,100mm×25mm/巻 ※3:仕様 900mm×240mm×235mm/個 (アルミ製) ※4:仕様 1,200mm×900mm×25mm/枚 (アルミ製) ※5:仕様 1,100mm×1,100mm×1,950mm/式 (折りたたみ式、ポリエステル製) ※6:仕様 タンク容量7.5リットル (手動ポンプ式) ※7:仕様 タンク容量20リットル (ポリタンク)</p> <p>第4表 その他資機材等 (緊急時対策所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様等</th> <th>配備数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酸素濃度計</td> <td> ・測定範囲: 0~100% ・測定精度: ±0.5%(0~25.0%) ±3.0%(25.1%以上) ・電源: 単3形乾電池4本 ・検知原理: ガルバニ電池式 ・管理目標: 18%以上 (労働安全衛生規則を準拠) </td> <td>2台^{※1}</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計</td> <td> ・測定範囲: 0.04%~5.0% ・測定精度: ±10%rdg又は0.01%のうち大きいほう ・電源: 単3形乾電池4本 ・検知原理: 非分散型赤外線式 (NDIR) ・管理目標: 1.0%以下 (労働安全衛生規則の許容炭酸ガス濃度1.5%に余裕を見た値) </td> <td>2台^{※1}</td> </tr> <tr> <td>一般テレビ (回線、機器)</td> <td>報道や気象情報等を入手するため、一般テレビ (回線、機器) を配備する。</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>社内パソコン (回線、機器)</td> <td>社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため、社内用パソコンを配備するとともに、必要なインフラ (社内回線) を整備する。</td> <td>1式</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:予備を含む。</p>	名称	数量	根拠	養生シート (床用)	2巻 ^{※1}	チェンジングエリア設置及び補修時に必要な数量	養生シート (壁用)	12巻 ^{※2}	テープ	20巻	粘着シート	6枚	ゴミ箱	7個	ポリ袋	100枚	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	50個	はさみ	3丁	カッター	3本	マジック	3本	バリア	8個 ^{※3}	フェンス	12枚 ^{※4}	ヘルメット掛け	2台	棚	2台	除染エリア用ハウス	1式 ^{※5}	簡易シャワー	1台 ^{※6}	ポリタンク	1台 ^{※7}	トレイ	1個	バケツ	2個	可搬型空気浄化設備	1台 (予備1台)	可搬型空気浄化設備用ダクト	1式	乾電池内蔵型照明	5台 (予備1台)	名称	仕様等	配備数量	酸素濃度計	・測定範囲: 0~100% ・測定精度: ±0.5%(0~25.0%) ±3.0%(25.1%以上) ・電源: 単3形乾電池4本 ・検知原理: ガルバニ電池式 ・管理目標: 18%以上 (労働安全衛生規則を準拠)	2台 ^{※1}	二酸化炭素濃度計	・測定範囲: 0.04%~5.0% ・測定精度: ±10%rdg又は0.01%のうち大きいほう ・電源: 単3形乾電池4本 ・検知原理: 非分散型赤外線式 (NDIR) ・管理目標: 1.0%以下 (労働安全衛生規則の許容炭酸ガス濃度1.5%に余裕を見た値)	2台 ^{※1}	一般テレビ (回線、機器)	報道や気象情報等を入手するため、一般テレビ (回線、機器) を配備する。	1式	社内パソコン (回線、機器)	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため、社内用パソコンを配備するとともに、必要なインフラ (社内回線) を整備する。	1式	<p>(2)中央制御室</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>グリーンハウス</td><td>2個</td><td rowspan="14">チェンジングエリア設置及び保守に必要な数量</td></tr> <tr><td>グリーンハウス専用フレーム</td><td>1式</td></tr> <tr><td>養生シート</td><td>9巻^{※1}</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>9個^{※2}</td></tr> <tr><td>養生テープ</td><td>20巻</td></tr> <tr><td>作業用テープ</td><td>5巻</td></tr> <tr><td>透明ロール袋 (大)</td><td>10巻</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>10枚</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>1箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>62個</td></tr> <tr><td>回収箱</td><td>9個</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>2丁</td></tr> <tr><td>カッター</td><td>2本</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>10枚^{※3}</td></tr> <tr><td>除染エリア用ハウス</td><td>1式^{※4}</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1台^{※5}</td></tr> <tr><td>ポリタンク</td><td>1台^{※6}</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>可搬型照明 (SA)</td><td>2台 (予備1台)</td></tr> </tbody> </table> <p>※1:仕様 1,800mm×30mm/巻 (透明・ピンク・黄) ※2:仕様 600mm (750mm, 900mm) /個 ※3:仕様 600mm (1,200mm) ×900mm/枚 (アルミ製) ※4:仕様 1,200mm×1,200mm×1,900mm/式 (折りたたみ式、ポリエステル製) ※5:仕様 タンク容量7.5リットル (手動ポンプ式) ※6:仕様 タンク容量20リットル (ポリタンク)</p> <p>表4 その他資機材等 (緊急時対策所 指揮所又は緊急時対策所待機所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様等</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> ・測定 (使用) 範囲 酸素濃度: 0~25.0 vol% 二酸化炭素: 0~5.00 vol% ・指示精度: ±0.7% (酸素), ±0.25% (二酸化炭素) ・電源: 単4形乾電池2本【約28時間 (25℃, 無警報, 無照明)】 ・検知原理: 定電位電解式 (酸素), 非分散型赤外線吸収法 (二酸化炭素) </td> <td>4台^{※1}</td> </tr> <tr> <td></td> <td> ・バッテリー式 ・光源: LED ・連続点灯時間: 10時間 </td> <td>8台^{※2}</td> </tr> <tr> <td>一般テレビ (回線、機器)</td> <td>報道や気象情報等を入手するため、一般テレビ (回線、機器) を配備する。</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>社内パソコン (回線、機器)</td> <td>社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため、社内用パソコンを配備するとともに、必要なインフラ (社内回線) を整備する。</td> <td>1式</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:緊急時対策所指揮所2台 (予備1台)、緊急時対策所待機所2台 (予備1台) ※2:緊急時対策所指揮所4台、緊急時対策所待機所4台</p>	名称	数量	根拠	グリーンハウス	2個	チェンジングエリア設置及び保守に必要な数量	グリーンハウス専用フレーム	1式	養生シート	9巻 ^{※1}	バリア	9個 ^{※2}	養生テープ	20巻	作業用テープ	5巻	透明ロール袋 (大)	10巻	粘着マット	10枚	ウエス	1箱	ウェットティッシュ	62個	回収箱	9個	はさみ	2丁	カッター	2本	マジック	2本	フェンス	10枚 ^{※3}	除染エリア用ハウス	1式 ^{※4}	簡易シャワー	1台 ^{※5}	ポリタンク	1台 ^{※6}	トレイ	1個	バケツ	1個	可搬型照明 (SA)	2台 (予備1台)	名称	仕様等	数量		・測定 (使用) 範囲 酸素濃度: 0~25.0 vol% 二酸化炭素: 0~5.00 vol% ・指示精度: ±0.7% (酸素), ±0.25% (二酸化炭素) ・電源: 単4形乾電池2本【約28時間 (25℃, 無警報, 無照明)】 ・検知原理: 定電位電解式 (酸素), 非分散型赤外線吸収法 (二酸化炭素)	4台 ^{※1}		・バッテリー式 ・光源: LED ・連続点灯時間: 10時間	8台 ^{※2}	一般テレビ (回線、機器)	報道や気象情報等を入手するため、一般テレビ (回線、機器) を配備する。	1式	社内パソコン (回線、機器)	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため、社内用パソコンを配備するとともに、必要なインフラ (社内回線) を整備する。	1式	<p>設計の相違 詳細は引用元にて整理 引用元 ・DB26条 原子炉制御室等まとめ資料 別添1</p> <p>記載内容の相違 詳細は引用元にて整理 引用元 ・DB34条 緊急時対策所まとめ資料 別添1</p>
品名	保管数	考え方																																																																																																																																																																																									
鋼製ボード	1式	チェンジングエリア設置に必要な数量																																																																																																																																																																																									
養生シート	6本																																																																																																																																																																																										
バリア	5個																																																																																																																																																																																										
粘着マット	5個																																																																																																																																																																																										
ゴミ箱 (スタンション含む)	7個																																																																																																																																																																																										
ポリ袋 (赤・黄・黒)	各200枚																																																																																																																																																																																										
テープ (白・黒)	各20巻																																																																																																																																																																																										
ウエス	2箱																																																																																																																																																																																										
ウェットティッシュ	10個																																																																																																																																																																																										
はさみ・カッター	各2本																																																																																																																																																																																										
マジック	2本																																																																																																																																																																																										
簡易シャワー	1台																																																																																																																																																																																										
簡易タンク	1台																																																																																																																																																																																										
チェンジングエリア可搬型空気浄化装置 (ダクト含む)	1式																																																																																																																																																																																										
名称	仕様等	台数																																																																																																																																																																																									
		指揮所	待機場所																																																																																																																																																																																								
	・測定範囲: 0~2.5% ・測定精度: ±0.5%(0.0~25.0%) 【メーカー値】 ・電源: 乾電池 (単3形電池) 2本【約1年 (無警報時)】 ・検知原理: ガルバニ電池式 ・管理目標: 1.0%以上	2台 ^{※1}	2台 ^{※1}																																																																																																																																																																																								
	・測定範囲: 0~1% ^{※2} ・測定精度: ±3%F、S (同一条件) ・電源: 乾電池 (単3形電池) 4本 ・測定方式: 非分散型赤外線吸収法 (NDIR Non Dispersive InfraRed) センサ ・管理目標: 1.0%以下	2台 ^{※1}	2台 ^{※1}																																																																																																																																																																																								
	緊急時対策所内の要員が必要な情報の共有を行いやすいよう、資料等を表示するプロジェクターを配備する。	1台	-																																																																																																																																																																																								
	・バッテリー式 ・光源: LED ・連続点灯時間: 1.0時間以上	2台	2台																																																																																																																																																																																								
	ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないように、連続使用可能な簡易トイレを配備する。	1式	1式																																																																																																																																																																																								
名称	数量	根拠																																																																																																																																																																																									
養生シート (床用)	2巻 ^{※1}	チェンジングエリア設置及び補修時に必要な数量																																																																																																																																																																																									
養生シート (壁用)	12巻 ^{※2}																																																																																																																																																																																										
テープ	20巻																																																																																																																																																																																										
粘着シート	6枚																																																																																																																																																																																										
ゴミ箱	7個																																																																																																																																																																																										
ポリ袋	100枚																																																																																																																																																																																										
ウエス	2箱																																																																																																																																																																																										
ウェットティッシュ	50個																																																																																																																																																																																										
はさみ	3丁																																																																																																																																																																																										
カッター	3本																																																																																																																																																																																										
マジック	3本																																																																																																																																																																																										
バリア	8個 ^{※3}																																																																																																																																																																																										
フェンス	12枚 ^{※4}																																																																																																																																																																																										
ヘルメット掛け	2台																																																																																																																																																																																										
棚	2台																																																																																																																																																																																										
除染エリア用ハウス	1式 ^{※5}																																																																																																																																																																																										
簡易シャワー	1台 ^{※6}																																																																																																																																																																																										
ポリタンク	1台 ^{※7}																																																																																																																																																																																										
トレイ	1個																																																																																																																																																																																										
バケツ	2個																																																																																																																																																																																										
可搬型空気浄化設備	1台 (予備1台)																																																																																																																																																																																										
可搬型空気浄化設備用ダクト	1式																																																																																																																																																																																										
乾電池内蔵型照明	5台 (予備1台)																																																																																																																																																																																										
名称	仕様等	配備数量																																																																																																																																																																																									
酸素濃度計	・測定範囲: 0~100% ・測定精度: ±0.5%(0~25.0%) ±3.0%(25.1%以上) ・電源: 単3形乾電池4本 ・検知原理: ガルバニ電池式 ・管理目標: 18%以上 (労働安全衛生規則を準拠)	2台 ^{※1}																																																																																																																																																																																									
二酸化炭素濃度計	・測定範囲: 0.04%~5.0% ・測定精度: ±10%rdg又は0.01%のうち大きいほう ・電源: 単3形乾電池4本 ・検知原理: 非分散型赤外線式 (NDIR) ・管理目標: 1.0%以下 (労働安全衛生規則の許容炭酸ガス濃度1.5%に余裕を見た値)	2台 ^{※1}																																																																																																																																																																																									
一般テレビ (回線、機器)	報道や気象情報等を入手するため、一般テレビ (回線、機器) を配備する。	1式																																																																																																																																																																																									
社内パソコン (回線、機器)	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため、社内用パソコンを配備するとともに、必要なインフラ (社内回線) を整備する。	1式																																																																																																																																																																																									
名称	数量	根拠																																																																																																																																																																																									
グリーンハウス	2個	チェンジングエリア設置及び保守に必要な数量																																																																																																																																																																																									
グリーンハウス専用フレーム	1式																																																																																																																																																																																										
養生シート	9巻 ^{※1}																																																																																																																																																																																										
バリア	9個 ^{※2}																																																																																																																																																																																										
養生テープ	20巻																																																																																																																																																																																										
作業用テープ	5巻																																																																																																																																																																																										
透明ロール袋 (大)	10巻																																																																																																																																																																																										
粘着マット	10枚																																																																																																																																																																																										
ウエス	1箱																																																																																																																																																																																										
ウェットティッシュ	62個																																																																																																																																																																																										
回収箱	9個																																																																																																																																																																																										
はさみ	2丁																																																																																																																																																																																										
カッター	2本																																																																																																																																																																																										
マジック	2本																																																																																																																																																																																										
フェンス	10枚 ^{※3}																																																																																																																																																																																										
除染エリア用ハウス	1式 ^{※4}																																																																																																																																																																																										
簡易シャワー	1台 ^{※5}																																																																																																																																																																																										
ポリタンク	1台 ^{※6}																																																																																																																																																																																										
トレイ	1個																																																																																																																																																																																										
バケツ	1個																																																																																																																																																																																										
可搬型照明 (SA)	2台 (予備1台)																																																																																																																																																																																										
名称	仕様等	数量																																																																																																																																																																																									
	・測定 (使用) 範囲 酸素濃度: 0~25.0 vol% 二酸化炭素: 0~5.00 vol% ・指示精度: ±0.7% (酸素), ±0.25% (二酸化炭素) ・電源: 単4形乾電池2本【約28時間 (25℃, 無警報, 無照明)】 ・検知原理: 定電位電解式 (酸素), 非分散型赤外線吸収法 (二酸化炭素)	4台 ^{※1}																																																																																																																																																																																									
	・バッテリー式 ・光源: LED ・連続点灯時間: 10時間	8台 ^{※2}																																																																																																																																																																																									
一般テレビ (回線、機器)	報道や気象情報等を入手するため、一般テレビ (回線、機器) を配備する。	1式																																																																																																																																																																																									
社内パソコン (回線、機器)	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため、社内用パソコンを配備するとともに、必要なインフラ (社内回線) を整備する。	1式																																																																																																																																																																																									

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																					
<p>表3 原子力災害対策活動で使用する主な資料(緊急時対策所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>資料名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 組織及び体制に関する資料</td> <td>(1)緊急時対応組織資料 ① 大飯発電所原子力事業者防災業務計画 ② 大飯発電所原子伊施設保安規定 ③ 原子力防災規程 ④ 非常時の措置通達 ⑤ 原子力防災業務要綱 ⑥ 大飯発電所事故時操作所則 ⑦ 大飯発電所重大事故等発生時における原子伊施設の保全のための活動に関する所達 ⑧ 大飯発電所大規模損壊発生時における原子伊施設の保全のための活動に関する所達 (2)緊急時通信連絡体制資料 ① 原子力防災組織要員名簿等</td> </tr> <tr> <td>2. 社会環境に関する資料</td> <td>(1) 大飯発電所周辺人口関連資料 ① 方位別人口分布図 ② 集落別人口分布図 ③ 市町村人口表 (2) 大飯発電所周辺環境資料 ① 発電所周辺航空写真 ② 発電所周辺地図(2万5千分の1) ③ 発電所周辺地図(5万分の1) ④ 市町村市街図</td> </tr> <tr> <td>3. 放射能影響推定に関する資料</td> <td>(1) 大飯発電所気象関係資料 ① 気象観測データ (2) 緊急モニタリング資料 ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ (3) 大飯発電所設備資料 ① 主要系統模式図 ② 原子伊設置(変更)許可申請書 ③ 系統図 ④ プラント配置図 ⑤ プラント関係プロセス及び放射線計測配置図 ⑥ プラント主要設備概要 ⑦ 原子伊安全保護系ロジック一覧表</td> </tr> </tbody> </table> <p>※資料類は全て緊急時対策所指揮所に配備</p>	区分	資料名	1. 組織及び体制に関する資料	(1)緊急時対応組織資料 ① 大飯発電所原子力事業者防災業務計画 ② 大飯発電所原子伊施設保安規定 ③ 原子力防災規程 ④ 非常時の措置通達 ⑤ 原子力防災業務要綱 ⑥ 大飯発電所事故時操作所則 ⑦ 大飯発電所重大事故等発生時における原子伊施設の保全のための活動に関する所達 ⑧ 大飯発電所大規模損壊発生時における原子伊施設の保全のための活動に関する所達 (2)緊急時通信連絡体制資料 ① 原子力防災組織要員名簿等	2. 社会環境に関する資料	(1) 大飯発電所周辺人口関連資料 ① 方位別人口分布図 ② 集落別人口分布図 ③ 市町村人口表 (2) 大飯発電所周辺環境資料 ① 発電所周辺航空写真 ② 発電所周辺地図(2万5千分の1) ③ 発電所周辺地図(5万分の1) ④ 市町村市街図	3. 放射能影響推定に関する資料	(1) 大飯発電所気象関係資料 ① 気象観測データ (2) 緊急モニタリング資料 ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ (3) 大飯発電所設備資料 ① 主要系統模式図 ② 原子伊設置(変更)許可申請書 ③ 系統図 ④ プラント配置図 ⑤ プラント関係プロセス及び放射線計測配置図 ⑥ プラント主要設備概要 ⑦ 原子伊安全保護系ロジック一覧表	<p>第5表 原子力災害対策活動で使用する資料(緊急時対策所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 発電所周辺地図 ① 発電所周辺地域地図(1/25,000) ② 発電所周辺地域地図(1/50,000)</td> </tr> <tr> <td>2. 発電所周辺航空写真パネル</td> </tr> <tr> <td>3. 発電所気象観測データ ① 統計処理データ ② 毎時観測データ</td> </tr> <tr> <td>4. 発電所周辺環境モニタリング関連データ ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ</td> </tr> <tr> <td>5. 発電所周辺人口関連データ ① 方位別人口分布図 ② 集落の人口分布図 ③ 市町村人口表 ④ 市町村市街図</td> </tr> <tr> <td>6. 発電所主要系統模式図(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>7. 原子伊設置許可申請書(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>8. 系統図及びプラント配置図 ① 系統図 ② プラント配置図</td> </tr> <tr> <td>9. プラント関係プロセス及び放射線計測配置図(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>10. プラント主要設備概要</td> </tr> <tr> <td>11. 原子伊安全保護系ロジック一覧表(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>12. 規程類 ① 原子伊施設保安規定 ② 原子力事業者防災業務計画</td> </tr> <tr> <td>13. 事故時操作手順書類</td> </tr> </tbody> </table>	資料名	1. 発電所周辺地図 ① 発電所周辺地域地図(1/25,000) ② 発電所周辺地域地図(1/50,000)	2. 発電所周辺航空写真パネル	3. 発電所気象観測データ ① 統計処理データ ② 毎時観測データ	4. 発電所周辺環境モニタリング関連データ ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ	5. 発電所周辺人口関連データ ① 方位別人口分布図 ② 集落の人口分布図 ③ 市町村人口表 ④ 市町村市街図	6. 発電所主要系統模式図(各号炉)	7. 原子伊設置許可申請書(各号炉)	8. 系統図及びプラント配置図 ① 系統図 ② プラント配置図	9. プラント関係プロセス及び放射線計測配置図(各号炉)	10. プラント主要設備概要	11. 原子伊安全保護系ロジック一覧表(各号炉)	12. 規程類 ① 原子伊施設保安規定 ② 原子力事業者防災業務計画	13. 事故時操作手順書類	<p>表5 原子力災害対策活動で使用する資料(緊急時対策所 指揮所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 発電所周辺地図 ① 発電所周辺地域地図(1/25,000) ② 発電所周辺地域地図(1/50,000)</td> </tr> <tr> <td>2. 発電所周辺航空写真パネル</td> </tr> <tr> <td>3. 発電所気象観測データ ① 統計処理データ ② 毎時観測データ</td> </tr> <tr> <td>4. 発電所周辺環境モニタリング関連データ ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ</td> </tr> <tr> <td>5. 発電所周辺人口関連データ ① 方位別人口分布図 ② 集落の人口分布図 ③ 市町村人口表</td> </tr> <tr> <td>6. 主要系統模式図(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>7. 原子伊設置許可申請書(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>8. 系統図及びプラント配置図 ① 系統図 ② プラント配置図</td> </tr> <tr> <td>9. プラント関係プロセス及び放射線計測配置図(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>10. プラント主要設備概要(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>11. 総合インターロック線図(各号炉)</td> </tr> <tr> <td>12. 規程類 ① 原子伊施設保安規定 ② 原子力事業者防災業務計画</td> </tr> <tr> <td>13. 運転要領緊急処置編</td> </tr> <tr> <td>14. 重大事故等および大規模損壊対応要領(各対応手順含む)</td> </tr> </tbody> </table>	資料名	1. 発電所周辺地図 ① 発電所周辺地域地図(1/25,000) ② 発電所周辺地域地図(1/50,000)	2. 発電所周辺航空写真パネル	3. 発電所気象観測データ ① 統計処理データ ② 毎時観測データ	4. 発電所周辺環境モニタリング関連データ ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ	5. 発電所周辺人口関連データ ① 方位別人口分布図 ② 集落の人口分布図 ③ 市町村人口表	6. 主要系統模式図(各号炉)	7. 原子伊設置許可申請書(各号炉)	8. 系統図及びプラント配置図 ① 系統図 ② プラント配置図	9. プラント関係プロセス及び放射線計測配置図(各号炉)	10. プラント主要設備概要(各号炉)	11. 総合インターロック線図(各号炉)	12. 規程類 ① 原子伊施設保安規定 ② 原子力事業者防災業務計画	13. 運転要領緊急処置編	14. 重大事故等および大規模損壊対応要領(各対応手順含む)	<p>引用元 ・DB34条 緊急時対策所まとめ資料 別添1</p>
区分	資料名																																							
1. 組織及び体制に関する資料	(1)緊急時対応組織資料 ① 大飯発電所原子力事業者防災業務計画 ② 大飯発電所原子伊施設保安規定 ③ 原子力防災規程 ④ 非常時の措置通達 ⑤ 原子力防災業務要綱 ⑥ 大飯発電所事故時操作所則 ⑦ 大飯発電所重大事故等発生時における原子伊施設の保全のための活動に関する所達 ⑧ 大飯発電所大規模損壊発生時における原子伊施設の保全のための活動に関する所達 (2)緊急時通信連絡体制資料 ① 原子力防災組織要員名簿等																																							
2. 社会環境に関する資料	(1) 大飯発電所周辺人口関連資料 ① 方位別人口分布図 ② 集落別人口分布図 ③ 市町村人口表 (2) 大飯発電所周辺環境資料 ① 発電所周辺航空写真 ② 発電所周辺地図(2万5千分の1) ③ 発電所周辺地図(5万分の1) ④ 市町村市街図																																							
3. 放射能影響推定に関する資料	(1) 大飯発電所気象関係資料 ① 気象観測データ (2) 緊急モニタリング資料 ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ (3) 大飯発電所設備資料 ① 主要系統模式図 ② 原子伊設置(変更)許可申請書 ③ 系統図 ④ プラント配置図 ⑤ プラント関係プロセス及び放射線計測配置図 ⑥ プラント主要設備概要 ⑦ 原子伊安全保護系ロジック一覧表																																							
資料名																																								
1. 発電所周辺地図 ① 発電所周辺地域地図(1/25,000) ② 発電所周辺地域地図(1/50,000)																																								
2. 発電所周辺航空写真パネル																																								
3. 発電所気象観測データ ① 統計処理データ ② 毎時観測データ																																								
4. 発電所周辺環境モニタリング関連データ ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ																																								
5. 発電所周辺人口関連データ ① 方位別人口分布図 ② 集落の人口分布図 ③ 市町村人口表 ④ 市町村市街図																																								
6. 発電所主要系統模式図(各号炉)																																								
7. 原子伊設置許可申請書(各号炉)																																								
8. 系統図及びプラント配置図 ① 系統図 ② プラント配置図																																								
9. プラント関係プロセス及び放射線計測配置図(各号炉)																																								
10. プラント主要設備概要																																								
11. 原子伊安全保護系ロジック一覧表(各号炉)																																								
12. 規程類 ① 原子伊施設保安規定 ② 原子力事業者防災業務計画																																								
13. 事故時操作手順書類																																								
資料名																																								
1. 発電所周辺地図 ① 発電所周辺地域地図(1/25,000) ② 発電所周辺地域地図(1/50,000)																																								
2. 発電所周辺航空写真パネル																																								
3. 発電所気象観測データ ① 統計処理データ ② 毎時観測データ																																								
4. 発電所周辺環境モニタリング関連データ ① 空間線量モニタリング配置図 ② 環境試料サンプリング位置図 ③ 環境モニタリング測定データ																																								
5. 発電所周辺人口関連データ ① 方位別人口分布図 ② 集落の人口分布図 ③ 市町村人口表																																								
6. 主要系統模式図(各号炉)																																								
7. 原子伊設置許可申請書(各号炉)																																								
8. 系統図及びプラント配置図 ① 系統図 ② プラント配置図																																								
9. プラント関係プロセス及び放射線計測配置図(各号炉)																																								
10. プラント主要設備概要(各号炉)																																								
11. 総合インターロック線図(各号炉)																																								
12. 規程類 ① 原子伊施設保安規定 ② 原子力事業者防災業務計画																																								
13. 運転要領緊急処置編																																								
14. 重大事故等および大規模損壊対応要領(各対応手順含む)																																								

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																		
<p>表4 防護具及びチェンジングエリア設置用資機材等(中央制御室)</p> <p>○防護具</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汚染防護服(タイベック)</td> <td>46着(約6,000着)</td> <td>運転員等12名×1回(初動対応) +余裕(2重化含む)</td> </tr> <tr> <td>綿帽子</td> <td>23個(約6,000個)</td> <td>運転員等12名×1回(初動対応) +余裕</td> </tr> <tr> <td>靴下</td> <td>23足(約6,000足)</td> <td>運転員等12名×1回(初動対応) +余裕</td> </tr> <tr> <td>綿手袋</td> <td>23双(約29,000双)</td> <td>運転員等12名×1回(初動対応) +余裕</td> </tr> <tr> <td>ゴム手袋</td> <td>46双(約27,000双)</td> <td>運転員等12名×2双×1回(初動対応) +余裕</td> </tr> <tr> <td>アノラック</td> <td>23着(約700着)</td> <td>運転員等12名×1回(初動対応) +余裕</td> </tr> <tr> <td>全面マスク</td> <td>23個(約1,600個)</td> <td>運転員等12名×1回(初動対応) +余裕</td> </tr> <tr> <td>腕カバー</td> <td>23足(約6,000足)</td> <td>運転員等12名×1回(初動対応) +余裕</td> </tr> <tr> <td>長靴</td> <td>10足(約300足)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>セルフエアセット</td> <td>2台(約70台)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>交換カートリッジ(2個/組)</td> <td>23組(約3,000個)</td> <td>運転員等12名×1回(初動対応) +余裕</td> </tr> </tbody> </table> <p>注:初動対応時に運転員は中央制御室保管の防護用資機材を使用。 ()内は構内保管数。1週間分の防護用資機材は構内保管分を使用。</p> <p>○計測器(被ばく管理・除染管理)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人線量計</td> <td>23台(約2,900台)</td> <td>運転員等12名+余裕</td> </tr> <tr> <td>表面汚染密度測定用サーベイメータ</td> <td>2台(約50台)</td> <td>中央制御室内等のモニタリング及び中央制御室入室者の汚染検査に使用</td> </tr> <tr> <td>ガンマ線測定用サーベイメータ</td> <td>2台(約60台)</td> <td>中央制御室内等のモニタリングに使用</td> </tr> </tbody> </table> <p>()内は構内保管数。</p> <p>○中央制御室チェンジングエリア設置用資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼製ボード</td> <td>1式</td> <td rowspan="15">チェンジングエリア設置に必要な数量</td> </tr> <tr> <td>養生シート</td> <td>6本</td> </tr> <tr> <td>バリア</td> <td>5個</td> </tr> <tr> <td>粘着マット</td> <td>5個</td> </tr> <tr> <td>ゴミ箱(スタンション含む)</td> <td>7個</td> </tr> <tr> <td>ポリ袋(赤・黄・黒)</td> <td>各200枚</td> </tr> <tr> <td>テープ(白・黒)</td> <td>各20巻</td> </tr> <tr> <td>ウエス</td> <td>2箱</td> </tr> <tr> <td>ウェットティッシュ</td> <td>10個</td> </tr> <tr> <td>はさみ・カッター</td> <td>各2本</td> </tr> <tr> <td>マジック</td> <td>2本</td> </tr> <tr> <td>簡易シャワー</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>簡易タンク</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>チェンジングエリア可搬型空気浄化装置(ダクト含む)</td> <td>1式</td> </tr> </tbody> </table> <p>○その他資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型照明(SA)</td> <td>9個</td> <td>B中央制御室用6個 B中央制御室チェンジングエリア用2個 予備1個</td> </tr> <tr> <td>酸素濃度計</td> <td>3台</td> <td>B中央制御室用(予備2台含む)</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計</td> <td>3台</td> <td>B中央制御室用(予備2台含む)</td> </tr> <tr> <td>懐中電灯</td> <td>10個</td> <td>B中央制御室用</td> </tr> <tr> <td>ランタン</td> <td>4個</td> <td>B中央制御室用</td> </tr> </tbody> </table>	品名	保管数	考え方	汚染防護服(タイベック)	46着(約6,000着)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕(2重化含む)	綿帽子	23個(約6,000個)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕	靴下	23足(約6,000足)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕	綿手袋	23双(約29,000双)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕	ゴム手袋	46双(約27,000双)	運転員等12名×2双×1回(初動対応) +余裕	アノラック	23着(約700着)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕	全面マスク	23個(約1,600個)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕	腕カバー	23足(約6,000足)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕	長靴	10足(約300足)	-	セルフエアセット	2台(約70台)	-	交換カートリッジ(2個/組)	23組(約3,000個)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕	品名	保管数	考え方	個人線量計	23台(約2,900台)	運転員等12名+余裕	表面汚染密度測定用サーベイメータ	2台(約50台)	中央制御室内等のモニタリング及び中央制御室入室者の汚染検査に使用	ガンマ線測定用サーベイメータ	2台(約60台)	中央制御室内等のモニタリングに使用	品名	保管数	考え方	鋼製ボード	1式	チェンジングエリア設置に必要な数量	養生シート	6本	バリア	5個	粘着マット	5個	ゴミ箱(スタンション含む)	7個	ポリ袋(赤・黄・黒)	各200枚	テープ(白・黒)	各20巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	10個	はさみ・カッター	各2本	マジック	2本	簡易シャワー	1台	簡易タンク	1台	チェンジングエリア可搬型空気浄化装置(ダクト含む)	1式	品名	保管数	備考	可搬型照明(SA)	9個	B中央制御室用6個 B中央制御室チェンジングエリア用2個 予備1個	酸素濃度計	3台	B中央制御室用(予備2台含む)	二酸化炭素濃度計	3台	B中央制御室用(予備2台含む)	懐中電灯	10個	B中央制御室用	ランタン	4個	B中央制御室用			
品名	保管数	考え方																																																																																																			
汚染防護服(タイベック)	46着(約6,000着)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕(2重化含む)																																																																																																			
綿帽子	23個(約6,000個)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕																																																																																																			
靴下	23足(約6,000足)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕																																																																																																			
綿手袋	23双(約29,000双)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕																																																																																																			
ゴム手袋	46双(約27,000双)	運転員等12名×2双×1回(初動対応) +余裕																																																																																																			
アノラック	23着(約700着)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕																																																																																																			
全面マスク	23個(約1,600個)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕																																																																																																			
腕カバー	23足(約6,000足)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕																																																																																																			
長靴	10足(約300足)	-																																																																																																			
セルフエアセット	2台(約70台)	-																																																																																																			
交換カートリッジ(2個/組)	23組(約3,000個)	運転員等12名×1回(初動対応) +余裕																																																																																																			
品名	保管数	考え方																																																																																																			
個人線量計	23台(約2,900台)	運転員等12名+余裕																																																																																																			
表面汚染密度測定用サーベイメータ	2台(約50台)	中央制御室内等のモニタリング及び中央制御室入室者の汚染検査に使用																																																																																																			
ガンマ線測定用サーベイメータ	2台(約60台)	中央制御室内等のモニタリングに使用																																																																																																			
品名	保管数	考え方																																																																																																			
鋼製ボード	1式	チェンジングエリア設置に必要な数量																																																																																																			
養生シート	6本																																																																																																				
バリア	5個																																																																																																				
粘着マット	5個																																																																																																				
ゴミ箱(スタンション含む)	7個																																																																																																				
ポリ袋(赤・黄・黒)	各200枚																																																																																																				
テープ(白・黒)	各20巻																																																																																																				
ウエス	2箱																																																																																																				
ウェットティッシュ	10個																																																																																																				
はさみ・カッター	各2本																																																																																																				
マジック	2本																																																																																																				
簡易シャワー	1台																																																																																																				
簡易タンク	1台																																																																																																				
チェンジングエリア可搬型空気浄化装置(ダクト含む)	1式																																																																																																				
品名	保管数		備考																																																																																																		
可搬型照明(SA)	9個	B中央制御室用6個 B中央制御室チェンジングエリア用2個 予備1個																																																																																																			
酸素濃度計	3台	B中央制御室用(予備2台含む)																																																																																																			
二酸化炭素濃度計	3台	B中央制御室用(予備2台含む)																																																																																																			
懐中電灯	10個	B中央制御室用																																																																																																			
ランタン	4個	B中央制御室用																																																																																																			

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																
	<p>第6表 原子力事業者間協力協定に基づき貸与される原子力防災資機材</p> <table border="1" data-bbox="743 199 1350 662"> <thead> <tr> <th>項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>表面汚染密度測定用サーベイメータ</td></tr> <tr><td>NaIシンチレーションサーベイメータ</td></tr> <tr><td>電離箱サーベイメータ</td></tr> <tr><td>ダストサンブラ</td></tr> <tr><td>個人線量計(ポケット線量計)</td></tr> <tr><td>高線量対応防護服</td></tr> <tr><td>全面マスク</td></tr> <tr><td>タイベックスーツ</td></tr> <tr><td>ゴム手袋</td></tr> <tr><td>遮へい材</td></tr> <tr><td>放射能測定用車両</td></tr> <tr><td>Ge半導体式試料放射能測定装置</td></tr> <tr><td>ホールボディカウンタ</td></tr> <tr><td>全α測定装置</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポスト</td></tr> </tbody> </table> <p>原子力災害が発生した場合又は発生するおそれがある場合には、発災事業者からの要請に基づき、必要数量が貸与される。</p>	項目	表面汚染密度測定用サーベイメータ	NaIシンチレーションサーベイメータ	電離箱サーベイメータ	ダストサンブラ	個人線量計(ポケット線量計)	高線量対応防護服	全面マスク	タイベックスーツ	ゴム手袋	遮へい材	放射能測定用車両	Ge半導体式試料放射能測定装置	ホールボディカウンタ	全α測定装置	可搬型モニタリングポスト	<p>表6 原子力事業者間協力協定に基づき貸与される原子力防災資機材</p> <table border="1" data-bbox="1382 226 1989 662"> <thead> <tr> <th>項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>表面汚染密度測定用サーベイメータ</td></tr> <tr><td>NaIシンチレーションサーベイメータ</td></tr> <tr><td>電離箱サーベイメータ</td></tr> <tr><td>ダストサンブラ</td></tr> <tr><td>個人線量計(ポケット線量計)</td></tr> <tr><td>高線量対応防護服</td></tr> <tr><td>全面マスク</td></tr> <tr><td>タイベックスーツ</td></tr> <tr><td>ゴム手袋</td></tr> <tr><td>遮へい材</td></tr> <tr><td>放射能測定用車両</td></tr> <tr><td>Ge半導体式試料放射能測定装置</td></tr> <tr><td>ホールボディカウンタ</td></tr> <tr><td>全α測定装置</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポスト</td></tr> </tbody> </table> <p>原子力災害が発生した場合又は発生するおそれがある場合には、発災事業者からの要請に基づき、必要数量が貸与される。</p>	項目	表面汚染密度測定用サーベイメータ	NaIシンチレーションサーベイメータ	電離箱サーベイメータ	ダストサンブラ	個人線量計(ポケット線量計)	高線量対応防護服	全面マスク	タイベックスーツ	ゴム手袋	遮へい材	放射能測定用車両	Ge半導体式試料放射能測定装置	ホールボディカウンタ	全α測定装置	可搬型モニタリングポスト	
項目																																			
表面汚染密度測定用サーベイメータ																																			
NaIシンチレーションサーベイメータ																																			
電離箱サーベイメータ																																			
ダストサンブラ																																			
個人線量計(ポケット線量計)																																			
高線量対応防護服																																			
全面マスク																																			
タイベックスーツ																																			
ゴム手袋																																			
遮へい材																																			
放射能測定用車両																																			
Ge半導体式試料放射能測定装置																																			
ホールボディカウンタ																																			
全α測定装置																																			
可搬型モニタリングポスト																																			
項目																																			
表面汚染密度測定用サーベイメータ																																			
NaIシンチレーションサーベイメータ																																			
電離箱サーベイメータ																																			
ダストサンブラ																																			
個人線量計(ポケット線量計)																																			
高線量対応防護服																																			
全面マスク																																			
タイベックスーツ																																			
ゴム手袋																																			
遮へい材																																			
放射能測定用車両																																			
Ge半導体式試料放射能測定装置																																			
ホールボディカウンタ																																			
全α測定装置																																			
可搬型モニタリングポスト																																			

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

図1 発電所構内に備えている燃料(事象発生後7日間の対応)

燃料種別	号機	時系列	合計	相違
重油	3号機	事象発生直後～事象発生後7日間 非常用DG(3号機用2台)起動 (事象発生後自動起動、燃費については定格A 荷を想定=事象発生後～事象発生後7日間 (168h)) A-DG:燃費約1,776t/h×168h=約297,360t B-DG:燃費約1,770t/h×168h=約297,360t	事象発生直後～事象発生後7日間 空冷DG(3号機用1台)起動 (保守的に事象発生後すぐの起動を想 定) 燃費約18.1t/h×1台×24h×7日間 =約3,012t	3号機に備蓄している重 油の合計は重油タンク (100t×2基) 総貯蔵貯 蔵タンク(150t×2基) の合計より690tである ことから、7日間は十分 に対応可能
	4号機	事象発生直後～事象発生後7日間 非常用DG(4号機用2台)起動 (事象発生後自動起動、燃費については定格A 荷を想定=事象発生後～事象発生後7日間 (168h)) A-DG:燃費約1,776t/h×168h=約297,360t B-DG:燃費約1,770t/h×168h=約297,360t	事象発生直後～事象発生後7日間 空冷DG(4号機用1台)起動 (保守的に事象発生後すぐの起動を想 定) 燃費約18.1t/h×1台×24h×7日間 =約3,012t	4号機に備蓄している重 油の合計は重油タンク (100t×2基) 総貯蔵貯 蔵タンク(140t×2基) の合計より680tである ことから、7日間は十分 に対応可能

※1 重要事象シナリオのうちの、その対応において重油の消費量が最も多くなる(燃料取出前のミッドランープ運転中における全熱除去機故障
失)への対応に必要な重油量を記載。(ただし、外部電源が喪失し、事象発生後7日間アイゼン発電機が生出力で運転した場合は想定)

燃料種別	号機	時系列	合計	相違
軽油	3号機	事象発生後6.3h迄～事象発生後7日間 (=161.7h) 3号水中ポンプ起動 燃費約8.5t/h×約1.375h	事象発生後6.3h迄～事象発生後7日間 (=161.7h) 3号水中ポンプ起動 燃費約8.5t/h×約1.375h	発電所に備蓄している軽油 量の合計は21,000tである ことから、7日間は十分に 対応可能
	4号機	事象発生後6.3h迄～事象発生後7日間 (=161.7h) 4号水中ポンプ起動 燃費約8.5t/h×約1.375h	事象発生後6.3h迄～事象発生後7日間 (=161.7h) 4号水中ポンプ起動 燃費約8.5t/h×約1.375h	発電所に備蓄している軽油 量の合計は21,000tである ことから、7日間は十分に 対応可能

※2 重要事象シナリオのうちの、その対応において軽油の消費量が最も多くなる(全交流動力電機損失+原子炉隔離系設備喪失+RCPシステム
LOCA)への対応に必要な軽油量を記載。

大飯発電所3/4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																											
	<p>第7表 原子力事業所災害対策支援拠点における必要な資機材、通信連絡設備の整備状況等</p> <p>原子力事業所災害対策支援拠点に配備する原子力防災関連資機材は以下のとおり。通常は、保管場所に記載されている箇所で保管しているが、原子力事業所災害対策支援拠点を開設する際、持ち込むこととしている。</p> <p>○通信連絡設備</p> <table border="1" data-bbox="772 359 1310 414"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>衛星電話(携帯)</td> <td>10台</td> <td>本店</td> </tr> </tbody> </table> <p>○計測器</p> <table border="1" data-bbox="772 454 1310 590"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表面汚染密度測定用サーベイメータ</td> <td>18台</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>NaIシンチレーションサーベイメータ</td> <td>1台</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>1台</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>個人線量計</td> <td>405台</td> <td>本店</td> </tr> </tbody> </table> <p>○出入管理</p> <table border="1" data-bbox="772 630 1310 686"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入退場管理用機材</td> <td>1式</td> <td>本店</td> </tr> </tbody> </table> <p>○防護具</p> <table border="1" data-bbox="772 726 1310 805"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護衣類</td> <td>4,050組</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>フィルター付呼吸器</td> <td>477個</td> <td>本店</td> </tr> </tbody> </table> <p>○その他</p> <table border="1" data-bbox="772 845 1310 1029"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬式発電機</td> <td>3台</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>発電機付き投光機</td> <td>5台</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>アンプ</td> <td>4張</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>除染用具</td> <td>1式</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>保安ヨウ素剤</td> <td>5,000錠</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>原子力災害対策活動で使用する資料</td> <td>1式</td> <td>本店</td> </tr> </tbody> </table>	名称	数量	保管場所	衛星電話(携帯)	10台	本店	名称	数量	保管場所	表面汚染密度測定用サーベイメータ	18台	本店	NaIシンチレーションサーベイメータ	1台	本店	電離箱サーベイメータ	1台	本店	個人線量計	405台	本店	名称	数量	保管場所	入退場管理用機材	1式	本店	名称	数量	保管場所	保護衣類	4,050組	本店	フィルター付呼吸器	477個	本店	名称	数量	保管場所	可搬式発電機	3台	本店	発電機付き投光機	5台	本店	アンプ	4張	本店	除染用具	1式	本店	保安ヨウ素剤	5,000錠	本店	原子力災害対策活動で使用する資料	1式	本店	<p>表7 原子力事業所災害対策支援拠点における必要な資機材、通信連絡設備の整備状況等</p> <p>原子力事業所災害対策支援拠点に配備する原子力防災関連資機材は以下のとおり。通常は、保管場所に記載されている箇所で保管しているが、原子力事業所災害対策支援拠点を開設する際、持ち込むこととしている。</p> <p>○非常用通信機器</p> <table border="1" data-bbox="1388 359 1982 470"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>設置箇所・保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>衛星携帯電話</td> <td>2台</td> <td rowspan="3">本店</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備(FAX機能付)</td> <td>2台</td> </tr> <tr> <td>トランシーバー</td> <td>4台</td> </tr> </tbody> </table> <p>○計測器類</p> <table border="1" data-bbox="1388 510 1982 678"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>設置箇所・保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GM管式汚染サーベイメータ</td> <td>20台</td> <td rowspan="4">美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)</td> </tr> <tr> <td>NaIシンチレーションサーベイメータ</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>個人線量計(PD)</td> <td>420台</td> </tr> <tr> <td>ゲート型モニタ</td> <td>3台</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○出入管理</p> <table border="1" data-bbox="1388 718 1982 790"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>設置箇所・保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線管理用作業者証発行機</td> <td>1台</td> <td>美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○防護具</p> <table border="1" data-bbox="1388 829 1982 917"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>設置箇所・保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護衣類(タイベック)</td> <td>3,000組</td> <td rowspan="2">美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)</td> </tr> <tr> <td>保護具類(全面マスク)</td> <td>880個</td> </tr> </tbody> </table> <p>○その他</p> <table border="1" data-bbox="1388 957 1982 1077"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>設置箇所・保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヨウ化カリウム丸</td> <td>4,800錠</td> <td>本店</td> </tr> <tr> <td>除染用機材(シャワー設備等)</td> <td>1式</td> <td rowspan="2">美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)</td> </tr> <tr> <td>屋外テント</td> <td>3式</td> </tr> </tbody> </table>	名称	数量	設置箇所・保管場所	衛星携帯電話	2台	本店	衛星電話設備(FAX機能付)	2台	トランシーバー	4台	名称	数量	設置箇所・保管場所	GM管式汚染サーベイメータ	20台	美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)	NaIシンチレーションサーベイメータ	1台	電離箱サーベイメータ	1台	個人線量計(PD)	420台	ゲート型モニタ	3台		名称	数量	設置箇所・保管場所	放射線管理用作業者証発行機	1台	美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)	名称	数量	設置箇所・保管場所	保護衣類(タイベック)	3,000組	美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)	保護具類(全面マスク)	880個	名称	数量	設置箇所・保管場所	ヨウ化カリウム丸	4,800錠	本店	除染用機材(シャワー設備等)	1式	美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)	屋外テント	3式	<p>記載内容の相違 ・泊は、非常用電源について、発災後に北海道電力ネットワーク株式会社所有の移動発電機車を配備。</p>
名称	数量	保管場所																																																																																																												
衛星電話(携帯)	10台	本店																																																																																																												
名称	数量	保管場所																																																																																																												
表面汚染密度測定用サーベイメータ	18台	本店																																																																																																												
NaIシンチレーションサーベイメータ	1台	本店																																																																																																												
電離箱サーベイメータ	1台	本店																																																																																																												
個人線量計	405台	本店																																																																																																												
名称	数量	保管場所																																																																																																												
入退場管理用機材	1式	本店																																																																																																												
名称	数量	保管場所																																																																																																												
保護衣類	4,050組	本店																																																																																																												
フィルター付呼吸器	477個	本店																																																																																																												
名称	数量	保管場所																																																																																																												
可搬式発電機	3台	本店																																																																																																												
発電機付き投光機	5台	本店																																																																																																												
アンプ	4張	本店																																																																																																												
除染用具	1式	本店																																																																																																												
保安ヨウ素剤	5,000錠	本店																																																																																																												
原子力災害対策活動で使用する資料	1式	本店																																																																																																												
名称	数量	設置箇所・保管場所																																																																																																												
衛星携帯電話	2台	本店																																																																																																												
衛星電話設備(FAX機能付)	2台																																																																																																													
トランシーバー	4台																																																																																																													
名称	数量	設置箇所・保管場所																																																																																																												
GM管式汚染サーベイメータ	20台	美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)																																																																																																												
NaIシンチレーションサーベイメータ	1台																																																																																																													
電離箱サーベイメータ	1台																																																																																																													
個人線量計(PD)	420台																																																																																																													
ゲート型モニタ	3台																																																																																																													
名称	数量	設置箇所・保管場所																																																																																																												
放射線管理用作業者証発行機	1台	美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)																																																																																																												
名称	数量	設置箇所・保管場所																																																																																																												
保護衣類(タイベック)	3,000組	美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)																																																																																																												
保護具類(全面マスク)	880個																																																																																																													
名称	数量	設置箇所・保管場所																																																																																																												
ヨウ化カリウム丸	4,800錠	本店																																																																																																												
除染用機材(シャワー設備等)	1式	美しが丘保管庫(C) (旧管理棟)																																																																																																												
屋外テント	3式																																																																																																													

1.0.4 外部からの支援について

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>島根発電所2号炉まとめ資料より引用</p> <p>第2図 重大事故等時における発電所外からの支援体制</p>	<p>第1図 重大事故等時における発電所外からの支援体制</p>	<p>図1 重大事故等時における発電所外からの支援体制</p>	<p>記載表現の相違(島根、玄海と同様)</p>

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: center;">第2図 防災組織全体図</p>	<p style="text-align: center;">図2 防災組織全体図</p>	

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																														
<table border="1"> <tr><td colspan="2">本店対策本部</td></tr> <tr><td colspan="2">本部長(社長)</td></tr> <tr><td>班名</td><td>役割・機能</td></tr> <tr><td>事務班</td><td>対策本部の設置 本部名義の連絡 他</td></tr> <tr><td>原子力班</td><td>発電所対策本部からの情報収集 事故・被害状況の把握 原子力事業所災害対策支援拠点 への派遣 原子力事業所災害対策支援拠点 の開設・運営 発電所への物資・要員の輸送 輸送に付随する放射線管理及び 入域管理 他</td></tr> <tr><td>広報班</td><td>報道関係に対する情報提供</td></tr> <tr><td>総務班</td><td>社内外の整備 土壌の調査調査 他</td></tr> <tr><td>人材班</td><td>従業員及び家族の安否・被災状況 の把握 他</td></tr> <tr><td>資材班</td><td>資材所資材の調達 輸送 輸送中機動力の調達 確保 他</td></tr> <tr><td>電力システム班</td><td>気象情報の収集 伝送設備 他</td></tr> <tr><td>土木建築班</td><td>土木設備及び建物の被害状況の 調査 他</td></tr> <tr><td>情報通信班</td><td>保安通信回線の確保 他</td></tr> </table>	本店対策本部		本部長(社長)		班名	役割・機能	事務班	対策本部の設置 本部名義の連絡 他	原子力班	発電所対策本部からの情報収集 事故・被害状況の把握 原子力事業所災害対策支援拠点 への派遣 原子力事業所災害対策支援拠点 の開設・運営 発電所への物資・要員の輸送 輸送に付随する放射線管理及び 入域管理 他	広報班	報道関係に対する情報提供	総務班	社内外の整備 土壌の調査調査 他	人材班	従業員及び家族の安否・被災状況 の把握 他	資材班	資材所資材の調達 輸送 輸送中機動力の調達 確保 他	電力システム班	気象情報の収集 伝送設備 他	土木建築班	土木設備及び建物の被害状況の 調査 他	情報通信班	保安通信回線の確保 他	<table border="1"> <tr><td colspan="2">本店対策本部</td></tr> <tr><td colspan="2">本部長(社長)</td></tr> <tr><td>班名</td><td>役割・機能</td></tr> <tr><td>事務班</td><td>対策本部の設置 本部名義の連絡 他</td></tr> <tr><td>原子力班</td><td>発電所対策本部からの情報収集 事故・被害状況の把握 原子力事業所災害対策支援拠点 への派遣 原子力事業所災害対策支援拠点 の開設・運営 発電所への物資・要員の輸送 輸送に付随する放射線管理及び 入域管理 他</td></tr> <tr><td>広報班</td><td>報道関係に対する情報提供</td></tr> <tr><td>総務班</td><td>社内外の整備 土壌の調査調査 他</td></tr> <tr><td>人材班</td><td>従業員及び家族の安否・被災状況 の把握 他</td></tr> <tr><td>資材班</td><td>資材所資材の調達 輸送 輸送中機動力の調達 確保 他</td></tr> <tr><td>電力システム班</td><td>気象情報の収集 伝送設備 他</td></tr> <tr><td>土木建築班</td><td>土木設備及び建物の被害状況の 調査 他</td></tr> <tr><td>情報通信班</td><td>保安通信回線の確保 他</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td colspan="2">原子力事業所災害対策支援拠点</td></tr> <tr><td colspan="2">現場責任者</td></tr> <tr><td>班名</td><td>役割・機能</td></tr> <tr><td>総括チーム</td><td>・本店 発電所との情報連絡 ・各班活動総括 ・社内外関係各所との通信連絡 ・仮設テント設置対応</td></tr> <tr><td>総括・厚生チーム</td><td>・施設管理 ・人員輸送管理 ・通信機器・事務用品 ・医療・輸送管理</td></tr> <tr><td>放射線管理チーム</td><td>・放射線管理上の人退域管理 ・検量 測定管理 ・スクリーニング ・廃棄物の管理 ・要員の入域管理</td></tr> <tr><td>資材管理チーム</td><td>・支援拠点資材管理 ・倉庫との連携調整</td></tr> </table>	本店対策本部		本部長(社長)		班名	役割・機能	事務班	対策本部の設置 本部名義の連絡 他	原子力班	発電所対策本部からの情報収集 事故・被害状況の把握 原子力事業所災害対策支援拠点 への派遣 原子力事業所災害対策支援拠点 の開設・運営 発電所への物資・要員の輸送 輸送に付随する放射線管理及び 入域管理 他	広報班	報道関係に対する情報提供	総務班	社内外の整備 土壌の調査調査 他	人材班	従業員及び家族の安否・被災状況 の把握 他	資材班	資材所資材の調達 輸送 輸送中機動力の調達 確保 他	電力システム班	気象情報の収集 伝送設備 他	土木建築班	土木設備及び建物の被害状況の 調査 他	情報通信班	保安通信回線の確保 他	原子力事業所災害対策支援拠点		現場責任者		班名	役割・機能	総括チーム	・本店 発電所との情報連絡 ・各班活動総括 ・社内外関係各所との通信連絡 ・仮設テント設置対応	総括・厚生チーム	・施設管理 ・人員輸送管理 ・通信機器・事務用品 ・医療・輸送管理	放射線管理チーム	・放射線管理上の人退域管理 ・検量 測定管理 ・スクリーニング ・廃棄物の管理 ・要員の入域管理	資材管理チーム	・支援拠点資材管理 ・倉庫との連携調整		<p>本店原子力防災組織の相違 詳細は引用元にて整理 引用元 ・技術的能力 1.0.10 重大事故等時の体制について</p> <p>図3 原子力事業所災害対策支援拠点 体制図</p>
本店対策本部																																																																	
本部長(社長)																																																																	
班名	役割・機能																																																																
事務班	対策本部の設置 本部名義の連絡 他																																																																
原子力班	発電所対策本部からの情報収集 事故・被害状況の把握 原子力事業所災害対策支援拠点 への派遣 原子力事業所災害対策支援拠点 の開設・運営 発電所への物資・要員の輸送 輸送に付随する放射線管理及び 入域管理 他																																																																
広報班	報道関係に対する情報提供																																																																
総務班	社内外の整備 土壌の調査調査 他																																																																
人材班	従業員及び家族の安否・被災状況 の把握 他																																																																
資材班	資材所資材の調達 輸送 輸送中機動力の調達 確保 他																																																																
電力システム班	気象情報の収集 伝送設備 他																																																																
土木建築班	土木設備及び建物の被害状況の 調査 他																																																																
情報通信班	保安通信回線の確保 他																																																																
本店対策本部																																																																	
本部長(社長)																																																																	
班名	役割・機能																																																																
事務班	対策本部の設置 本部名義の連絡 他																																																																
原子力班	発電所対策本部からの情報収集 事故・被害状況の把握 原子力事業所災害対策支援拠点 への派遣 原子力事業所災害対策支援拠点 の開設・運営 発電所への物資・要員の輸送 輸送に付随する放射線管理及び 入域管理 他																																																																
広報班	報道関係に対する情報提供																																																																
総務班	社内外の整備 土壌の調査調査 他																																																																
人材班	従業員及び家族の安否・被災状況 の把握 他																																																																
資材班	資材所資材の調達 輸送 輸送中機動力の調達 確保 他																																																																
電力システム班	気象情報の収集 伝送設備 他																																																																
土木建築班	土木設備及び建物の被害状況の 調査 他																																																																
情報通信班	保安通信回線の確保 他																																																																
原子力事業所災害対策支援拠点																																																																	
現場責任者																																																																	
班名	役割・機能																																																																
総括チーム	・本店 発電所との情報連絡 ・各班活動総括 ・社内外関係各所との通信連絡 ・仮設テント設置対応																																																																
総括・厚生チーム	・施設管理 ・人員輸送管理 ・通信機器・事務用品 ・医療・輸送管理																																																																
放射線管理チーム	・放射線管理上の人退域管理 ・検量 測定管理 ・スクリーニング ・廃棄物の管理 ・要員の入域管理																																																																
資材管理チーム	・支援拠点資材管理 ・倉庫との連携調整																																																																

第3図 原子力事業所災害対策支援拠点 体制図

図3 原子力事業所災害対策支援拠点 体制図

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙1</p> <p>プラントメーカー及び協力会社からの支援に関する合意文書</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center;">第1図 プラントメーカー(A社)との協定書(1/2)</p> <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 2px;"> <p style="text-align: center; font-size: small;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		<p>記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、プラントメーカーや協力会社との合意文章について記載しない。(大飯、島根と同様) (以降、相違理由を省略)

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 177 1355 772" style="border: 1px solid black; height: 373px; width: 274px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="837 783 1245 804" style="text-align: center;">第1図 プラントメーカー (A社) との協定書 (2/2)</p> <div data-bbox="819 1406 1350 1445" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="734 172 1352 1029" style="border: 1px solid black; height: 537px; width: 276px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="831 1038 1247 1062" style="text-align: center;">第2図 プラントメーカー (B社) との協定書 (1/2)</p> <div data-bbox="808 1401 1339 1441" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 177 1352 804" style="border: 1px solid black; height: 393px; width: 273px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="837 815 1245 836" style="text-align: center;">第2図 プラントメーカー (B社) との協定書 (2/2)</p> <div data-bbox="801 1401 1330 1437" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 185 1352 1098" style="border: 1px solid black; height: 572px; width: 273px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="853 1114 1234 1139" style="text-align: center;">第3図 協力会社〔C社〕との協定書 (1/2)</p> <div data-bbox="810 1398 1341 1434" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。 </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 180 1352 820" style="border: 1px solid black; height: 400px; width: 273px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="860 836 1227 858" style="text-align: center;">第3図 協力会社（C社）との協定書（2/2）</p> <div data-bbox="804 1401 1335 1437" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 188 1352 979" style="border: 1px solid black; height: 496px; width: 273px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="846 1002 1234 1026" style="text-align: center;">第4図 協力会社 (D社) との協定書 (1/3)</p> <div data-bbox="797 1401 1328 1441" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 177 1352 1035" style="border: 1px solid black; height: 538px; width: 273px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="846 1070 1236 1091" style="text-align: center;">第4図 協力会社 (D社) との協定書 (2/3)</p> <div data-bbox="808 1401 1339 1437" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 20px;"> 枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。 </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="736 188 1350 906" style="border: 1px solid black; height: 450px; width: 100%;"></div> <p data-bbox="837 914 1223 938">第4図 協力会社（D社）との協定書（3/3）</p> <div data-bbox="808 1398 1337 1434" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p data-bbox="869 1406 1276 1426">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 177 1350 1050" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <p data-bbox="846 1070 1234 1094">第5図 協力会社（E社）との協定書（1/2）</p> <div data-bbox="808 1398 1339 1434" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p data-bbox="869 1406 1279 1426">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 177 1350 975" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <p data-bbox="846 981 1232 1008">第5図 協力会社（E社）との協定書（2/2）</p> <div data-bbox="804 1396 1332 1433" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p data-bbox="860 1401 1263 1426">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所 3 / 4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 177 1352 1102" style="border: 1px solid black; height: 580px; width: 273px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="837 1123 1245 1150" style="text-align: center;">第6図 協力会社 (F社) との協定書 (1/4)</p> <div data-bbox="808 1401 1337 1441" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 180 1352 1109" style="border: 1px solid black; height: 580px; width: 270px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="837 1123 1240 1150" style="text-align: center;">第6図 協力会社 (F社) との協定書 (2/4)</p> <div data-bbox="801 1401 1330 1437" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 183 1346 850" style="border: 1px solid black; height: 418px; width: 270px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="846 882 1234 911" style="text-align: center;">第6図 協力会社 (F社) との協定書 (3/4)</p> <div data-bbox="801 1398 1330 1434" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 172 1352 512" style="border: 1px solid black; height: 213px; width: 273px; margin-bottom: 10px;"></div> <p data-bbox="837 544 1240 571">第6図 協力会社（F社）との協定書（4/4）</p> <div data-bbox="806 1396 1335 1433" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 20px;"> <p data-bbox="864 1406 1263 1426">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 177 1346 1114" style="border: 1px solid black; height: 587px; width: 270px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="835 1121 1240 1145" style="text-align: center;">第7図 協力会社（G社）との協定書（1/4）</p> <div data-bbox="808 1401 1339 1437" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所 3 / 4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	<div data-bbox="743 177 1346 1091" style="border: 1px solid black; height: 573px; width: 269px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="831 1098 1240 1125" style="text-align: center;">第7図 協力会社 (G社) との協定書 (2/4)</p> <div data-bbox="801 1401 1330 1441" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 180 1350 847" style="border: 1px solid black; height: 418px; width: 272px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="837 858 1240 884" style="text-align: center;">第7図 協力会社（G社）との協定書（3/4）</p> <div data-bbox="797 1406 1328 1442" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="739 175 1355 502" style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 275px; margin-bottom: 10px;"></div> <p data-bbox="840 518 1254 542">第7図 協力会社（G社）との協定書（4/4）</p> <div data-bbox="801 1396 1332 1433" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 20px;"> <p data-bbox="862 1404 1265 1428">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容


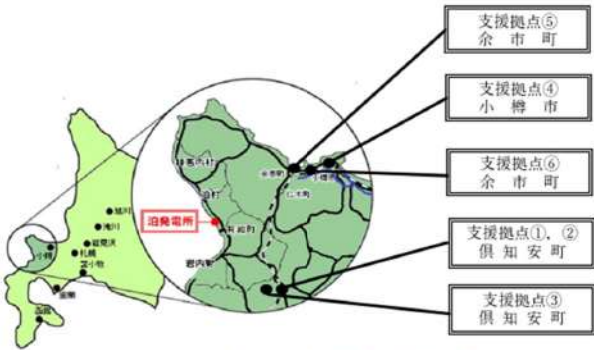
赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																								
	別紙2	別紙1																																																																																																									
	原子力事業所災害対策支援拠点について	原子力事業所災害対策支援拠点について																																																																																																									
	石巻へリポート <table border="1" data-bbox="745 316 1350 475"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所在地</td> <td>宮城県石巻市桃生町神取字土手前46-1</td> </tr> <tr> <td>発電所からの方位・距離</td> <td>西北西 約27km</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>約5,000㎡</td> </tr> <tr> <td>非常用電源</td> <td>可搬式発電機(2.8kVA×3台)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等</td> </tr> </tbody> </table> 東北電力本店ビル <table border="1" data-bbox="745 528 1350 730"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所在地</td> <td>宮城県仙台市青葉区本町一丁目7番1号</td> </tr> <tr> <td>発電所からの方位・距離</td> <td>西南西 約50km</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>約18,000㎡</td> </tr> <tr> <td>非常用電源</td> <td>非常用ガスタービン発電設備(1,500kVA×1台)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>備蓄燃料 約8,000リットル 備蓄食料・飲料水 3日分以上 不足時は小売店より調達</td> </tr> </tbody> </table> 女川地域総合事務所跡地 <table border="1" data-bbox="745 783 1350 943"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所在地</td> <td>宮城県牡鹿郡女川町針高字針高361-1</td> </tr> <tr> <td>発電所からの方位・距離</td> <td>西北西 約7km</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>約1,920㎡</td> </tr> <tr> <td>非常用電源</td> <td>可搬式発電機(2.8kVA×3台)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等</td> </tr> </tbody> </table> 女川地域総合事務所 <table border="1" data-bbox="745 995 1350 1166"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所在地</td> <td>宮城県牡鹿郡女川町女川浜字女川142番地 S G-13街区1画地</td> </tr> <tr> <td>発電所からの方位・距離</td> <td>北西 約7km</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>約1,130㎡</td> </tr> <tr> <td>非常用電源</td> <td>可搬式発電機(2.8kVA×3台)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等</td> </tr> </tbody> </table>	項目	仕様	所在地	宮城県石巻市桃生町神取字土手前46-1	発電所からの方位・距離	西北西 約27km	敷地面積	約5,000㎡	非常用電源	可搬式発電機(2.8kVA×3台)	その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等	項目	仕様	所在地	宮城県仙台市青葉区本町一丁目7番1号	発電所からの方位・距離	西南西 約50km	敷地面積	約18,000㎡	非常用電源	非常用ガスタービン発電設備(1,500kVA×1台)	その他	備蓄燃料 約8,000リットル 備蓄食料・飲料水 3日分以上 不足時は小売店より調達	項目	仕様	所在地	宮城県牡鹿郡女川町針高字針高361-1	発電所からの方位・距離	西北西 約7km	敷地面積	約1,920㎡	非常用電源	可搬式発電機(2.8kVA×3台)	その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等	項目	仕様	所在地	宮城県牡鹿郡女川町女川浜字女川142番地 S G-13街区1画地	発電所からの方位・距離	北西 約7km	敷地面積	約1,130㎡	非常用電源	可搬式発電機(2.8kVA×3台)	その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等	1. 倶知安町方面 <table border="1" data-bbox="1391 323 1989 643"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="3">仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>①北海道電力ネットワーク株式会社倶知安ネットワークセンター</td> <td>②北海道電力ネットワーク株式会社倶知安無線局</td> <td>③北海道電力ネットワーク株式会社所有地(旧実電所用地)</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>北海道虻田郡 倶知安町南1条西2</td> <td>北海道虻田郡 倶知安町南4条西3</td> <td>北海道虻田郡 倶知安町字旭284</td> </tr> <tr> <td>発電所からの方位・距離</td> <td colspan="2">南東 約25km</td> <td>南東 約22km</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>約2,100㎡</td> <td>約3,800㎡</td> <td>約7,580㎡</td> </tr> <tr> <td>非常用電源</td> <td colspan="3">震災後に北海道電力ネットワーク株式会社所有移動発電機車を配備</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td colspan="3">消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は最寄りの小売店より調達、社内融通等</td> </tr> </tbody> </table> 2. 小樽市・余市町方面 <table border="1" data-bbox="1391 695 1989 1015"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="3">仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>④北海道電気工事株式会社小樽支店</td> <td>⑤北海道電力ネットワーク株式会社余市ネットワークセンター</td> <td>⑥社有地(旧資材置場)</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>北海道小樽市 塩谷2丁目3番8号</td> <td>北海道余市郡 余市町大川町13丁目1番地</td> <td>北海道余市郡 余市町栄町243-3</td> </tr> <tr> <td>発電所からの方位・距離</td> <td>東北東 約40km</td> <td>東北東 約30km</td> <td>東北東 約32km</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>約2,100㎡</td> <td>約3,340㎡</td> <td>約1,950㎡</td> </tr> <tr> <td>非常用電源</td> <td colspan="3">震災後に北海道電力ネットワーク株式会社所有移動発電機車を配備</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td colspan="3">消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は最寄りの小売店より調達、社内融通等</td> </tr> </tbody> </table>	項目	仕様			名称	①北海道電力ネットワーク株式会社倶知安ネットワークセンター	②北海道電力ネットワーク株式会社倶知安無線局	③北海道電力ネットワーク株式会社所有地(旧実電所用地)	所在地	北海道虻田郡 倶知安町南1条西2	北海道虻田郡 倶知安町南4条西3	北海道虻田郡 倶知安町字旭284	発電所からの方位・距離	南東 約25km		南東 約22km	敷地面積	約2,100㎡	約3,800㎡	約7,580㎡	非常用電源	震災後に北海道電力ネットワーク株式会社所有移動発電機車を配備			その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は最寄りの小売店より調達、社内融通等			項目	仕様			名称	④北海道電気工事株式会社小樽支店	⑤北海道電力ネットワーク株式会社余市ネットワークセンター	⑥社有地(旧資材置場)	所在地	北海道小樽市 塩谷2丁目3番8号	北海道余市郡 余市町大川町13丁目1番地	北海道余市郡 余市町栄町243-3	発電所からの方位・距離	東北東 約40km	東北東 約30km	東北東 約32km	敷地面積	約2,100㎡	約3,340㎡	約1,950㎡	非常用電源	震災後に北海道電力ネットワーク株式会社所有移動発電機車を配備			その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は最寄りの小売店より調達、社内融通等			
項目	仕様																																																																																																										
所在地	宮城県石巻市桃生町神取字土手前46-1																																																																																																										
発電所からの方位・距離	西北西 約27km																																																																																																										
敷地面積	約5,000㎡																																																																																																										
非常用電源	可搬式発電機(2.8kVA×3台)																																																																																																										
その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等																																																																																																										
項目	仕様																																																																																																										
所在地	宮城県仙台市青葉区本町一丁目7番1号																																																																																																										
発電所からの方位・距離	西南西 約50km																																																																																																										
敷地面積	約18,000㎡																																																																																																										
非常用電源	非常用ガスタービン発電設備(1,500kVA×1台)																																																																																																										
その他	備蓄燃料 約8,000リットル 備蓄食料・飲料水 3日分以上 不足時は小売店より調達																																																																																																										
項目	仕様																																																																																																										
所在地	宮城県牡鹿郡女川町針高字針高361-1																																																																																																										
発電所からの方位・距離	西北西 約7km																																																																																																										
敷地面積	約1,920㎡																																																																																																										
非常用電源	可搬式発電機(2.8kVA×3台)																																																																																																										
その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等																																																																																																										
項目	仕様																																																																																																										
所在地	宮城県牡鹿郡女川町女川浜字女川142番地 S G-13街区1画地																																																																																																										
発電所からの方位・距離	北西 約7km																																																																																																										
敷地面積	約1,130㎡																																																																																																										
非常用電源	可搬式発電機(2.8kVA×3台)																																																																																																										
その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は小売店より調達、社内融通等																																																																																																										
項目	仕様																																																																																																										
名称	①北海道電力ネットワーク株式会社倶知安ネットワークセンター	②北海道電力ネットワーク株式会社倶知安無線局	③北海道電力ネットワーク株式会社所有地(旧実電所用地)																																																																																																								
所在地	北海道虻田郡 倶知安町南1条西2	北海道虻田郡 倶知安町南4条西3	北海道虻田郡 倶知安町字旭284																																																																																																								
発電所からの方位・距離	南東 約25km		南東 約22km																																																																																																								
敷地面積	約2,100㎡	約3,800㎡	約7,580㎡																																																																																																								
非常用電源	震災後に北海道電力ネットワーク株式会社所有移動発電機車を配備																																																																																																										
その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は最寄りの小売店より調達、社内融通等																																																																																																										
項目	仕様																																																																																																										
名称	④北海道電気工事株式会社小樽支店	⑤北海道電力ネットワーク株式会社余市ネットワークセンター	⑥社有地(旧資材置場)																																																																																																								
所在地	北海道小樽市 塩谷2丁目3番8号	北海道余市郡 余市町大川町13丁目1番地	北海道余市郡 余市町栄町243-3																																																																																																								
発電所からの方位・距離	東北東 約40km	東北東 約30km	東北東 約32km																																																																																																								
敷地面積	約2,100㎡	約3,340㎡	約1,950㎡																																																																																																								
非常用電源	震災後に北海道電力ネットワーク株式会社所有移動発電機車を配備																																																																																																										
その他	消耗品類(燃料、食料、飲料水等)は最寄りの小売店より調達、社内融通等																																																																																																										

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第1図 原子力事業所及び原子力事業所災害対策支援拠点の位置</p>	 <p>図1 原子力事業所災害対策支援拠点候補地</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.5 重大事故等への対応に係る文書体系

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">添付資料 1.0.5</p> <p style="text-align: center;">重大事故等対策に係る文書体系</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 1.0.5</p> <p style="text-align: center;">重大事故等への対応に係る文書体系</p> <p style="text-align: center;">< 目次 ></p> <p>1. 重大事故等への対応に係る文書体系.....1.0.5-1</p> <p> 第1表 実用炉規則各条文と保安規定各条文に対する 手順の関係.....1.0.5-3</p> <p> 第1図 品質マネジメントシステム文書体系図 (重大事故等発生時に係る文書)1.0.5-4</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 1.0.5</p> <p style="text-align: center;">重大事故等への対応に係る文書体系</p> <p style="text-align: center;">< 目次 ></p> <p>1. 重大事故等への対応に係る文書体系.....1.0.5-1</p> <p> 表1 実用炉規則各条文と保安規定各条文に対する 手順の関係.....1.0.5-3</p> <p> 図1 品質マネジメントシステム文書体系図 (重大事故等発生時等に係る文書)1.0.5-4</p>	<p>目次では相違箇所の着色及び相違理由の記載をせず、1.0.5-2ページ以降の具体的な内容にて記載する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.5 重大事故等への対応に係る文書体系

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>重大事故等発生時及び大規模損壊発生時（以下「重大事故等発生時等」という。）における原子炉施設の保全のための活動を行う体制の整備について保安規定に定めることを、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（以下「実用炉規則」という。）第92条（保安規定）で要求されていることから、大飯発電所原子炉施設保安規定（以下「保安規定」という。）第18条の5（重大事故等発生時の体制の整備）及び第18条の6（大規模損壊発生時の体制の整備）に以下の内容を新たに規定する。</p> <p>第18条の5 重大事故等発生時の体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 重大事故等発生時における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な要員の配置 重大事故等発生時における原子炉施設の保全のための活動を行う要員に年1回以上の教育訓練 <p>・重大事故等発生時における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な資機材の配備</p> <p>・重大事故等発生時における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な事項（炉心の著しい損傷を防止するための対策に關すること、使用済燃料ピットに貯蔵する燃料体の著しい損傷を防止するための対策に關すること、原子炉停止時における燃料体の著しい損傷を防止するための対策に關すること）</p> <p>第18条の6 大規模損壊発生時の体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模損壊発生時における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な要員の配置 大規模損壊発生時における原子炉施設の保全のための活動を行う要員に年1回以上の教育訓練 大規模損壊発生時における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な資機材の配備 大規模損壊発生時における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な事項（大規模な火災が発生した場合における消火活動に關すること、炉心の著しい損傷を緩和するための対策に關すること、原子炉格納容器の破損を緩和するための対策に關すること、使用済燃料ピットの水位を確保するための対策および燃料体の著しい損傷を緩和するための対策に關すること、放射性物質の放出を低減するための対策に關すること） 	<p>1. 重大事故等への対応に係る文書体系</p> <p>実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（以下「実用炉規則」という。）第92条（保安規定）において、重大事故等発生時及び大規模損壊発生時（以下「重大事故等発生時等」という。）における原子炉施設の保全のための活動を行う体制の整備について保安規定に定めることを要求されていることから、女川原子力発電所原子炉施設保安規定（以下「保安規定」という。）第17条の5（重大事故等発生時における原子炉施設の保全のための活動を行う体制の整備）及び第17条の6（大規模損壊発生時における原子炉施設の保全のための活動を行う体制の整備）に以下の内容を新たに規定することとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重大事故等発生時等における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な要員の配置 重大事故等発生時等における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な要員に対する毎年1回以上の教育及び訓練 重大事故等発生時等における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な資機材の配備 重大事故等発生時等における原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な事項（炉心の著しい損傷を防止するための対策に關すること、原子炉格納容器の破損を防止するための対策に關すること、使用済燃料貯蔵設備に貯蔵する燃料体の損傷を防止するための対策に關すること、原子炉停止時における燃料体の損傷を防止するための対策に關すること、大規模な火災が発生した場合における消火活動に關すること、炉心の損傷を緩和するための対策に關すること、原子炉格納容器の破損を緩和するための対策に關すること、使用済燃料プールの水位を確保するための対策及び燃料体の損傷を緩和するための対策に關すること、放射性物質の放出を低減するための対策に關すること） 	<p>1. 重大事故等への対応に係る文書体系</p> <p>実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（以下「実用炉規則」という。）第92条（保安規定）において、設計想定事象、重大事故等又は大規模損壊に係る発電用原子炉施設の保全に関する措置に關することについて保安規定に定めることを要求されていることから、重大事故等及び大規模損壊（以下「重大事故等発生時等」という。）に係る発電用原子炉施設の保全に関する措置に關することについて泊発電所原子炉施設保安規定（以下「保安規定」という。）第17条の6（重大事故等発生時の体制の整備（3号炉））及び第17条の7（大規模損壊発生時の体制の整備（3号炉））に以下の内容を新たに規定することとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重大事故等発生時等における発電用原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な要員の配置 重大事故等発生時等における発電用原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な要員に対する毎年1回以上の教育及び訓練 重大事故等発生時等における発電用原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な資機材の配備 重大事故等発生時等における発電用原子炉施設の保全のための活動を行うために必要な事項（炉心の著しい損傷を防止するための対策に關すること、原子炉格納容器の破損を防止するための対策に關すること、使用済燃料ピットに貯蔵する燃料体の著しい損傷を防止するための対策に關すること、原子炉停止時における燃料体の著しい損傷を防止するための対策に關すること、発生する有毒ガスからの運転員等の防護に關すること、大規模な火災が発生した場合における消火活動に關すること、炉心の著しい損傷を緩和するための対策に關すること、原子炉格納容器の破損を緩和するための対策に關すること、使用済燃料ピットの水位を確保するための対策及び燃料体の著しい損傷を緩和するための対策に關すること、放射性物質の放出を低減するための対策に關すること） 	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯・女川】実用炉規則改正に伴う記載内容の相違</p> <p>【大飯・女川】発電所名称の相違</p> <p>【大飯・女川】新たに保安規定に定める条文の番号及び名称の相違</p> <p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯・女川】記載表現の相違（「原子炉施設」と「発電用原子炉施設」）</p> <p>・実用炉規則92条に記載されている用語に統一</p> <p>【女川】設備名称の相違</p> <p>・「使用済燃料貯蔵設備」と「使用済燃料ピット」</p> <p>【大飯・女川】保安規定審査基準改正に伴う記載内容の相違（有毒ガス）</p> <p>【女川】設備名称の相違</p> <p>・「使用済燃料プール」と「使用済燃料ピット」</p> <p>【女川】記載方針の相違（著しい）</p> <p>・技術的能力 1.0 本文に統一（大飯と同様）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.5 重大事故等への対応に係る文書体系

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>具体的な内容については、手順書に展開し、実効的な手順書構成となるよう整備する。</p>	<p>当該条文に対する具体的な規定内容については、下部規定（二次文書、三次文書）に以下のとおり展開し、実効的な手順構成となるよう整備する。</p> <p>手順書は、通常時からプラントを運転監視している運転員が事故収束のために用いる手順書と、重大事故等対策要員及び初期消火要員（消防車隊）が使用する手順書の二種類に整理する。</p>	<p>当該条文に対する具体的な規定内容については、下部規程（二次文書、三次文書）に以下のとおり展開し、実効的な手順構成となるよう整備する。</p> <p>手順書は、通常時からプラントを運転監視している運転員が事故収束のために用いる手順書と、発電所災害対策要員（運転員を除く。）が使用する手順書の2種類に整理する。</p>	<p>【大阪】記載表現の相違（女川審査実績の反映） 【女川】用語の相違 ・泊は保安規定に用いている『規程』に統一した。</p> <p>【大阪】記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【女川】組織構成の相違 ・泊の発電所災害対策要員は、消火要員を含んでおり、実質的な相違はない。（以降、相違理由を省略）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.5 重大事故等への対応に係る文書体系

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>運転員が使用する手順書は、保安規定第14条（マニュアルの作成）に基づき「警報処置運転手順書」、「非常時操作手順書（イベントベース）」、「非常時操作手順書（微候ベース）」、「非常時操作手順書（プラント停止中）」及び「非常時操作手順書（設備別）」、保安規定第111条（原子力防災資機材の整備）に基づき「非常時操作手順書（シビアアクシデント）」を作成し、それぞれ具体的な対応を定める。これらは、第1図に示すとおり二次文書である「原子力QMS 運転業務要領」及び「原子力QMS 原子力災害対策実施要領」に繋がる三次文書として整理する。</p>	<p>運転員が使用する手順書は、保安規定第14条（運転管理に関する社内規程の作成）及び保安規定第121条（原子力防災資機材等の整備）に基づく二次文書として「運転要領 警報処置編」、「運転要領 緊急処置編（第1部）」、「運転要領 緊急処置編（第2部）」及び「運転要領 緊急処置編（第3部）」を作成し、二次文書である「運転要領」及び「重大事故等および大規模損壊対応要領」につながる三次文書として「代替設備等運転要領」を作成し、それぞれ具体的な対応を定める。</p>	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【女川】規程類構成の相違 ・保安規定条文章号及び名称 ・規程類名称 【女川】規程類構成の相違 ・二次文書と三次文書の違いはあるが保安規定に基づき具体的な対応を定めていることに相違はない。 ・代替設備等運転要領は、「運転要領」及び「重大事故等および大規模損壊対応要領」につながる三次文書として整理している。 【女川】規程類構成の相違による記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.5 重大事故等への対応に係る文書体系

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>実用炉規則各条文と保安規定各条文に対する手順書との関係は、表1のとおり。また、規定文書全体体系図（重大事故等対応にかかる文書）を図1に示す。</p>	<p>また、重大事故等対策要員及び初期消火要員（消防車隊）が使用する手順書は、保安規定第9章緊急時の措置（第109条～第118条）に基づく二次文書「原子力QMS 原子力災害対策実施要領」に繋がる三次文書として「発電所対策本部運営要領書」、「アクシデントマネジメントガイド」、「重大事故等対応要領書」を定める。</p> <p>なお、上記、運転員、重大事故等対策要員及び初期消火要員（消防車隊）が必要な力量を確保するために、「原子力QMS 力量、教育・訓練および認識要領」及び「重大事故等対策要員の力量、教育・訓練および認識に関する管理要領」に必要な措置を定める。</p> <p>実用炉規則各条文と保安規定各条文に対する手順の関係を表1に示す。また、第1表に示す重大事故等発生時等に係る社内規定類に関する二次及び三次文書の体系を第1図に示す。</p>	<p>また、発電所災害対策要員（運転員を除く。）が使用する手順書は、保安規定第9章非常時の措置（第119条～第128条）に基づく二次文書「重大事故等および大規模損壊対応要領」につながる三次文書として「可搬型SA設備等対応手順要則」、「シビアアクシデント対応ガイド要則」を定める。</p> <p>なお、上記、運転員、発電所災害対策要員（運転員を除く。）が必要な力量を確保するために、「教育訓練管理要領」、「教育訓練管理要則」及び「運転員教育訓練要則」に必要な措置を定める。</p> <p>実用炉規則各条文と保安規定各条文に対する手順の関係を表1に示す。また、品質マネジメントシステム文書体系図（重大事故等発生時等に係る文書）を図1に示す。</p>	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【女川】規程類構成の相違 ・保安規定条文番号と名称 ・規程類名称 【女川】記載表現の相違（「つながる」）</p> <p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【女川】規程類名称の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違（女川審査実績の反映） 【女川】記載表現の相違 ・泊は図のタイトルを記載した。図の内容として重大事故等発生時等に係る社内規程類に関する二次及び三次文書の体系を記載していることに相違はない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.5 重大事故等への対応に係る文書体系

大阪発電所3/4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

表1 実用炉規則各条文と保安規定各条文に対する手順書との関係

実用炉規則	規定する内容	発電用原子力施設保安規定	下流規定
第92条第1項第2号	重大事故等発生時における発電用原子力施設のための活動を行う体制の整備	重大事故等発生時における発電用原子力施設の安全のための活動を行う体制の整備について、第18条の4として整備に規定	【事故時対応手順書（計画）】に規定 【事故時緊急発生時における原子力施設保全のための活動に関する手順書】に規定 【教育訓練要領】に規定 【原子力運転要領】に規定
第92条第1項第3号	大規模損壊発生時における発電用原子力施設のための活動を行う体制の整備	大規模損壊発生時における発電用原子力施設の安全のための活動を行う体制の整備について、第18条の4として整備に規定	【事故時対応手順書（計画）】に規定 【事故時緊急発生時における原子力施設保全のための活動に関する手順書】に規定 【教育訓練要領】に規定 【原子力運転要領】に規定
第92条第1項第9号	発電用原子力施設の運転に関する事項	運転管理に関する社内標準の作成について、第15条に規定	【事故時対応手順書（計画）】に規定 【事故時緊急発生時における原子力施設保全のための活動に関する手順書】に規定 【大規模損壊発生時における原子力施設保全のための活動に関する手順書】に規定 【教育訓練要領】に規定 【原子力運転要領】に規定
第92条第1項第10号	非常の場合に講ずべき処置に関する事項	緊急事態における運転操作に関する社内標準の作成について、第128条第2項に規定 非事故時措置について以下のとおり規定 第129条：原子力防災組織 第129条の2：原子力防災委員 第129条の3：原子力防災監視員等の整備 第129条の4：通報経路 第130条：原子力防災訓練 第131条：通報 第132条：原子力防災体制等の発令 第133条：応急措置 第134条：緊急時における活動 第135条：原子力防災体制等の解除	【事故時対応手順書（計画）】に規定 【事故時緊急発生時における原子力施設保全のための活動に関する手順書】に規定 【大規模損壊発生時における原子力施設保全のための活動に関する手順書】に規定 【教育訓練要領】に規定 【原子力運転要領】に規定

第1表 実用炉規則各条文と保安規定各条文に対する手順の関係

実用炉規則	実用炉規則に規定する内容	保安規定	保安規定に規定する内容	原子力QMS 運転業務要領
第92条第1項第9号	発電用原子力施設の運転に関する事項	第14条	マニュアルの作成	原子力QMS 運転業務要領
第92条第1項第19号	非常の場合に講ずべき処置に関する事項	第109条 第110条 第110条の2 第111条 第112条 第113条 第114条 第115条 第116条 第117条 第117条の2 第118条	原子力防災組織 原子力防災組織の要員 緊急作業従事者の選定 原子力防災資機材の整備 通報経路 緊急時演習 通報 緊急時体制の発令 応急措置 緊急時における活動 緊急作業従事者の検量管理等 緊急時体制の解除	原子力QMS 運転業務要領 原子力QMS 力量、教育・訓練および認識要領
第92条第1項第22号	重大事故等発生時における発電用原子力施設のための活動を行う体制の整備に関する事項	第17条の5	重大事故等発生時における原子力施設の保全のための活動を行う体制の整備	原子力QMS 運転業務要領 原子力QMS 力量、教育・訓練および認識要領
第92条第1項第23号	大規模損壊発生時における発電用原子力施設のための活動を行う体制の整備に関する事項	第17条の6	大規模損壊発生時における原子力施設の保全のための活動を行う体制の整備	原子力QMS 運転業務要領 原子力QMS 力量、教育・訓練および認識要領

表1 実用炉規則各条文と保安規定各条文に対する手順の関係

実用炉規則	実用炉規則に規定する内容	保安規定	保安規定に規定する内容	社内規程類
第九十二条第1項第八号	発電用原子力施設の運転に関する事項	第14条	保安規定に規定する内容 運転管理に関する内容	社内規程類 ・運転要領
第九十二条第1項第十五号	非常の場合に講ずべき処置に関する事項	第119条 第120条 第120条の2 第121条 第122条 第123条 第124条 第125条 第126条 第127条の2 第128条	原子力防災組織 原子力防災委員 緊急作業従事者の選定 原子力防災資機材等の整備 通報経路 原子力防災訓練 通報 原子力防災体制等の発令 応急措置 緊急時における活動 緊急作業従事者の検量管理等 原子力防災体制等の解除	・原子力災害対策要領 ・重大事故等および大規模損壊対応要領 ・運転要領 ・教育訓練管理要領
第九十二条第1項第十六号	設計想定事象、重大事故等又は大規模損壊に係る発電用原子力施設の保全に関する措置に関する事項	第17条の6 第17条の7	重大事故等発生時の体制の整備 大規模損壊発生時の体制の整備	・原子力災害対策要領 ・重大事故等および大規模損壊対応要領 ・運転要領 ・教育訓練管理要領

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.5 重大事故等への対応に係る文書体系

大阪発電所3/4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

図1 規正文書体系図（重大事故等対応に係る文書）（1/2）

品質マネジメントシステム社内標準体系図

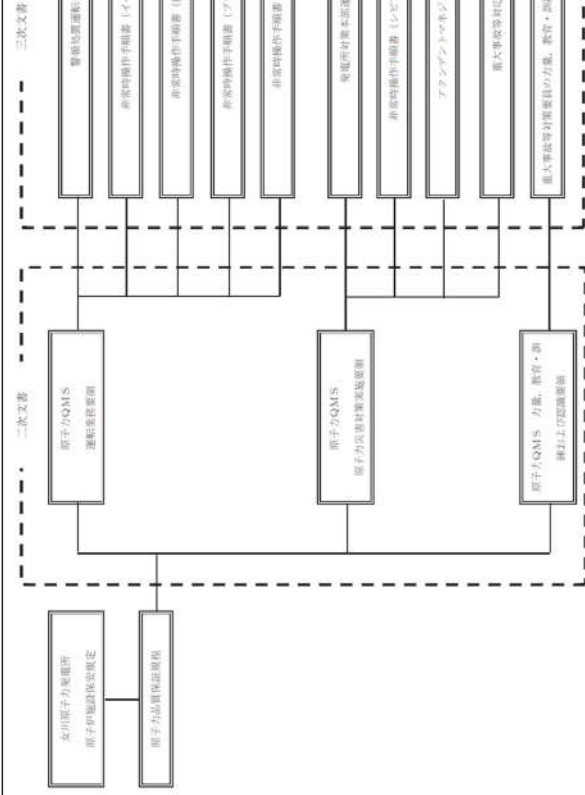
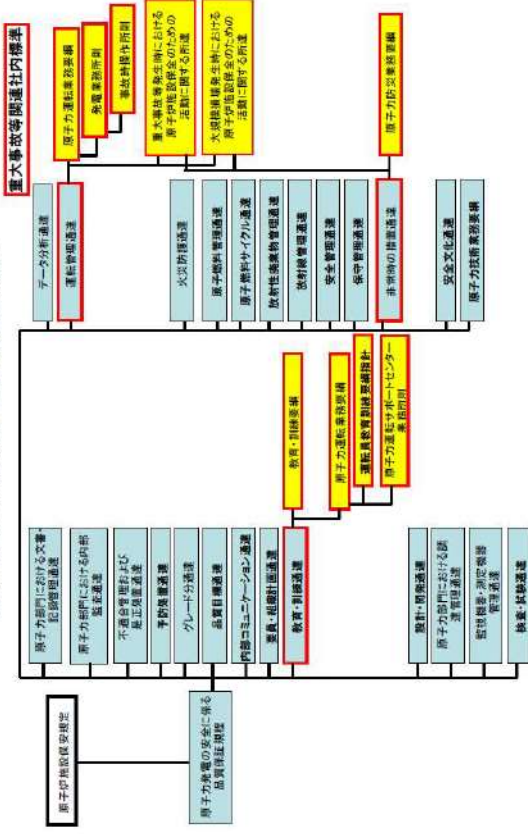


図1 品質マネジメントシステム文書体系図（重大事故等発生時に係る文書）

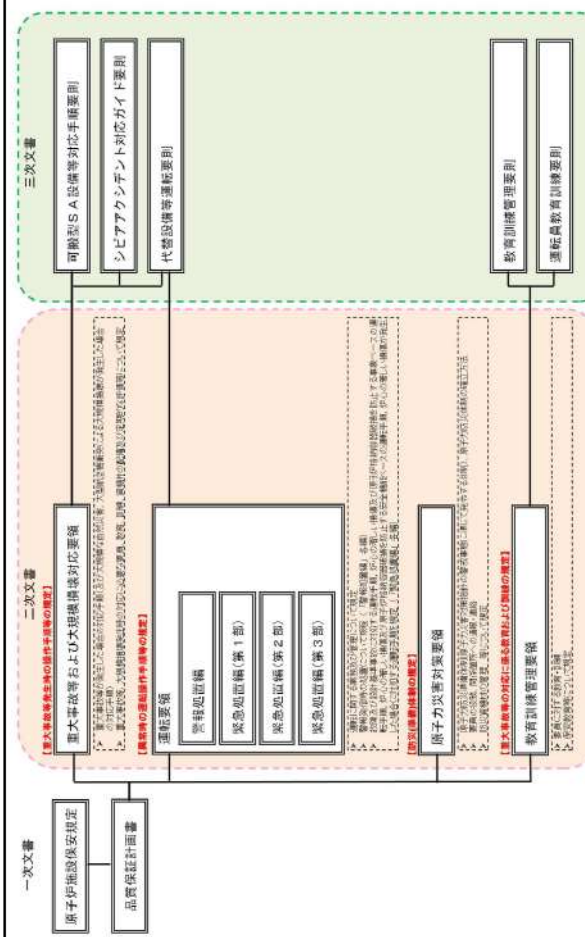


図1 品質マネジメントシステム文書体系図（重大事故等発生時等に係る文書）

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料 1.0.6</p> <p>重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について</p>	<p>添付資料 1.0.6</p> <p>重大事故等対応に係る手順書の構成と概要について</p> <p style="text-align: center;">＜ 目 次 ＞</p> <p>1. 手順書の体系について..... 1.0.6-1</p> <p>2. 各種手順書の概要について..... 1.0.6-1</p> <p>2.1 運転操作手順書..... 1.0.6-1</p> <p>(1) 警報処置運転手順書..... 1.0.6-1</p> <p>(2) 非常時操作手順書（イベントベース）..... 1.0.6-2</p> <p>(3) 非常時操作手順書（微候ベース）..... 1.0.6-3</p> <p>(4) 非常時操作手順書（シビアアクシデント）..... 1.0.6-4</p> <p>(5) 非常時操作手順書（プラント停止中）..... 1.0.6-5</p> <p>(6) 非常時操作手順書（設備別）..... 1.0.6-6</p> <p>2.2 発電所対策本部用手順書..... 1.0.6-6</p> <p>(1) 発電所対策本部運営要領書..... 1.0.6-6</p> <p>(2) アクシデントマネジメントガイド..... 1.0.6-7</p> <p>(3) 重大事故等対応要領書..... 1.0.6-7</p> <p>2.3 各種手順書の判断者・操作者の明確化..... 1.0.6-8</p> <p>(1) 判断者の明確化..... 1.0.6-8</p> <p>(2) 操作者の明確化..... 1.0.6-8</p> <p>3. 各種手順書間のつながり、移行基準について..... 1.0.6-8</p> <p>(1) 警報処置運転手順書からほかの非常時操作手順書への移行..... 1.0.6-8</p> <p>(2) AOP から EOP への移行..... 1.0.6-9</p> <p>(3) EOP から SOP への移行..... 1.0.6-9</p> <p>(4) 非常時操作手順書（設備別）及び EHG の使用..... 1.0.6-9</p> <p>(5) 発電所対策本部用手順書の導入..... 1.0.6-10</p> <p>4. 運転員の対応操作の流れについて..... 1.0.6-10</p> <p>5. 重大事故等時の対応及び手順書の内容について..... 1.0.6-12</p>	<p>添付資料 1.0.6</p> <p>重大事故等対応に係る手順書の構成と概要について</p> <p style="text-align: center;">＜ 目 次 ＞</p> <p>1. 手順書の体系について..... 1.0.6-1</p> <p>2. 運転員の事象判別プロセスについて..... 1.0.6-3</p> <p>3. 「運転要領緊急処置編」における各手順書間の適用の優先順位..... 1.0.6-4</p> <p>(1) 事象ベース手順書間の優先順位..... 1.0.6-4</p> <p>(2) 安全機能ベース手順書間の優先順位（優先度が高い順）..... 1.0.6-4</p> <p>(3) 安全機能ベースと事象ベース相互間の優先順位..... 1.0.6-5</p> <p>4. 発電所対策本部用手順書..... 1.0.6-5</p> <p>(1) 重大事故等対応要領..... 1.0.6-5</p> <p>(2) シビアアクシデント対応ガイド要則..... 1.0.6-6</p> <p>5. 各種手順書の判断者・操作者の明確化..... 1.0.6-7</p> <p>(1) 判断者の明確化..... 1.0.6-7</p> <p>(2) 操作者の明確化..... 1.0.6-7</p> <p>6. 各手順書間のつながり..... 1.0.6-7</p> <p>(1) 運転要領間の移行について..... 1.0.6-8</p> <p>a. 運転要領警報処置編と運転要領緊急処置編（第1部）について..... 1.0.6-8</p> <p>b. 運転要領緊急処置編（第1部）と運転要領緊急処置編（第2部）について..... 1.0.6-8</p> <p>c. 運転要領緊急処置編（第2部）と運転要領緊急処置編（第3部）について..... 1.0.6-8</p> <p>(2) 運転要領と重大事故等対応要領について..... 1.0.6-9</p> <p>a. 運転要領緊急処置編と重大事故等対応要領について..... 1.0.6-9</p> <p>b. 運転要領緊急処置編（第3部）とシビアアクシデント対応ガイド要則について..... 1.0.6-9</p> <p>7. 重大事故等対応時の手順書内容について..... 1.0.6-10</p> <p>8. 重大事故等時の対応について..... 1.0.6-11</p> <p>表1 原子炉設置変更許可申請書における手順書名称と泊発電所にて制定する手順書名称の対応表..... 1.0.6-2</p>	<p>目次では相違箇所の着色及び相違理由の記載をせず、比較表 1.0.6-3以降の具体的な内容にて記載する。</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所 3 / 4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	添付 1 炉心損傷開始の判断基準について.....1.0.6-添付 1-1 別紙 1 AOP「給水ポンプ 2 台トリップ、全喪失」 対応フロー図.....1.0.6-別紙 1-1 別紙 2 AOP「給水ポンプ 2 台トリップ、全喪失」 操作等判断基準一覧.....1.0.6-別紙 2-1 別紙 3 EOP フローチャート.....1.0.6-別紙 3-1 別紙 4 EOP 目的及び基本的な考え方.....1.0.6-別紙 4-1 別紙 5 EOP 操作等判断基準一覧.....1.0.6-別紙 5-1 別紙 6 SOP フローチャート.....1.0.6-別紙 6-1 別紙 7 SOP 目的及び基本的な考え方.....1.0.6-別紙 7-1 別紙 8 SOP 操作等判断基準一覧.....1.0.6-別紙 8-1 別紙 9 ブラント停止中フローチャート.....1.0.6-別紙 9-1 別紙 10 停止時手順書目的及び基本的な考え方...1.0.6-別紙 10-1 別紙 11 ブラント停止中操作等判断基準一覧.....1.0.6-別紙 11-1 別紙 12 非常時操作手順書（設備別）一覧.....1.0.6-別紙 12-1 別紙 13 発電所対策本部運営要領書と各機能班の 実施事項.....1.0.6-別紙 13-1 別紙 14 重大事故等対応要領書手順一覧.....1.0.6-別紙 14-1 別紙 15 EOP/SOP/停止時手順書 フローチャート凡例.....1.0.6-別紙 15-1 別紙 16 重大事故等対策における作業ごとの 想定時間の設定について.....1.0.6-別紙 16-1	図 1 「運転要領」及び「重大事故等対応要領」等の 体系概要図.....1.0.6-1 図 2 運転員、発電所対策本部（発電所災害対策要員 （運転員を除く。））が使用する手順書体系.....1.0.6-12 図 3 各手順書間の関係図.....1.0.6-13 図 4 運転要領緊急処置編の構成概要.....1.0.6-14 図 5 重大事故等および大規模損壊対応要領に基づく 項目概要.....1.0.6-15 図 6 重大事故等対応要領の構成.....1.0.6-17 図 7 運転要領緊急処置編（第 2 部）の項目概要.....1.0.6-18 図 8 安全機能ベースと事象ベースの相互間の優先順位.1.0.6-20 図 9 運転要領緊急処置編（第 3 部）の項目概要.....1.0.6-21 図 10 運転員の事象判別プロセスと 運転要領緊急処置編の体系について.....1.0.6-22 図 11 運転要領及び重大事故等対応要領の 使用イメージ.....1.0.6-23 図 12 重大事故等発生時に使用する手順書の概念図.....1.0.6-24 別紙 1 重大事故等対策における作業ごとの想定時間の設定 について.....1.0.6-別紙 1-1	

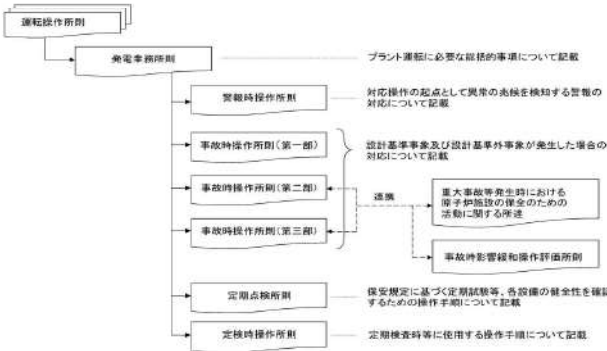
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1. 「運転操作所則」の体系について</p> <p>大阪発電所では、設計基準事象である運転時の異常な過渡変化又は設計基準事故の発生時、あるいは重大事故等発生時に備えて「運転操作所則」及び「重大事故等発生時における原子炉施設の保全のための活動に関する所達（以下「SA所達」という。）」等を整備しており、有効性評価における全重要事故シーケンスについては、これら手順を用いて、適切な操作と要員により原子炉及び格納容器等を安定状態に収束することができることを確認している。「運転操作所則」の詳細な体系については以下のとおり。</p> <p>【比較のため、比較表P1.0.6-4より再掲】</p>	<p>1. 手順書の体系について</p> <p>女川原子力発電所では、プラントに異常が発生した場合等において、重大事故への進展を防止するため、「警報処置運転手順書」、「非常時操作手順書（イベントベース）」、「非常時操作手順書（微候ベース）」、「非常時操作手順書（設備別）」及び「非常時操作手順書（プラント停止中）」を整備している。また、重大事故に至る可能性が高い場合あるいは重大事故に進展した場合に備えて「非常時操作手順書（シビアアクシデント）」、「発電所対策本部運営要領書」、「アクシデントマネジメントガイド」及び「重大事故等対応要領書」を整備する。</p> <p>事故発生時における対応手順書の機能体系は第1図のとおり。</p> <p>第1図 手順書機能体系の概要図</p>	<p>1. 手順書の体系について</p> <p>泊発電所では、設計基準事象である運転時の異常な過渡変化又は設計基準事故の発生時、あるいは重大事故等発生時に備えて「運転要領」及び「重大事故等および大規模損壊対応要領（以下「重大事故等対応要領」という。）」等を整備しており、有効性評価における全重要事故シーケンスについては、これら手順を用いて、適切な操作と要員により発電用原子炉及び原子炉格納容器等を安定状態に収束することができることを確認している。「運転要領」及び「重大事故等対応要領」等の詳細な体系については図1のとおり。</p> <p>なお、原子炉設置変更許可申請書における手順書名称と泊発電所にて制定する手順書名称の対応表について表1に示す。</p> <p>図1 「運転要領」及び「重大事故等対応要領」等の体系概要図</p>	<p>手順書の体系が類似している大阪と主に比較する。</p> <p>【大阪】手順書名称の相違(以降、相違理由を省略)</p> <p>発電所名称の相違(以降、相違理由を省略)</p> <p>【大阪】記載表現の相違(以降、相違理由を省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「原子炉」と「発電用原子炉」 ・「格納容器」と「原子炉格納容器」 <p>【大阪】記載方針の相違</p> <p>泊は、発電所対策本部が使用する重大事故等対応要領も含めた手順書の体系について図1に記載した。</p> <p>【大阪】記載方針の相違</p> <p>原子炉設置変更許可申請書添付書類中に記載している手順書名称と発電所にて制定する手順書の名称の対応表を記載した。</p> <p>【大阪】手順書の構成の相違(図1赤枠部)</p> <p>泊は緊急処置編(第1部)に、事象判別及び事象初期の対応処置を行うための手順書である「事故直後の操作および事象の判別」を整備している。(玄海と同様)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所 3 / 4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由																
<p>(1) 運転操作所則は、その用途及び目的に応じ、発電室業務所則、警報時操作所則、事故時操作所則（第一部）、事故時操作所則（第二部）、事故時操作所則（第三部）、定期点検所則、定検時操作所則に区別している。</p>  <p>(2) 「事故時操作所則（第一部）」は、1次系や2次系及び電気系での異常事象発生（異常な過渡事象未満）、異常な過渡変化事象、設計基準事象等が発生した場合、その故障及び事故を早急に復旧し、二次的な被害を最小限にとどめるための処置について定めたものである。</p>	<p>2. 各種手順書の概要について 各種手順書は使用主体に応じて、運転員が使用する手順書（以下「運転操作手順書」という。）並びに重大事故等対策要員及び初期消火要員（消防車隊）が使用する手順書（以下「発電所対策本部用手順書」という。）に分類して整備する。以下、運転操作手順書及び発電所対策本部用手順書の概要を示す。</p> <p>2.1 運転操作手順書 (1) 警報処置運転手順書 中央制御室及び現場制御盤に警報が発生した際に、警報発生原因の除去あるいはプラントを安全な状態に維持するために必要な対応操作を定めた手順書。 警報ごとに対応手順を定めており、手順書に記載しているパラメータの確認や対応処置等を実施することで、故障・事故の候の把握及び事故の収束・拡大防止を図る。</p> <p>(2) 非常時操作手順書（イベントベース） 単一の故障等で発生する可能性のあるあらかじめ想定された異常又は事故が発生した際に、事故の進展を防止するために必要な対応操作を定めた手順書。 設計基準事故の範囲内の特定された事故ごとの操作内容をあらかじめ手順書化しており、当該手順で対応できると判断した場合に使用し、過渡状態が収束するまでの間適用する。 非常時操作手順書（イベントベース）（以下「AOP」という。）は、事象ごとに「事故の想定」、「操作のポイント」、「対応フロー図」、「対応手順」で構成される。 AOP の一例として、発電用原子炉が運転中に給水ポンプがトリップし、給水不能となった場合の対応操作を定めた、AOP「給水ポンプ2台トリップ、全喪失」の対応フロー図及び操作等判断基準一覧を別紙1、2に示す。</p>	<p>表1 原子炉設置変更許可申請書における手順書名称と泊発電所にて制定する手順書名称の対応表</p> <table border="1" data-bbox="1377 191 2004 574"> <tr> <td>原子炉設置変更許可申請書における手順書名称</td> <td>発電所にて制定する手順書名称</td> </tr> <tr> <td>警報処置運転手順書</td> <td>運転要領警報処置編</td> </tr> <tr> <td>事象の判別を行う運転手順書</td> <td>運転要領緊急処置編（第1部） ※ 本手順内の「事故直後の操作および事象の判別」</td> </tr> <tr> <td>故障及び設計基準事故に対処する運転手順書</td> <td>運転要領緊急処置編（第1部）</td> </tr> <tr> <td>炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器破損を防止する運転手順書</td> <td>運転要領緊急処置編（第2部）</td> </tr> <tr> <td>炉心の著しい損傷が発生した場合に対処する運転手順書</td> <td>運転要領緊急処置編（第3部）</td> </tr> <tr> <td>代替設備等運転手順書</td> <td>代替設備等運転要領</td> </tr> <tr> <td>発電所対策本部用手順書</td> <td>重大事故等および大規模損壊対応要領</td> </tr> </table> <p>(1) 運転要領は、その用途及び目的に応じ、総括編、警報処置編、緊急処置編（第1部）、緊急処置編（第2部）、緊急処置編（第3部）、定期試験編、起動停止編に区別している。</p>	原子炉設置変更許可申請書における手順書名称	発電所にて制定する手順書名称	警報処置運転手順書	運転要領警報処置編	事象の判別を行う運転手順書	運転要領緊急処置編（第1部） ※ 本手順内の「事故直後の操作および事象の判別」	故障及び設計基準事故に対処する運転手順書	運転要領緊急処置編（第1部）	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器破損を防止する運転手順書	運転要領緊急処置編（第2部）	炉心の著しい損傷が発生した場合に対処する運転手順書	運転要領緊急処置編（第3部）	代替設備等運転手順書	代替設備等運転要領	発電所対策本部用手順書	重大事故等および大規模損壊対応要領	<p>【大阪】記載方針の相違 原子炉設置変更許可申請書添付書類中に記載している手順書名称と発電所にて制定する手順書の名称の対応表を記載した。</p> <p>【大阪】手順書名称の相違（以降、相違理由を省略）</p> <p>【大阪】記載表現の相違（以降、相違理由を省略）</p>
原子炉設置変更許可申請書における手順書名称	発電所にて制定する手順書名称																		
警報処置運転手順書	運転要領警報処置編																		
事象の判別を行う運転手順書	運転要領緊急処置編（第1部） ※ 本手順内の「事故直後の操作および事象の判別」																		
故障及び設計基準事故に対処する運転手順書	運転要領緊急処置編（第1部）																		
炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器破損を防止する運転手順書	運転要領緊急処置編（第2部）																		
炉心の著しい損傷が発生した場合に対処する運転手順書	運転要領緊急処置編（第3部）																		
代替設備等運転手順書	代替設備等運転要領																		
発電所対策本部用手順書	重大事故等および大規模損壊対応要領																		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉 (別紙1, 2)	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) 「事故時操作所則（第二部）」は、主に炉心損傷防止を目的とし、設計基準事象を超える多重故障を想定して、事故発生時に被害を最小限にとどめるよう迅速、確実な処置について定めたものである。「事故時操作所則（第二部）」は「事象ベース」と「安全機能ベース」に分けられ、状況に応じ適切な手順を選定し対応することとしている。</p> <p>(4) 「事故時操作所則（第二部）」「事象ベース」と「安全機能ベース」の手順での対応処置には、以下の特徴がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事象ベース」の手順書は、発生確率が相対的に高い事象に対し最も適切な回復操作が示せるという利点がある。 ・「安全機能ベース」の手順書は、発生確率の低い多重故障等に対して広範囲をカバーすることができる利点がある。両者の利点を兼ねるよう体系化している。 <p>(5) 事故時操作所則（第三部）は、炉心損傷後の格納容器破損防止に関する手順について定めたものである。</p> <p>(6) 可搬型重大事故等対処設備等、発電所対策本部（緊急安全対策要員）が行う作業については、「SA所達」を使用し、「事故時操作所則（第二部）、事故時操作所則（第三部）」との手順書間の連携を図っている。</p> <p>(7) 発電所対策本部が指示を行うため事象進展及び操作の影響評価として「事故時影響緩和操作評価所則」を整備している。</p> <p>(8) 運転員（当直員）、発電所対策本部（緊急安全対策要員）が使用する手順書体系を図1に各手順書間の関係図を図2に示す。</p>	<p>【AOPの構成】</p> <p>a. 原子炉スクラム 目的：原子炉スクラム時の対応 手順書：原子炉スクラム（MSIV開の場合）、原子炉スクラム（MSIV閉の場合）</p> <p>b. 冷却材喪失 目的：冷却材喪失時の対応 手順書：漏えい、中小破断、大破断</p> <p>c. 配管破断 目的：配管破断時の対応 手順書：原子炉建屋内、タービン建屋内、主蒸気管破断</p> <p>d. 給水喪失 目的：給水喪失時の対応 手順書：給復水ポンプトリップ、給水制御系の異常、給水喪失とSRV開固着</p> <p>e. 原子炉再循環系故障 目的：原子炉再循環系故障時の対応 手順書：原子炉再循環ポンプトリップ、再循環速度制御異常、原子炉再循環ポンプ異常時の1台停止操作</p> <p>f. 燃料破損 目的：燃料破損時の対応 手順書：排ガス放射線モニタ異常上昇、燃料落下</p> <p>g. タービン系故障 目的：タービン系故障時の対応 手順書：主タービン振動異常、復水器真空低下等</p> <p>h. 電気系故障 目的：電気系故障時の対応 手順書：発電機トリップ、制御電源喪失等</p> <p>i. その他系統故障 目的：その他系統故障時の対応 手順書：原子炉補機冷却水喪失、計装用空気喪失等</p> <p>j. 火災 目的：火災発生時の対応 手順書：6.9kVメタクラ火災、タービン発電機関係火災等</p> <p>(3) 非常時操作手順書（徴候ベース） 事故の起因事象を問わず、AOPでは対処できない複数の設備の故障等による異常又は事故が発生した際に、重大事故への進展を防止するために必要な対応操作を定めた手順書。 AOPが設計基準事故の範囲内の特定された事故ごとの対応操作を示した手順書であることに対して、非常時操作手順書（徴候ベース）（以下「EOP」という。）は観測されるプラントの徴候（パラメータの変化）に応じた対応操作を示した手順書であり、設計基準事故に加え設計基準を超えるような設備の多重故障等にも適</p>	<p>(3) 「運転要領緊急処置編（第2部）」は、主に炉心損傷防止を目的とし、設計基準事象を超える多重故障を想定して、事故発生時に被害を最小限にとどめるよう迅速、確実な処置について定めたものである。「運転要領緊急処置編（第2部）」は「事象ベース」と「安全機能ベース」に分けられ、状況に応じ適切な手順を選定し対応することとしている。</p> <p>(4) 「運転要領緊急処置編（第2部）」「事象ベース」と「安全機能ベース」の手順での対応処置には、以下の特徴がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事象ベース」の手順書は、発生確率が相対的に高い事象に対し最も適切な回復操作が示せるという利点がある。 ・「安全機能ベース」の手順書は、発生確率の低い多重故障等に対して広範囲をカバーすることができる利点がある。両者の利点を兼ねるよう体系化している。 <p>(5) 「運転要領緊急処置編（第3部）」は、炉心損傷後の原子炉格納容器破損防止に関する手順について定めたものである。</p> <p>(6) 可搬型重大事故等対処設備等、発電所対策本部（発電所災害対策要員（運転員を除く。））が行う作業については、「重大事故等対応要領」及び「重大事故等対応要領」に基づく下部規程（三次文書）を使用し、「運転要領緊急処置編（第2部）」、「運転要領緊急処置編（第3部）」との手順書間の連携を図っている。</p> <p>(7) 発電所対策本部が指示を行うため事象進展及び操作の影響評価として「シビアアクシデント対応ガイド要則」を整備している。</p> <p>(8) 運転員、発電所対策本部（発電所災害対策要員（運転員を除く。））が使用する手順書体系を図2に各手順書間の関係図を図3に示す。</p>	<p>【大阪】要員名称の相違（以降、相違理由を省略）</p> <p>【大阪】手順書の構成の相違 泊は、二次文書である「重大事故等対応要領」に基づく三次文書に可搬型重大事故等対処設備を用いた発電用原子炉への注水等の手順書を整備している。</p> <p>【大阪】要員名称の相違</p>

泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所 3 / 4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>2. 運転員の事象判別プロセスについて</p> <p>運転中の異常な過渡変化及び事故が発生した場合、運転員は「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」の原則に基づき対応する。</p> <p>運転中の異常な過渡変化及び事故が発生した場合は、「事故時操作所則（第一部）」にて、事故直後の操作と事象判別を行う。</p> <p>具体的には、原子炉トリップを含むユニットトリップ確認を実施する。原子炉が自動トリップしない場合においては、手動による原子炉トリップ操作を実施する。その後2次系を使用した崩壊熱の除去等を行う。さらに安全注入（ECCS）が動作している場合においては、安全注入機器がシーケンス通りに自動作動し、炉心にほう酸水が注入されて冷却されていることを確認する。また、段階的に格納容器隔離が実施されることを確認する。これら自動作動機器の動作状況及び安全機能パラメータの確認を行う中で事象判別を実施する。</p>	<p>用する。</p> <p>EOP は、目的に応じて「原子炉制御」、「格納容器制御」、「原子炉建屋制御」、「燃料プール制御」、「不測事態」及び「電源回復」に分類した各手順を視覚的に認識できるようにした「フローチャート」、各手順の「対応手順」及び対応手順中の運転操作や注意事項の意味合いを記載した「解説」により構成される。</p> <p>事故時には、発電用原子炉の未臨界維持、炉心損傷防止、原子炉格納容器等の健全性確保等に関するパラメータを確認し、各手順の導入条件が成立した場合には、その手順に移行し対応処置を実施する。</p> <p>EOP による対応においては、「原子炉制御」、「格納容器制御」、「原子炉建屋制御」等の対応が同時進行する状況を想定して、対応の優先順位をあらかじめ定めており、原子炉格納容器が破損するおそれがある場合を除き、原子炉側から要求される操作を優先することを原則としている。</p> <p>各手順の「フローチャート」、「目的及び基本的な考え方」及び「操作等判断基準一覧」を別紙 3, 4, 5 に示す。</p> <p style="text-align: right;">（別紙 3, 4, 5）</p> <p>【EOP フローチャート】</p> <p>a. 全体構成図</p> <p>b. 原子炉制御 目的：発電用原子炉未臨界維持、炉心損傷防止 手順書：スクラム、反応度制御、水位確保、減圧冷却</p> <p>c. 格納容器制御 目的：原子炉格納容器の健全性確保 手順書：PCV 圧力制御、D/W 温度制御、S/P 温度制御、S/P 水位制御、PCV 水素濃度制御</p> <p>d. 原子炉建屋制御 目的：原子炉建屋の健全性確保 手順書：原子炉建屋制御</p> <p>e. 燃料プール制御 目的：燃料プール内の燃料の損傷防止・緩和 手順書：SFP 水位・温度制御</p> <p>f. 不測事態 目的：予期せぬ事象により特殊操作が必要となった場合の対応 手順書：水位回復、急速減圧、水位不明、炉心損傷初期対応</p> <p>g. 電源回復 目的：所内電源喪失時の交流・直流電源の供給維持 手順書：電源回復</p> <p>(4) 非常時操作手順書（シビアアクシデント）</p> <p>EOP で対応する状態から更に事象が進展し炉心損傷に至った際に、事故の拡大を防止し影響を緩和するために必要な対応操作を定めた手順書。</p> <p>炉心が損傷し、原子炉圧力容器及び原子炉格納容器の健全性を</p>	<p>2. 運転員の事象判別プロセスについて</p> <p>運転中の異常な過渡変化及び事故が発生した場合、運転員は「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」の原則に基づき対応する。</p> <p>運転中の異常な過渡変化及び事故が発生した場合は、「運転要領緊急処置編（第 1 部）」のうち「事故直後の操作および事象の判別」にて、事故直後の操作と事象判別を行う。</p> <p>具体的には、原子炉トリップを含むプラントトリップ確認を実施する。発電用原子炉が自動トリップしない場合においては、手動による原子炉トリップ操作を実施する。その後2次冷却系を使用した崩壊熱の除去等を行う。さらに安全注入（ECCS）が動作している場合においては、安全注入機器がシーケンス通りに自動作動し、炉心にほう酸水が注入されて冷却されていることを確認する。また、段階的に原子炉格納容器隔離が実施されることを確認する。これら自動作動機器の動作状況及び安全機能パラメータの確認を行う中で事象判別を実施する。</p>	<p>【大阪】手順書の構成の相違</p> <p>泊は緊急処置編(第1部)に、事象判別及び事象初期の対応処置を行うための手順書である「事故直後の操作および事象の判別」を整備している。(玄海と同様)</p> <p>【大阪】記載表現の相違(以降、相違理由を省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ユニットトリップ」と「プラントトリップ」

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所 3 / 4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>これら事象毎に対応した手順は、運転操作所則の「事故時操作所則（第一部）」、「事故時操作所則（第二部）（安全機能ベース、事象ベース）」、「事故時操作所則（第三部）」にて構成されている。</p> <p>これらの体系移行は、各事故時操作所則を実施中に、必要な安全機能や安全機器の故障等により炉心冷却機能等にとって重大な問題が生じた場合に、各々の適用条件に達した後、事故時操作所則（第二部）へ移行し対応処置を行う。</p> <p>さらに、あらかじめ定められた炉心損傷を示すパラメータとなれば、事故時操作所則（第三部）に移行し、炉心損傷後の影響緩和操作及び格納容器破損防止操作を実施する。</p> <p>事象判別の間は、原子炉停止機能、炉心冷却機能及び蒸気発生器除熱機能等の安全機能パラメータの監視を行い、安全機能が喪失した場合は事故時操作所則（第二部）の安全機能ベースの操作所則により対応を実施する。また全交流電源喪失や格納容器バイパス事象等が発生した場合には、事故時操作所則（第二部）の事象ベースの操作所則により対応を実施する。これらの適用条件については各所則に明記している。</p> <p>さらに炉心損傷の適用条件となれば事故時操作所則（第三部）へ移行し、炉心損傷後の影響緩和及び格納容器破損防止の対応操作を実施する。</p> <p>なお、これら事象判別プロセスは、各事故時操作所則に整備している。</p>	<p>脅かす可能性のあるシビアアクシデント事象に適用する。</p> <p>非常時操作手順書（シビアアクシデント）（以下「SOP」という。）は、炉心損傷後に実施すべき対応操作の内容を視覚的に認識できるようにした「フローチャート」にて構成される。</p> <p>各手順の「フローチャート」、「目的及び基本的な考え方」及び「操作等判断基準一覧」を別紙 6, 7, 8 に示す。 （別紙 6, 7, 8）</p> <p>【SOP フローチャート】</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 全体流れ図 b. 注水ストラテジー1 「損傷炉心への注水」 c. 注水ストラテジー2 「長期の損傷炉心への注水」 d. 注水ストラテジー3a 「RPV 破損前のベDESTAL初期注水」 e. 注水ストラテジー3b 「RPV 破損後のベDESTAL注水」 f. 注水ストラテジー4 「長期の RPV 破損後の注水」 g. 除熱ストラテジー1 「損傷炉心冷却後の除熱」 h. 除熱ストラテジー2 「RPV 破損後の除熱」 i. ベントストラテジ 「PCV 破損防止」 j. 水素制御ストラテジ 「原子炉建屋水素制御」 <p>(5) 非常時操作手順書（プラント停止中）</p> <p>発電用原子炉が停止中の場合において、プラントの異常状態を検知する対応、異常状態発生の防止に関する対応及び異常事象が発生した場合の対応操作に関する事項を定めた手順書。</p> <p>プラント停止中に発生する可能性のある事故に対し、EOP と同様に、観測されるプラントの徴候（パラメータの変化）に応じた対応操作を示した手順書であり、設計基準を超えるような多重故障にも適用する。</p> <p>非常時操作手順書（プラント停止中）（以下「停止時手順書」という。）は、目的に応じて「崩壊熱除去機能喪失」、「原子炉冷却材喪失」、「燃料プール冷却機能喪失」、「燃料プール冷却材喪失」、「外部電源喪失」及び「臨界事象発生」に分類した各手順を視覚的に認識できるようにした「フローチャート」、各手順の「対応手順」及び対応手順中の運転操作や注意事項の意味合いを記載した「解説」により構成される。</p> <p>異常事象発生時には、発電用原子炉の未臨界維持、炉心や使用済燃料プールの冷却状況等に関するパラメータを確認し、各手順の導入条件が成立した場合には、その手順の対応処置を実施する。</p> <p>各手順の「フローチャート」、「目的及び基本的な考え方」及び「操作等判断基準一覧」を別紙 9, 10, 11 に示す。 （別紙 9, 10, 11）</p> <p>【停止時手順書フローチャート】</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 全体構成図 b. 崩壊熱除去機能喪失 	<p>これら事象ごとに対応した手順は、運転要領の「運転要領緊急処置編（第1部）」、「運転要領緊急処置編（第2部）（安全機能ベース、事象ベース）」、「運転要領緊急処置編（第3部）」にて構成されている。</p> <p>これらの体系移行は、各運転要領緊急処置編を実施中に、必要な安全機能や安全機器の故障等により炉心冷却機能等にとって重大な問題が生じた場合に、各々の適用条件に達した後、運転要領緊急処置編（第2部）へ移行し対応処置を行う。</p> <p>さらに、あらかじめ定められた炉心損傷を示すパラメータとなれば、運転要領緊急処置編（第3部）に移行し、炉心損傷後の影響緩和操作及び原子炉格納容器破損防止操作を実施する。</p> <p>事象判別の間は、発電用原子炉停止機能、炉心冷却機能及び蒸気発生器除熱機能等の安全機能パラメータの監視を行い、安全機能が喪失した場合は運転要領緊急処置編（第2部）の安全機能ベースの運転要領により対応を実施する。また全交流動力電源喪失や原子炉格納容器バイパス事象等が発生した場合には、運転要領緊急処置編（第2部）の事象ベースの運転要領により対応を実施する。これらの適用条件については各運転要領に明記している。</p> <p>さらに炉心損傷の適用条件となれば運転要領緊急処置編（第3部）へ移行し、炉心損傷後の影響緩和及び原子炉格納容器破損防止の対応操作を実施する。</p> <p>なお、これら事象判別プロセスは、各運転要領緊急処置編に整備している。</p> <p>運転要領緊急処置編の構成概要を図 4 に示す。</p>	<p>【大阪】記載表現の相違</p> <p>【大阪】記載方針の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大飯発電所 3 / 4 号炉	女川原子力発電所 2 号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p>3. 「事故時操作所則」における各手順書間の適用の優先順位 「事故時操作所則（第一部）」、「事故時操作所則（第二部（事象ベース）」）及び「事故時操作所則（第二部（安全機能ベース）」）の各手順の適用条件は定めているが、複数の基準の適用条件が同時に成り立った場合には、使用するための優先順位が必要となる。以下に、安全機能ベースの手順書同士、事象ベースの手順書同士及び事象ベースの手順書と安全機能ベースの手順書間の適用に関する優先順位について説明する。なお、「炉心出口温度が 350℃以上」及び「格納容器内高レンジエリアモニタ指示が 1×10^5 mSv/h 以上」となれば、炉心損傷と判断し、「事故時操作所則（第三部）」へ移行し処置する。</p> <p>(1) 事象ベース手順書間の優先順位 基本的には、事象ベース手順書間の重畳はないため優先順位はない。</p> <p>(2) 安全機能ベース手順書間の優先順位（優先度が高い順） 「止める」「冷やす」「閉じ込める」の安全機能にしたがった優先順位を決定している。</p> <p>① 未臨界の維持（1） ② 炉心冷却の維持（1） ③ S/G 除熱機能の維持 ④ 格納容器健全性の維持 ⑤ 放射能放出防止 ⑥ 未臨界の維持（2） ⑦ 炉心冷却の維持（2）</p> <p>⑧ 1次系保有水の維持</p> <p>(3) 安全機能ベースと事象ベース相互間の優先順位 事象ベース手順書対応時に、安全機能ベース手順書の条件が満たされた場合は、基本的に安全機能ベース手順書に移行する。なお、事象ベース手順書「全交流電源喪失」のようなサポート系の機能喪失等については基本的に事象ベース手順書内で安全機能ベース手順書の主となる運転操作を実施するため、その観点からも安全機能ベースが優先となっている。</p>	<p>目的：崩壊熱による原子炉水温度上昇、水位低下抑制 手順書：崩壊熱除去機能喪失</p> <p>c. 原子炉冷却材喪失 目的：原子炉冷却材喪失時の原子炉水位低下抑制 手順書：原子炉冷却材喪失</p> <p>d. 燃料プール冷却機能喪失 目的：崩壊熱による燃料プール温度上昇、水位低下抑制 手順書：燃料プール冷却機能喪失</p> <p>e. 燃料プール冷却材喪失 目的：燃料プール水漏えいによる水位低下抑制 手順書：燃料プール冷却材喪失</p> <p>f. 外部電源喪失 目的：外部電源喪失時の交流・直流電源の供給維持 手順書：外部電源喪失</p> <p>g. 臨界事象発生 目的：臨界による反応度上昇抑制 手順書：臨界事象発生</p> <p>(6) 非常時操作手順書（設備別） 自然現象や大規模損壊等により、多数の恒設の電源設備・注水設備等が使用できない場合の事故対応操作内容を定めた手順書で、運転員が使用する。 非常時操作手順書（設備別）では、発電用原子炉の安全確保を達成するために必要な「炉心冷却」、「電源確保」等、機能別に複数の手順を定め、その手順を使用するタイミングを EOP、SOP 及び停止時手順書対応操作のフローチャートに明示する。 非常時操作手順書（設備別）の一覧を別紙 12 に示す。 (別紙 12)</p> <p>【非常時操作手順書（設備別）の構成】 反応度制御：ほう酸水注入系ポンプによるほう酸水注入等 炉心冷却：高圧代替注水系ポンプによる原子炉注水等 使用済燃料冷却：ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水等 格納容器機能維持：復水移送ポンプによるドライウェル代替スプレイ等 建屋機能維持：燃料プール補給水ポンプによる原子炉ウェル注水等 電源確保：M/C C(D) 母線受電等 アシスト：中央制御室換気空調系運転等</p>	<p>3. 「運転要領緊急処置編」における各手順書間の適用の優先順位 「運転要領緊急処置編（第 1 部）」、「運転要領緊急処置編（第 2 部（事象ベース）」）及び「運転要領緊急処置編（第 2 部（安全機能ベース）」）の各手順の適用条件は定めているが、複数の基準の適用条件が同時に成り立った場合には、使用するための優先順位が必要となる。以下に、安全機能ベースの手順書同士、事象ベースの手順書同士及び事象ベースの手順書と安全機能ベースの手順書間の適用に関する優先順位について説明する。なお、「炉心出口温度が 350℃以上」及び「格納容器内高レンジエリアモニタ指示が 1×10^5 mSv/h 以上」となれば、炉心損傷と判断し、「運転要領緊急処置編（第 3 部）」へ移行し処置する。</p> <p>(1) 事象ベース手順書間の優先順位 基本的には、事象ベース手順書間の重畳はないため優先順位はない。</p> <p>(2) 安全機能ベース手順書間の優先順位（優先度が高い順） 「止める」「冷やす」「閉じ込める」の安全機能にしたがった優先順位を決定している。</p> <p>① 未臨界の維持（1） ② 炉心冷却の維持（1） ③ SG 除熱機能の維持（1） ④ 格納容器健全性の確保 ⑤ 放射能放出防止 ⑥ 未臨界の維持（2） ⑦ 炉心冷却の維持（2） ⑧ SG 除熱機能の維持（2） ⑨ 1次系保有水の維持</p> <p>(3) 安全機能ベースと事象ベース相互間の優先順位 事象ベース手順書対応時に、安全機能ベース手順書の条件が満たされた場合は、基本的に安全機能ベース手順書に移行する。なお、事象ベース手順書「全交流電源喪失」のようなサポート系の機能喪失等については基本的に事象ベース手順書内で安全機能ベース手順書の主となる運転操作を実施するため、その観点からも安全機能ベースが優先となっている。</p>	<p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>【大飯】記載方針の相違 泊は、SG 除熱機能の維持に係る緊急度の低い手順について記載した。手順書の内容については図 7（比較表 1.0.6-31）に示す。（伊方と同様）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>伊方発電所3号炉まとめ資料より引用</p> <p>(2) 災害対策本部が使用する手順書及び災害対策本部のうち支援組織が使用する手順書</p> <p>災害対策本部が使用する手順書として「緊急時対応内規」を、災害対策本部のうち支援組織が使用する手順書として「アクシデントマネジメントガイドライン」を整備しており、これらの手順書の概要を以下に示す。</p>	<p>2.2 発電所対策本部用手順書</p> <p>(1) 発電所対策本部運営要領書</p> <p>重大事故、大規模損壊等が発生した場合又はそのおそれがある場合に、緊急事態に関する発電所対策本部の責任と権限及び実施事項を定めた要領書で発電所対策本部が使用する。</p> <p>また、発電所対策本部の運営及び各機能班が実施する事項については、本要領書に定める。</p> <p>発電所対策本部運営要領書に記載する各機能班の実施事項を別紙13に示す。</p> <p>(別紙13)</p>	<p>4. 発電所対策本部用手順書</p> <p>発電所対策本部が使用する手順書として「重大事故等対応要領」を、発電所対策本部のうち支援組織が使用する手順書として「シビアアクシデント対応ガイド要則」を整備しており、これらの手順書の概要を以下に示す。</p>	<p>【大阪・女川】記載方針の相違</p> <p>発電所対策本部用手順書の構成について大阪資料の記載がないこと、BWRである女川とは手順書の構成が異なるから、先行PWR審査実績として伊方資料と比較する。</p> <p>【伊方】名称の相違（以降、相違理由を省略）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.6 重大事故等対策に係る手順書の構成と概要について

大阪発電所 3 / 4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
伊方発電所 3号炉まとめ資料より引用			
<p>a. 緊急時対応内規</p> <p>重大事故等発生時及び大規模損壊時における緊急時対応業務を定めることにより、非常時の円滑かつ適切な措置の遂行に資することを目的とし、運転員又は災害対策本部からの依頼・指示により、中型ポンプ車等の可搬型の重大事故等対処設備の準備・使用及び配管の接続、電源ケーブルの接続等の既設設備の操作以外の作業を実施するための手順を整備している。</p>		<p>(1) 重大事故等対応要領</p> <p>重大事故等発生時及び大規模損壊発生時における緊急時対応業務を定めることにより、非常時の円滑かつ適切な措置の遂行に資することを目的とし、発電所災害対策要員（運転員を除く。）が運転員又は発電所対策本部からの依頼・指示により、可搬型大型送水ポンプ車等の可搬型重大事故等対処設備の準備・使用及び配管の接続、電源ケーブルの接続等の既設設備の操作以外の作業を実施するための手順を整備している。</p> <p>重大事故等発生時及び大規模損壊発生時の対応について、両者に求められる可搬型重大事故等対処設備を用いた基本的な措置については同様なものとなることから、運用面（使い易さ）を考慮して両者の対応をひとつに纏めた手順書とする。</p> <p>重大事故等発生時の対応については、基本的には「運転要領緊急処置編」に基づいて行われるが、可搬型重大事故等対処設備を使用した手順等については、「運転要領緊急処置編」から紐付けされた「重大事故等対応要領（第2章）」に規定する。</p>	<p>【伊方】記載表現の相違（以降、相違理由を省略）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大規模損壊時」と「大規模損壊発生時」 ・「中型ポンプ車」と「可搬型大型送水ポンプ車」 ・「可搬型の重大事故等対処設備」と「可搬型重大事故等対処設備」
伊方発電所 3号炉まとめ資料より引用			
<p>緊急時対応内規には、電源の確保、炉心の冷却、使用済燃料の冷却、原子炉格納容器の減圧、海洋への流出および拡散の抑制等について記載している。さらに、体制及び職務、資機材の整備、確保などについても定めている。</p> <p>詳細な手順については、3次文書として定めており、手順書内に運転側の操作手順も読み込むことで、既設設備を利用した対応手順から可搬型設備を使用した対応手順まで、発生した事象に柔軟に対応するための手順としている。具体的には、使用済燃料ピットの水位低下時の対応として、1次系純水サービスポンプ等の既設設備を用いた通常の使用済燃料ピットへの補給の対応操作から、可搬型の重大事故等対処設備である中型ポンプ車等を用いた使用済燃料ピットへの補給の対応操作まで記載しており、起因事象の経緯によらず、そのときのプラントの状況に合わせた対応が可能である。</p> <p>図-4に緊急時対応内規の概要を示す。</p>		<p>「重大事故等対応要領（第2章）」には、電源の確保、炉心の冷却、使用済燃料の冷却、原子炉格納容器の減圧、海洋への流出及び拡散の抑制等について記載する。さらに、体制及び職務、資機材の整備、確保等についても定める。</p> <p>詳細な手順については、当該要領の下部規程（三次文書）として定めており、手順書内に運転側の操作手順も読み込むことで、既設設備を利用した対応手順から可搬型設備を使用した対応手順まで、発生した事象に柔軟に対応するための手順とする。具体的には、使用済燃料ピットの水位低下時の対応として、2次系補給水ポンプ等の既設設備を用いた通常の使用済燃料ピットへの補給の対応操作から、可搬型重大事故等対処設備である可搬型大型送水ポンプ車等を用いた使用済燃料ピットへの補給の対応操作まで記載しており、起因事象の経緯によらず、そのときのプラントの状況に合わせた対応が可能である。</p> <p>図5に重大事故等および大規模損壊対応要領に基づく項目概要を示す。</p> <p>なお、大規模損壊発生時の対応については、「重大事故等対応要領（第3章）」において規定し、具体的な対応手順については、当該要領の下部規程（三次文書）にて定める。</p> <p>重大事故等対応要領の構成を図6に示す。</p>	<p>【伊方】記載表現の相違</p> <p>【伊方】記載表現の相違</p> <p>【伊方】設備名称の相違</p>
			<p>【伊方】名称の相違</p> <p>【伊方】記載表現の相違</p> <p>泊は、重大事故等対応要領(第2章)に重大事故等発生時の対応手順を、重大事故等対応要領(第3章)に大規模損壊発生時の対応手順を整備している。</p>